

目次

接続のしかた

再生のしかた

設定のしかた

困ったときは

付録

DENON®

AVR-X3900H

INTEGRATED NETWORK AV RECEIVER

取扱説明書

フロントパネル

ディスプレイ

リアパネル

リモコン

索引



付属品	9
乾電池の入れかた	10
リモコンの使いかた	10
特長	11
高音質	11
多彩な機能	15
簡単操作	19
各部の名前	20
フロントパネル	20
ディスプレイ	23
リアパネル	25
リモコン	29

接続のしかた

スピーカーを設置する	33
スピーカーを接続する	39
スピーカーを接続する前に	39
スピーカーをスピーカー端子に接続する	43
外部のパワーアンプを接続する	44
スピーカーの構成と“アンプの割り当て”の設定	46
5.1 チャンネルのスピーカーを接続する	48
5.1 チャンネルのスピーカーを接続する：フロントスピーカーおよびセンタースピーカーのバイアンプ接続	49
7.1 チャンネルのスピーカーを接続する	50
9.1 チャンネルのスピーカーを接続する	51
11.1 チャンネルのスピーカーを接続する	53
7.1 チャンネルのスピーカーを接続する：フロントスピーカーのバイアンプ接続	56
7.1 チャンネルのスピーカーを接続する：2 台目のフロントスピーカーの接続	57
マルチゾーンのスピーカーを接続する	58



テレビを接続する	60
接続 1 :HDMI 端子付きおよび ARC/eARC 機能対応のテレビ	61
接続 2 :HDMI 端子付き ARC/eARC 機能非対応のテレビ	62
再生機器を接続する	63
セットトップボックスを接続する(衛星放送チューナー/ケーブルテレビチューナー)	64
メディアプレーヤーを接続する	65
ブルーレイディスクや DVD プレーヤーを接続する	66
8K 対応のプレーヤーやゲーム機を接続する	67
レコードプレーヤーを接続する	68
USB 端子に USB メモリーを接続する	69
FM アンテナや AM ループアンテナを接続する	70
ホームネットワーク(LAN)に接続する	72
有線 LAN	72
無線 LAN	73
外部のコントロール機器を接続する	74
リモートコントロール端子	74
トリガー出力端子	75
電源コードを接続する	76

再生のしかた

基本操作	78
電源を入れる	78
入力ソースを選ぶ	78
音量を調節する	79
一時的に音を消す(ミュートイング)	79
ブルーレイディスクや DVD プレーヤーを再生する	79
USB メモリーを再生する	80
USB メモリーに保存されているファイルを再生する	81
Bluetooth 機器の音楽を聴く	84
Bluetooth 機器の音楽を聴く	85
2 台目以降の Bluetooth 機器とペアリングする	86
Bluetooth 機器から本機に再接続する	87
Bluetooth ヘッドホンで本機の音声を聴く	88
Bluetooth ヘッドホンで本機の音声を聴く	89
Bluetooth ヘッドホンの音量を調節する	90
Bluetooth ヘッドホンに再接続する	90
Bluetooth ヘッドホンを切断する	91



FM 放送または AM 放送を聴く	92	AirPlay 機能	115
FM 放送または AM 放送を聴く	93	iPhone、iPod touch、iPad の曲を本機で再生する	116
周波数を入力して受信する(ダイレクトチューニング)	94	iTunes の曲を本機で再生する	116
受信モードを変更する(チューニングモード)	95	iPhone、iPod touch、iPad の曲を複数の機器で同期して再生する (AirPlay 2)	117
自動で放送局を選局しプリセットする(オートプリセットメモリー)	95	Spotify Connect 機能	118
聴いている放送局をプリセットする(プリセットメモリー)	96	Spotify の曲を本機で再生する	118
プリセットした放送局を聴く	96	便利な機能	119
プリセットした放送局に名前をつける(プリセットネーム)	97	HEOS お気に入りを再生する	120
プリセットした放送局をスキップする(プリセットスキップ)	98	HEOS お気に入りに追加する	121
プリセットスキップを解除する	99	HEOS お気に入りを削除する	121
インターネットラジオを聴く	100	せりふやボーカルの聴こえやすさを調節する(ダイアログエンハンサー)	121
インターネットラジオを聴く	101	入カソースに合わせて各チャンネルの音量を調節する(チャンネルレベル調節)	122
パソコンや NAS に保存されているファイルを再生する	102	トーンを調節する(トーンコントロール)	123
パソコンや NAS に保存されているファイルを再生する	103	Dirac Live フィルターを選択する(Dirac Live)	124
HEOS アプリをダウンロードする	106	音声の出力タイミングを調節する(オーディオディレイ)	124
HEOS アカウント	107	入カソースに応じてトランスデューサーの強度を変更する(トランスデューサー)	125
ストリーミング音楽サービスを再生する	109	音声の再生中に好みの映像をテレビに映す(ビデオセレクト)	126
同じ音楽を複数の部屋で聴く	111	すべてのゾーンで同じ音楽を再生する (All Zone Stereo)	127
		リスニング環境に合わせてスピーカーの設定を変更する(スピーカープリセット)	128
		チャンネルレベル表示を表示する	129



サウンドモードを選ぶ	130
サウンドモードを選ぶ	131
ダイレクト再生	132
ピュアダイレクト再生	133
オートサラウンド再生	133
サウンドモードの種類について	134
入力信号ごとに選択できるサウンドモード	140
HDMI コントロール機能	145
設定のしかた	145
スリープタイマー機能	146
スリープタイマーを設定する	147
クイックセレクトプラス機能	148
設定を登録する	149
設定を呼び出す	151
フロントキーロック機能	152
すべてのボタン操作を無効にする	152
VOLUME 以外のすべてのボタン操作を無効にする	153
フロントキーロック機能を解除する	153

リモートロック機能	154
リモコンの受信機能を無効にする	154
リモコンの受信機能を有効にする	154
ウェブコントロール機能	155
ウェブコントロール機能で本機をコントロールする	156
ゾーン 2(別の部屋)での再生	158
ゾーン 2 の接続	159
ゾーン 2 で入力ソースを再生する	161
ゾーン 2 の音量を調節する	165

設定のしかた

メニュー 一覧	166
メニュー操作のしかた	171
オーディオ	172
サブウーハーレベルの調節	172
低音の位相補正	172
サラウンドパラメーター	173
リストアラー	182
音量	183
バイリンガルモード	184
Audyssey®	184
Dirac Live	188
グラフィック EQ	188



ビデオ	190	マニュアルセットアップ	215
HDMI 設定	190	スピーカーレイアウト	215
ビデオ出力の設定	195	アンプの割り当て	215
オンスクリーンディスプレイ	196	フロント/センター/サラウンド/サラウンドバック	217
スクリーンセーバー	197	ハイトスピーカー	218
4K/8K 信号フォーマット	198	レイアウト	219
HDCP 設定	199	前方レイアウト / 中央レイアウト / 後方レイアウト / TS/CH	221
入力ソース	200	サブウーハー	224
入力端子の割り当て	200	サブウーハーモード	225
入力ソース名の変更	203	サブウーハーレイアウト	225
使用ソースの選択	203	Bi-Amp	228
ソースレベル	203	Front Bi-Amp	228
スピーカー	204	Center Bi-Amp	228
Audyssey®セットアップ	204	Front B	228
スピーカー設定の流れ(Audyssey®セットアップ)	206	ゾーン 2	229
エラーメッセージについて	212	端子の接続確認	229
Audyssey®セットアップの設定値に戻すとき	214	距離	229
		レベル	231
		クロスオーバー周波数	231
		スピーカープリセット	232
		アドバンス設定	233
		サブウーハー出力	233
		ローパスフィルター	234
		ディストリビューション	235
		フロントスピーカー	235
		トランスデューサー	236



Dirac Live セットアップ	237	HEOS	246
ネットワーク	238	サインインしていない場合	246
情報	238	サインインしている場合	246
接続	238	一般	247
Wi-Fi 設定	239	言語	247
詳細な設定	241	オーナーズマニュアル	247
ネットワークコントロール	242	エコ設定	247
フレンドリーネーム	243	Bluetooth 送信	251
診断	243	ゾーン 2 の設定	252
AirPlay	244	ゾーン名の変更	254
Spotify Connect	245	クイックセレクト	255
Roon Ready	245	トリガーアウト	256
Qobuz Connect	245	フロントディスプレイ	257
Wi-Fi と Bluetooth	245	ファームウェア	258
		情報	260
		使用状況の送信設定	262
		セーブ&ロード	262
		セットアップロック	263
		初期化	263
		リモコンのバックライトを設定する	264
		バックライトを消灯させる	264
		リモコンで操作するゾーンを限定する	265



困ったときは

こんなときの解決方法	267
故障かな?と思ったり	269
電源が入らない / 電源が切れる	270
リモコンで操作ができない	271
本機のディスプレイが表示されない	271
音がまったく出ない	272
希望する音が出ない	273
音が途切れたり、ノイズが入ったりする	277
テレビに映像が映らない	278
テレビにメニュー画面が表示されない	280
テレビに表示されるメニュー画面や操作内容の色が通常と異なる	280
AirPlay 再生ができない	281
USB メモリーが再生できない	282
Bluetooth が再生できない	283
インターネットラジオが再生できない	285
パソコン内や NAS 内の音楽ファイルが再生できない	286
各種オンラインサービスが再生できない	287
HDMI コントロール機能が動作しない	287
無線 LAN ネットワークに接続できない	288
HDMI ZONE2 機能を使用中に機器が正しく動作しない	289
アップデートエラーメッセージについて	290
お買い上げ時の設定に戻す	291
ネットワークの設定をお買い上げ時の設定に戻す	292

工場出荷時の設定に復元する	293
保証と修理について	294

付録


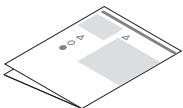
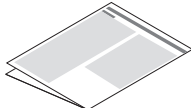
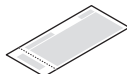
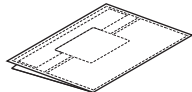
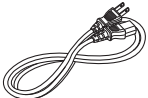



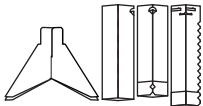
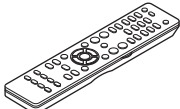


HDMI について	296
映像信号とテレビ出力の関係	300
USB メモリーの再生について	302
Bluetooth 機器の再生について	303
パソコンや NAS に保存されているファイルの再生について	304
インターネットラジオの再生について	305
パーソナルメモリープラス機能	305
ラストファンクションメモリー	305
サウンドモードとチャンネル出力の関係	306
サウンドモードとパラメーター一覧表	308
入力信号の種類と対応するサウンドモード	311
用語の解説	315
登録商標について	326
主な仕様	331
オーディオ部	331
チューナー部	333
無線 LAN 部	333
Bluetooth 部	334
総合	334
使用上のご注意	336
索引	337



お買い上げいただきありがとうございます。
 本機をご使用になる前に、必ずこの取扱説明書をお読みください。
 お読みになったあとは、いつでも見られるところに大切に保管してください。

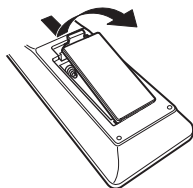
付属品

ご使用になる前にご確認ください。

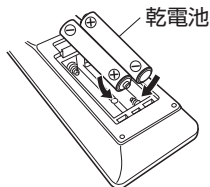
 <p>かんたんスタートガイド</p>	 <p>安全にお使いいただくために</p>	 <p>電波に関するご注意</p>	 <p>保証書</p>	 <p>ケーブルラベル</p>
 <p>電源コード 【本機専用】</p>	 <p>FM室内アンテナ</p>	 <p>AMループアンテナ</p>	 <p>セットアップマイク</p>	 <p>マイクスタンド</p>
 <p>リモコン (RC-1262)</p>	 <p>単4形乾電池 (2本)</p>	 <p>Bluetooth/ 無線LAN用外部アンテナ (2本)</p>		

乾電池の入れかた

- 1 裏ぶたを矢印の方向へ押し上げて取り外す。



- 2 乾電池(2本)を乾電池収納部の表示に合わせて正しく入れる。



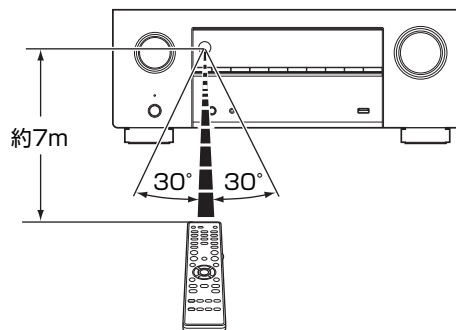
- 3 裏ぶたを元どおりにする。

ご注意

- 破損・液漏れの恐れがありますので、
 - 新しい乾電池と使用済みの乾電池を混ぜて使用しないでください。
 - 違う種類の乾電池を混ぜて使用しないでください。
- リモコンを長期間使用しないときは、乾電池を取り出してください。
- 万一、乾電池の液漏れがおこったときは、乾電池収納部内についた液をよく拭き取ってから新しい乾電池を入れてください。

リモコンの使いかた

リモコンはリモコン受光部に向けて使用してください。



特長

高音質

• 9チャンネルディスクリート・パワーアンプ搭載

全チャンネル同一構成のディスクリート・パワーアンプ全チャンネルを搭載し、チャンネルあたり 105W(8 Ω、20 Hz~20 kHz、T.H.D.:0.08 %、2チャンネル駆動)のハイパワーパフォーマンスを実現しています。低インピーダンスのドライバーは、幅広いスピーカーに安定した動作を提供し、バランスのとれた音色を作り出します。

• 独立した4本のサブウーハー出力を搭載

本機は、4系統のサブウーハープリアウトを装備しており、最大で4台のサブウーハーを接続することができます。部屋の四隅にサブウーハーを設置することにより、スイートスポットが広がり、より正確で迫力あふれる低音を堪能することができます。

• Dolby Atmos 搭載(☞317ページ)

本機は、Dolby Atmos に対応したデコーダーを搭載しています。オーバーヘッドスピーカーの追加により、音の定位または移動をより正確に再現し、これまで以上に自然でリアルなサラウンド音場を体験することができます。

• スピーカーバーチャライザー機能搭載(☞175ページ)

スピーカーバーチャライザー機能は、Dolby Atmos のハイトバーチャライザーやサラウンドバーチャライザーのデジタル信号処理をおこなうことで、オーバーヘッドスピーカーや Dolby Atmos Enabled スピーカーを使用しないスピーカーの設置環境においても、より臨場感のあるエンタテインメント体験をお楽しみいただけます。

- ハイトスピーカーとサラウンドスピーカーの両方を接続している場合、スピーカーバーチャライザー機能は使用できません。
- サラウンドスピーカーが接続されている場合でも、ハイトバーチャライザーを適用します。

• DTS:X 搭載(☞320ページ)

本機は、DTS:X デコーダー技術を搭載しています。DTS:X は従来のチャンネルベース方式のサウンドフォーマットに対し、音像の移動感を表現するオブジェクト信号を付加したサウンドフォーマットです。オブジェクト信号に記録されている音声情報と三次元の位置情報を再生環境に合わせてリアルタイムに演算して出力するため、どのような再生環境でも最適化された豊かで臨場感あふれるサウンドをお楽しみいただけます。

• DTS Virtual:X 搭載(☞320ページ)

DTS Virtual:X 技術は、DTS 独自のバーチャルハイトとバーチャルサラウンド処理を採用しており、あらゆる入力ソース(ステレオから 7.1.4 チャンネルまで対応)やスピーカー構成で臨場感あふれるサウンド体験を提供します。

- ハイトスピーカーを接続している場合、DTS Virtual:X は使用できません。



- **IMAX Enhanced 機能搭載** (☞ 320 ページ)

本機は IMAX と DTS によって確立された映像・音声の性能の基準を満たしています。IMAX サウンドを DTS 社が開発した DTS コーデックを利用して独自変換し、ご家庭で IMAX シアターサウンドを体験することができます。IMAX シアターのオーディオフォーマットは家庭用のスピーカー構成と互換性があり、5.1 チャンネル以上のスピーカーを使用すると最適な IMAX サウンドをお楽しみいただけます。

- **Audyssey LFC™ (Low Frequency Containment) 搭載** (☞ 187 ページ)

Audyssey LFC™ は、隣や下の部屋に低音や振動が漏れることを抑制します。リアルタイムに入力信号を解析して、壁や床、天井を通り抜けるような低音を抑えると同時に、音響心理的アプローチを用いた低域補正処理をおこなうことで、隣や下の部屋に低音が響き渡ることなく、コンテンツ本来の低域を楽しめます。

- **独立した 4 本のサブウーハー出力と Audyssey Sub EQ HT™ 搭載** (☞ 205 ページ)

本機は、独立した 4 本のサブウーハー出力を備え、音量レベルとリスナーまでの距離をそれぞれ個別に設定できます。さらに、本機搭載の Audyssey Sub EQ HT™ は、4 本のサブウーハー間の音量レベルと距離を補正し、Audyssey MultEQ® XT32 の信号処理をおこなうことで、迫力のある低域サウンドを再現します。



- **アップグレードによる Dirac Live への対応**

Dirac Live® Room Correction は、特許取得済みアルゴリズムを適用することにより、プレミアムホームシアターで使用される先進的な室内音響最適化ソリューションであり、部屋への影響を分析してデジタル的に低減することでスピーカーのパフォーマンスを向上させます。より広いスイートスポット、ステージングの改善、透明さ、音声の明瞭度、および他の方法では不可能なより深くタイトな低音を提供します。また、それらをお好みに合わせて調節することができます。

下記よりライセンスキーを購入することで、Dirac Live 機能のロックを解除できます。www.dirac.com/denon/

- **アップグレードによる Dirac Live Bass Control への対応**

Dirac Live Bass Control は入力信号に含まれる低域成分を各再生チャンネル(スピーカー)ヘルレーティングする低音管理技術です。さらに、各チャンネルの低音管理と出力の制御を一括管理することで、Dirac Live Room Correction テクノロジーが大幅に拡張されます。特に、複数のサブウーハーを備えたシステムでは、室内音響補正効果と低音の再生能力が大幅に向上します。

詳しくは、Dirac Live のマニュアルを参照してください。

<https://manuals.denon.com/DiracLive/ALL/JA>

- **アップグレードによる Dirac Live Active Room Treatment への対応**

Dirac Live Active Room Treatment (ART)は Dirac Live Room Correction を拡張した機能です。スピーカーをひとつのシステムとして調整し、それぞれのスピーカーの特長を活かして室内の残響時間を短くすることで、余分な低音を効率よく抑え、よりクリアな音質を実現します。ART は、Bass Control や Room Correction を凌駕した Dirac Live の最も先進的な製品です。

詳しくは、Dirac Live のマニュアルを参照してください。

<https://manuals.denon.com/DiracLive/ALL/JA/>

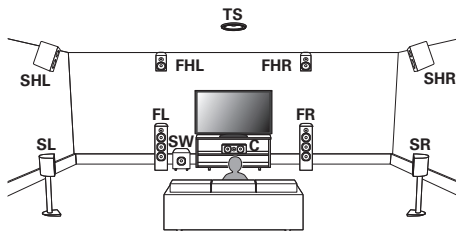


• AURO-3D

本機は、AURO-3D デコーダーを搭載しています。

AURO-3D は、5.1 チャンネルのスピーカーにフロントハイト(FHL + FHR)、サラウンドハイト(SHL + SHR)およびトップサラウンド(TS/オプション)スピーカーを組み合わせ、自然で臨場感のある三次元の音場空間を提供します。

AURO-3D 再生用のスピーカーを適切に設置することで、AURO-3D 再生を存分にお楽しみいただけます。



- AURO-3D は基本的な 5.1 チャンネルのスピーカーシステムにフロントハイトおよびサラウンドハイトスピーカーを追加したスピーカー構成を推奨としています。フロントハイトまたはサラウンドハイトスピーカーの代わりに、リアハイトスピーカー、天井スピーカーや Dolby Atmos Enabled スピーカーを設置して、AURO-3D、Dolby Atmos および DTS:X 再生をおこなうこともできます。



多彩な機能

• 8K 60Hz 入出力対応



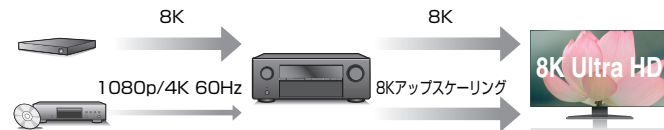
8K Ultra HD (High Definition) で、1 秒間に 60 フレーム分の映像信号 (60p) の入出力を実現しました。8K Ultra HD、60p 映像入力信号に対応したテレビと接続することで、動きの速い映像も滑らかに、高精細画質によって得られる臨場感のある映像を楽しめます。

また、本機は多彩な HDR コンテンツの入力にも対応しており、更に高精細な映像をお楽しみいただけます。

• HDCP 2.3

本機はコンテンツ保護方式規格 HDCP 2.3 に対応しています。

• 1080p/4K 信号を 8K の信号にアップスケーリングするデジタルビデオプロセッサ搭載



本機には、1080p/4K 映像を 8K (7680×4320 ピクセル) の解像度にして HDMI への出力を可能にする 8K ビデオアップスケーリング機能を搭載しています。これにより本機とテレビの接続が HDMI ケーブル 1 本で済むだけでなく、どの映像ソースでも高精細な映像を再現することができます。

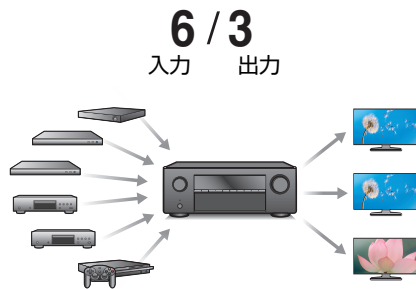
• eARC (Enhanced Audio Return Channel)機能に対応

eARC 機能は、従来の ARC 機能で対応していたオーディオフォーマットに加え、ARC 機能で対応していなかったマルチチャンネルリニア PCM や Dolby TrueHD、Dolby Atmos、DTS-HD、DTS:X の音声フォーマットも伝送できます。また、eARC 機能に対応しているテレビを接続することにより、テレビで再生するコンテンツの音声をより高品位なサラウンド再生でお楽しみいただけます。

• ゾーン 2 用の HDMI 出力を装備(158 ページ)

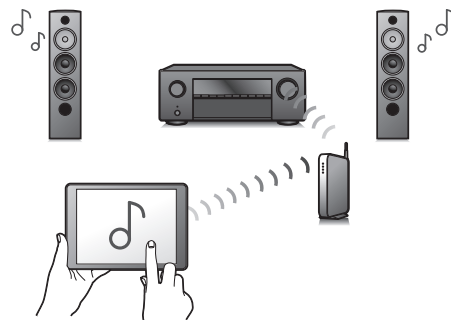
本機はゾーン 2 の部屋でも映像と音声が楽しめるゾーン 2 用の HDMI 出力を装備し、メインゾーンとは異なる映像ソースをお楽しみいただけます。

- さまざまなデジタル AV 機器を接続できる HDMI 端子を装備 (入力:6 系統、出力:3 系統)



本機には 6 系統の HDMI 入力端子と 3 系統の HDMI 出力端子を装備しており、ブルーレイディスクプレーヤー、ゲーム、HD ビデオカメラなどのさまざまな HDMI 端子付き機器との接続ができます。また、本機は同時出力可能なメインゾーン用の 2 系統出力にマルチゾーン出力を加えた 3 系統の HDMI 出力を装備しており、ゾーン 2 ではメインゾーンで再生中のソースとは別のソースを楽しむことができます。

- インターネットラジオなどのネットワーク機能に加え、AirPlay[®]機能を搭載 (P115 ページ)



インターネットラジオを聴いたり、パソコンに保存している音楽ファイルを再生したり、さまざまな再生をお楽しみいただけます。

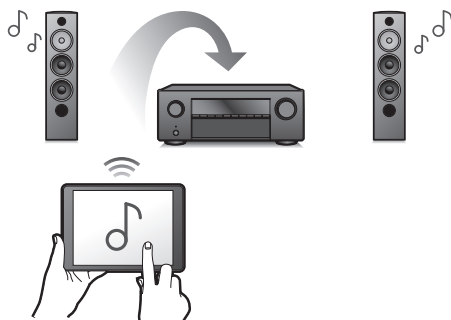
また、本機は AirPlay 機能を搭載していますので、ネットワークを通して iPhone[®] や iPad[®]、iPod touch[®]、iTunes[®]の音楽を本機で再生できます。

- ワイヤレスオーディオ技術™ AirPlay 2[®]に対応
複数の AirPlay 2 に対応したデバイス/スピーカーと同期して音楽を同時に再生することが可能です。
本機は AirPlay 2 対応製品です。iOS 11.4 以降が必要です。

- USB とネットワーク経由による DSD と FLAC ファイルの再生

高解像度のオーディオフォーマットである DSD(5.6MHz)や FLAC 192kHz ファイルの再生に対応しています。高解像度ファイルの高音質再生を実現しています。

- 簡単に Bluetooth 機器とのワイヤレス接続が可能(108 84 ページ)

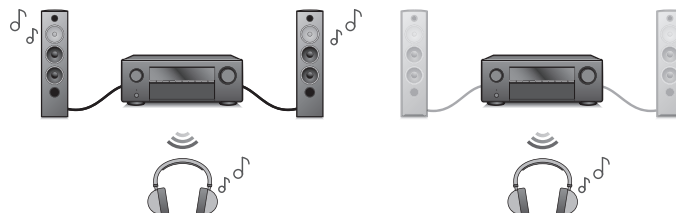


お手持ちのスマートフォン、タブレット、パソコンなどとワイヤレス接続することで、簡単に音楽を楽しめます。

- Bluetooth ヘッドホン対応

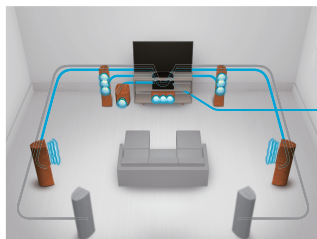
本機で再生している音声を Bluetooth ヘッドホンで聴くことができます。

ご使用の環境に合わせて、スピーカーと Bluetooth ヘッドホンの音声を同時に再生したり、Bluetooth ヘッドホンのみの音声を再生したりすることができます。

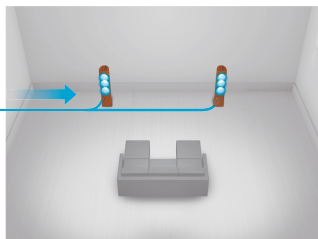


- マルチルームでの音声再生に対応(127 ページ)

【メインゾーン】



【ゾーン 2】



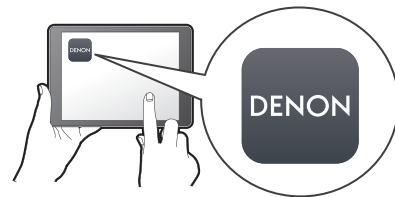
メインゾーンおよびゾーン 2 でそれぞれの入力を選択して再生できます。

また、All Zone Stereo 機能を使用すると、メインゾーンで再生中の音楽を同時にすべてのゾーンで楽しむことができます。家全体で BGM を流したいときに便利です。

- 省エネ設計

本機は使用中の消費電力を低減しながら、映画や音楽を楽しむことができるエコモード機能、および未使用時自動的に電源をオフにするオートスタンバイ機能を搭載しています。不要な電力の節約ができます。

- iPad、iPhone や Android™ 機器 (Google、Amazon Kindle Fire) で本機の基本的な操作がおこなえる“Denon AVR Remote”アプリ * に対応

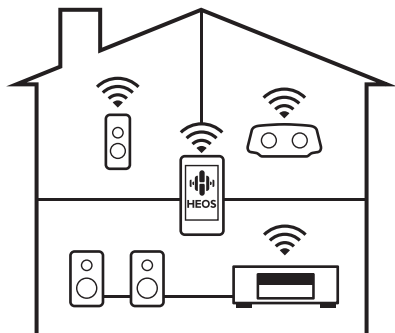


スマートフォンやタブレットから本機の詳細設定が可能なセットアップメニューにアクセスしてコントロールすることができます。“Denon AVR Remote”アプリは本機のステータスやメニューの表示、Denon 製ブルーレイディスクプレーヤーのコントロールや WEB マニュアルへのアクセスなどを提供します。

* “Denon AVR Remote”アプリ(無料)を iOS や Android 機器にダウンロードしてください。本機を LAN 接続し、iPad、iPhone や Android™ 機器を同じネットワーク上にある Wi-Fi(無線 LAN)に接続する必要があります。



- お気に入りのオンラインミュージックソースからストリーミング音楽を提供



本機は、お気に入りの音楽をご家庭内のどこにいても楽しむことができる、HEOS 無線マルチルームサウンドシステムの一部です。ホームネットワークと HEOS アプリ (iOS、Android および Amazon 機器で利用可能) を利用して、ご自身の音楽ライブラリや多数のオンラインミュージックサービス内の音楽を再生できます。

また、複数の HEOS 機能搭載機器が同じネットワークに接続されている場合、すべての機器をグループ化して同じ音楽を同時に再生したり、それぞれの機器で別々の音楽を再生したりすることができます。

簡単操作

- 基本的な設定が簡単にできる“セットアップアシスタント”メニュー
最初に言語選択画面で言語を選択します。テレビ画面に表示する操作ガイドに沿って、誰でも簡単にスピーカーの接続やネットワークの設定など基本的な設定がおこなえます。
- 操作性に優れたグラフィカル・ユーザー・インターフェース
本機には、“グラフィカル・ユーザー・インターフェース”を搭載し、操作性を向上させています。

ステレオ音のエチケット



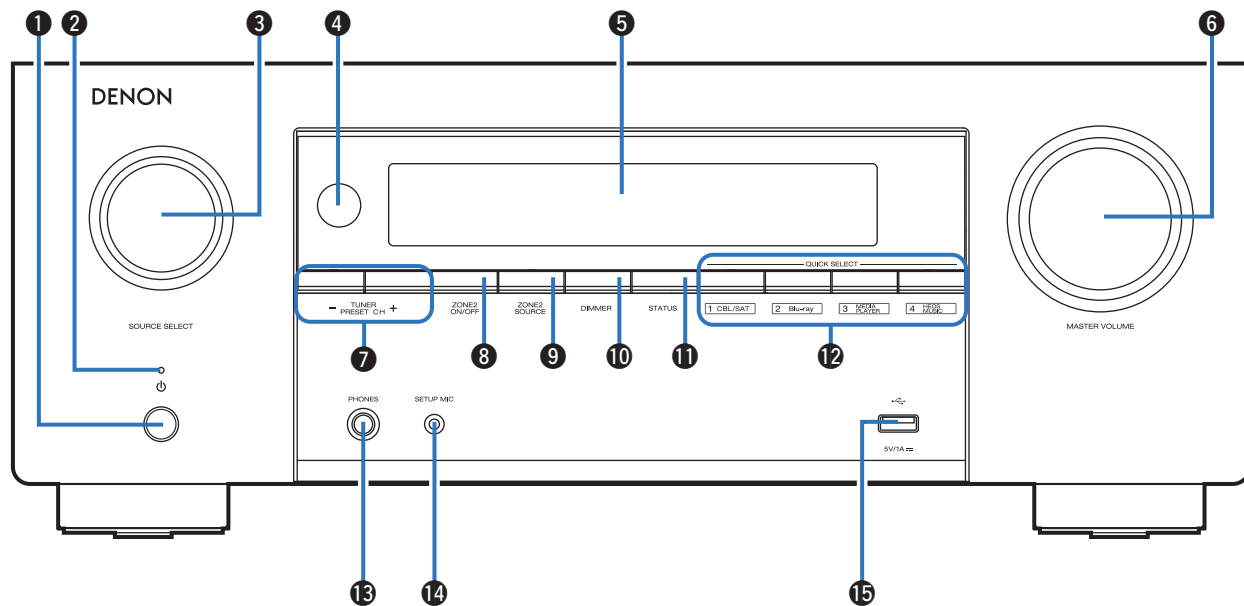
音のエチケット

- 隣近所への配慮(おもいやり)を十分にいたしましょう。
- 特に静かな夜間は、小さな音でも通りやすいものです。夜間の音楽鑑賞には、特に気を配りましょう。



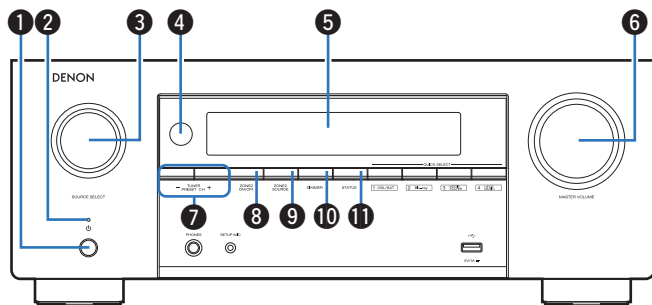
各部の名前

フロントパネル



詳しくは、次のページをご覧ください。





❶ 電源ボタン(⏻)

メインゾーン(本機のある部屋)の電源をオン/オフ(スタンバイ)します。(☞78 ページ)

❷ 電源表示

電源の状態によって、次のように点灯します。

- ・ 緑色: 電源オン時
- ・ 消灯: 通常のスタンバイ時
- ・ 赤色:
 - ・ “HDMI パススルー” の設定が “オン” のとき (☞190 ページ)
 - ・ “HDMI コントロール” の設定が “オン” のとき (☞192 ページ)
 - ・ “ネットワークコントロール” の設定が “常時オン” のとき (☞242 ページ)

❸ 入力ソース選択つまみ(SOURCE SELECT)

入力ソースを選択します。(☞78 ページ)

❹ リモコン受光部

リモコンからの信号を受信します。(☞10 ページ)

❺ ディスプレイ

各種情報を表示します。(☞23 ページ)

❻ 音量調節つまみ(MASTER VOLUME)

音量を調節します。(☞79 ページ)

❼ チューナープリセットチャンネルボタン (TUNER PRESET CH +, -)

プリセットした放送局を選択します。(☞96 ページ)

❽ ゾーン 2 用電源ボタン(ZONE2 ON/OFF)

ゾーン 2(別の部屋)の電源をオン/オフします。「ゾーン 2 で入力ソースを再生する」(☞161 ページ)

❾ ゾーン 2 用入力ソース選択ボタン(ZONE2 SOURCE)

ゾーン 2 の入力ソースを選択します。「ゾーン 2 で入力ソースを再生する」(☞161 ページ)

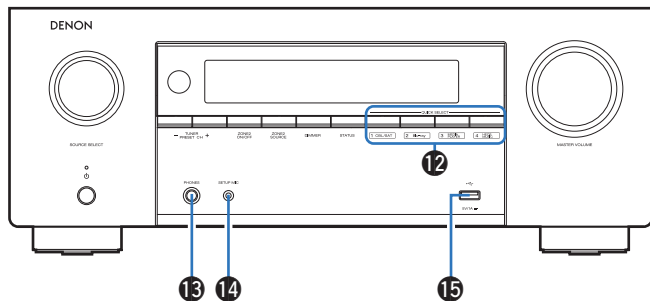
❿ ディマーボタン(DIMMER)

ディスプレイの明るさを切り替えます。(☞257 ページ)

⓫ ステータスボタン(STATUS)

ボタンを押すたびにステータス情報を切り替えて、ディスプレイに表示します。





- ⑭ **セットアップマイク端子(SETUP MIC)**
付属のセットアップマイクを接続します。(P.207 ページ)
- ⑮ **USB 端子(USB)**
USB ストレージ(USB メモリーなど)を接続します。(P.69 ページ)

⑫ **クイックセレクトボタン(QUICK SELECT)**

それぞれのボタンに登録している入力ソース、音量およびサウンドモードなどの複数の設定をワンタッチで呼び出します。
(P.148 ページ)

⑬ **ヘッドホン端子(PHONES)**

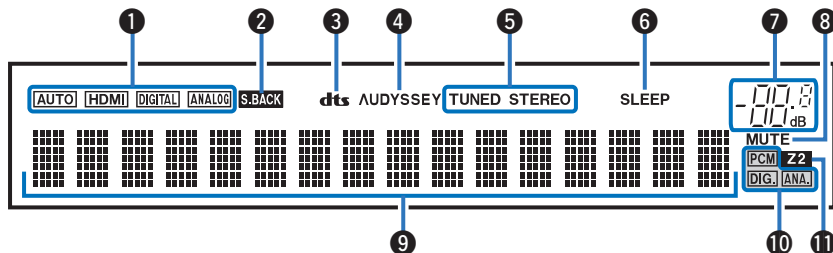
ヘッドホンを接続します。
ヘッドホンのプラグを差し込むと、スピーカーおよびリアアウト端子から音が出なくなります。

ご注意

- ヘッドホンをご使用になるときは、音量を上げすぎないようにご注意ください。



ディスプレイ



① 入力モード表示

各入力ソースの音声入力モードの設定により点灯します。
(☞ 202 ページ)

② サラウンドバック表示

サラウンドバックスピーカーから音声が出力されているときに点灯します。(☞ 217 ページ)

③ デコーダー表示

DTS 信号が入力されているとき、または DTS デコーダーが動作しているときに点灯します。

④ Audyssey®表示

“MultEQ® XT32”、“Dynamic EQ”、“Dynamic Volume”または“Audyssey LFC™”が設定されているときに点灯します。
(☞ 184 ページ)

⑤ チューナー受信モード表示

入力ソースが“Tuner”のとき、放送局の受信状態により点灯します。

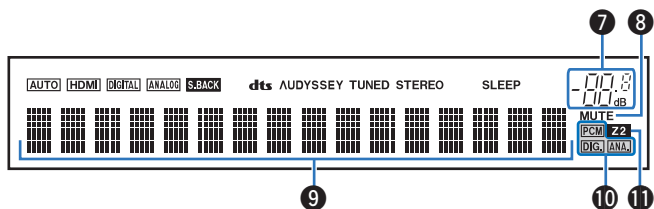
TUNED: 放送局を受信したときに点灯します。

STEREO: FM ステレオ放送を受信したときに点灯します。

⑥ スリープタイマー表示

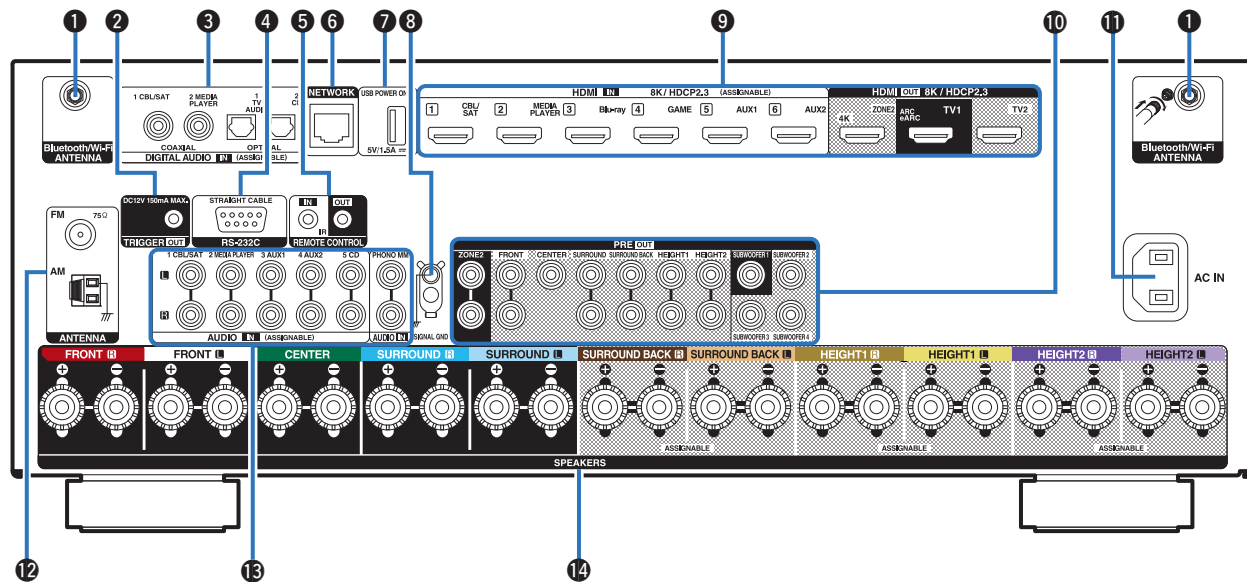
スリープタイマーを設定しているときに点灯します。(☞ 146 ページ)





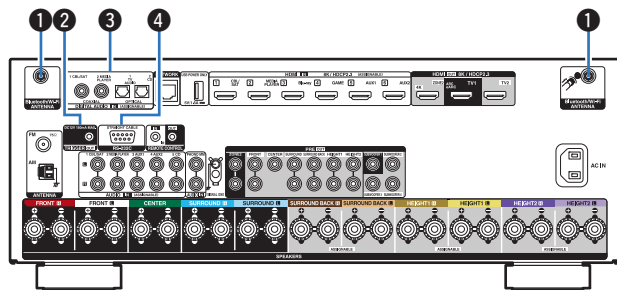
- ⑦ 音量表示
- ⑧ ミュート表示
消音中に点滅します。(☞79 ページ)
- ⑨ インフォメーションディスプレイ
入力ソース名、サウンドモード、設定値などを表示します。
- ⑩ 入力信号表示
入力信号によって点灯します。(☞202 ページ)
- ⑪ ゾーン2表示
ゾーン2(別の部屋)の電源が入っているときに点灯します。
「ゾーン2で入力ソースを再生する」(☞161 ページ)

リアパネル



詳しくは、次のページをご覧ください。

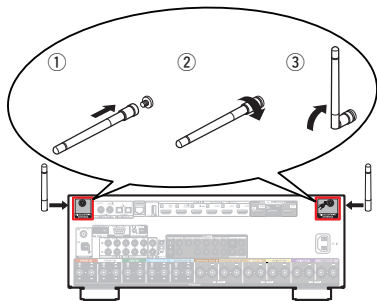




① Bluetooth/無線 LAN 用アンテナ端子

Bluetooth でお手持ちの機器と接続する場合、または無線 LAN でネットワークに接続する場合は、この端子に付属の Bluetooth/無線 LAN 用外部アンテナを接続してご使用ください。(☞73 ページ)

- ① Bluetooth/無線 LAN 用外部アンテナをリアパネルのアンテナ端子と水平に合わせる。
- ② アンテナを右に回してしっかり締める。
- ③ 最も受信状態が良い向きにアンテナを回転させる。



② トリガー出力端子 (TRIGGER OUT)

トリガー機能対応の機器を接続します。(☞75 ページ)

③ デジタルオーディオ端子 (DIGITAL AUDIO)

デジタルオーディオ端子付きの機器を接続します。

- 「接続 2: HDMI 端子付き ARC/eARC 機能非対応のテレビ」(☞62 ページ)
- 「セットトップボックスを接続する (衛星放送チューナー/ケーブルテレビチューナー)」(☞64 ページ)
- 「メディアプレーヤーを接続する」(☞65 ページ)

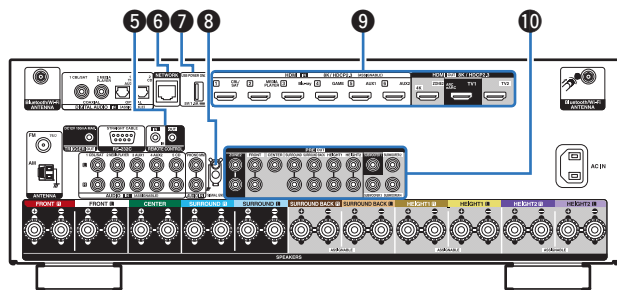
④ RS-232C 端子

RS-232C シリアル端子付きのホームオートメーションコントローラー機器を接続します。本機のシリアルコントロールについての詳細は、ホームオートメーションコントローラー機器の取扱説明書をご覧ください。

あらかじめ次の確認をしてください。

- ① 本機の電源を入れる。
- ② 外部のコントロール機器で、本機の電源を切る。
- ③ 本機がスタンバイ状態になる。





5 リモートコントロール端子(REMOTE CONTROL)

メインゾーン以外の部屋から本機や外部機器を操作するために、赤外線受信機や送信機を接続します。(☞74 ページ)

6 ネットワーク端子(NETWORK)

有線 LAN でネットワークに接続する際に LAN ケーブルを接続します。(☞72 ページ)

7 USB 端子(POWER SUPPLY)

ストリーミングメディアプレーヤーなどの電源供給用として使用できます。



- 5V/1.5A を超える電源供給が必要な場合は、AC アダプターを使用してください。
- USB メモリーを再生するときは、フロントパネルの USB 端子に接続してください。

8 アース端子(SIGNAL GND)

レコードプレーヤーのアース線を接続します。(☞68 ページ)

9 HDMI 端子

HDMI 端子付きの機器を接続します。

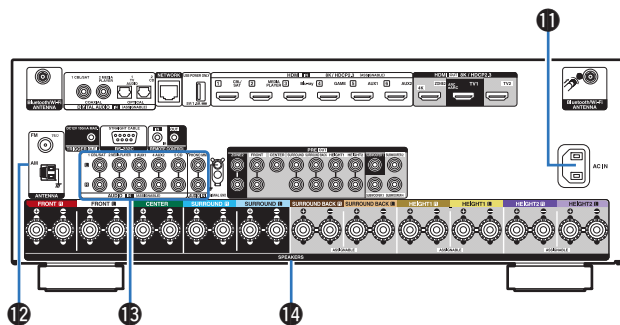
- 「接続 1 :HDMI 端子付きおよび ARC/eARC 機能対応のテレビ」(☞61 ページ)
- 「接続 2 :HDMI 端子付き ARC/eARC 機能非対応のテレビ」(☞62 ページ)
- 「セットトップボックスを接続する(衛星放送チューナー/ケーブルテレビチューナー)」(☞64 ページ)
- 「メディアプレーヤーを接続する」(☞65 ページ)
- 「ブルーレイディスクや DVD プレーヤーを接続する」(☞66 ページ)
- 「8K 対応のプレーヤーやゲーム機を接続する」(☞67 ページ)

10 プリアウト端子(PRE OUT)

アンプ内蔵のサブウーハーや外部パワーアンプを接続します。

- 「サブウーハーを接続する」(☞40 ページ)
- 「外部のパワーアンプを接続する」(☞44 ページ)
- 「ゾーン 2 の接続」(☞159 ページ)





11 AC インレット(AC IN)

電源コードを接続します。(P.76 ページ)

12 FM/AM アンテナ端子(ANTENNA)

FM アンテナや AM ループアンテナを接続します。(P.70 ページ)

13 アナログオーディオ端子(AUDIO)

アナログオーディオ端子付きの機器を接続します。

- 「セットトップボックスを接続する(衛星放送チューナー/ケーブルテレビチューナー)」(P.64 ページ)
- 「メディアプレーヤーを接続する」(P.65 ページ)
- 「レコードプレーヤーを接続する」(P.68 ページ)

14 スピーカー端子(SPEAKERS)

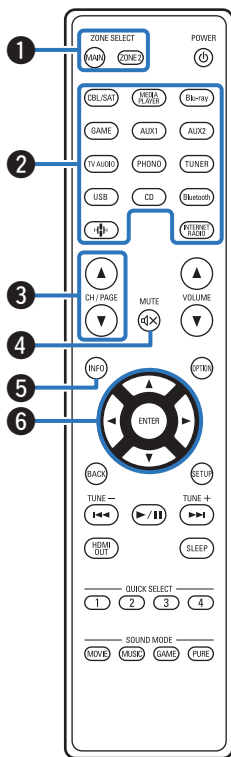
スピーカーを接続します。(P.39 ページ)

ご注意

- 端子内部のピンには絶対に触れないでください。静電気により、故障の原因になることがあります。



リモコン



① ゾーン選択ボタン(ZONE SELECT)

リモコンで操作するゾーン(メインゾーンまたはゾーン 2)を選択します。

- 「メインゾーンとゾーン 2 で異なる入力ソースを再生する」(P.163 ページ)
- 「メニュー操作のしかた」(P.171 ページ)

② 入力ソース選択ボタン

入力ソースを選択します。

- 「入力ソースを選ぶ」(P.78 ページ)
- 「メインゾーンとゾーン 2 で異なる入力ソースを再生する」(P.163 ページ)

③ チャンネル選択/ページ検索ボタン(CH/PAGE ▲▼)

プリセット登録した放送局の選択やページの切り替えをします。(P.96 ページ)

④ ミュートボタン(MUTE ㊦)

消音します。

- 「一時的に音を消す(ミュートイング)」(P.79 ページ)
- 「一時的に音を消す(ミュートイング)」(P.165 ページ)

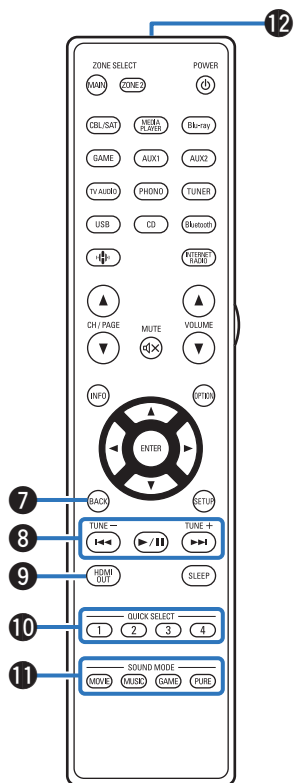
⑤ インフォメーションボタン(INFO)

ステータス情報をテレビ画面に表示します。(P.261 ページ)

⑥ カーソルボタン

項目を選択します。





7 バックボタン(BACK)

ひとつ前の画面に戻ります。

8 システムボタン

再生に関する操作をします。

選局ボタン(TUNE +, -)

FM 放送局または AM 放送局を選択します。(☞ 93 ページ)

9 HDMI 出力切り替えボタン(HDMI OUT)

HDMI 出力を設定します。(☞ 195 ページ)

10 クイックセレクトボタン(QUICK SELECT 1~4)

それぞれのボタンに登録している入力ソース、音量およびサウンドモードなどの複数の設定をワンタッチで呼び出します。(☞ 148 ページ)

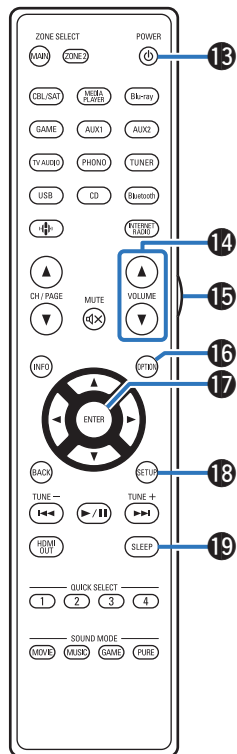
11 サウンドモードボタン(SOUND MODE)

サウンドモードを選択します。(☞ 130 ページ)

12 リモコン信号送信窓

リモコンの信号を送信します。(☞ 10 ページ)





13 電源ボタン(POWER ⏻)

電源をオン/オフします。

- 「電源を入れる」(167 78 ページ)
- 「メインゾーンとゾーン 2 で異なる入力ソースを再生する」(167 163 ページ)

14 音量調節ボタン(VOLUME \blacktriangle / \blacktriangledown)

音量を調節します。

- 「音量を調節する」(167 79 ページ)
- 「ゾーン 2 の音量を調節する」(167 165 ページ)

15 ライトボタン

ボタンを押すと、バックライトが約 5 秒間点灯します。(167 264 ページ)

16 オプションボタン(OPTION)

テレビ画面にオプションメニューを表示します。

17 エンターボタン(ENTER)

選択した内容を確認します。

18 セットアップボタン(SETUP)

テレビ画面に設定メニューを表示します。(167 171 ページ)

19 スリープタイマーボタン(SLEEP)

スリープタイマーを設定します。(167 146 ページ)



■ 目次








スピーカーを設置する	33
スピーカーを接続する	39
テレビを接続する	60
再生機器を接続する	63
USB 端子に USB メモリーを接続する	69
FM アンテナや AM ループアンテナを接続する	70
ホームネットワーク (LAN) に接続する	72
外部のコントロール機器を接続する	74
電源コードを接続する	76

ご注意

- すべての接続が終わるまで電源プラグをコンセントに差し込まないでください。ただし、“セットアップアシスタント” (別冊の“かんたんスタートガイド”の 9 ページ) メニューを操作中は“セットアップアシスタント”メニューの指示に従って接続してください。(“セットアップアシスタント”メニューを操作中、入出力端子は通電しません。)
- 接続ケーブルは、電源コードと一緒に束ねないでください。雑音の原因となることがあります。

■ 接続に使用するケーブル

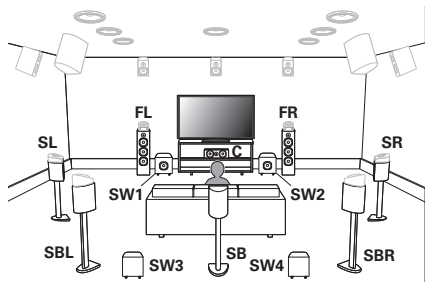
接続する機器に合わせて、必要なケーブルを準備してください。

スピーカーケーブル	
サブウーハーケーブル	
HDMI ケーブル	
同軸デジタルケーブル	
光伝送ケーブル	
オーディオケーブル	
LAN ケーブル	



スピーカーを設置する

ご使用になるスピーカーの本数に応じてスピーカーシステムを決定し、各スピーカーおよびサブウーハーを部屋に設置します。例として、代表的な設置方法を説明します。



FL/FR (フロントスピーカー左/右):	フロント左右スピーカーは視聴位置から前方の等距離に設置します。各スピーカーとテレビの間の距離は同じにしてください。
C (センタースピーカー):	センタースピーカーはフロント左右スピーカーの中間に設置します。テレビの上または下側に設置してください。

SL/SR
(サラウンドスピーカー左/右):

サラウンド左右スピーカーは視聴位置から左右の等距離に設置します。サラウンドバックスピーカーをお持ちでない場合は、斜め後方に設置してください。

SBL/SBR
(サラウンドバックスピーカー左/右):

サラウンドバック左右スピーカーは視聴位置から後方の等距離に設置します。サラウンドバックスピーカーを1台使用する場合(SB)は、リスニングポイントの真後ろに設置してください。

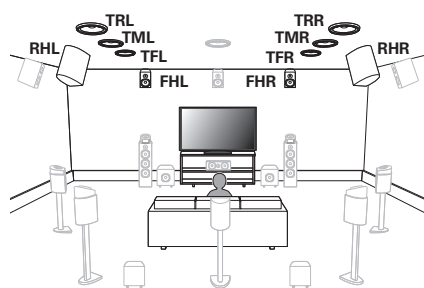
サブウーハーは、フロントスピーカーの近くの設置可能な場所に設置します。サブウーハーを2台以上使用する場合は、部屋の前方または後方に左右対称となるよう設置します。3台の場合は、前方に2台設置し、後方の中央に1台設置します。

SW 1/2/3/4
(サブウーハー):

複数のスピーカーを使用する場合は、“サブウーハーモード” (p.225 ページ) でレイアウトを設定することができます。

サブウーハー 2 台: 前方 2 台または前方に 1 台に後方に 1 台
 サブウーハー 3 台: 前方に 2 台に後方に 1 台
 サブウーハー 4 台: 前方に 2 台に後方に 2 台





FHL/FHR
(フロントハイトスピー
カー左/右):

フロントハイト左右スピーカーはフロントスピー
カーの真上に設置します。できるだけ天井
に近い高さで、リスニングポイントを向くよう
に設置してください。

TFL/TFR
(トップフロントスピー
カー左/右):

トップフロント左右スピーカーは視聴位置から
前方の天井に取り付けます。左右の間隔は、フロ
ント左右スピーカーと合わせてください。

TML/TMR
(トップミドルスピー
カー左/右):

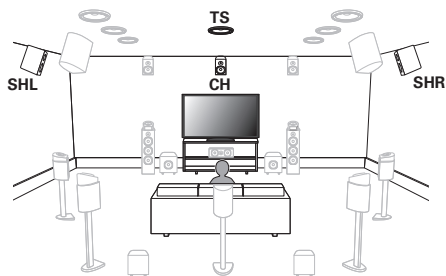
トップミドル左右スピーカーは視聴位置の真上
の天井に取り付けます。左右の間隔は、フロント
左右スピーカーと合わせてください。

TRL/TRR
(トップリアスピー
カー左/右):

トップリア左右スピーカーは視聴位置から後方
の天井に取り付けます。左右の間隔は、フロント
左右スピーカーと合わせてください。

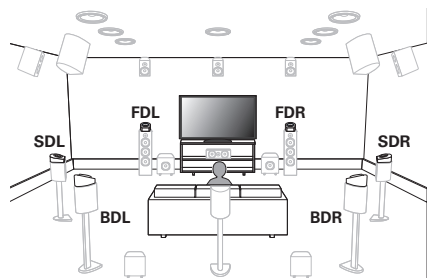
RHL/RHR
(リアハイトスピー
カー左/右):

リアハイト左右スピーカーはできるだけ天井に
近い高さで、視聴位置から後方に設置します。左
右の間隔は、フロント左右スピーカーと合わせ
てください。



SHL/SHR (サラウンドハイトスピーカー左/右):	サラウンドハイト左右スピーカーをサラウンドスピーカーの真上に設置してください。
CH (センターハイトスピーカー):	センターハイトスピーカーはセンタースピーカーの真上に設置します。できるだけ天井に近い高さで、リスニングポイントを向くように設置してください。
TS (トップサラウンドスピーカー):	トップサラウンドスピーカーはメインリスニングポイントの真上に、センタースピーカーと一直線になるように設置してください。





FDL/FDR
(フロント Dolby スピーカー左/右):

フロント Dolby Atmos Enabled スピーカーをフロントスピーカーの上に置いてください。フロントスピーカーと一体型の Dolby Atmos Enabled スピーカーの場合は、フロントスピーカーの代わりに Dolby Atmos Enabled スピーカーを置いてください。

SDL/SDR
(サラウンド Dolby スピーカー左/右):

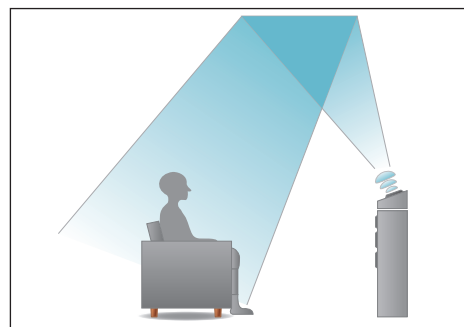
サラウンド Dolby Atmos Enabled スピーカーをサラウンドスピーカーの上に置いてください。サラウンドスピーカーと一体型の Dolby Atmos Enabled スピーカーの場合は、サラウンドスピーカーの代わりに Dolby Atmos Enabled スピーカーを置いてください。

BDL/BDR
(バック Dolby スピーカー左/右):

バック Dolby Atmos Enabled スピーカーをサラウンドバックスピーカーの上に置いてください。サラウンドバックスピーカーと一体型の Dolby Atmos Enabled スピーカーの場合は、サラウンドバックスピーカーの代わりに Dolby Atmos Enabled スピーカーを置いてください。

Dolby Atmos Enabled スピーカーについて

Dolby Atmos Enabled スピーカーは上向きの特種なスピーカーを床面に設置することで、出力された音声を天井で反射させて上方から音声が聞こえるようにするスピーカーです。天井にスピーカーが設置できない環境でも、Dolby Atmos の 3D サウンドを楽しむことができます。



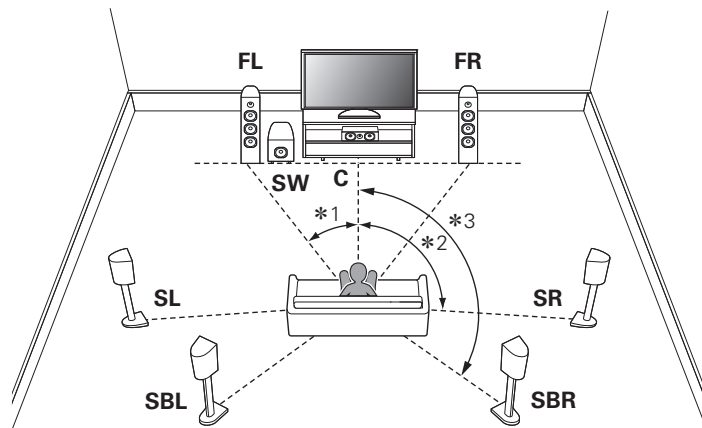


- 本機はサラウンド空間により一層の広がりや奥行きを表現する Dolby Atmos および DTS:X に対応しています。
- スピーカー構成が 5.1 チャンネル以下で Dolby Atmos を再生する場合は、メニューの“スピーカーバーチャライザー”を“オン”に設定してください。(P.175 ページ)
- IMAX DTS:X および DTS:X は、スピーカーの構成に関わらず使用できます。

■ スピーカーの推奨設置位置

フロアスピーカーのレイアウト図

- 次の図を、各フロアスピーカーの設置場所の参考としてください。正確に一致させる必要はありません。



*1 22° ~ 30° *2 90° ~ 110° *3 135° ~ 150°

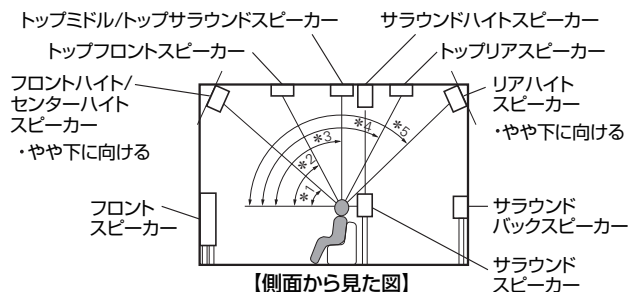


- サラウンドバックスピーカーを使用しない場合、サラウンドスピーカーの推奨角度(*2)は 120° です。
- サラウンドバックスピーカーを 1 本のみ使用する場合は、サラウンドバックスピーカーをリスニングポイントの真後ろに設置してください。

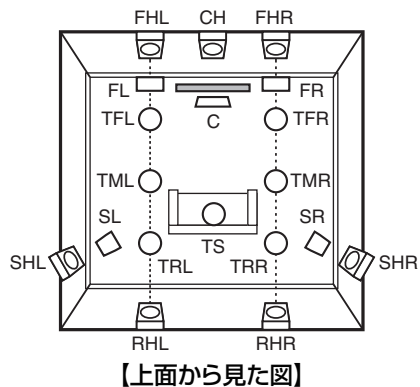


ハイトスピーカーのレイアウト図

- 次の図を、各ハイトスピーカーの設置場所の参考にしてください。正確に一致させる必要はありません。



- *1 30°~45°
- *2 30°~55°
- *3 65°~100°
- *4 125°~150°
- *5 135°~150°



スピーカーを接続する

部屋に設置したスピーカーを本機に接続します。

スピーカーを接続する前に

ご注意

- スピーカーを接続する前に、本機の電源プラグをコンセントから抜いてください。また、サブウーハーの電源を切ってください。
- スピーカーケーブルの芯線が、スピーカー端子からはみ出さないように接続してください。芯線がリアパネルやねじに接触したり、+側と-側が接触したりすると、保護回路が動作します。〔保護回路〕(P.325 ページ)
- 通電中は、絶対にスピーカー端子に触れないでください。感電する場合があります。ただし、“セットアップアシスタント” (別冊の“かんたんスタートガイド”の9ページ)メニューを操作中は“セットアップアシスタント”メニューの指示に従って接続してください。 (“セットアップアシスタント”メニューを操作中、スピーカー端子は通電しません。)
- スピーカーはインピーダンスが4~16Ωのものを使用してください。
- 異なるインピーダンスのスピーカーを接続する場合、接続するスピーカーの最も低いインピーダンスに設定してください。

ご注意

- インピーダンスが4~6Ωのスピーカーをご使用になる場合は、次の設定をおこなってください。

1. 本機の電源が入っているときに本体の ZONE2 SOURCE と STATUS を同時に 3 秒以上長押しする。
ディスプレイに“4K/8K:<Enhanced>”を表示します。
2. 本体の DIMMER を 2 回押す。
ディスプレイに“Sp.Imp.:<8ohms>”を表示します。
3. 本体の TUNER PRESET CH +または TUNER PRESET CH - を押して、インピーダンスを選ぶ。

8ohms
(お買い上げ時の設定):

接続されたすべてのスピーカーのインピーダンスが 8Ω 以上のときに選択します。

6ohms:

接続されたスピーカーのインピーダンスが 6Ω のときに選択します。

4ohms:

接続されたスピーカーのインピーダンスが 4Ω のときに選択します。

4. 本体の STATUS を押して、設定を終了する。



■ スピーカーケーブルを接続する

本機と接続するスピーカークーブルの左チャンネル(L)、右チャンネル(R)、+(赤)、-(黒)をよく確認して、同じ極性を接続してください。

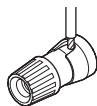
- 1 スピーカーケーブル先端の被覆を 10mm 程度はがし、芯線をしっかりよじるか、端末処理をおこなう。



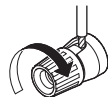
- 2 スピーカー端子を左に回してゆるめる。



- 3 スピーカーケーブルの芯線をスピーカークーブルの根元に差し込む。



- 4 スピーカークーブルを右に回して締める。

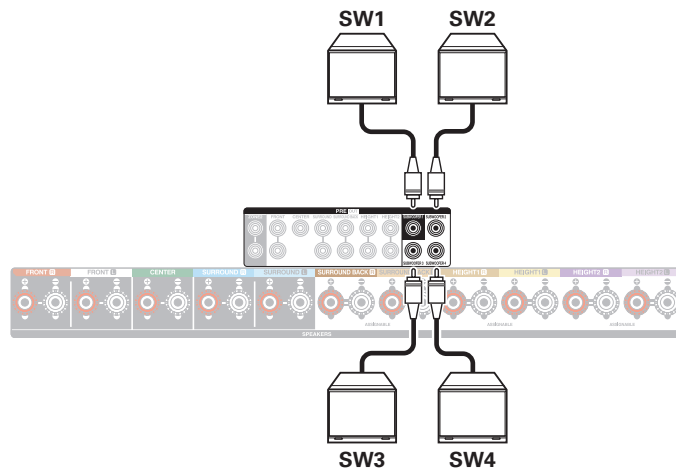


■ サブウーハーを接続する

サブウーハーケーブルを使用して、サブウーハーを接続します。本機にはサブウーハーを 4 台接続できます。

複数のサブウーハーを接続する場合は、接続するサブウーハーの台数に合わせて、“スピーカーレイアウト”の設定で“サブウーハー”の設定を変更してください。(P.224 ページ)

サブウーハー 1、サブウーハー 2、サブウーハー 3、サブウーハー 4 の音量および距離は個別に設定できます。



■ チャンネル識別のための配線ラベル(付属)について

本機のスピーカー端子は、識別できるように色分けしています。

各スピーカーに合った配線ラベルをスピーカーケーブルに貼ってください。リアパネルのスピーカー端子に接続する際、簡単に接続できます。

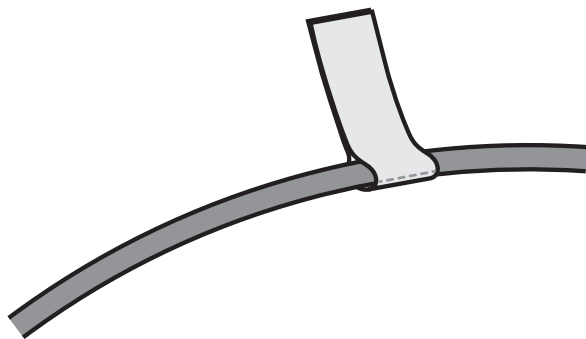
スピーカー	カラー
FRONT L	白色
FRONT R	赤色
CENTER	緑色
SURROUND L	水色
SURROUND R	青色
SURROUND BACK L	ベージュ
SURROUND BACK R	茶色
FRONT HEIGHT L	薄黄色
FRONT HEIGHT R	黄色
TOP FRONT L	薄黄色
TOP FRONT R	黄色
TOP MIDDLE L	薄紫色
TOP MIDDLE R	紫色
TOP REAR L	薄紫色
TOP REAR R	紫色

スピーカー	カラー
SURROUND HEIGHT L	薄紫色
SURROUND HEIGHT R	紫色
REAR HEIGHT L	薄紫色
REAR HEIGHT R	紫色
TOP SURROUND	ベージュ
CENTER HEIGHT	茶色
FRONT DOLBY L	薄黄色
FRONT DOLBY R	黄色
SURROUND DOLBY L	薄紫色
SURROUND DOLBY R	紫色
BACK DOLBY L	薄紫色
BACK DOLBY R	紫色
SUBWOOFER 1	黒色
SUBWOOFER 2	黒色
SUBWOOFER 3	黒色
SUBWOOFER 4	黒色



付属の配線ラベルは、スピーカーケーブルと HDMI ケーブルに貼り付けて使います。本機に接続するスピーカーや HDMI 機器に応じて、配線ラベルをそれぞれのケーブルに貼り付けてください。配線ラベルを貼り付けることにより、本機と接続する機器の配線が容易になります。

【配線ラベルの貼り付け方】

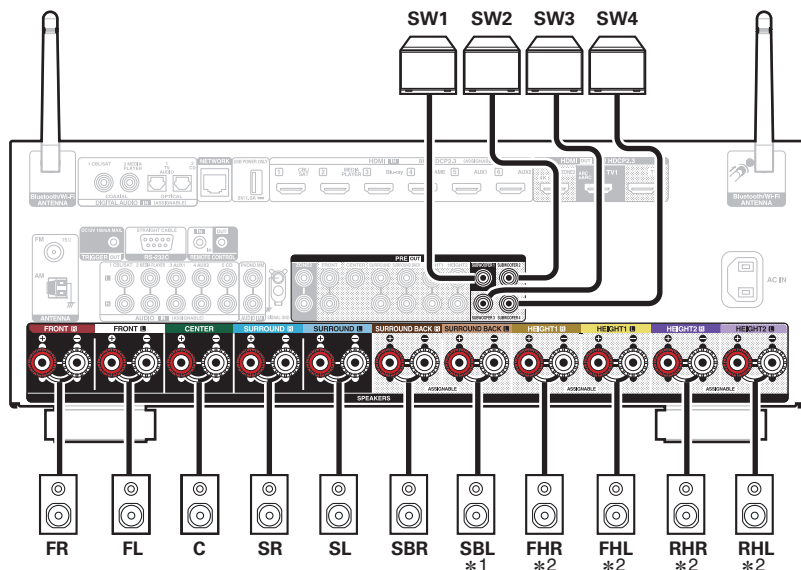


スピーカーをスピーカー端子に接続する

本機は 11.4 チャンネルのスピーカーを接続することができます。

スピーカー端子は最大 9 チャンネルの同時再生が可能です。11 チャンネル同時再生をおこなう場合は、プリアウト端子と組み合わせて使用してください。詳細は“スピーカーレイアウト”をご覧ください。(P.215 ページ)

お使いのスピーカーに合わせて接続してください。

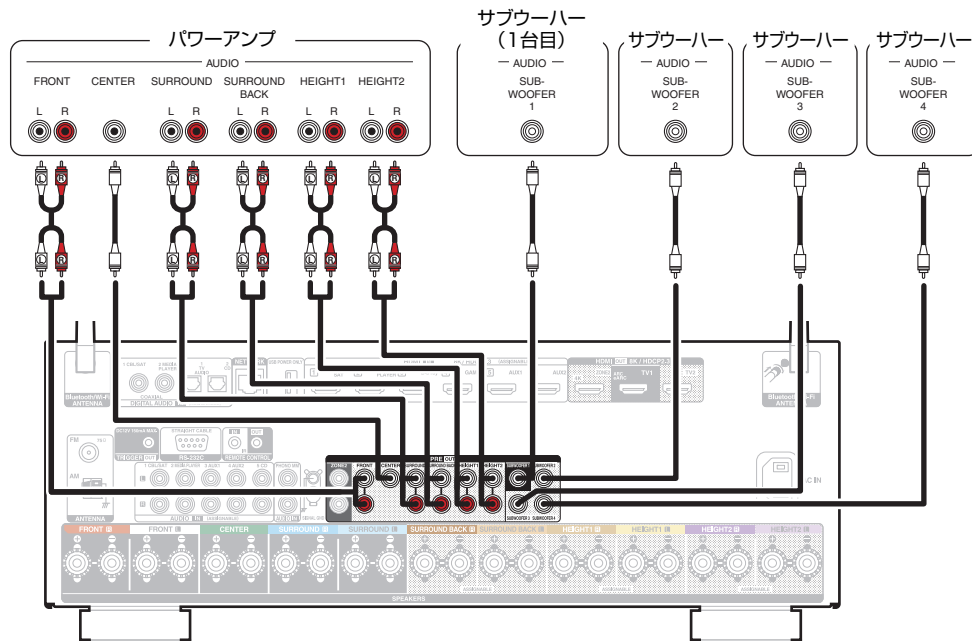


- *1 サラウンドバックスピーカーを 1 本だけ使用する場合は、SURROUND BACK L 端子に接続してください。
- *2 ハイト/天井/Dolby Atmos Enabled スピーカーの出力端子は、使用するスピーカーの組み合わせによって異なります。それぞれのスピーカーを接続するスピーカー端子については、“スピーカーレイアウト” - “レイアウト” (P.219 ページ)をご覧ください。

外部のパワーアンプを接続する

外部のパワーアンプを本機のプリアウト端子(PRE OUT)に接続すると、本機をプリアンプとして使用できます。各チャンネルにパワーアンプを追加することで、さらにサウンドの臨場感を高めることができます。

ご使用になる端子を選んで接続してください。





- すべてのスピーカーに外部パワーアンプを接続し、本機をプリアンプとして使用する場合は、“アンプの割り当て”を“プリアンプ”に設定してください。
(217 ページ)
内部パワーアンプへの信号経路をオフにすることで、プリアンプへの干渉を減らすことができます。
- メニューの“接続”を設定すると、各チャンネルのパワーアンプへの信号経路を個別にオフし、お気に入りのチャンネルをプリアンプとして使用できます。
(218 ページ)
- サラウンドバックスピーカーを 1 本のみご使用になる場合は、左チャンネル(L)に接続してください。
- ハイト 1 とハイト 2 のプリアウト端子の出力信号は、使用しているハイト/天井/ドルビーアトモス対応スピーカーの組み合わせによって異なります。それぞれのスピーカーを接続するプリアウト端子については、“スピーカーレイアウト” - “レイアウト”および“前方レイアウト / 中央レイアウト / 後方レイアウト / TS/CH” (221 ページ)をご覧ください。



スピーカーの構成と“アンプの割り当て”の設定

本機は 9 チャンネルのパワーアンプを内蔵しています。基本となる 5.1 チャンネルシステムのほかに、“スピーカーレイアウト”の設定を変更することで、7.1 チャンネルシステム、バイアンプ接続、マルチゾーン再生用の 2 チャンネルシステムなど、さまざまなスピーカーシステムを構築できます。(P.215 ページ)

設置するスピーカー構成や部屋の数に合わせて、“スピーカーレイアウト”の設定をおこなってください。(P.215 ページ)

各ゾーンで再生するスピーカー		“アンプの割り当て”の設定	接続のページ	
メインゾーン	ゾーン 2			
5.1 チャンネル再生	2 チャンネル (プリアウト)	すべて“アンプの割り当て”メニューで設定できます。	48	
5.1 チャンネル再生(フロントスピーカーおよびセンタースピーカーのバイアンプ接続)		5.1 ch (Front LCR Bi-Amp)	49	
7.1 チャンネル再生		7.1 ch + ZONE2	50	
9.1 チャンネル再生		9.1 ch(お買い上げ時の設定)	51	
11.1 チャンネル再生		11.1 ch	53	
7.1 チャンネル再生(フロントスピーカーのバイアンプ接続)		7.1 ch (Bi-Amp)	56	
2 組目のフロントスピーカー		7.1 ch + Front B	57	
7.1 チャンネル再生		2 チャンネル (スピーカー出力)	7.1 ch + ZONE2	58
5.1 チャンネル再生(フロントスピーカーのバイアンプ接続)		2 チャンネル (スピーカー出力)	5.1 ch (Bi-Amp) + ZONE2	59
9.1 チャンネル再生(本機をプリアンプとして使用)	使用しない	プリアンプ	44	

スピーカー構成によって、選択できるサウンドモードが異なります。
以降のページに基本となる接続例を記載しています。





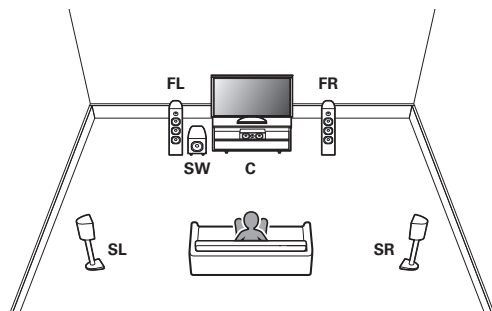
- 本機では、48～59 ページに記載している接続方法のほかに、“スピーカーレイアウト”の設定によりさまざまなスピーカーの接続方法があります。

ご使用の環境に合わせた接続方法を、“スピーカーレイアウト”の設定画面の中の“端子の接続確認”でメニュー画面上にガイドしていますので、そちらもご覧ください。



5.1 チャンネルのスピーカーを接続する

サラウンドの基本となる 5.1 チャンネルのシステムです。



スピーカーの接続ごとに、「スピーカーをスピーカー端子に接続する」(☞43 ページ)または「外部のパワーアンプを接続する」(☞44 ページ)を参照してください。



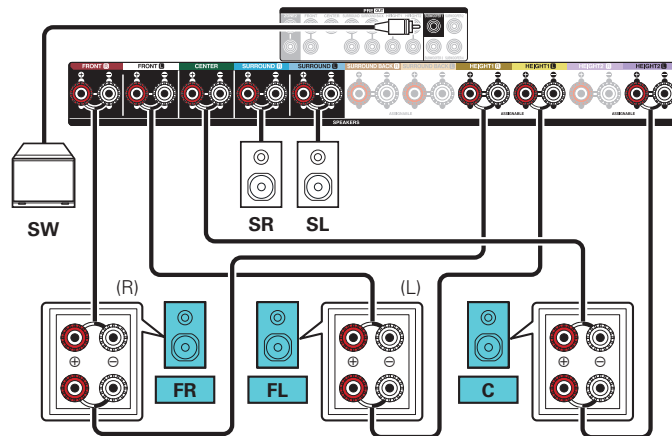
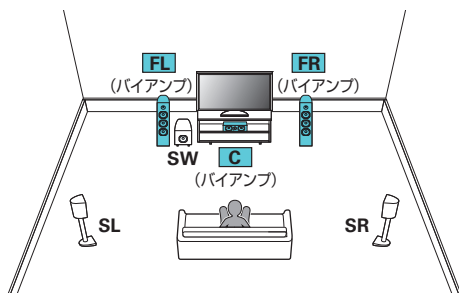
- メニューのスピーカーレイアウトは、次のように設定してください。(☞215 ページ)
 1. センター:有り
 2. サラウンド:有り
 3. サブウーハー:1 台



5.1 チャンネルのスピーカーを接続する：フロントスピーカーおよびセンタースピーカーのバイアンプ接続

5.1 チャンネル再生をおこなうシステムです。フロントスピーカーおよびセンタースピーカーを使用したバイアンプ接続ができます。

バイアンプ接続は、バイアンプ対応スピーカーのツイーター用端子とウーハー用端子に、別々のアンプを接続する方法です。これによりウーハーの逆起電力(出力されずに戻ってくる電力)がツイーターに流れ込んでツイーターの音質に影響を及ぼすことを防ぐため、より高音質な再生をお楽しみいただけます。



ご注意

- バイアンプ接続を使用する場合は、スピーカーのウーハー端子とツイーター端子を接続している短絡板または短絡用ワイヤーを必ず外してください。

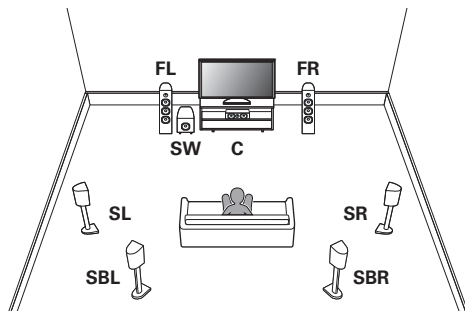


7.1 チャンネルのスピーカーを接続する

■ サラウンドバックスピーカーを使用するときのレイアウト例

この 7.1 チャンネルサラウンドシステムは、基本的な 7.1 チャンネルシステムです。

(基本的な 5.1 チャンネルシステムにサラウンドバックスピーカーを追加したシステムです。)



スピーカーの接続ごとに、以下を参照してください。

- 「スピーカーをスピーカー端子に接続する」(P.43 ページ)
- 「外部のパワーアンプを接続する」(P.44 ページ)

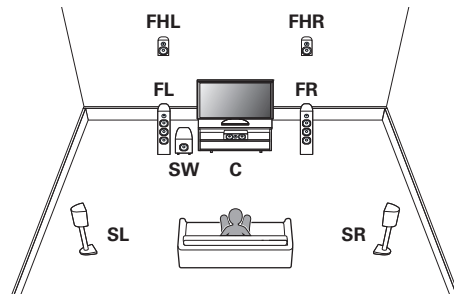


- メニューのスピーカーレイアウトは、次のように設定してください。(P.215 ページ)

1. センター:有り
2. サラウンド:有り
3. サラウンドバック:2 台
4. サブウーハー:1 台

■ ハイトスピーカーを使用するときのレイアウト例

基本となる 5.1 チャンネルのシステムに、フロントハイトスピーカーを使用した 7.1 チャンネルのサラウンドシステムです。



スピーカーの接続ごとに、以下を参照してください。

- 「スピーカーをスピーカー端子に接続する」(P.43 ページ)
- 「外部のパワーアンプを接続する」(P.44 ページ)



- メニューのスピーカーレイアウトは、次のように設定してください。(P.215 ページ)

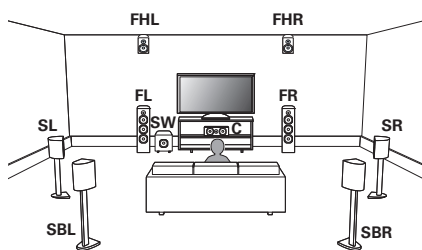
1. センター:有り
2. サラウンド:有り
3. ハイトスピーカー:2 台
4. レイアウト: フロントハイト *
5. サブウーハー:1 台

* フロントハイトスピーカーは、「スピーカーレイアウト」-「レイアウト」の設定で、ハイトスピーカー、天井スピーカーおよび Dolby Atmos Enabled スピーカーに変更することもできます。



9.1 チャンネルのスピーカーを接続する

■ サラウンドバックスピーカーとハイトスピーカーを1組使用するときのレイアウト例



スピーカーの接続ごとに、以下を参照してください。

- 「スピーカーをスピーカー端子に接続する」(P.43 ページ)
- 「外部のパワーアンプを接続する」(P.44 ページ)

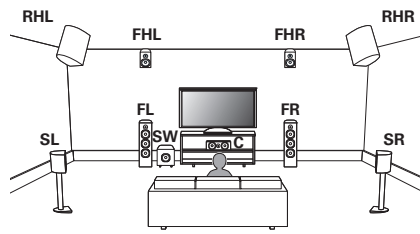


- メニューのスピーカーレイアウトは、次のように設定してください。(P.215 ページ)

1. センター:有り
2. サラウンド:有り
3. サラウンドバック:2 台
4. ハイトスピーカー:2 台
5. レイアウト: フロントハイト *
6. サブウーハー:1 台

* フロントハイトスピーカーは、「スピーカーレイアウト」-「レイアウト」の設定で、ハイトスピーカー、天井スピーカーおよび Dolby Atmos Enabled スピーカーに変更することもできます。

■ ハイトスピーカーを2組使用するときのレイアウト例



スピーカーの接続ごとに、以下を参照してください。

- 「スピーカーをスピーカー端子に接続する」(P.43 ページ)
- 「外部のパワーアンプを接続する」(P.44 ページ)



- メニューのスピーカーレイアウトは、次のように設定してください。(P.215 ページ)

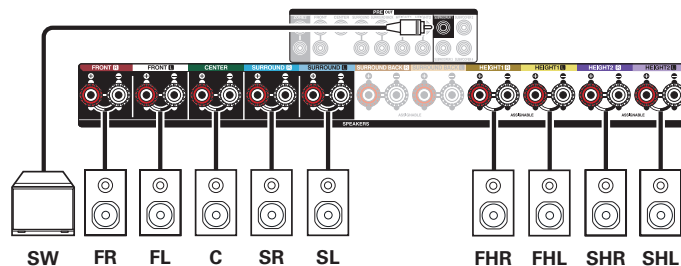
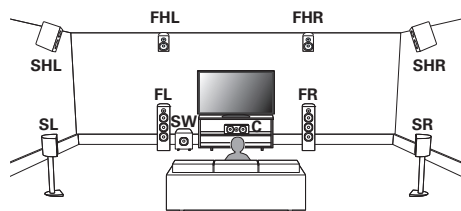
1. センター:有り
2. サラウンド:有り
3. ハイトスピーカー:4 台
4. 前方レイアウト: フロントハイト *
5. 後方レイアウト: リアハイト *
6. サブウーハー:1 台

* フロントハイトスピーカーおよびリアハイトスピーカーは、「スピーカーレイアウト」-「レイアウト」の設定で、ハイトスピーカー、天井スピーカーおよび Dolby Atmos Enabled スピーカーに変更することもできます。



■ AURO-3D 9.1 チャンネルシステムのレイアウト例

このスピーカー構成は、AURO-3D の再生に最適化されています。



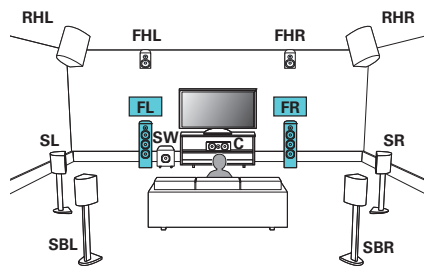
- メニューのスピーカーレイアウトは、次のように設定してください。
([P.215](#) ページ)

1. センター:有り
2. サラウンド:有り
3. ハイトスピーカー:4 台
4. 前方レイアウト:フロントハイト
5. 後方レイアウト:サラウンドハイト
6. サブウーハー:1 台



11.1 チャンルのスピーカーを接続する

■ サラウンドバックスピーカーとハイトスピーカーを2組使用するときのレイアウト例



スピーカーの接続ごとに、以下を参照してください。

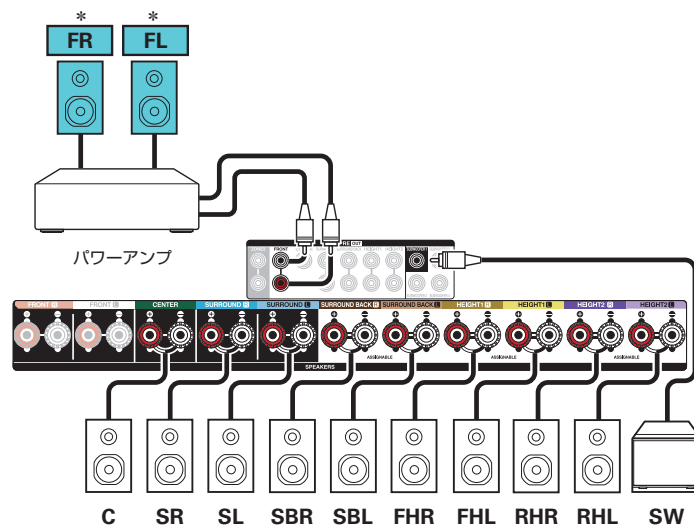
- 「スピーカーをスピーカー端子に接続する」(P.43 ページ)
- 「外部のパワーアンプを接続する」(P.44 ページ)



- メニューのスピーカーレイアウトは、次のように設定してください。(P.215 ページ)

1. センター: 有り
2. サラウンド: 有り
3. サラウンドバック: 2 台
4. ハイトスピーカー: 4 台
5. 前方レイアウト: フロントハイト *
6. 後方レイアウト: リアハイト *
7. サブウーハー: 1 台

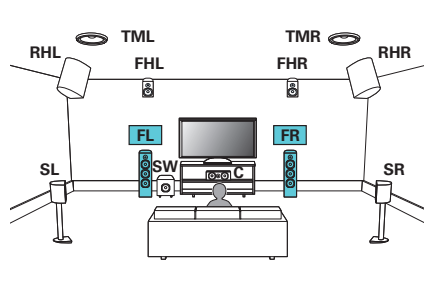
* フロントハイトスピーカーおよびリアハイトスピーカーは、「スピーカーレイアウト」-「レイアウト」の設定で、ハイトスピーカー、天井スピーカーおよび Dolby Atmos Enabled スピーカーに変更することもできます。



- * 11.1 チャンルのスピーカーを接続する場合は、フロントチャンネル、リアハイトチャンネルまたはサラウンドバックチャンネルに外部アンプを接続する必要があります。接続に合わせてチャンネルの「接続」を「リアアウト」に設定してください。(P.218 ページ)



■ ハイトスピーカーを3組使用するときのレイアウト例



スピーカーの接続ごとに、以下を参照してください。

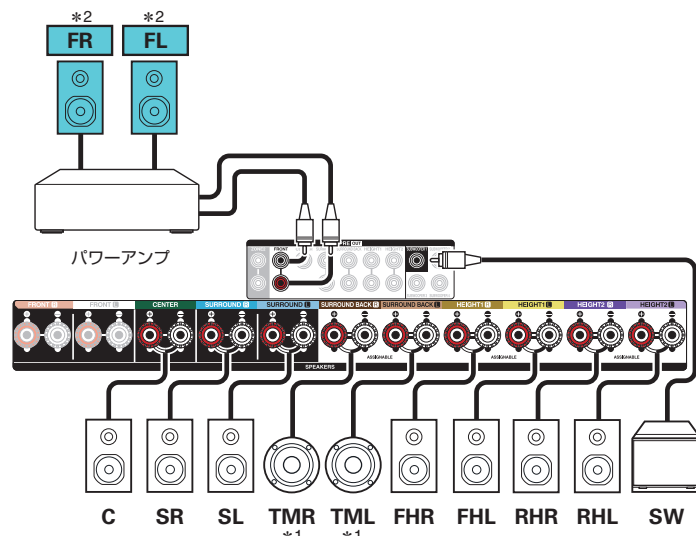
- 「スピーカーをスピーカー端子に接続する」(P.43 ページ)
- 「外部のパワーアンプを接続する」(P.44 ページ)



- メニューのスピーカーレイアウトは、次のように設定してください。(P.215 ページ)

1. センター: 有り
2. サラウンド: 有り
3. ハイトスピーカー: 6 台
4. 前方レイアウト: フロントハイト *
5. 中央レイアウト: トップミドル *
6. 後方レイアウト: リアハイト *
7. サブウーハー: 1 台

* フロントハイトスピーカー、トップミドルスピーカーおよびリアハイトスピーカーは、「スピーカーレイアウト」-「レイアウト」の設定で、ハイトスピーカー、天井スピーカーおよび Dolby Atmos Enabled スピーカーに変更することもできます。

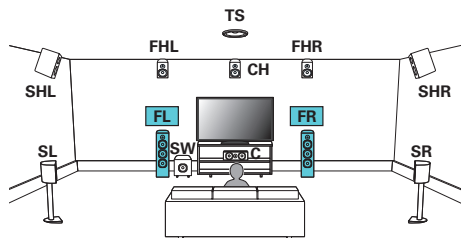


- *1 トップミドルスピーカーは、サラウンドバックスピーカーの代わりにサラウンドバック端子に接続できます。
- *2 11.1 チャンネルのスピーカーを接続する場合は、フロントチャンネル、リアハイトチャンネルまたはトップミドルチャンネルに外部アンプを接続する必要があります。接続に合わせてチャンネルの“接続”を“リアアウト”に設定してください。(P.218 ページ)



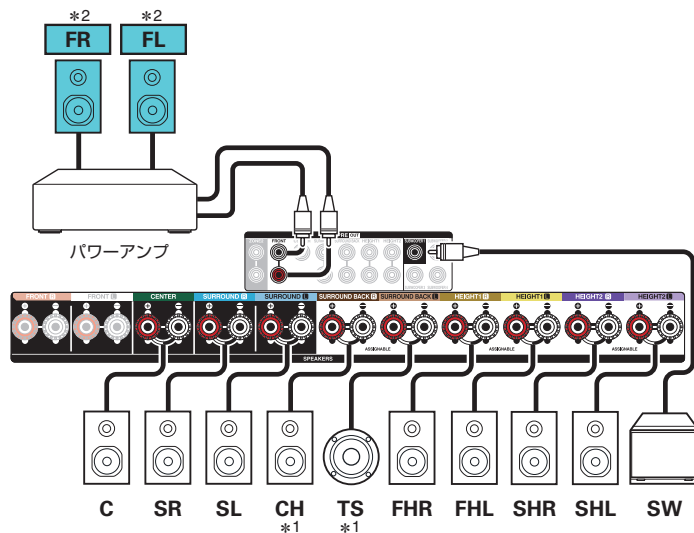
■ AURO-3D 11.1 チャンネルシステムのレイアウト例

このスピーカー構成は、AURO-3D の再生に最適化されています。



- メニューのスピーカーレイアウトは、次のように設定してください。
(☞215 ページ)

1. センター:有り
2. サラウンド:有り
3. ハイトスピーカー:6 台
4. 前方レイアウト:フロントハイト
5. 中央レイアウト:サラウンドハイト
6. 後方レイアウト:無し
7. TS/CH:TS/CH
8. サブウーハー:1 台

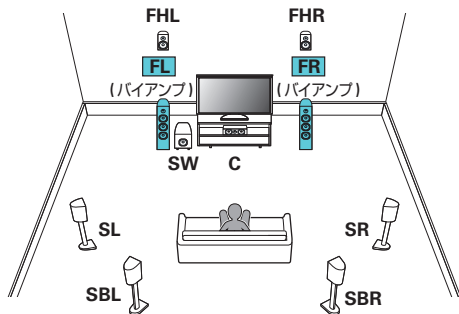


- *1 トップサラウンドスピーカーとセンターハイトスピーカーは、サラウンドバックスピーカーの代わりにサラウンドバック端子に接続できます。
- *2 11.1 チャンネルのスピーカーを接続する場合は、フロントチャンネル、サラウンドハイトチャンネルまたはトップサラウンド/センターハイトチャンネルに外部アンプを接続する必要があります。接続に合わせてチャンネルの“接続”を“プリアウト”に設定してください。
(☞218 ページ)



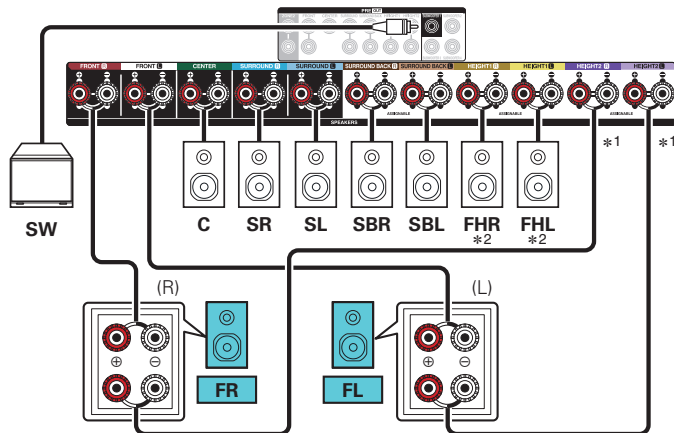
7.1 チャンネルのスピーカーを接続する: フロントスピーカーのバイアンプ接続

7.1 チャンネル再生をおこなうシステムです。フロントスピーカーはバイアンプ接続ができます。バイアンプ接続は、バイアンプ対応スピーカーのツイーター用端子とウーハー用端子に、別々のアンプを接続する方法です。これによりウーハーの逆起電力(出力されずに戻ってくる電力)がツイーターに流れ込んでツイーターの音質に影響を及ぼすことがないため、より高音質な再生をお楽しみいただけます。メインゾーン用に最大 9 チャンネルのスピーカーを接続することができます。8 チャンネル以上のスピーカーを接続した場合は、入力信号やサウンドモードに応じて出力するスピーカーが自動的に切り替わります。



ご注意

- バイアンプ接続をおこなう場合は、スピーカーのウーハー端子とツイーター端子を接続している短絡板または短絡用ワイヤーを必ず外してください。



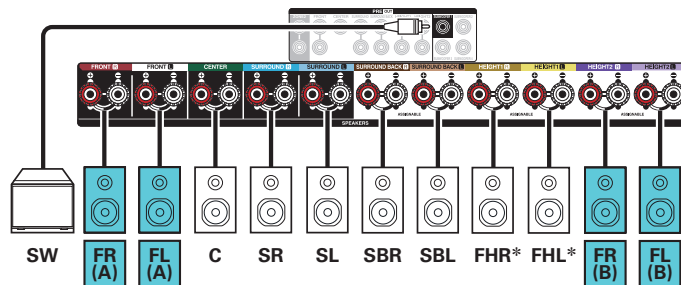
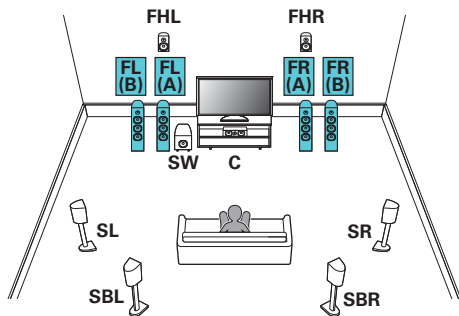
- *1 フロントスピーカーへのバイアンプ接続用のスピーカー端子は、メインゾーンのレイアウトによって異なります。詳しくは、「スピーカーレイアウト」-「Bi-Amp」をご覧ください。(p.228 ページ)
- *2 HEIGHT1 スピーカー端子には、ハイトスピーカー、天井スピーカーまたは Dolby Atmos Enabled スピーカーを接続できます。メニューの「スピーカーレイアウト」で接続する天井スピーカーを設定してください。(p.215 ページ)



7.1 チャンネルのスピーカーを接続する:2台目のフロントスピーカーの接続

フロントスピーカー A またはフロントスピーカー B をお好みに合わせて切り替えて再生できるシステムです。

メインゾーン用に最大 9 チャンネルのスピーカーを接続することができます。8 チャンネル以上のスピーカーを接続した場合は、入力信号やサウンドモードに応じて出力するスピーカーが自動的に切り替わります。



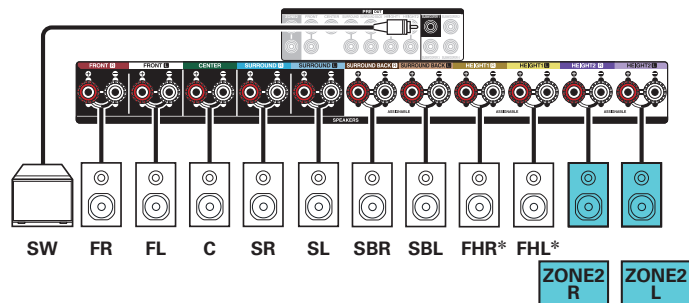
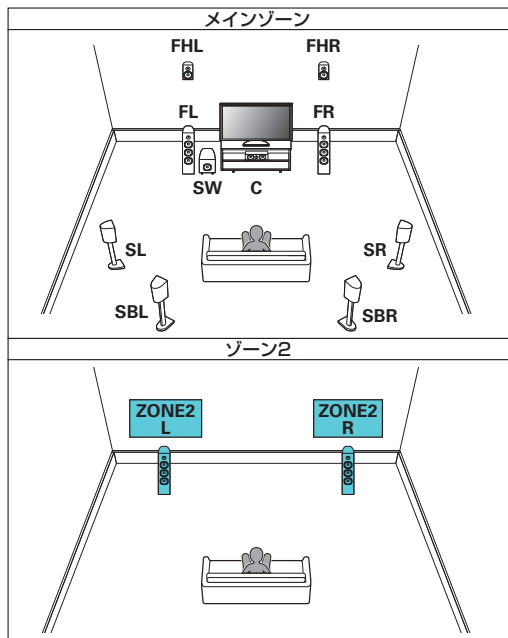
* HEIGHT1 スピーカー端子には、ハイトスピーカー、天井スピーカーまたは Dolby Atmos Enabled スピーカーを接続できます。メニューの“スピーカーレイアウト”で接続する天井スピーカーを設定してください。(P.215 ページ)



マルチゾーンのスピーカーを接続する

■ 7.1 チャンネル再生(メインゾーン) + 2チャンネル再生(ゾーン2)

メインゾーンでは 7.1 チャンネル再生をおこない、ゾーン2 では 2チャンネル再生をおこなうシステムです。メインゾーン用に最大 9 チャンネルのスピーカーを接続することができます。8 チャンネル以上のスピーカーを接続した場合は、入力信号やサウンドモードに応じて出力するスピーカーが自動的に切り替わります。

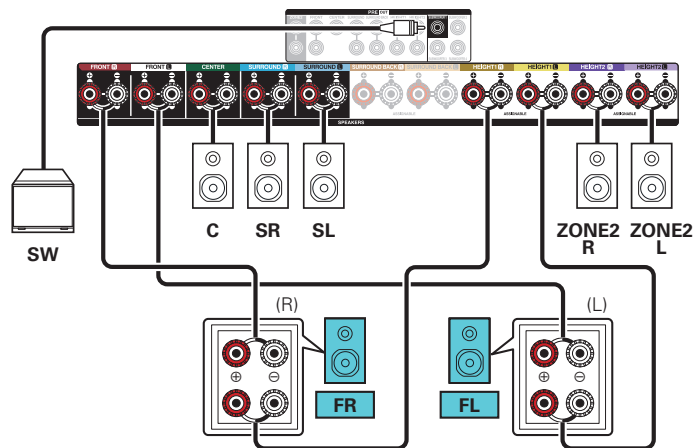
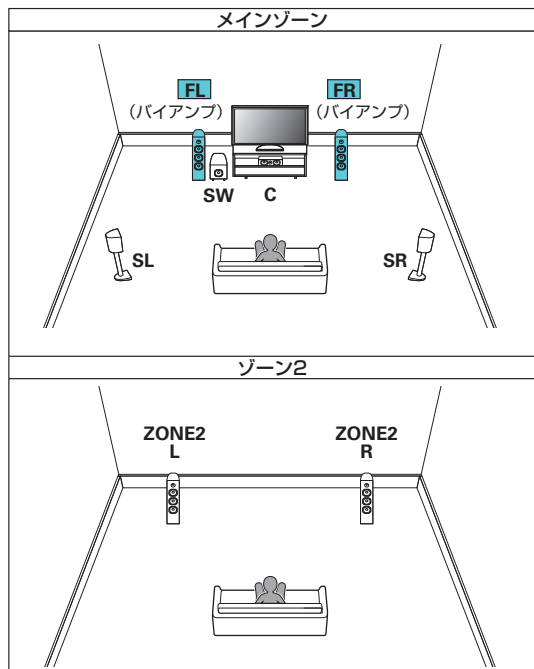


* HEIGHT1 スピーカー端子には、ハイトスピーカー、天井スピーカーまたは Dolby Atmos Enabled スピーカーを接続できます。メニューの“スピーカーレイアウト”で接続する天井スピーカーを設定してください。(P.215 ページ)



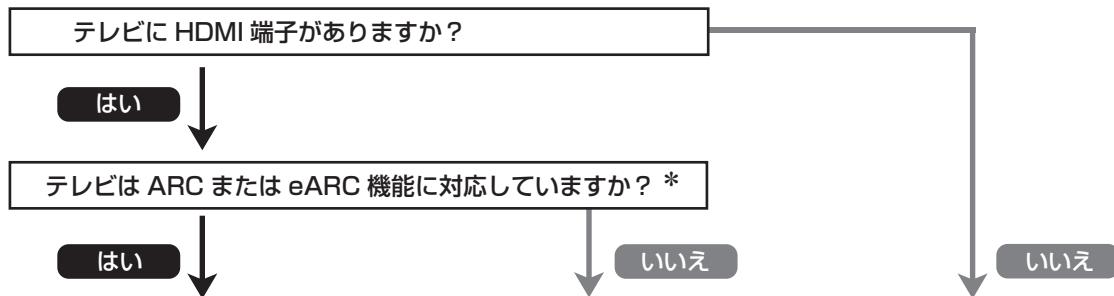
■ 5.1 チャンネル再生(フロントスピーカーのバイアンプ接続:メインゾーン)+ 2チャンネル再生(ゾーン2)

メインゾーンでは5.1チャンネル再生をおこない、ゾーン2では2チャンネル再生をおこなうシステムです。メインゾーンのフロントスピーカーはバイアンプ接続ができます。



テレビを接続する

本機にテレビを接続し、本機に入力された映像をテレビに出力します。また、テレビの音声を本機で楽しむこともできます。接続方法は、テレビに装備されている端子や機能により異なります。



「接続 1: HDMI 端子付きおよび ARC/eARC 機能対応のテレビ」(P.61 ページ)

「接続 2: HDMI 端子付き ARC/eARC 機能非対応のテレビ」(P.62 ページ)

本機には接続できません。

* ARC 機能および eARC 機能とは？

ARC (Audio Return Channel) 機能は、HDMI ケーブルを経由してテレビの音声信号を伝送し、本機からテレビの音声を再生する機能です。

この機能により、本機はテレビからの音声を処理することができます。

eARC (拡張オーディオリターンチャンネル) 機能対応のテレビは、本機が対応している高ビットレートのマルチチャンネル音声 (Dolby Atmos, Dolby TrueHD, DTS-HD および DTS:X) を伝送することができます。

eARC 機能対応のテレビによっては、eARC 機能の設定が必要な場合があります。詳しくは、テレビの取扱説明書をご覧ください。

ご注意

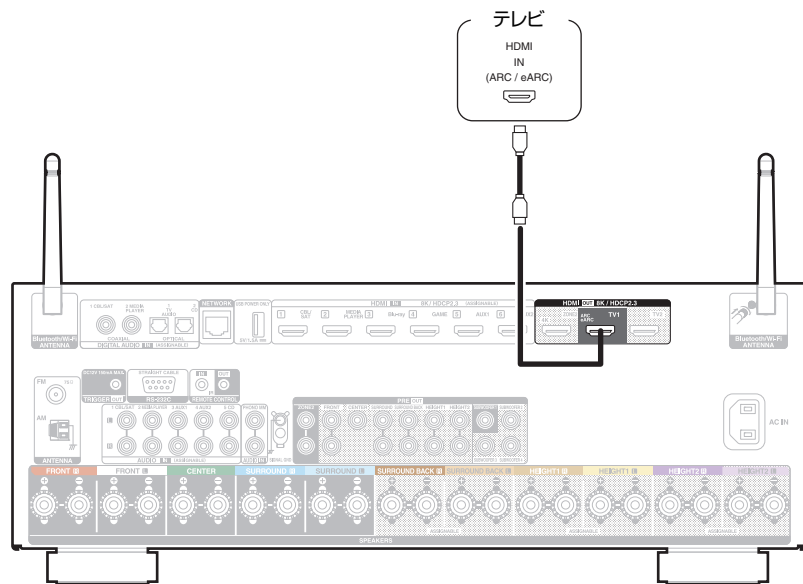
- 本機に接続するテレビは電源プラグが 2 ピンのものをご使用ください。ノイズの原因となる場合がありますので、電源プラグが 3 ピンのテレビを接続しないでください。



接続 1 : HDMI 端子付きおよび ARC/eARC 機能対応のテレビ

高品質の HDMI ケーブル * を準備し、テレビの “eARC” または “ARC” というラベルの付いた HDMI 端子に接続します。HDMI ケーブルのもう一方を本機の HDMI OUT テレビ 1 端子に接続してください。

eARC 対応のテレビを接続すると本機の eARC 機能は自動で有効になり、テレビからの音声を再生します。ARC 対応のテレビを接続する場合は、メニューの “ARC” を “オン” に設定してください。(P.192 ページ)



- * 4K 対応のテレビを使用する場合は、“High Speed” および、“with Ethernet” のラベルのある HDMI ケーブルをご使用ください。
- * 8K 対応のテレビを使用する場合は、“Ultra High Speed HDMI” のラベルのある HDMI ケーブルをご使用ください。



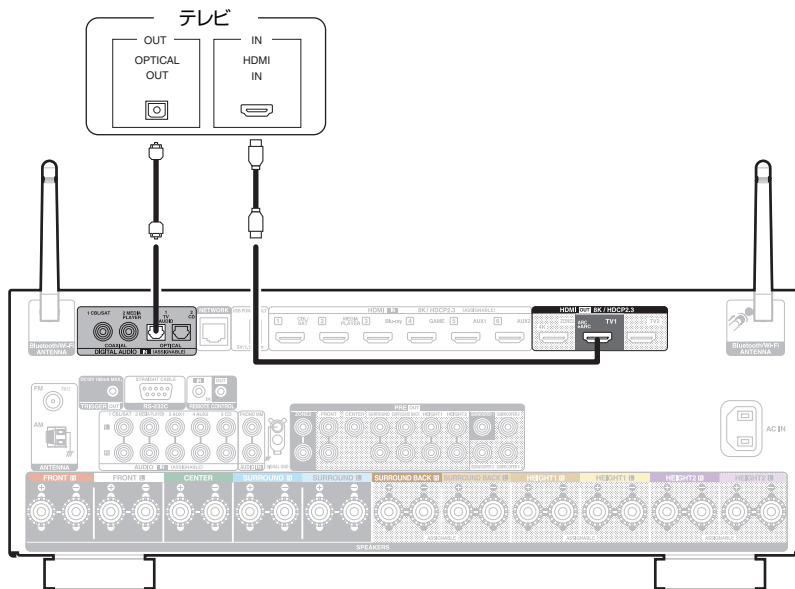
- ご使用の eARC 機能対応のテレビによっては、eARC 機能の設定が必要な場合があります。この場合は設定をオンにしてください。詳しくは、テレビの取扱説明書をご覧ください。
- 8K の映像をお楽しみいただく場合には、メニューの “4K/8K 信号フォーマット” を “8K 拡張” に設定してください。(P.198 ページ)



接続 2: HDMI 端子付き ARC/eARC 機能非対応のテレビ

HDMI ケーブルを使用して、本機にテレビを接続します。

本機を経由してテレビの音声を聴く場合は、光伝送ケーブルを使用して本機にテレビを接続します。



再生機器を接続する

本機には HDMI の映像入力端子と、3 種類 (HDMI、デジタルオーディオ、オーディオ) の音声入力端子があります。

本機の入力端子は、接続する機器に装備されている端子に合わせて選択してください。

本機と接続する機器に HDMI 端子がある場合には、HDMI ケーブルでの接続をおすすめします。

HDMI 接続では、HDMI ケーブル 1 本で音声信号と映像信号を伝送できます。

- 「セットトップボックスを接続する (衛星放送チューナー/ケーブルテレビチューナー)」(P.64 ページ)
- 「メディアプレーヤーを接続する」(P.65 ページ)
- 「ブルーレイディスクや DVD プレーヤーを接続する」(P.66 ページ)
- 「8K 対応のプレーヤーやゲーム機を接続する」(P.67 ページ)
- 「レコードプレーヤーを接続する」(P.68 ページ)



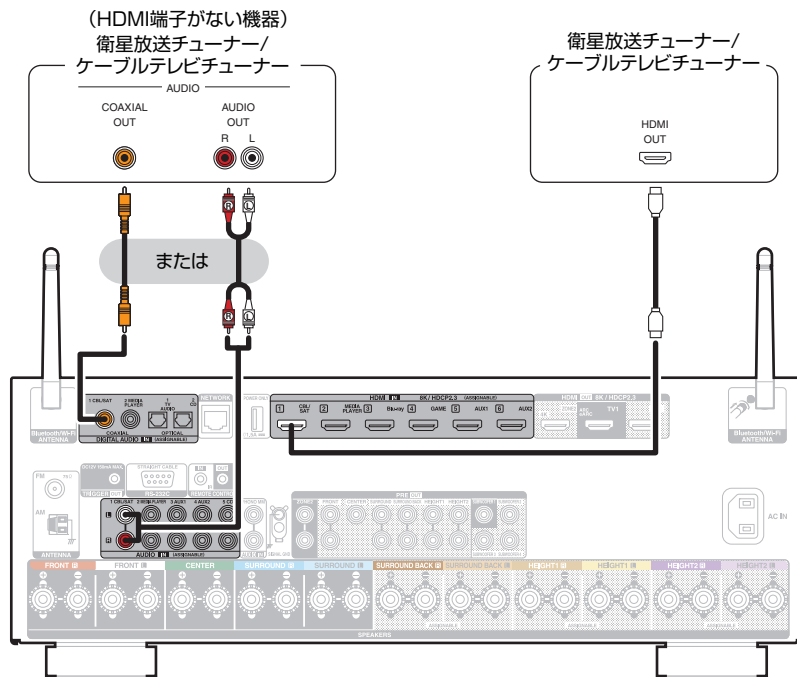
- 本機の音声/映像入力端子に印字された入力ソースのとおり機器を接続してください。
- 本機では、HDMI IN 端子、DIGITAL AUDIO IN 端子、AUDIO IN 端子に割り当てる入力ソースを変更できます。入力端子に割り当てる入力ソースの変更のしかたは、「入力端子の割り当て」をご覧ください。(P.200 ページ)
- 本機に入力した音声信号を HDMI 接続しているテレビで再生する場合は、メニューの「HDMI オーディオ出力」を「テレビ」に設定してください。(P.190 ページ)
- HDCP 2.2 または HDCP 2.3 で著作権保護されているコンテンツを楽しむ場合は、HDCP 2.2 または HDCP 2.3 に対応した再生機器とテレビをご使用ください。



セットトップボックスを接続する(衛星放送チューナー/ケーブルテレビチューナー)

衛星放送チューナーやケーブルテレビチューナーの接続例です。

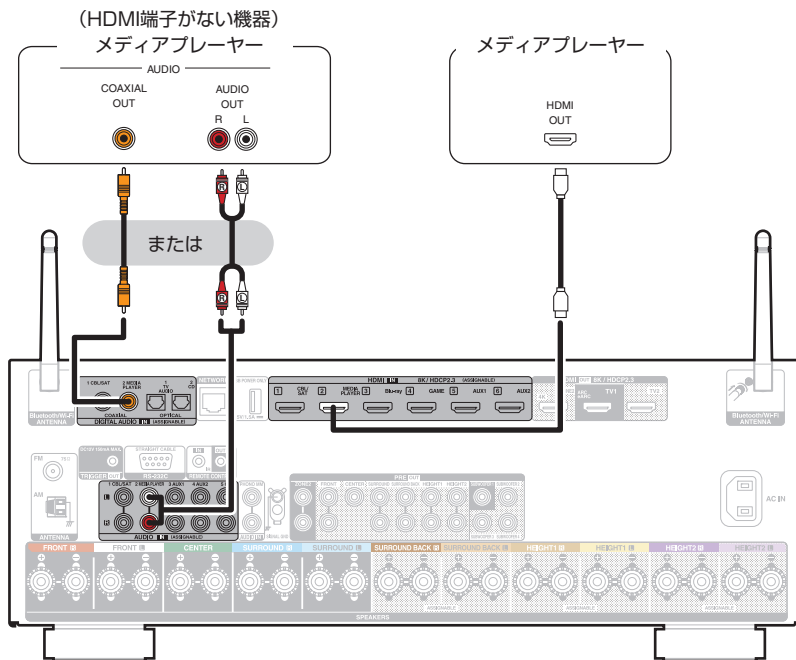
本機の入力端子は、接続する機器に装備されている端子に合わせて選択してください。



メディアプレーヤーを接続する

メディアプレーヤーの接続例です。

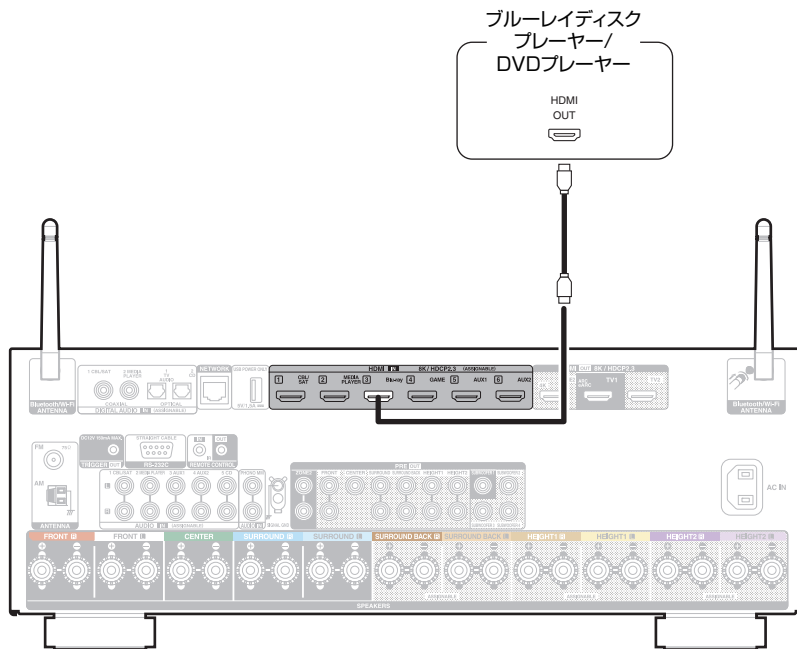
本機の入力端子は、接続する機器の端子に合わせて選択してください。



ブルーレイディスクやDVDプレーヤーを接続する

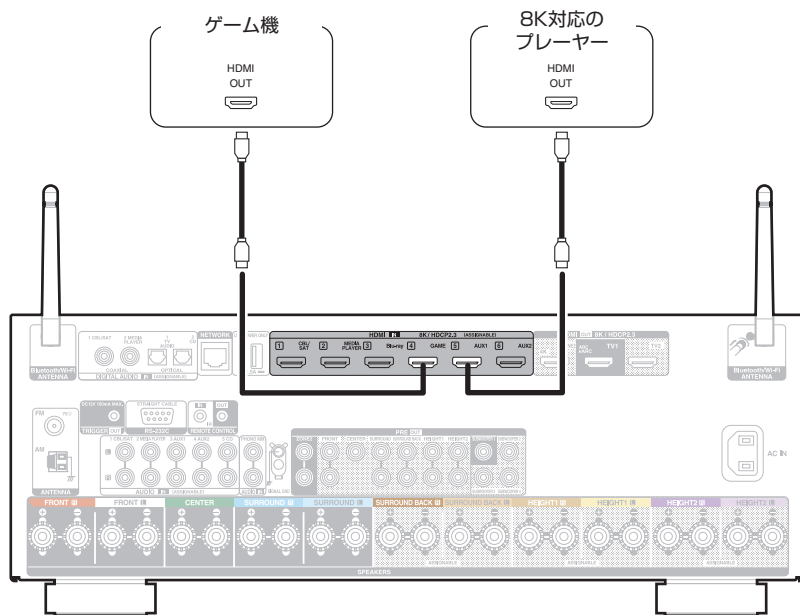
ブルーレイディスクまたはDVDプレーヤーの接続例です。

本機の入力端子は、接続する機器に装備されている端子に合わせて選択してください。



8K 対応のプレーヤーやゲーム機を接続する

本機は HDMI の 8K 信号に対応しています。



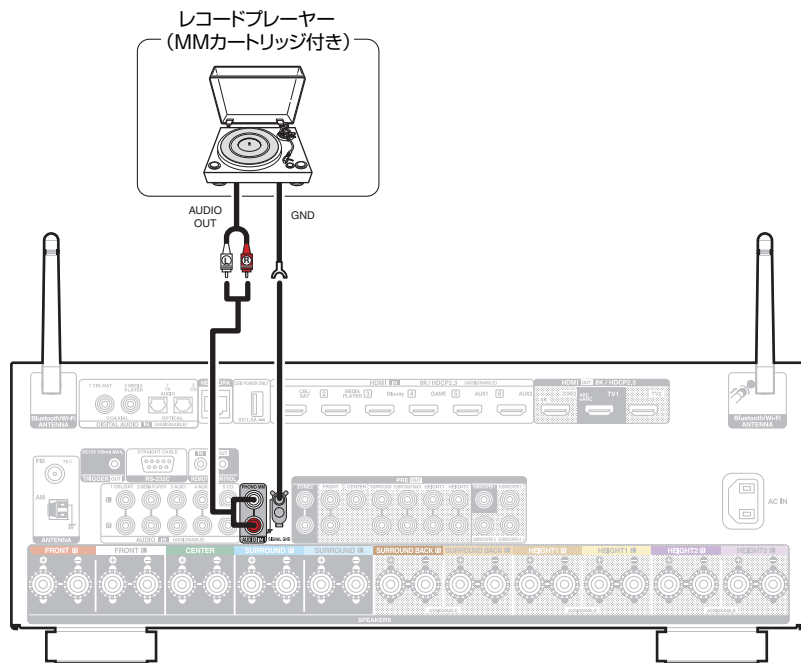
- 認証された“Ultra High Speed HDMI cable”を使用して、8K または 4K 120Hz の映像をお楽しみください。
- 8K の映像をお楽しみいただく場合には、メニューの“4K/8K 信号フォーマット”を“8K 拡張”に設定してください。(P.198 ページ)



レコードプレーヤーを接続する

本機は、MM カートリッジ付きのレコードプレーヤーに対応しています。MC カートリッジ付きのレコードプレーヤーを接続する場合は、別売りの MC ヘッドアンプまたは昇圧トランスを使用してください。

本機の入力ソースを“Phono”にし、レコードプレーヤーを接続せずに音量を上げると、“ブーン”という雑音がスピーカーから出力される場合があります。



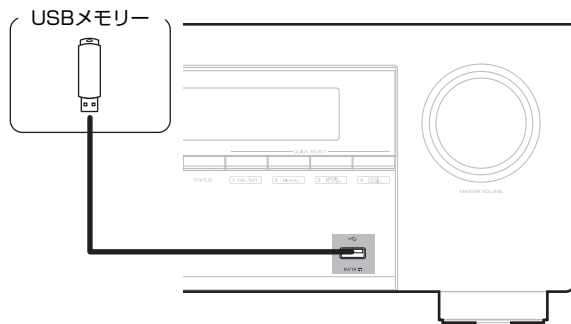
ご注意

- 本機のアース端子(SIGNAL GND)は、安全アースではありません。雑音が多いときに接続すると、雑音を低減できます。ただし、レコードプレーヤーによっては、アース線を接続すると逆に雑音が大きくなる場合があります。この場合は、アース線を接続する必要はありません。



USB 端子に USB メモリーを接続する

操作のしかたは、「USB メモリーを再生する」(P.80 ページ)をご覧ください。



- すべての USB メモリーに対して、動作および電源の供給を保証するものではありません。USB 接続タイプのポータブル HDD で、AC アダプターを接続して電源が供給できるタイプのものを使用する場合は、AC アダプターのご使用をおすすめします。
- リアパネルの USB 端子は、電源供給(5V/1.5A)のみに使用できます。音楽ファイルの再生はできません。(P.27 ページ)

ご注意

- USB メモリーは USB ハブ経由では動作しません。
- 本機の USB 端子とパソコンを USB ケーブルで接続して使用することはできません。
- USB メモリーを接続するときに、延長ケーブルを使用しないでください。他の機器に電波障害を引き起こす場合があります。



FMアンテナやAMループアンテナを接続する

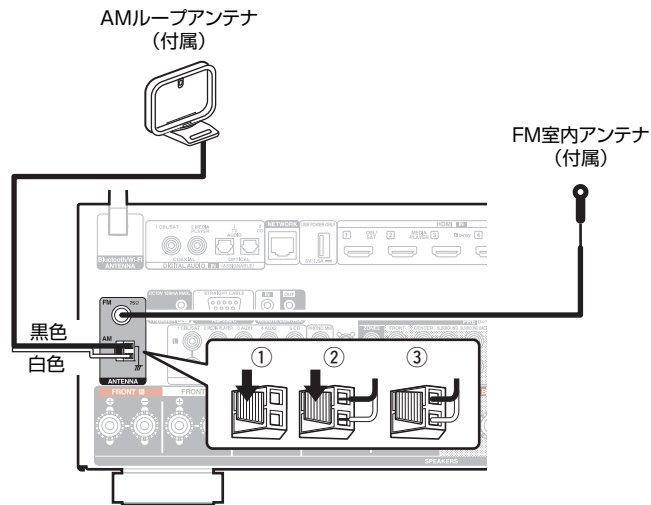
本機にアンテナを接続してから放送を受信して、ノイズが最も少なく受信できるアンテナの位置をさがします。アンテナをその場所に接着テープなどで固定してください。(「FM 放送または AM 放送を聴く」(P.92 ページ))



- 放送を良好に受信できない場合は、屋外アンテナの設置をおすすめします。詳しくは、お買い上げの販売店にお問い合わせください。

ご注意

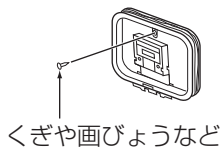
- AM ループアンテナ線がリアパネルやねじに接触していないか確認してください。



■ AM ループアンテナの使いかた

壁に掛けて使う

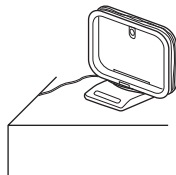
組み立てずにそのままお使いください。



置いて使う

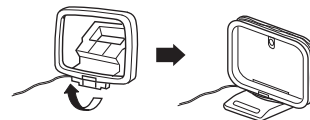
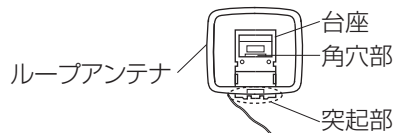
図のように組み立ててお使いください。

組み立てかたは、「AM ループアンテナの組み立てかた」をご覧ください。



■ AM ループアンテナの組み立てかた

- 1 台座部をループアンテナの後ろから、ループアンテナの下を通して、手前に曲げる。
- 2 突起部を台座の角穴部に、差し込む。



ホームネットワーク(LAN)に接続する

本機は有線 LAN または無線 LAN を使用して、ネットワークに接続できます。

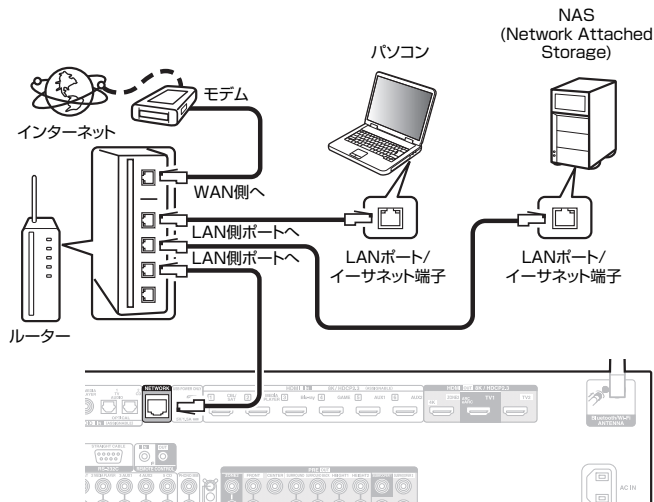
本機はホームネットワーク(LAN)に接続して、次のさまざまな再生や操作をおこなうことができます。

- インターネットラジオやメディアサーバーなどのネットワークオーディオの再生
- ストリーミング音楽サービスの再生
- AirPlay 再生
- ネットワークを経由した本機の操作
- HEOS 無線マルチルームサウンドシステムでの動作
- ファームウェアのアップデート

インターネットの接続については、ISP (Internet Service Provider) またはパソコン関連販売店にお問い合わせください。

有線 LAN

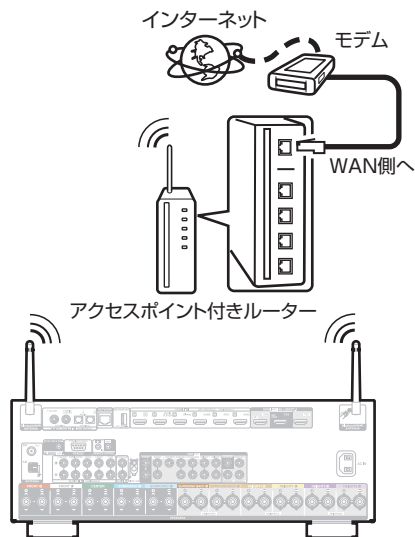
有線 LAN で接続する場合は、図のようにルーターと本機を LAN ケーブルで接続してください。



無線 LAN

無線 LAN でネットワークに接続する場合は、Bluetooth/無線 LAN 用外部アンテナをリアパネルに接続し、アンテナを立ててご使用ください。

無線 LAN ルーターとの接続方法は、“Wi-Fi 設定”をご覧ください。(P.239 ページ)



- 本機を使用するにあたって、次の機能が装備されているルーターをおすすめします。
 - DHCP サーバー内蔵
LAN 上の IP アドレスを自動的に割り振る機能です。
 - 100BASE-TX スイッチ内蔵
複数の機器を接続するために、100Mbps 以上の速度で、スイッチングハブを内蔵していることをおすすめします。
- STP タイプまたは ScTP タイプのシールド LAN ケーブルを使用してください。(CAT-5 以上を推奨)
- LAN ケーブルは、シールド付きのノーマルタイプをおすすめします。フラットタイプのケーブルやシールドされていないケーブルを使用すると、ノイズが他の機器に影響を及ぼす可能性があります。
- DHCP 機能のないネットワークに本機を接続して使用する場合は、メニューの“ネットワーク”で IP アドレスなどの設定をおこなってください。(P.238 ページ)

ご注意

- ISP 業者によって使用できるルーターの種類が異なります。詳しくは、ISP 業者またはパソコン関連販売店にお問い合わせください。
- 本機は PPPoE に対応していません。PPPoE で設定するタイプの回線契約を結んでいる場合は、PPPoE 対応のルーターが必要です。
- 電気通信端末機器認定品の市販ルーターなどに LAN 接続してください。
- NETWORK 端子は、直接パソコンの LAN ポート/イーサネット端子と接続しないでください。
- 各種オンラインサービスは、予告なく終了する場合があります。

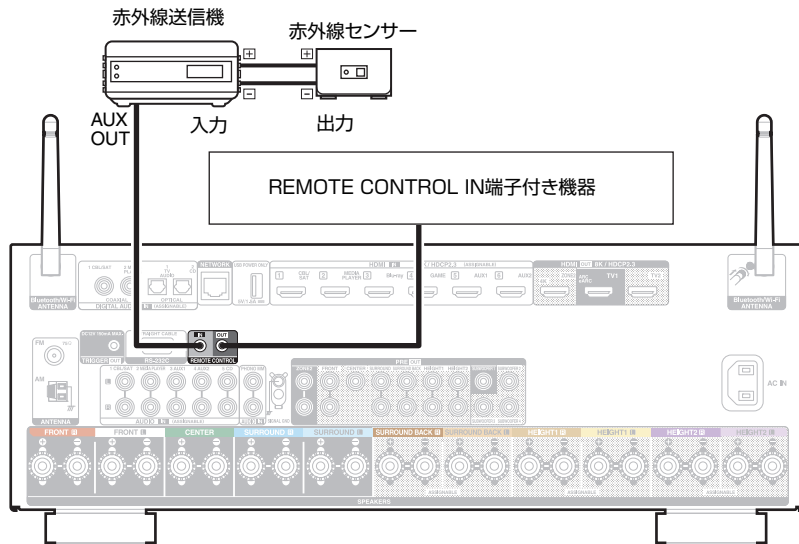


外部のコントロール機器を接続する

リモートコントロール端子

本機をリモコン信号が届かない場所(キャビネットへの設置など)に設置しても、別売りのリモコンレシーバーユニットを本機に接続すれば本機をリモコンで操作することができます。

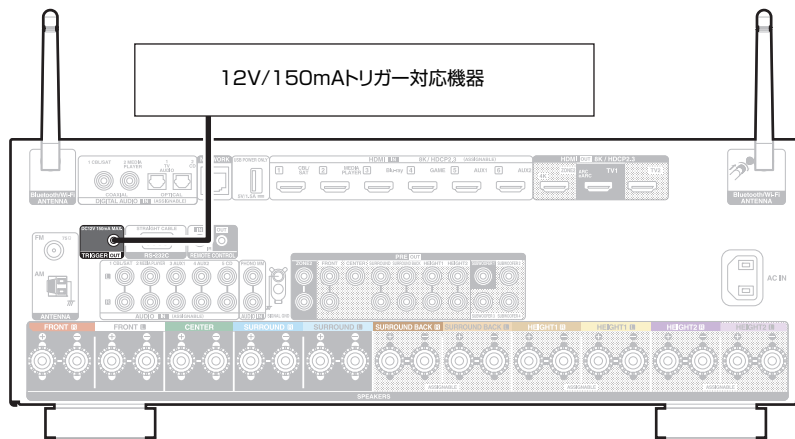
また、ゾーン2(別の部屋)からリモコンで操作することもできます。



トリガー出力端子

TRIGGER IN 端子を持っている機器を本機に接続すると、その機器の電源を本機の操作に連動させてオン/スタンバイすることができません。

本機の TRIGGER OUT 端子からは、最大 12V/150mA の電気信号を出力します。

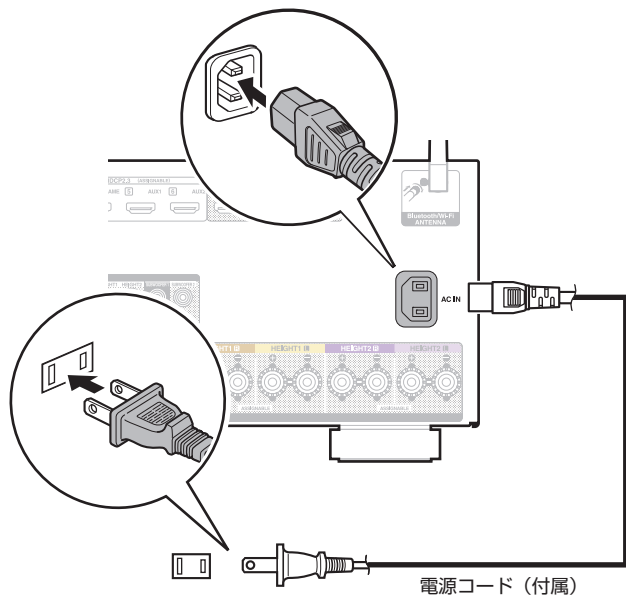


ご注意

- TRIGGER OUT 端子の接続には、モノラルのミニプラグケーブルを使用してください。ステレオミニプラグケーブルは使用しないでください。
- 接続する機器のトリガー許容入力レベルが 12V/150mA よりも大きいときや短絡状態のときは、TRIGGER OUT 端子を使用できません。このような場合は、本機の電源を切ってから TRIGGER OUT 端子の接続を外してください。

電源コードを接続する

すべての接続が完了したら、電源プラグをコンセントに差し込みます。



家庭用の電源コンセントへ
(AC100V、50/60Hz)

■ 目次

基本操作

電源を入れる	78
入力ソースを選ぶ	78
音量を調節する	79
一時的に音を消す(ミュート)	79
サウンドモードを選ぶ	130

機器を再生する

ブルーレイディスクや DVD プレーヤーを再生する	79
USB メモリーを再生する	80
Bluetooth 機器の音楽を聴く	84
Bluetooth ヘッドホンで本機の音声を聴く	88
FM 放送または AM 放送を聴く	92

ネットワークオーディオ/サービスを再生する

インターネットラジオを聴く	100
パソコンや NAS に保存されているファイルを再生する	102
HEOS アプリをダウンロードする	106
AirPlay 機能	115
Spotify Connect 機能	118

便利な機能

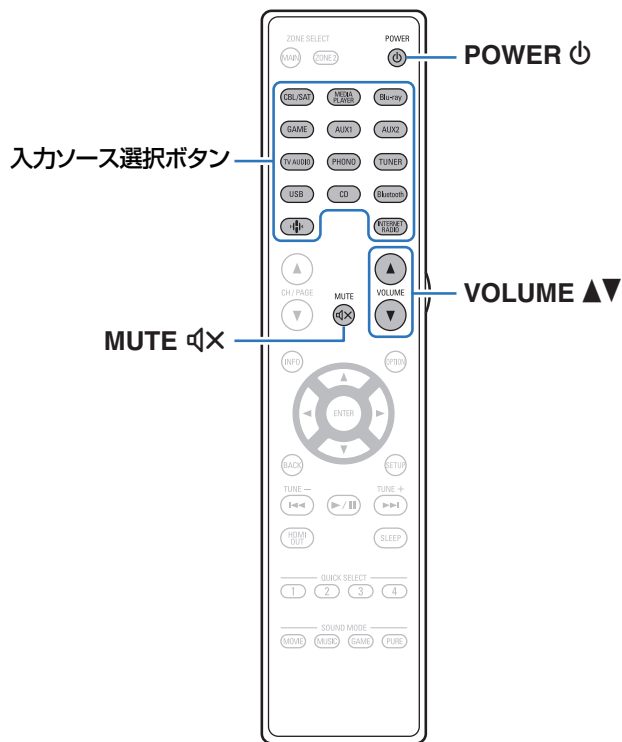
便利な機能	119
HDMI コントロール機能	145
スリープタイマー機能	146
クイックセレクトプラス機能	148
フロントキーロック機能	152
リモートロック機能	154

その他の機能

ウェブコントロール機能	155
ゾーン 2(別の部屋)での再生	158



基本操作



電源を入れる

1 POWER ㊤ を押して、電源を入れる。



- 電源がスタンバイ状態のときに入力ソース選択ボタンを押しても、電源がオンになります。
- 本体の ㊤ を押しても電源を入れることができます。

入力ソースを選ぶ

1 再生する入力ソース選択ボタンを押す。
入力ソースをダイレクトに選択できます。



- 本体の SOURCE SELECT を回しても、入力ソースを選択できます。



音量を調節する

1 VOLUME ▲▼ を押して、音量を調節する。








- 入力信号やチャンネルレベルの設定などにより、調節できる範囲が異なります。
- 本体の MASTER VOLUME を回しても、音量を調節できます。

一時的に音を消す(ミュート)

1 MUTE を押す。

- ディスプレイの MUTE 表示が点滅します。
- テレビ画面に  を表示します。



- メニューの“ミュートレベル”で音量の減衰量を設定できます。
( 183 ページ)
- ミュートを解除するときは、音量を調節するか、もう一度 MUTE  を押してください。
- “スクリーンセーバー”の設定が“オン”のときに、テレビ画面に  アイコンが表示された状態で5分経過すると、 アイコンはテレビ画面上をランダムに移動します。( 197 ページ)

ブルーレイディスクやDVDプレーヤーを再生する

ここでは、ブルーレイディスクやDVDプレーヤーの再生のしかたを例に説明します。

1 再生の準備をする。

- ① テレビ、サブウーハーおよびプレーヤーの電源を入れる。
- ② テレビの入力を本機の入力に設定する。

2 POWER を押して、本機の電源を入れる。

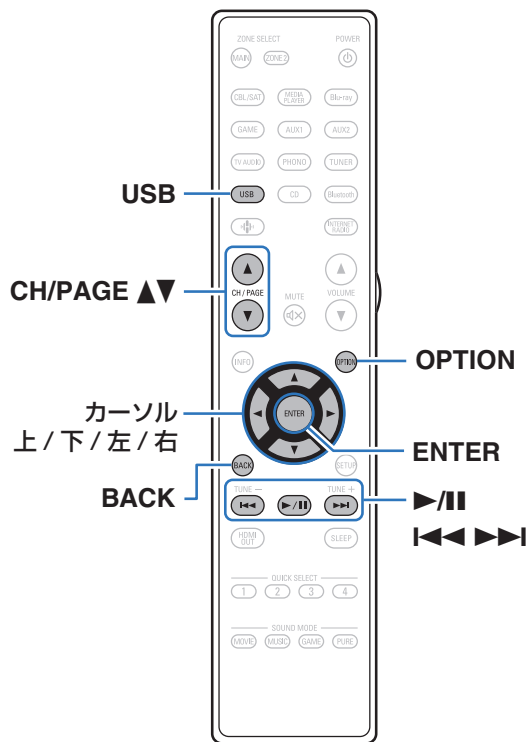
3 Blu-ray を押して、再生するプレーヤーの入力ソースに切り替える。

4 ブルーレイディスクやDVDプレーヤーを再生する。

■ サラウンド再生をする(130 ページ)



USB メモリーを再生する



- USB メモリーに保存されている音楽ファイルを再生できます。
- 本機は、マストレージクラスに対応している USB メモリーのみ再生できます。
- USB メモリーは、“FAT32” または “NTFS” フォーマットに対応しています。
- 本機で再生できる音声フォーマットの種類は、次のとおりです。詳しくは、「USB メモリーの再生について」(P.302 ページ)をご覧ください。

- WMA
- MP3
- WAV
- MPEG-4 AAC
- FLAC
- Apple Lossless
- DSD



USB メモリーに保存されているファイルを再生する

- 1 “FAT32” または “NTFS” でフォーマットされた USB メモリーを USB 端子に挿入する。
- 2 USB を押して、入力ソースを“USB”に切り替える。
- 3 本機の名称が表示されたら、本機を選ぶ。

4 USB メモリー内の音楽データから、再生したい音楽を選ぶ。

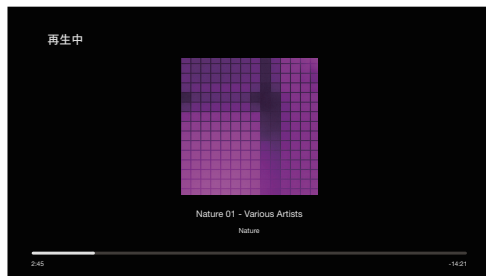


- 音楽をどのようにリストに追加するかを選択します。

すぐに再生:	現在再生している曲の直後に選択した音楽を追加し、その曲をすぐに再生します。
今すぐ再生してキューを入れ替え:	キューを削除し、選択した曲をすぐ再生します。
次に再生:	現在再生しているトラックの直後に選択した曲を追加し、再生中の曲が終わったら選択した曲を再生します。
キューの最後に追加:	選択した曲をキューの最後に追加します。



- 5 カーソル 上/下を押して“すぐに再生”または“今すぐ再生してキューを入れ替え”を選び、ENTER を押す。再生をはじめます。



操作ボタン	機能
▶/	再生/一時停止
◀◀▶▶	前の曲にスキップ/次の曲にスキップ
CH/PAGE ▲▼	リストを表示中に、前のページへ移動/次のページへ移動



- MP3 形式の音楽ファイルでアルバムアートのデータを持っている場合は、音楽ファイルを再生中にアルバムアートを表示させることができます。

ご注意

- USB メモリーを本機と接続して使用しているときに、万一 USB メモリーのデータが消失または損傷した場合、当社は一切責任を負いません。
- 本機に USB メモリーを接続すると、本機は USB メモリーのすべてのファイルを読み込みます。USB メモリーにフォルダ数やファイル数が多い場合、読み込みに時間がかかることがあります。



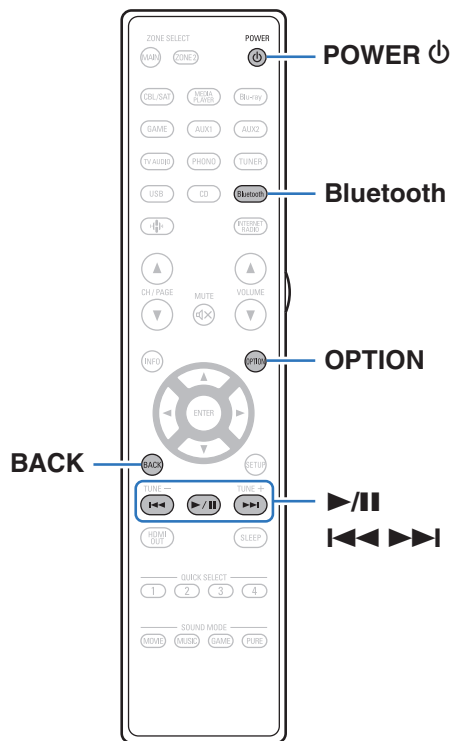
■ オプションメニューでできる操作

- 「せりふやボーカルの聴こえやすさを調節する(ダイアログエンハンサー)」(☞121 ページ)
- 「入力ソースに合わせて各チャンネルの音量を調節する(チャンネルレベル調節)」(☞122 ページ)
- 「トーンを調節する(トーンコントロール)」(☞123 ページ)
- 「音声の出カタイミングを調節する(オーディオディレイ)」(☞124 ページ)
- 「入力ソースに応じてトランスデューサーの強度を変更する(トランスデューサー)」(☞125 ページ)
- 「音声の再生中にお好みの映像をテレビに映す(ビデオセレクト)」(☞126 ページ)
- 「すべてのゾーンで同じ音楽を再生する(All Zone Stereo)」(☞127 ページ)
- 「リスニング環境に合わせてスピーカーの設定を変更する(スピーカープリセット)」(☞128 ページ)
- “Dirac Live フィルター”を変更する

<https://manuals.denon.com/DiracLive/ALL/JA/DRDZSYktvnhzad.php>



Bluetooth 機器の音楽を聴く



スマートフォンやデジタル音楽プレーヤーなどの Bluetooth 機器と本機をペアリングして接続すると、Bluetooth 機器の音楽ファイルをワイヤレスで楽しむことができます。約 30m の範囲内で通信できます。

ご注意

- Bluetooth 機器の音楽を再生するには、Bluetooth 機器が A2DP プロファイルをサポートしている必要があります。



Bluetooth 機器の音楽を聴く

Bluetooth 機器の音楽を本機で楽しむときは、あらかじめご使用になる Bluetooth 機器と本機をペアリングしてください。一度ペアリングすれば、再度ペアリングする必要はありません。

1 再生の準備をする。

- ① 付属の Bluetooth/無線 LAN 用外部アンテナを、リアパネルの Bluetooth/Wi-Fi ANTENNA 端子に接続する。
([P.26](#) ページ)
- ② POWER  を押して、本機の電源を入れる。

2 Bluetooth を押す。

はじめてご使用になる場合は、自動的にペアリングモードになり、本機のディスプレイに“Pairing...”を表示します。



3 Bluetooth 機器の Bluetooth 機能を有効にする。

4 Bluetooth 機器の画面に表示された機器の一覧に本機の名称が表示されたら、本機を選ぶ。

本機のディスプレイに“Pairing”が表示されている間に、Bluetooth 機器の接続操作をおこなってください。また、Bluetooth 機器の接続操作は、本機に近い距離(1m程度)でおこなってください。

5 Bluetooth 機器のアプリを使用して音楽を再生する。

- 本機のリモコンでも Bluetooth 機器を操作できます。
- 次回以降、リモコンの Bluetooth を押した場合、本機は自動的に最後に接続していた Bluetooth 機器に接続します。

操作ボタン	機能
	再生/一時停止
	前の曲にスキップ/次の曲にスキップ



- 再生中に本体の STATUS を押すと、タイトル名、アーティスト名、アルバム名などを切り替えて表示します。



2 台目以降の Bluetooth 機器とペアリングする

Bluetooth 機器と本機をペアリングします。

- Bluetooth 機器の Bluetooth 機能を有効にする。
- リモコンの Bluetooth を 3 秒以上押す。
本機はペアリングモードになります。
- Bluetooth 機器の画面に表示された機器の一覧に本機の名称が表示されたら、本機を選ぶ。



- 本機は最大 8 台の Bluetooth 機器とペアリングできます。9 台目の Bluetooth 機器をペアリングすると、一番古い機器に置き換えて登録します。
- Bluetooth の再生画面が表示されているときに OPTION を押し、表示されたオプションメニューから“ペアリングモード”を選択しても、ペアリングモードに入ることができます。

ご注意

- 本機のリモコンで操作するには、Bluetooth 機器が AVRCP プロファイルに対応している必要があります。
- すべての Bluetooth 機器に対するリモコン操作を保証するものではありません。
- Bluetooth 機器によっては、本機は Bluetooth 機器で設定している音量と連動して音声を出力します。

■ オプションメニューでできる操作

- 「2 台目以降の Bluetooth 機器とペアリングする」(☞86 ページ)
- 「せりふやボーカルの聴こえやすさを調節する(ダイアログエンハンサー)」(☞121 ページ)
- 「入カソースに合わせて各チャンネルの音量を調節する(チャンネルレベル調節)」(☞122 ページ)
- 「トーンを調節する(トーンコントロール)」(☞123 ページ)
- 「音声の出力タイミングを調節する(オーディオディレイ)」(☞124 ページ)
- 「入カソースに応じてトランスデューサーの強度を変更する(トランスデューサー)」(☞125 ページ)
- 「音声の再生中にお好みの映像をテレビに映す(ビデオセレクト)」(☞126 ページ)
- 「すべてのゾーンで同じ音楽を再生する(All Zone Stereo)」(☞127 ページ)
- 「リスニング環境に合わせてスピーカーの設定を変更する(スピーカープリセット)」(☞128 ページ)
- “Dirac Live フィルター”を変更する
<https://manuals.denon.com/DiracLive/ALL/JA/DRDZSYktvnhzad.php>



Bluetooth 機器から本機に再接続する

ペアリングが済んでいれば、本体の操作をせずに接続することができます。

再生する Bluetooth 機器を切り替える場合にもこの操作をおこなってください。

- 1 現在接続している Bluetooth 機器がある場合、その機器の Bluetooth 設定をオフにして接続を切断する。
- 2 接続したい Bluetooth 機器の Bluetooth 設定をオンにする。
- 3 お使いの Bluetooth 機器の Bluetooth 機器リストから本機を選択する。
- 4 Bluetooth 機器のアプリを使用して音楽を再生する。



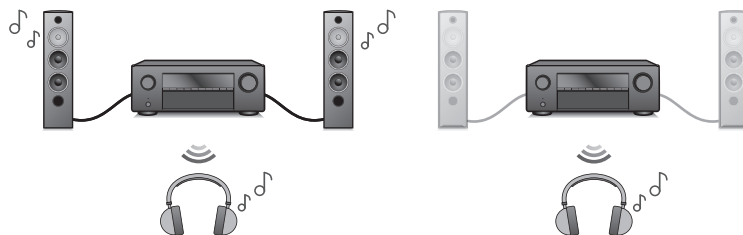
- 本機の電源がオンのときに Bluetooth 機器の接続操作をおこなうと、自動的に“Bluetooth”の再生画面に切り替わります。
- 本機の“ネットワークコントロール”設定を“常時オン”にし、本機がスタンバイ状態のときに Bluetooth 機器から接続操作をおこなうと、自動的に本機の電源はオンになります。(P.242 ページ)



Bluetooth ヘッドホンで本機の音声を聴く

メインゾーンで再生している音声を Bluetooth ヘッドホンで聴くことができます。

本機の Bluetooth 送信機能は、ご使用の環境に合わせてスピーカーと Bluetooth ヘッドホンの音声を同時に出力したり、Bluetooth ヘッドホンのみの音声を出力したりすることができます。



(出力モード: Bluetooth + スピーカー) (出力モード: Bluetoothのみ)

Bluetooth ヘッドホンで本機の音声を聴く

- 1 メニューの“一般” - “Bluetooth 送信”の設定で、“送信”を“オン”に設定する。(P.251 ページ)
- 2 “出力モード”を選び、音声の出力方法を設定する。

Bluetooth + スピーカー	Bluetooth ヘッドホンを使用して音声もスピーカーから出力されますので、ご家族と一緒に映画などを楽しむことができます。
Bluetooth のみ:	音声は Bluetooth ヘッドホンのみに出力されます。夜間など一人で音楽や映画を視聴したいときにご使用ください。
- 3 本機に接続したい Bluetooth ヘッドホンにペアリングモードにする。
- 4 “デバイスリスト”を選び、デバイスリストから接続したい Bluetooth ヘッドホンの機器名を選ぶ。
- 5 接続が完了したら、Bluetooth ヘッドホン側で音量を調節する。



- “出力モード”はオプションメニューの“Bluetooth 送信”からでも設定できます。
- Bluetooth ヘッドホンの接続と同じ操作で A2DP プロファイル対応の Bluetooth スピーカーも接続できます。

ご注意

- Bluetooth ヘッドホンの音量は、本機の MASTER VOLUME やリモコンの VOLUME では調節できません。Bluetooth ヘッドホン側で音量を調節してください。
- 音量調節機能がない Bluetooth ヘッドホンを使用する場合または十分な音量が得られない場合は、オプションメニューの“Bluetooth 送信” - “レベル”で音量を調節してください。(P.90 ページ)
- Bluetooth ヘッドホンを使用する場合、サウンドモードはステレオモードで固定されます。本機のオーディオ設定やサウンドモードは、Bluetooth ヘッドホンの音声出力には反映されません。Bluetooth ヘッドホンを使用して“出力モード”を“Bluetooth のみ”に設定している場合は、オーディオ設定、サウンドモードおよびオールゾーンステレオモードは使用できません。
- Bluetooth ヘッドホンに送信する音声は遅延する場合があります。
- AirPlay および Roon Ready の音声は送信できません。
- いずれかのゾーンで Bluetooth 入力ソースを選択している場合は、Bluetooth ヘッドホンに接続できません。また、いずれかのゾーンで Bluetooth 入力ソースを選択すると、本機と Bluetooth ヘッドホンの接続が切断されます。
- 本機が HEOS アプリでグループ化されている場合、Bluetooth ヘッドホンは接続できません。



Bluetooth ヘッドホンの音量を調節する

音量調節機能がない Bluetooth ヘッドホンを使用する場合または十分な音量が得られない場合は、オプションメニューの“Bluetooth 送信” - “レベル”で音量を調節してください。

1 OPTION を押す。

オプションメニュー画面を表示します。

- 入力ソースが“HEOS Music”のときは、オンラインミュージックのオプションメニュー画面を表示します。“AVR オプション”を選び、ENTER を押してください。

2 カーソル 上/下を押して“Bluetooth 送信”を選び、ENTER を押す。

“Bluetooth 送信”画面を表示します。

3 カーソル上/下を押して、“レベル”を選ぶ。

4 カーソル左/右を押して音量を調節し、ENTER を押す。

-50 dB~+10 dB(お買い上げ時の設定:0 dB)



- この設定は、接続する Bluetooth ヘッドホンの機種を問わず共通で反映されます。

Bluetooth ヘッドホンに再接続する

一度ペアリングが済んでいれば、次のいずれかの操作をすると、最後に使用した Bluetooth ヘッドホンに再接続することができます。

- Bluetooth ヘッドホンの再接続機能を使用して、本機に再接続する。
- オプションメニューの“Bluetooth 送信”の設定で“再接続”を選択して、Bluetooth ヘッドホンに再接続する。
- “出力モード”の設定が“Bluetooth + スピーカー”のときに本機の電源をオンにする。最後に使用した Bluetooth ヘッドホンに再接続します。
- メニューの“Bluetooth 送信” - “デバイスリスト”から接続したい機器名を選択する。(P.251 ページ)



Bluetooth ヘッドホンを切断する

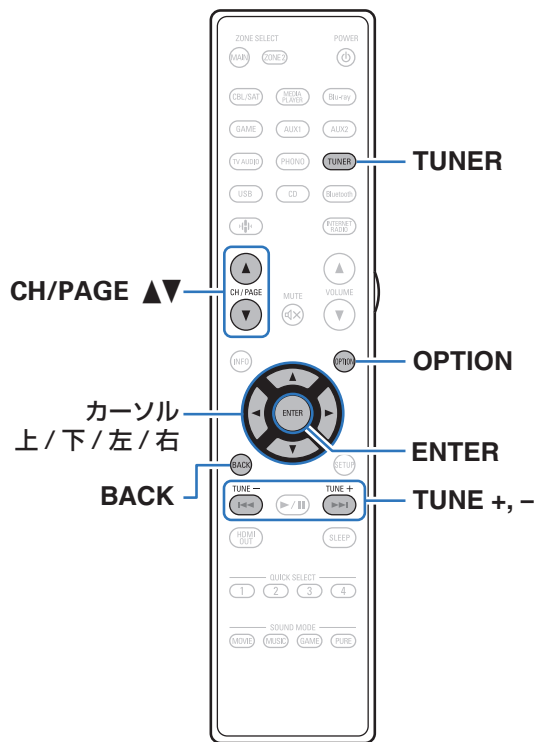
次のいずれかの操作をすると、Bluetooth ヘッドホンとの接続を切断することができます。

- Bluetooth ヘッドホンの電源をオフにする。
- オプションメニューの“Bluetooth 送信”の設定で“切断”を選択し、Bluetooth ヘッドホンを切断する。
- メニューの“一般” - “Bluetooth 送信”の設定で“送信”をオフに設定する。(P.251 ページ)



FM放送またはAM放送を聴く

本機に内蔵のチューナーを使用して、FM 放送および AM 放送を聴くことができます。
事前に必ず FM アンテナおよび AM ループアンテナを本機に接続してください。



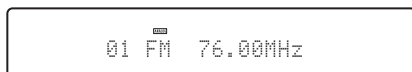
FM 放送または AM 放送を聴く

- 1 アンテナを接続する。(「FM アンテナや AM ループアンテナを接続する」(P.70 ページ))
- 2 TUNER を押して、入力ソースを“Tuner”に切り替える。

【テレビ画面】



【本体のディスプレイ】



- 3 OPTION を押す。
オプションメニュー画面を表示します。
- 4 カーソル 上/下を押して“FM/AM”を選び、ENTER を押す。
受信バンド入力画面を表示します。

- 5 カーソル 左/右を押して“FM”または“AM”を選び、ENTER を押す。

FM: FM 放送を聴くときに選択します。

AM: AM 放送を聴くときに選択します。

- 6 TUNE + または TUNE - を押して、聴きたい放送局を選ぶ。
受信可能な放送局が見つかるまでスキャンします。放送局が見つかったと自動的にスキャンを停止して受信します。



- FM 放送局を受信するモードには、本機が自動的に受信できる放送局を探して受信する“オート”モードと、ボタン操作で周波数を切り替えて受信する“マニュアル”モードがあります。お買い上げ時の設定は“オート”です。そのほかにも受信周波数の数字を入力して受信する“ダイレクトチューニング”モードがあります。
“オート”モードでは、受信状態が良くない放送局は受信できません。その場合は“マニュアル”モードまたは“ダイレクトチューニング”モードで受信してください。

操作ボタン	機能
TUNE +, -	放送局の選択(アップ/ダウン)
CH/PAGE ▲▼	プリセット登録した放送局の選択
カーソル 上/下	放送局の選択(アップ/ダウン)
カーソル 左/右	プリセット登録した放送局の選択



■ オプションメニューでできる操作

- ・「周波数を入力して受信する(ダイレクトチューニング)」(☞94 ページ)
- ・「受信モードを変更する(チューニングモード)」(☞95 ページ)
- ・「自動で放送局を選局しプリセットする(オートプリセットメモリー)」(☞95 ページ)
- ・「聴いている放送局をプリセットする(プリセットメモリー)」(☞96 ページ)
- ・「プリセットした放送局に名前をつける(プリセットネーム)」(☞97 ページ)
- ・「プリセットした放送局をスキップする(プリセットスキップ)」(☞98 ページ)
- ・「せりふやボーカルの聴こえやすさを調節する(ダイアログエンハンサー)」(☞121 ページ)
- ・「入力ソースに合わせて各チャンネルの音量を調節する(チャンネルレベル調節)」(☞122 ページ)
- ・「トーンを調節する(トーンコントロール)」(☞123 ページ)
- ・「音声の出力タイミングを調節する(オーディオディレイ)」(☞124 ページ)
- ・「入力ソースに応じてトランスデューサーの強度を変更する(トランスデューサー)」(☞125 ページ)
- ・「音声の再生中にお好みの映像をテレビに映す(ビデオセレクト)」(☞126 ページ)
- ・「すべてのゾーンで同じ音楽を再生する(All Zone Stereo)」(☞127 ページ)
- ・「リスニング環境に合わせてスピーカーの設定を変更する(スピーカープリセット)」(☞128 ページ)
- ・“Dirac Live フィルター”を変更する
<https://manuals.denon.com/DiracLive/ALL/JA/DRDZSYktvnhzad.php>

周波数を入力して受信する(ダイレクトチューニング)

ダイレクトに周波数を入力して、放送局を受信します。

- 1 入力ソースが“Tuner”のときに、OPTION を押す。
オプションメニュー画面を表示します。
- 2 カーソル 上/下を押して“ダイレクトチューニング”を選び、ENTER を押す。
周波数入力画面を表示します。
- 3 カーソル 上/下を押してを数字を選び、カーソル右を押す。
 - ・カーソル 左を押すと、1 つ前に入力した周波数を取り消すことができます。
- 4 手順3 をくり返し、聴きたい放送局の周波数を入力する。
- 5 入力が完了したら、ENTER を押す。
放送局を受信します。



受信モードを変更する(チューニングモード)

受信モードを変更します。“オート”モードで自動的に放送局を受信できないときは、“マニュアル”モードに変更し、手動で放送局を受信してください。

- 1 入力ソースが“Tuner”のときに、OPTION を押す。
オプションメニュー画面を表示します。
- 2 カーソル 上/下を押して“チューニングモード”を選び、ENTER を押す。
- 3 カーソル 左/右を押してチューニングモードを選び、ENTER を押す。

オート:	自動的に受信できる放送局を探して受信するモードです。
マニュアル:	ボタン操作で 1 ステップずつ周波数を切り替えて受信するモードです。

自動で放送局を選局しプリセットする(オートプリセットメモリー)

自動で最大 56 局までプリセットできます。

- 1 入力ソースが“Tuner”のときに、OPTION を押す。
オプションメニュー画面を表示します。
- 2 カーソル 上/下を押して“オートプリセットメモリー”を選び、ENTER を押す。
- 3 ENTER を押す。
自動で放送局を受信し、プリセットをはじめます。
 - プリセットが完了すると“完了しました”を約 5 秒間表示し、オプションメニュー画面が消灯します。



- プリセットメモリーは上書きされます。



聴いている放送局をプリセットする(プリセットメモリー)

手動でお好みの放送局を選局し、プリセットします。
最大 56 局までプリセットできます。

- 1 プリセットしたい放送局を受信する。(「FM 放送または AM 放送を聴く」(P.93 ページ))
- 2 OPTION を押す。
オプションメニュー画面を表示します。
- 3 カーソル 上/下を押して“プリセットメモリー”を選び、ENTER を押す。
すでにプリセットされているチャンネルリストを表示します。
- 4 カーソル 上/下を押してプリセットしたいチャンネルを選び、ENTER を押す。
現在受信している放送局をプリセットします。
 - 続けて他の放送局をプリセットする場合は、手順 1~4 をおこなってください。

チャンネル	お買い上げ時の設定
1~8	76.00 / 83.00 / 89.00 / 90.00 / 90.00 / 90.00 / 90.00 / 90.00MHz
9~16	90.00 / 90.00 / 90.00 / 90.00 / 90.00 / 90.00 / 90.00 / 90.00MHz
17~24	90.00 / 90.00 / 90.00 / 90.00 / 90.00 / 90.00 / 90.00 / 90.00MHz
25~32	90.00 / 90.00 / 90.00 / 90.00 / 90.00 / 90.00 / 90.00 / 90.00MHz
33~40	90.00 / 90.00 / 90.00 / 90.00 / 90.00 / 90.00 / 90.00 / 90.00MHz
41~48	90.00 / 90.00 / 90.00 / 90.00 / 90.00 / 90.00 / 90.00 / 90.00MHz
49~56	90.00 / 90.00 / 90.00 / 90.00 / 90.00 / 90.00 / 90.00 / 90.00MHz

プリセットした放送局を聴く

- 1 CH/PAGE ▲▼を押して、プリセットした放送局を選ぶ。



- 本体の TUNER PRESET CH + または TUNER PRESET CH - を押しても、プリセットした放送局を選択できます。



プリセットした放送局に名前をつける (プリセットネーム)

プリセットした放送局に名前をつけたり、変更したりすることができます。

8文字まで入力できます。

- 1 入カソースが“Tuner”のときに、OPTION を押す。
オプションメニュー画面を表示します。
- 2 カーソル 上/下を押して“プリセットネーム”を選び、ENTER を押す。
“プリセットネーム”画面を表示します。
- 3 カーソル 左/右を押して、名前をつけたい放送局のグループを選ぶ。
- 4 カーソル 上/下を押して名前を付ける放送局を選び、ENTER を押す。
プリセットネームの編集画面を表示します。
 - “クリア”を選択すると、周波数表示に戻ります。

- 5 文字を入力して“OK”を押す。
- 6 OPTION を押して、元の画面に戻る。



プリセットした放送局をスキップする (プリセットスキップ)

オートプリセットメモリーをおこなうと、受信できる放送局をすべてメモリーします。不要なメモリーをスキップさせることで選局しやすくなります。

- 1 入力ソースが“Tuner”のときに、**OPTION** を押す。
オプションメニュー画面を表示します。
- 2 カーソル 上/下を押して“プリセットスキップ”を選び、**ENTER** を押す。
“プリセットスキップ”画面を表示します。
- 3 スキップしたい放送局をグループごとに設定するとき
 - ① カーソル 左/右を押して、スキップしたい放送局のグループを選ぶ。
 - ② カーソル 上を押して“*-*”をスキップ設定にします”を選び、**ENTER** を押す。
選択したグループ“*-*”に含まれるすべての放送局をスキップします。
(* は選択しているグループ番号です。)

スキップしたい放送局ごとに設定するとき

- ① カーソル 左/右を押して、スキップしたい放送局のグループを選ぶ。
- ② カーソル 上/下を押して、スキップしたい放送局を選ぶ。
- ③ カーソル 左/右を押して、“スキップ”を選ぶ。
選択した放送局をスキップします。

4 **OPTION** を押して、元の画面に戻る。



プリセットスキップを解除する

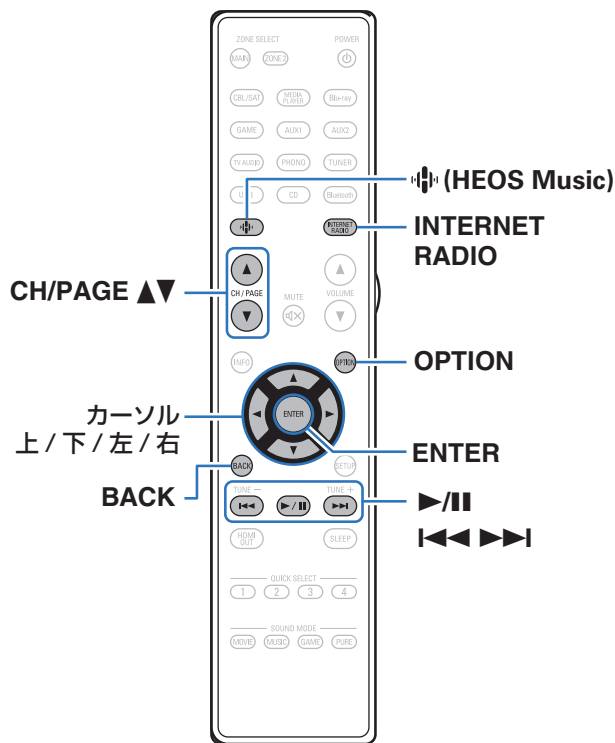
- 1 “プリセットスキップ”画面を表示中にカーソル 左/右を押して、スキップを解除したい放送局を含むグループを選ぶ。
- 2 カーソル 上/下を押して、スキップを解除したい放送局を選ぶ。
- 3 カーソル 左/右を押して、“オン”を選ぶ。
スキップを解除します。

ご注意

- “プリセットスキップ”の解除をグループごとにおこなうことはできません。



インターネットラジオを聴く




- インターネットラジオとは、インターネット上に配信されているラジオ放送です。世界中のインターネットラジオ放送を聴くことができます。
- 本機のインターネットラジオ局リストは、TuneIn ラジオサービスのデータベースサービスを利用しています。
- 本機で再生できる音声フォーマットの種類は、次のとおりです。詳しくは、「インターネットラジオの再生について」(P.305 ページ)をご覧ください。

- WMA
- MP3
- MPEG-4 AAC






インターネットラジオを聴く

1 INTERNET RADIO を押す。

-  (HEOS Music) を押しても操作ができます。カーソル上/下を押して “TuneIn インターネットラジオ” を選び、ENTER を押す。

2 再生したい放送局を選ぶ。

操作ボタン	機能
 *	再生/一時停止
 *	前の曲にスキップ/次の曲にスキップ
CH/PAGE  ▼	リストを表示中に、前のページへ移動/次のページへ移動

* ポッドキャストを再生中に有効です。












- 本体の STATUS を押すたびにタイトル名、放送局名などを切り替えて表示します。

ご注意

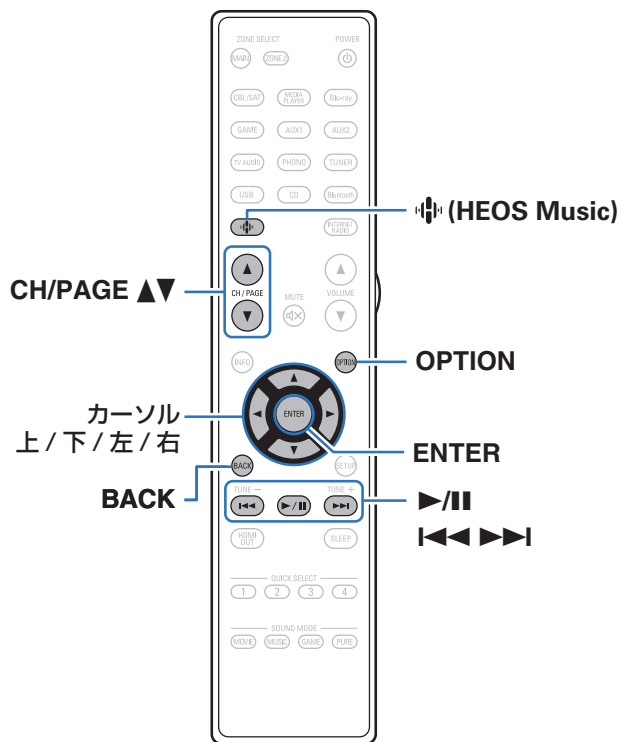
- ラジオ局データベースサービスは、予告なく停止する場合があります。

■ オプションメニューでできる操作

- 「HEOS お気に入りに追加する」( 121 ページ)
- 「せりふやボーカルの聴こえやすさを調節する(ダイアログエンハンサー)」( 121 ページ)
- 「入カソースに合わせて各チャンネルの音量を調節する(チャンネルレベル調節)」( 122 ページ)
- 「トーンを調節する(トーンコントロール)」( 123 ページ)
- 「音声の出カタイミングを調節する(オーディオディレイ)」( 124 ページ)
- 「入カソースに応じてトランスデューサーの強度を変更する(トランスデューサー)」( 125 ページ)
- 「音声の再生中にお好みの映像をテレビに映す(ビデオセレクト)」( 126 ページ)
- 「すべてのゾーンで同じ音楽を再生する(All Zone Stereo)」( 127 ページ)
- 「リスニング環境に合わせてスピーカーの設定を変更する(スピーカープリセット)」( 128 ページ)
- “Dirac Live フィルター”を変更する
<https://manuals.denon.com/DiracLive/ALL/JA/DRDZSYktvnhzad.php>



パソコンやNASに保存されているファイルを再生する



- 本機では、パソコンやDLNA対応のNAS(Network Attached Storage)に保存されている音楽ファイルやプレイリスト(m3u, wpl)を再生できます。
- 本機で再生できる音声フォーマットの種類は、次のとおりです。詳しくは、「パソコンやNASに保存されているファイルの再生について」(P.304ページ)をご覧ください。

- WMA
- MP3
- WAV
- MPEG-4 AAC
- FLAC
- Apple Lossless
- DSD



パソコンやNASに保存されているファイルを再生する

DLNA ファイルサーバーに保存されている音楽ファイルやプレイリストを再生する場合におこないます。

- 1 **🎵(HEOS Music)を押す。**
- 2 **カーソル 上/下を押してネームラベルを選び、ENTERを押す。**



- 3 **ネットワーク上のパソコンまたはNAS(Network Attached Storage)名を選ぶ。**

4 パソコンまたはNAS内の音楽データから、再生する音楽を選ぶ。

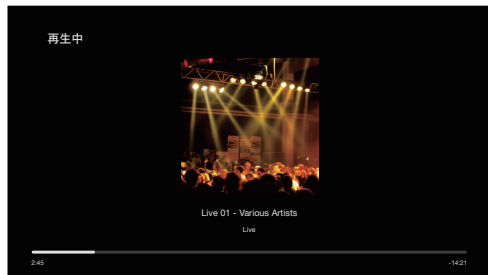


- 音楽をどのようにリストに追加するかを選択します。

すぐに再生:	現在再生している曲の直後に選択した音楽を追加し、その曲をすぐに再生します。
今すぐ再生してキューを入れ替え:	キューを削除し、選択した曲をすぐ再生します。
次に再生:	現在再生しているトラックの直後に選択した曲を追加し、再生中の曲が終わったら選択した曲を再生します。
キューの最後に追加:	選択した曲をキューの最後に追加します。



5 カーソル 上/下を押して“すぐに再生”または“今すぐ再生してキューを入れ替え”を選び、ENTER を押す。再生をはじめます。



操作ボタン	機能
▶/	再生/一時停止
◀◀▶▶	前の曲にスキップ/次の曲にスキップ
CH/PAGE ▲▼	リストを表示中に、前のページへ移動/次のページへ移動



- 本体の STATUS を押すたびにタイトル名、アーティスト名およびアルバム名を切り替えて表示します。
- WMA (Windows Media Audio)、MP3、MPEG-4 AAC のファイルで、アルバムアートのデータを持っている場合は、音楽ファイルを再生中にアルバムアートを表示できます。
- WMA ファイルのアルバムアートは、Windows Media Player(バージョン 11 以上)を使用することで表示できます。

ご注意

- 無線 LAN を経由して接続されたパソコンまたは NAS で音楽ファイルを再生すると、無線 LAN 環境によっては音声途切れることがあります。このような場合は、有線 LAN で接続してください。
- 曲の表示順は、サーバーの仕様によって異なります。サーバーの仕様によって、頭文字での検索が正しく動作せず、曲の表示順がアルファベット順にならない場合があります。



■ オプションメニューでできる操作

- 「せりふやボーカルの聴こえやすさを調節する(ダイアログエンハンサー)」(🔍 121 ページ)
- 「入力ソースに合わせて各チャンネルの音量を調節する(チャンネルレベル調節)」(🔍 122 ページ)
- 「トーンを調節する(トーンコントロール)」(🔍 123 ページ)
- 「音声の出カタイミングを調節する(オーディオディレイ)」(🔍 124 ページ)
- 「入力ソースに応じてトランスデューサーの強度を変更する(トランスデューサー)」(🔍 125 ページ)
- 「音声の再生中にお好みの映像をテレビに映す(ビデオセレクト)」(🔍 126 ページ)
- 「すべてのゾーンで同じ音楽を再生する(All Zone Stereo)」(🔍 127 ページ)
- 「リスニング環境に合わせてスピーカーの設定を変更する(スピーカープリセット)」(🔍 128 ページ)
- “Dirac Live フィルター”を変更する
<https://manuals.denon.com/DiracLive/ALL/JA/DRDZSYktvnhzad.php>



HEOS アプリをダウンロードする

HEOS アプリから多くのオンライン音楽ストリーミングサービスを使用することができます。無料または有料配信で、より多くの音楽を提供するオンラインミュージックサービスをご使用いただけます。

App ストア、Google Play ストアまたは Amazon アプリストアで“HEOS”を検索して、iOS 用または Android 用の HEOS アプリをダウンロードしてください。



HEOS アカウント

HEOS アカウントは、HEOS App の“ホーム”タブ- “詳細な設定”アイコン  をタップして登録してください。

HEOS アカウントを作成またはサインインすると、HEOS お気に入り機能を使用して本機の画面からお気に入りのストリーミングラジオ局を保存したり呼び出すことができます。

■ HEOS アカウントとは

HEOS アカウントは、1 つのユーザー名とパスワードですべての HEOS 音楽サービスを管理するマスターアカウントです。

■ HEOS アカウントが必要な理由

HEOS アカウントでログインすれば、例えば友人宅の HEOS システムで音楽を聴くときでも、アカウント登録しているストリーミング音楽サービスや再生履歴、カスタムプレイリストにアクセスできます。

HEOS App でアカウントの設定変更やサインアウトをおこなうと、本機も自動的に同期します。

■ HEOS アカウントに登録する



HEOS アプリの“ホーム”メニューからはじめて音楽サービスにアクセスするときに、HEOS アカウントへの登録をおすすめするメッセージと登録画面を表示します。HEOS アプリの案内に従って操作を完了してください。



- HEOS アカウントの設定情報は、本機と HEOS アプリで同期していません。アカウントの設定変更やサインアウトは HEOS アプリからおこなってください。



■ HEOS アカウントを変更する

- 1 “ホーム”タブをタップする。
- 2 画面右上の詳細な設定アイコン  をタップする。
- 3 画面右上の HEOS アカウント アイコン  をタップする。
- 4 位置情報の変更やパスワードの変更、アカウントの削除、サインアウトをおこなう。



- HEOS App でアカウントの設定変更やサインアウトをおこなうと、本機の状態も自動的に同期します。HEOS アカウントを切り替えたい場合は、本機に同期させたいアカウントでサインインしている HEOS App から音楽を再生してください。“HEOS アカウント”が自動的に切り替わります。



ストリーミング音楽サービスを再生する

無料または有料配信で、より多くの音楽を提供するオンラインミュージックサービスをご使用いただけます。

ご注意

- HEOS アプリおよびブランドは、どちらのモバイルデバイスの製造元とも提携していません。音楽サービスの提供は地域によって異なり、製品購入時にすべてのサービスが利用できるわけではありません。音楽サービスプロバイダまたは第三者の決定に基づき、いくつかのサービスが追加または中止されることがあります。

■ 再生する部屋/HEOS 機器を選ぶ

- 1 “ルーム”タブをタップする。複数の HEOS 機能搭載機器がある場合は、“Denon XXXXXXX”を選ぶ。

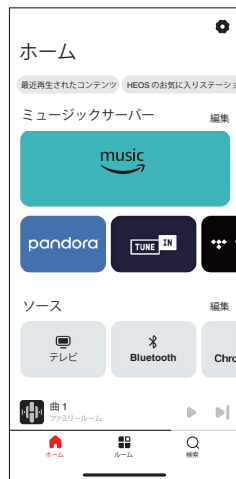


- 編集モードに切り替えるには、右上の“編集”をタップしてください。表示名を変更することができます。



■ 音楽ソースから音楽や放送局を選ぶ

1 “ホーム”タブをタップし、音楽ソースを選ぶ。



- 画面に表示されている音楽サービスは、お住まいの地域により利用できない場合があります。

2 再生したい音楽を選ぶ。

音楽または放送局を選ぶと、自動的に“再生中”画面に切り替わります。

音楽ファイル



ストリーミング



- “再生中”バナーが“ホーム”画面、“ルーム”画面、“検索”画面に表示されます。どの画面を表示していても再生中の楽曲の確認と簡単な再生操作ができます。



同じ音楽を複数の部屋で聴く

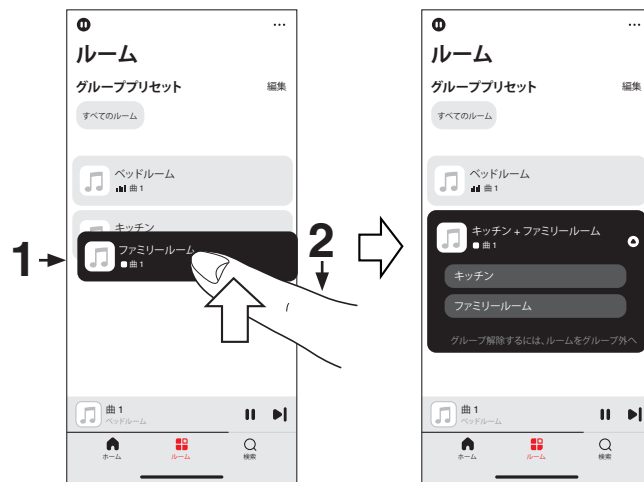
このシステムでは、複数の HEOS 機能搭載機器間で音楽再生を自動的に同期できます。これにより、さまざまな部屋で再生される音楽が完全に同期し、常に素晴らしいサウンドをお楽しみいただけます。また最大 16 のグループ化が可能で、グループごとに完全に同期して楽曲を再生できます。

■ 部屋をグループ化する

- 1 音楽を再生していない部屋をホールド(指で押さえたままにする)。
- 2 そのまま音楽を再生している部屋までドラッグする。
- 3 2つの部屋が1つのグループにグループ化され、両方の部屋で同じ音楽を再生する。



- “グループプリセット”の“編集”機能でもグループを管理できます。



■ 部屋のグループ化を解除する

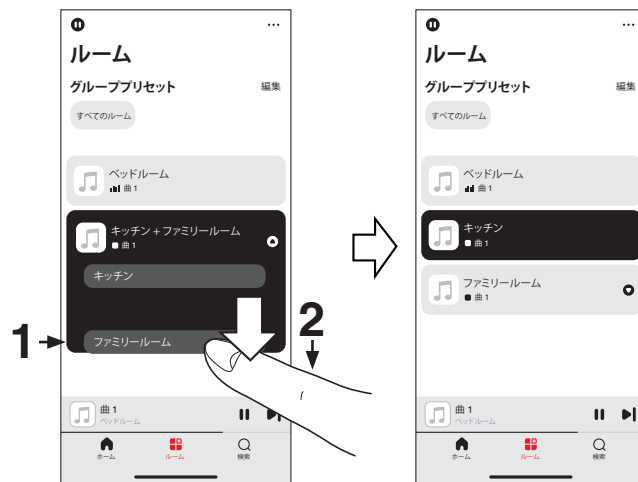
- 1 グループから外したい部屋をホールド(指で押さえたままに)する。
- 2 グループ(赤枠)の外にドラッグして、指を離す。



- “グループプリセット”の“編集”機能でもグループを管理できます。

ご注意

- グループ化は音楽を再生している部屋が基準となるため、その部屋をグループから解除することはできません。



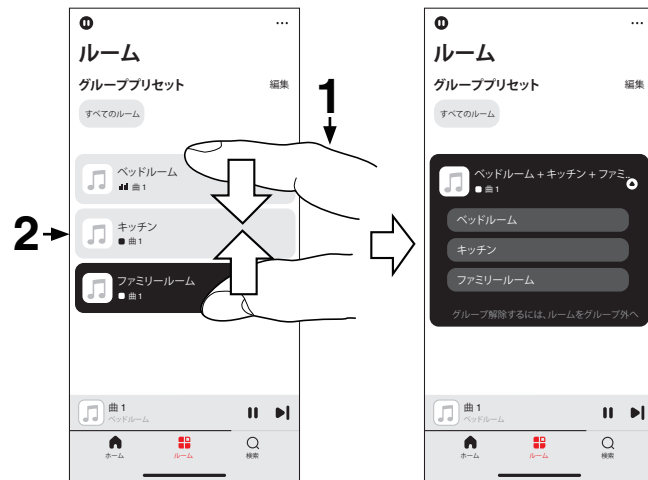
■ すべての部屋をグループ化する

ピンチインジェスチャーを使用して、すべての部屋(最大 16 部屋)をグループ化できます。

- 1 部屋のリスト上の画面に2本の指を置く。
- 2 2本の指ですばやくつまむ動作をして、画面から離す。
- 3 すべての部屋をグループ化し、同じ音楽がすべての部屋で再生する。



- “グループプリセット”の“編集”機能でもグループを管理できます。



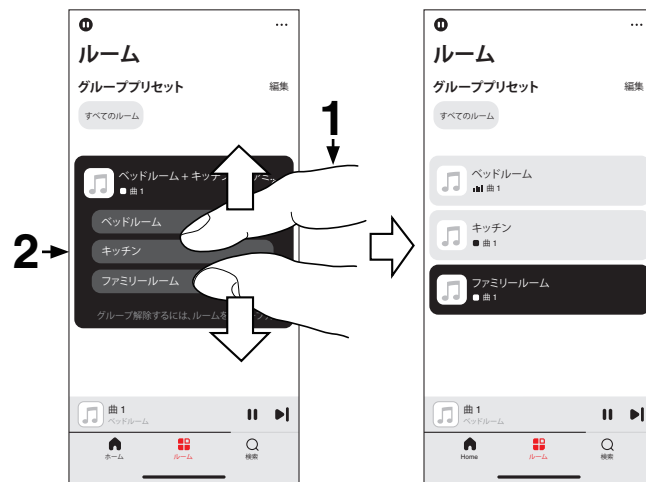
■ すべての部屋のグループ化を解除する

ピンチアウトジェスチャーを使用して、すべての部屋のグループ化を解除できます。

- 1 部屋のリスト上の画面に2本の指を近づけて置く。
- 2 2本の指をすばやく互いに遠ざけ、画面から離す。
- 3 すべての部屋のグループ化を解除する。



- “グループプリセット”の“編集”機能でもグループを管理できます。



AirPlay 機能

iPhone、iPod touch、iPad や iTunes に保存されている音楽ファイルを、ネットワークを経由して本機で再生できます。



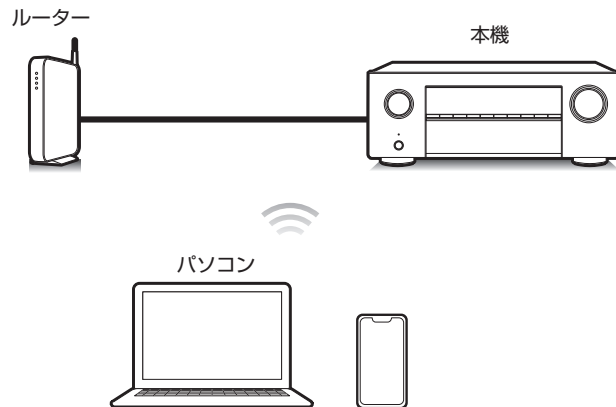
- AirPlay の再生を開始すると、本機の入力ソースは自動的に“HEOS Music”に切り替わります。
- 他の入力ソースに切り替えると、AirPlay の再生が停止します。
- 本体の STATUS を押すと、曲名とアーティスト名を確認できます。
- iTunes の使用方法は、iTunes の“ヘルプ”をご覧ください。
- 画面は、OS やソフトのバージョンによって異なる場合があります。

本機は AirPlay 2 対応製品です。

複数の AirPlay 2 に対応したデバイス/スピーカーと同期して音楽を同時に再生することが可能です。



- 本機は AirPlay 2 対応製品です。iOS 11.4 以降が必要です。

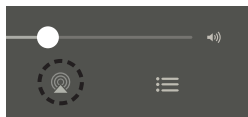


iPhone、iPod touch、iPad の曲を本機で再生する

iPhone、iPod touch、iPad を iOS 10.0.2 以上にアップデートすると、iPhone、iPod touch、iPad の曲を本機へダイレクトにストリーミングできます。

- 1 iPhone、iPod touch または iPad の Wi-Fi 設定を本機と同じネットワークに接続する。
 ・詳しくは、ご使用の機器の取扱説明書をご覧ください。
- 2 iPhone、iPod touch、iPad の曲を再生する。
 iPhone、iPod touch または iPad の画面に AirPlay アイコンを表示します。
- 3 AirPlay アイコンをタップして、本機を選ぶ。

【例】iOS 15



【例】iOS 10



iTunes の曲を本機で再生する

- 1 本機と同じネットワークに接続しているパソコンに、iTunes 10 以降をインストールする。
 - 2 本機の電源を入れる。
 本機の“ネットワークコントロール”設定を“常時オン”にしてください。(P.242 ページ)
- ご注意**

 - “ネットワークコントロール”を“常時オン”に設定している場合は、スタンバイ時の待機電力を多く消費します。
- 3 iTunes を起動し、AirPlay アイコンをクリックして、本機を選ぶ。

【例】iTunes



- 4 iTunes で曲を選び、再生する。
 本機で再生をはじめます。

ご注意

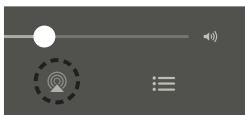
- AirPlay 機能を使用して再生する場合は、iPhone、iPod touch、iPad または iTunes で設定している音量で出力します。再生する前に、iPhone、iPod touch、iPad または iTunes の音量を最小にしてから適切な音量に調節してください。

iPhone、iPod touch、iPad の曲を複数の機器で同期して再生する (AirPlay 2)

iPhone、iPod touch、iPad が iOS 11.4 以上の場合、iPhone、iPod touch、iPad の曲を AirPlay 2 対応の複数の機器で同期して再生することができます。

1 iPhone、iPod touch、iPad の曲を再生する。

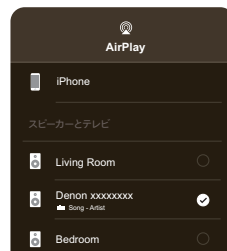
iPhone、iPod touch または iPad の画面に AirPlay アイコンを表示します。



2 AirPlay アイコンをタップして、本機を選ぶ。

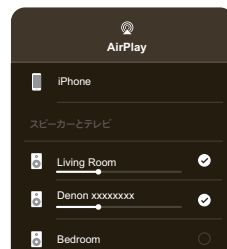
同一ネットワーク上で再生可能な機器/スピーカーの一覧を表示します。

- AirPlay 2 対応の機器名には右側に丸い印が表示されません。



3 再生したい機器/スピーカーをタップする。

- AirPlay 2 対応機器は複数台選ぶことができます。



Spotify Connect機能

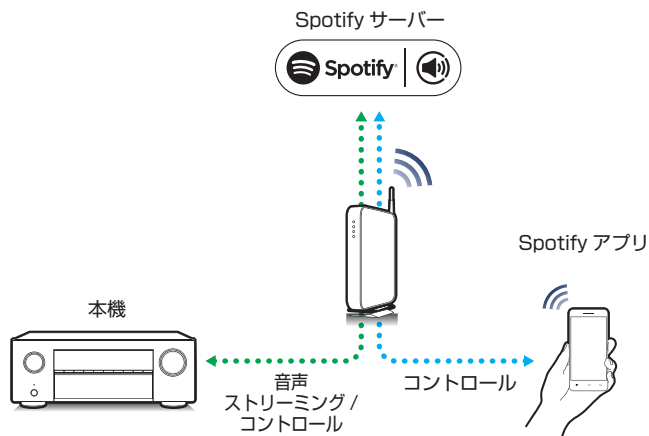
Spotify にはあなたが聴きたい音楽があります。何千万もの楽曲の中からあなたの好みに合ったお奨めの音楽をお楽しみいただけます。従来のプレミアムアカウント(有料)に加え、無料アカウントでも Spotify Connect をご利用になれます。

スマートフォン、タブレットまたはパソコンを操作して、Spotify の音楽を楽しめます。

詳しくは、www.spotify.com/jp/connect をご覧ください。


Spotify ソフトウェアには次のサードパーティのライセンスが適用されます。

www.spotify.com/connect/third-party-licenses



Spotify の曲を本機で再生する

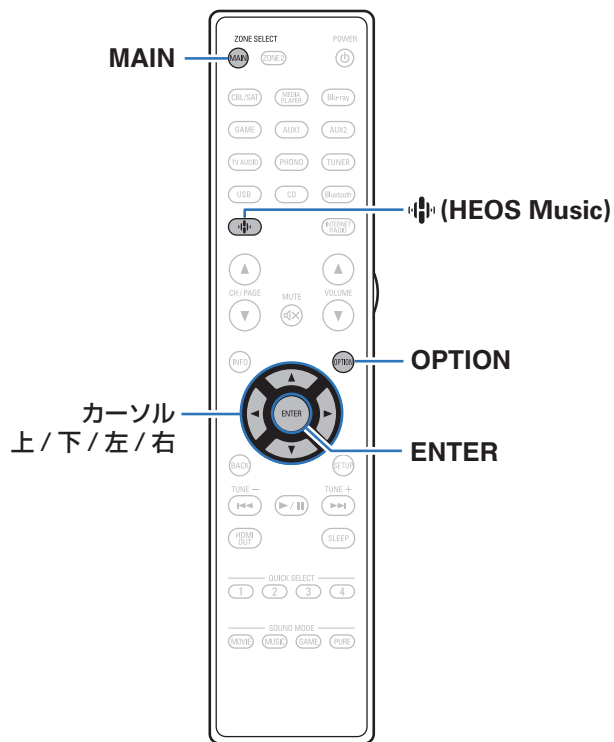
あらかじめお手持ちの iOS または Android 機器に “Spotify アプリ” をダウンロードしてください。

- 1 iOS または Android 機器の Wi-Fi 設定を本機と同じネットワークに接続する。
- 2 Spotify アプリを起動する。
- 3 Spotify の曲を再生する。
- 4 Spotify アイコン  をタップして、本機を選ぶ。
本機で再生をはじめます。

便利な機能

ここでは、各入力ソースで使用できる便利な機能の操作方法を説明します。

これらの機能は、メインゾーンでのみ設定できます。




HEOS お気に入り再生する

本機で初めて HEOS お気に入り機能を使用する場合は、HEOS App で HEOS アカウントを作成するか、作成済みのアカウントにサインインしてください。

HEOS アカウントを作成またはサインインすると、HEOS お気に入り機能を使用して本機の画面からお気に入りのストリーミングラジオ局を保存したり呼び出すことができます。

1 (HEOS Music) を押す。

再生履歴がある場合は、最後に再生したインターネットラジオ局や曲を再生します。再度  (HEOS Music) を押すと、HEOS Music のトップメニューを表示します。

2 カーソル 上/下を押して“HEOS お気に入り”を選び、ENTER を押す。



3 再生したい音楽を選ぶ。



- 本機が HEOS App の HEOS アカウントと同期していないときは、“HEOS お気に入り - HEOS アプリを使用”と表示されます。



HEOS お気に入り追加する

- 1 コンテンツの再生中に **OPTION** を押す。
オプションメニュー画面を表示します。
- 2 カーソル 上/下を押して“HEOS お気に入り追加”を選び、**ENTER** を押す。

HEOS お気に入りを削除する

- 1 HEOS お気に入りリスト表示中にカーソル 上/下を押して、HEOS お気に入りリストから削除したい項目を選び、**OPTION** を押す。
- 2 カーソル 上/下を押して“HEOS お気に入りから削除”を選び、**ENTER** を押す。

せりふやボーカルの聴こえやすさを調節する(ダイアログエンハンサー)

センターチャンネルの周波数帯域を調節し、映画のせりふや音楽のボーカルを強調して、聴きやすくします。

- 1 **OPTION** を押す。
オプションメニュー画面を表示します。
 - 入力ソースが“HEOS Music”のときは、オンラインミュージックのオプションメニュー画面を表示します。“AVR オプション”を選び、**ENTER** を押してください。
- 2 カーソル 上/下を押して“ダイアログエンハンサー”を選び、**ENTER** を押す。
“ダイアログエンハンサー”画面を表示します。
- 3 カーソル 左/右を押して、お好みの強調効果を選ぶ。

弱 / 中 / 強:	せりふやボーカルを強調します。
オフ (お買い上げ時の設定):	せりふやボーカルを強調しません。

- 4 **ENTER** を押す。



- “ダイアログエンハンサー”の設定は、入力ソースごとに記憶します。
- サウンドモードが“Direct”または“Pure Direct”のときは設定できません。



入力ソースに合わせて各チャンネルの音量を調節する(チャンネルレベル調節)

音楽を聴きながら、各チャンネルの音量を変更します。入力ソースごとに設定できます。

1 OPTION を押す。

オプションメニュー画面を表示します。

- 入力ソースが“HEOS Music”のときは、オンラインミュージックのオプションメニュー画面を表示します。“AVR オプション”を選び、ENTER を押してください。

2 カーソル 上/下を押して“チャンネルレベル調節”を選び、ENTER を押す。

“チャンネルレベル調節”画面を表示します。

3 カーソル 上/下を押して、調節したいチャンネルを選ぶ。

4 カーソル 左/右を押して、音量を調節する。

-12.0 dB~+12.0 dB(お買い上げ時の設定:0.0 dB)

5 カーソル 上/下/左/右を押して“終了”を選び、ENTER を押す。



- 各チャンネルの調整値を“0.0dB”（お買い上げ時の設定）に戻したい場合は、“リセット”を選び ENTER を押してください。
- ヘッドホン接続時には、ヘッドホン用の音量を調節できます。
- “チャンネルレベル調節”の設定は、入力ソースごとに記憶します。
- 音声を出力しているスピーカーのみ設定できます。また、メニューの“HDMI オーディオ出力”の設定が“テレビ”の場合は設定できません。
(P.190 ページ)



トーンを調節する(トーンコントロール)

トーンを調節します。

1 OPTION を押す。

オプションメニュー画面を表示します。

- 入力ソースが“HEOS Music”のときは、オンラインミュージックのオプションメニュー画面を表示します。“AVR オプション”を選び、ENTER を押してください。

2 カーソル 上/下を押して“トーンコントロール”を選び、ENTER を押す。

“トーンコントロール”画面を表示します。

3 カーソル 左/右を押して、トーンコントロール機能のオン/オフを設定する。

オン: 低音や高音のトーンを調節できます。

オフ (お買い上げ時の設定): トーンを調節せずに再生します。

4 手順3で“オン”を選び、カーソル 下を押して調節する音域を選ぶ。

低音: 低音を調節します。

高音: 高音を調節します。

5 カーソル 左/右を押してトーンを調節し、ENTER を押す。

-6 dB~+6 dB (お買い上げ時の設定: 0 dB)



- “トーンコントロール”の設定は、入力ソースごとに記憶します。
- サウンドモードが“Direct”または“Pure Direct”のときは設定できません。
- メニューの“Dynamic EQ”の設定が“オン”のときは設定できません。(185 ページ)
- 音声信号が入力されていない場合、またはメニューの“HDMI オーディオ出力”の設定が“テレビ”の場合は設定できません。(190 ページ)



Dirac Live フィルターを選択する (Dirac Live)

Dirac Live software から転送した Dirac Live フィルターを設定します。

Dirac Live Room Correction を実行した後に設定できるようになります。

詳しくは、別冊の Dirac Live 取扱説明書をご覧ください。

<https://manuals.denon.com/DiracLive/ALL/JA>

音声の出カタイミングを調節する(オーディオディレイ)

映像と音声のタイミングがずれているときに、音声の出カタイミングを調節します。

1 OPTION を押す。

オプションメニュー画面を表示します。

- 入力ソースが“HEOS Music”のときは、オンラインミュージックのオプションメニュー画面を表示します。“AVR オプション”を選び、ENTER を押してください。

2 カーソル 上/下を押して“オーディオディレイ”を選び、ENTER を押す。

“オーディオディレイ”画面を表示します。

3 カーソル 左/右を押して、オートリップシンク機能のオン/オフを設定する。

オン (お買い上げ時の設定):	オートリップシンク機能対応のテレビからの情報に基づいて、映像と音声のタイミングのずれを自動的に補正します。
オフ:	自動的に補正しません。

4 画像と音声のタイミングのずれを手動で修正する必要がある場合は、カーソル 下を押して“調整”を選び、カーソル 左/右でタイミングを調節してください。

0 ms～500 ms (お買い上げ時の設定:0 ms)



- “オーディオディレイ”の設定は、入力ソースごとに記憶します。
- ご使用のテレビによっては、“オートリップシンク”を“オン”に設定しても、自動補正されない場合があります。
- “オートリップシンク”で補正されたディレイ値を微調整することもできます。



入力ソースに応じてトランスデューサーの強度を変更する(トランスデューサー)

トランスデューサー出力のレベルを調節します。

1 OPTION を押す。

オプションメニュー画面を表示します。

- 入力ソースが“HEOS Music”のときは、オンラインミュージックのオプションメニュー画面を表示します。“AVR オプション”を選び、ENTER を押してください。

2 カーソル 上/下を押して“トランスデューサー”を選び、ENTER を押す。

“トランスデューサー”画面を表示します。

3 カーソル 左/右を押して、トランスデューサー機能のオン/オフを設定する。

オン
(お買い上げ時の設定): トランスデューサー機能を有効にします。

オフ: トランスデューサー機能を無効にします。

4 手順3で“オン”を選んだ場合、カーソル下を押して“レベル”を調節してください。

5 カーソル 左/右を押してレベルを調節し、ENTER を押す。

-12.0 dB~+12.0 dB (お買い上げ時の設定 : 0.0 dB)



- “トランスデューサー”の設定は、入力ソースごとに記憶します。
- メニューの“スピーカー” - “マニュアルセットアップ” - “アドバンス設定” - “トランスデューサー” - “トランスデューサー”が“無効”に設定されている場合は設定できません。



音声の再生中にお好みの映像をテレビに映す(ビデオセレクト)

音声の再生中に別のソースの映像をテレビに映し出します。入力ソースごとに設定できます。

□ 対応する入力ソース:

CD* / Tuner / HEOS Music / Phono

* HDMI 端子が割り当てられている場合は設定できません。

1 OPTION を押す。

オプションメニュー画面を表示します。

- 入力ソースが“HEOS Music”のときは、オンラインミュージックのオプションメニュー画面を表示します。“AVR オプション”を選び、ENTER を押してください。

2 カーソル 上/下を押して“ビデオセレクト”を選び、ENTER を押す。

“ビデオセレクト”画面を表示します。

3 カーソル 左/右を押して、ビデオセレクトモードを選ぶ。

オフ (お買い上げ時の設定): ビデオセレクトモードが無効です。

オン: ビデオセレクトモードが有効です。

4 手順3で“オン”を選んだ場合、カーソル 下を押して“ソース選択”を選んでください。

5 カーソル 左/右を押して再生したい映像の入力ソースを選び、ENTER を押す。

最後のソース (お買い上げ時の設定):	最後に再生された入力ソースから映像を再生します。
---------------------	--------------------------

CBL/SAT / Media Player / Blu-ray / Game / AUX1 / AUX2 / TV Audio / CD:	選択した入力ソースから映像を再生します。*
--	-----------------------

* HDMI 端子が割り当てられている入力ソースを選択できません。



- “ビデオセレクト”の設定は、入力ソースごとに記憶します。



すべてのゾーンで同じ音楽を再生する (All Zone Stereo)

メインゾーンで再生している音楽をゾーン 2 (別の部屋) でも同時に再生できます。

ホームパーティーのときに各部屋で同時に同じ音楽を楽しみたい場合や、家全体で BGM を流したい場合に便利です。

1 OPTION を押す。

オプションメニュー画面を表示します。

- 入力ソースが“HEOS Music”のときは、オンラインミュージックのオプションメニュー画面を表示します。“AVR オプション”を選び、ENTER を押してください。

2 カーソル 上/下を押して“All Zone Stereo”を選び、ENTER を押す。

“All Zone Stereo”画面を表示します。

3 “スタート”を選び、ENTER を押す。

ゾーン 2 の入力ソースがメインゾーンと同じ入力ソースに切り替わり、All Zone Stereo モードで再生をはじめます。

■ All Zone Stereo モードを解除する

1 All Zone Stereo モードで再生中に、OPTION を押す。

オプションメニュー画面を表示します。

- 入力ソースが“HEOS Music”のときは、オンラインミュージックのオプションメニュー画面を表示します。“AVR オプション”を選び、ENTER を押してください。

2 カーソル 上/下を押して“All Zone Stereo”を選び、ENTER を押す。

3 “ストップ”を選び、ENTER を押す。



- メインゾーンの電源をオフにしたときも All Zone Stereo モードを解除します。
- All Zone Stereo モード中は、サウンドモードの“Multi Ch Stereo”および“Stereo”のみ選択できます。
- メニューの“HDMI オーディオ出力”の設定が“テレビ”の場合は、All Zone Stereo モードを使用できません。(P.190 ページ)
- All Zone Stereo モードでの再生状態をクイックセレクトプラス機能に記憶させると、いつでもワンタッチで All Zone Stereo モード再生ができます。



リスニング環境に合わせてスピーカーの設定を変更する(スピーカープリセット)

スピーカーを使用する環境に合わせて、2種類のスピーカー設定を保存することができます。

1 OPTION を押す。

オプションメニュー画面を表示します。

- 入力ソースが“HEOS Music”のときは、オンラインミュージックのオプションメニュー画面を表示します。“AVR オプション”を選び、ENTER を押してください。

2 カーソル 上/下を押して“スピーカープリセット”を選び、ENTER を押す。

“スピーカープリセット”画面を表示します。

3 カーソル 左/右を押して、プリセットを設定する。

プリセット 1
(お買い上げ時の設定): プリセット 1 を使用します。

プリセット 2: プリセット 2 を使用します。



- 次の場合に本機能を使用できます。
 - “スピーカープリセット”を“スピーカープリセット 2”に設定し、手動でスピーカーの設定をおこなった後
 - 2 回目の Audyssey®セットアップをおこない、その結果を“スピーカープリセット 2”に保存した後
 - “スピーカープリセット 1”に Audyssey の測定結果を保存し、“スピーカープリセット 2”に Dirac Live の測定結果を保存すると、Audyssey と Dirac Live を簡単に切り替えることができます。



チャンネルレベル表示を表示する

各チャンネルの音声出力レベルを画面に表示します。

1 OPTION を押す。

オプションメニュー画面を表示します。

- 入力ソースが“HEOS Music”のときは、オンラインミュージックのオプションメニュー画面を表示します。“AVR オプション”を選び、ENTER を押してください。

2 カーソル上/下を押して“チャンネルレベル表示”を選び、ENTER を押す。

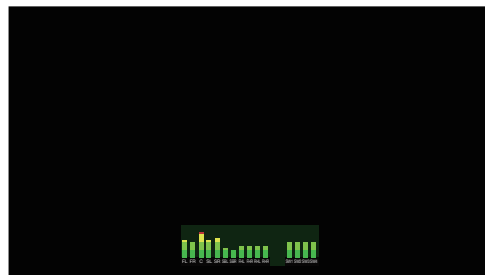
“チャンネルレベル表示”画面を表示します。

3 カーソル左/右を押して、オン/オフを設定する。

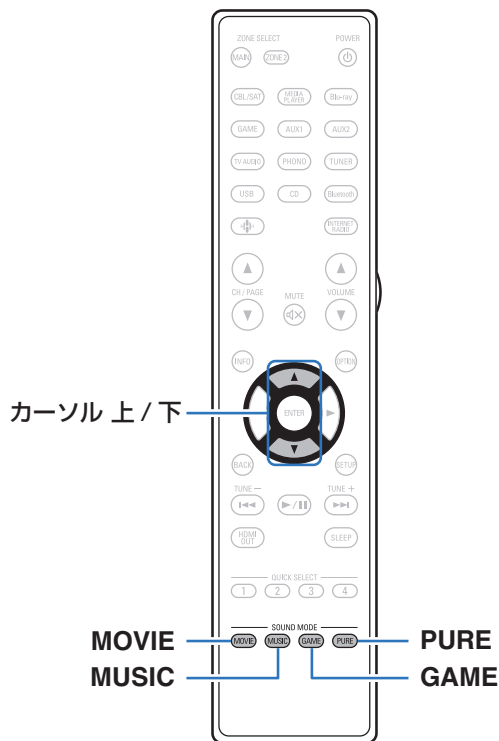
オン:	チャンネルレベル表示を常に表示します。
オフ (お買い上げ時の設定):	チャンネルレベル表示を表示しません。



- “チャンネルレベル表示”の表示は Master Volume の値には連動しません。
- 入力ソースが“Tuner”の場合、“チャンネルレベル表示”は表示できません。



サウンドモードを選ぶ



本機ではさまざまなサラウンド再生やステレオ再生をお楽しみいただけます。

ブルーレイディスクや DVD はもちろん、デジタル放送やネット配信の映画や音楽の多くのコンテンツには、マルチチャンネルの音声フォーマットが採用されています。

本機では、それらのマルチチャンネル音声フォーマットの再生に対応しています。また、2チャンネルステレオ音声などのマルチチャンネル音声以外の音声フォーマットもサラウンド再生ができます。



- ディスクに収録されている音声フォーマットは、ディスクのジャケットをご覧ください。



サウンドモードを選ぶ

1 MOVIE、MUSIC または GAME を押して、サウンドモードを選ぶ。

MOVIE:	サウンドモードを映画やテレビ番組の再生に適したモードに切り替えます。
MUSIC:	サウンドモードを音楽の再生に適したモードに切り替えます。
GAME:	サウンドモードをゲームの再生に適したモードに切り替えます。



- MOVIE、MUSIC または GAME のボタンには、それぞれのボタンで最後に選択したサウンドモードを記憶します。MOVIE、MUSIC または GAME を押すと、前回再生したときと同じサウンドモードを呼び出します。
- 前回選択したサウンドモードに対応していないコンテンツを再生した場合は、そのコンテンツにとって最もスタンダードなサウンドモードを自動的に選択します。

■ サウンドモードを切り替える

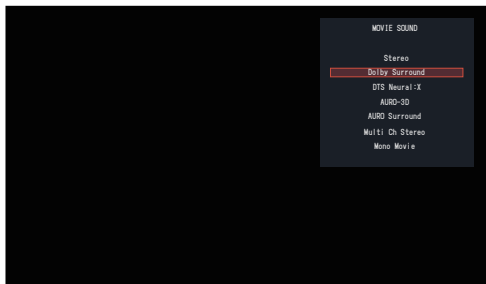
- MOVIE、MUSIC または GAME を押すと、それぞれのモードで選択できるサウンドモードを表示します。MOVIE、MUSIC または GAME を押すたびに、サウンドモードが切り替わりません。
- この一覧を表示中にカーソル上/下を押しても、サウンドモードを選択できます。
- さまざまなサウンドモードをお試しいただいた中から、最も好みのサウンドモードでお楽しみください。



- Dolby Atmos で収録されたコンテンツを再生するときは、サウンドモードを "Dolby Atmos/Surround" に切り替えてください。Dolby Atmos/Surround は、Dolby Atmos で収録されたディスクやストリーミングを最適化された臨場感あふれるサウンドで提供します。お買い上げ時は、"Dolby Atmos/Surround" に設定しています。



【画面の表示例】 MOVIE を押した場合



本機では、ディスクに収録されている Dolby や DTS などのフォーマットどおりのサラウンド再生だけでなく、ご使用のスピーカー環境に合わせた拡張タイプのサウンドモードや、Rock Arena、Jazz Club などの雰囲気表現したサラウンド再生をおこなう“オリジナルサウンドモード”を選択できます。

ダイレクト再生

ソースに収録されている音声のまま再生します。

1 PURE を押して、“Direct”を選ぶ。
ダイレクト再生をはじめます。



- DSD 信号を再生しているときは“DSD Direct”を表示します。



ピュアダイレクト再生

ダイレクト再生モードよりもさらに高音質の再生をおこなうモードです。

本体のディスプレイをオフにします。これにより音質に影響を与えるノイズ源を抑えます。

1 PURE を押して、“Pure Direct”を選ぶ。

ディスプレイが消灯し、ピュアダイレクト再生をはじめます。



- ダイレクト再生モードおよびピュアダイレクト再生モードのとき、次の設定はできません。
 - ダイアログエンハンサー (121 ページ)
 - トーンコントロール (123 ページ)
 - リストアラー (182 ページ)
 - MultEQ® XT32 (185 ページ)
 - Dynamic EQ (185 ページ)
 - Dynamic Volume (187 ページ)
 - Dirac Live フィルター (188 ページ)
 - グラフィック EQ (188 ページ)

ご注意

- ピュアダイレクト再生モードを選択すると、ディスプレイは約 5 秒後に消灯します。

オートサラウンド再生

入力されるデジタル信号の種類を検出し、自動的にそれぞれの信号に対応した再生モードに切り替えます。

入力信号が PCM の場合は、ステレオ再生をおこないません。入力信号が Dolby Digital や DTS の場合は、それぞれのチャンネル数に応じた再生をおこないません。

1 PURE を押して、“Auto”を選ぶ。

オートサラウンド再生をはじめます。



サウンドモードの種類について

ドルビーサウンドモード

サウンドモードの種類	説明
Dolby Atmos	Dolby Atmos で収録されたコンテンツの再生に適したモードです。Dolby Atmos コンテンツに収録されている音声データとその音声の位置データをリアルタイムで演算して適切なスピーカーから出力するため、どのようなスピーカー設置でも自然な音像を作り出すことができます。天井スピーカーや Dolby Atmos Enabled スピーカーを使用すると、立体的な音場をお楽しみいただけます。 スピーカーバーチャライザー機能を使用することで、オーバーヘッドスピーカーや Dolby Atmos Enabled スピーカーを使用しないスピーカーの設置環境においても、臨場感のある音場体験をお楽しみいただけます。
Dolby TrueHD	Dolby TrueHD(サンプリング周波数=192kHz/96kHz)で収録されたコンテンツの再生に適したモードです。
Dolby Digital Plus	Dolby Digital Plus で収録されたコンテンツの再生に適したモードです。
Dolby Digital	Dolby Digital で収録されたコンテンツの再生に適したモードです。
Dolby Surround	Dolby Surround Upmixer を使用して、さまざまなソースを自然で臨場感のあるマルチチャンネルに拡張して再生するモードです。 トップミドルスピーカーなどの天井スピーカーを使用すると立体的な音場をお楽しみいただけます。



DTS サウンドモード

サウンドモードの種類	説明
DTS Surround	DTS で収録されたディスクの再生に適したモードです。
DTS-HD	DTS-HD で収録されたディスクの再生に適したモードです。
DTS:X	DTS:X で収録されたディスクの再生に適したモードです。 DTS:X コンテンツに収録されている音声データとその音声の位置データをリアルタイムで演算して適切なスピーカーから出力するため、どのようなスピーカー設置でも自然な音像を作り出すことができます。ハイトスピーカーを使用すると、立体的な音場をお楽しみいただけます。
IMAX DTS	DTS ビットストリームで収録された IMAX Enhanced コンテンツを再生時自動的に有効になります。(P.176 ページ) <ul style="list-style-type: none"> メニューの“スピーカーレイアウト” - “サラウンドバック”の設定が“2 台”、なおかつ“スピーカーレイアウト” - “センター”の設定が“有り”のときにサウンドモードを“IMAX DTS”に設定すると、サラウンドの音声をサラウンドバックスピーカーから出力します。サラウンドスピーカーからは音声を出力しません。 “フロント”と“センター”の“クロスオーバー周波数”が“フルレンジ”以外の場合は、スピーカーの低音情報はサブウーハーにリダイレクトされませんが、IMAX の特別なアルゴリズムによってフロントスピーカーとセンタースピーカーからの低音効果が向上します。
IMAX DTS:X	DTS:X ビットストリームで収録された IMAX Enhanced コンテンツを再生時自動的に有効になります。(P.176 ページ) <ul style="list-style-type: none"> “フロント”と“センター”の“クロスオーバー周波数”が“フルレンジ”以外の場合は、スピーカーの低音情報はサブウーハーにリダイレクトされませんが、IMAX の特別なアルゴリズムによってフロントスピーカーとセンタースピーカーからの低音効果が向上します。



サウンドモードの種類	説明
DTS Neural:X	DTS Neural:X Upmixer を使用して、さまざまなソースを自然で臨場感のあるマルチチャンネルに拡張して再生するモードです。 フロントハイトスピーカーなどのハイトスピーカーを使用すると、立体的な音場をお楽しみいただけます。
DTS Virtual:X*1*2	ハイトチャンネルを使用していないときに、DTS Virtual:X 技術を使用して立体的な音場をお楽しみいただけます。

*1 入力信号が Dolby Digital, Dolby Digital Plus, Dolby TrueHD または Dolby Atmos のときは選択できません。

*2 ハイト、天井および Dolby Atmos Enabled スピーカーを使用していないときに選択できます。



• 一部の古いプレーヤーをご使用の場合、正しく DTS-HD または DTS:X 信号を伝送できない場合があります。その場合、以下の方法をおこなうと正しく再生できます。

1. 本機の電源が入っているときに、本体の ZONE2 SOURCE と STATUS を同時に 3 秒以上長押しする。
ディスプレイに“4K/8K:<Enhanced>”を表示します。
2. 本体の DIMMER を 3 回押す。
ディスプレイに“DTS Mode:<Mode 1>”を表示します。
3. 本体の TUNER PRESET CH+または TUNER PRESET CH-を押して、DTS Mode を選ぶ。
4. 本体の STATUS を押して、設定を終了する。

□ DTS Mode

Mode 1
(お買い上げ時の設定): DTS の規格に準拠した設定。通常はこの設定でご使用ください。

Mode 2: DTS 信号を正しく再生できない場合に設定します。



AURO-3D サウンドモード

サウンドモードの種類	内容
AURO-3D	AURO-3D で収録されたディスクの再生に適したモードです。ハイトチャンネルを含むすべてのチャンネルが独立して収録されているため、AURO-3D ならではの定位感のある三次元音声がお楽しみいただけます。また、AURO-3D 以外のディスク再生時にも、Auro-Matic Upmixer を使用して臨場感あふれる三次元再生をお楽しみいただけます。
AURO Surround	AURO-3D デコーダーを使用して、ハイトチャンネルなしでサラウンド再生をおこないます。ハイトチャンネルなしの AURO-3D としてエンコードされた信号の再生に最適です。また、AURO-3D としてエンコードされていない信号が入力された場合、Auro-Matic と呼ばれるアップミキサーを使用してサラウンドサウンドを出力します。

MPEG-H サウンドモード

サウンドモードの種類	説明
MPEG-H	このモードは、テレビ放送などで MPEG-H オーディオが配信されているときに選択できます。MPEG-H を使用すると、高品質なサウンドの音楽プログラムやマルチチャンネルオーディオの映画など、配信される形式に応じたリアルなサウンドの再生を楽しむことができます。

PCM マルチチャンネルサウンドモード

サウンドモードの種類	説明
Multi Ch In	マルチチャンネルの PCM または DSD で収録されたディスクの再生に適したモードです。

AAC サウンドモード

サウンドモードの種類	説明
MPEG-2/MPEG-4 AAC	このモードでは、地上デジタル放送や BS デジタル放送などで MPEG-2/MPEG-4 AAC が配信されているときに選択できます。高品質の音楽番組やマルチチャンネル音声の映画など、臨場感あふれるサラウンド再生が楽しめます。



オリジナルサウンドモード

サウンドモードの種類	説明
Multi Ch Stereo	ステレオサウンドをすべてのスピーカーで楽しむモードです。
Rock Arena	アリーナのライブコンサートの雰囲気を楽しむモードです。
Jazz Club	ライブハウスでのコンサートの雰囲気を楽しむモードです。
Mono Movie	モノラルの映画ソースをサラウンドサウンド再生するモードです。モノラル録音ソースを“Mono Movie”モードで再生する場合、片チャンネル(左または右)では音声が入りきらないため、両チャンネルに入力してください。
Video Game	ビデオゲームのサラウンドサウンド再生に適したモードです。
Matrix	ステレオの音楽ソースに広がり感を加えて楽しむモードです。

オートサウンドモード

サウンドモードの種類	説明
Auto	Dolby Digital, Dolby TrueHD, Dolby Digital Plus, Dolby Digital EX, Dolby Atmos, DTS, DTS-HD, DTS:X, DTS-ES, PCM(マルチチャンネル)など、入力されるデジタル信号の種類を検出し、自動的にそれぞれに対応した再生モードに切り替えます。 入力信号がアナログや PCM(2チャンネル)の場合は、ステレオ再生をおこないません。Dolby Digital や DTS の場合は、それぞれのチャンネル数に応じた再生をおこないません。



ステレオサウンドモード

サウンドモードの種類	説明
Stereo	サラウンド処理をおこなわずに 2 チャンネルステレオ音声を再生するモードです。 <ul style="list-style-type: none">フロントスピーカー(左/右)とサブウーハーから音声を出力します。マルチチャンネル信号を入力しているときは、2 チャンネルの音声にダウンミックスして再生します。

ダイレクトサウンドモード

サウンドモードの種類	説明
Direct	ソースに収録されている音声のまま再生するモードです。
Pure Direct	“Direct”モードよりもさらに高音質の再生をおこなうモードです。 より音質を高めるために次の回路を停止します。 <ul style="list-style-type: none">本体のディスプレイ表示回路(ディスプレイが消灯します。)



入力信号ごとに選択できるサウンドモード

- MOVIE、MUSIC または GAME ボタンで、次のサウンドモードを選択できます。
- メニューの“サラウンドパラメーター”で音場効果を調節すると、より好みのサウンドでお楽しみいただけます。(P.173 ページ)

入力信号	サウンドモード	MOVIEボタン	MUSICボタン	GAMEボタン
2チャンネル *1	Stereo	○	○	○
	Dolby Surround *2*3	○	○	○
	DTS Neural:X *2*3	○	○	○
	DTS Virtual:X *2*4*5	○	○	○
	AURO-3D *2*6	○	○	○
	AURO Surround *2*3	○	○	○
	Multi Ch Stereo	○	○	
	Mono Movie	○		
	Rock Arena		○	
	Jazz Club		○	
	Matrix		○	
	Video Game			○

- *1 2チャンネルには、アナログ入力も含まれます。
- *2 ヘッドホンを使用しているときは選択できません。
- *3 フロントスピーカーのみのスピーカー構成のときには選択できません。
- *4 ハイト、天井およびスピーカーを使用しているスピーカー構成のときは選択できません。
- *5 入力信号が Dolby Digital、Dolby Digital Plus、Dolby TrueHD または Dolby Atmos のときは選択できません。
- *6 フロントハイトまたはフロント Dolby Atmos Enabled スピーカーを使用しないスピーカー構成のときは選択できません。



入力信号	サウンドモード	MOVIEボタン	MUSICボタン	GAMEボタン
マルチチャンネル *7	Stereo	○	○	○
Dolby Digital	Dolby Digital	○	○	○
	Dolby Digital + Dolby Surround *2	○	○	○
	Dolby Digital + Neural:X *2	○	○	○
Dolby Digital Plus	Dolby Digital Plus	○	○	○
	Dolby Digital Plus + Dolby Surround *2 *8	○	○	○
	Dolby Digital Plus + Neural:X *2	○	○	○
	Dolby Atmos *2 *9	○	○	○
Dolby TrueHD	Dolby TrueHD	○	○	○
	Dolby TrueHD + Dolby Surround *2 *8	○	○	○
	Dolby TrueHD + Neural:X *2	○	○	○
	Dolby Atmos *2 *9	○	○	○
Dolby Atmos	Dolby Atmos	○	○	○

*2 ヘッドホンを使用しているときは選択できません。

*7 入力信号の音声フォーマットやチャンネル数によっては、選択できるサウンドモードが異なります。

*8 入力信号に、Dolby Atmos が含まれていない場合に選択できます。

*9 入力信号に、Dolby Atmos が含まれている場合に選択できます。



入力信号		サウンドモード	MOVIEボタン	MUSICボタン	GAMEボタン
マルチチャンネル*7	DTS	DTS Surround	○	○	○
		DTS + Dolby Surround *2	○	○	○
		DTS + Neural:X *2	○	○	○
		DTS + Virtual:X *2 *4	○	○	○
	DTS-HD	DTS-HD	○	○	○
		DTS-HD + Dolby Surround *2	○	○	○
		DTS-HD + Neural:X *2	○	○	○
		DTS-HD + Virtual:X *2 *4	○	○	○
	DTS:X	DTS:X	○	○	○
		DTS:X + Virtual:X *2 *4	○	○	○
	IMAX DTS	IMAX DTS *2 *10	○	○	○
		IMAX DTS + Neural:X *2 *10	○	○	○
IMAX DTS + Virtual:X *2 *4 *10		○	○	○	
IMAX DTS:X	IMAX DTS:X *2 *10	○	○	○	
	IMAX DTS:X + Virtual:X *2 *4 *10	○	○	○	

*2 ヘッドホンを使用しているときは選択できません。

*4 ハイト、天井およびスピーカーを使用しているスピーカー構成のときは選択できません。

*7 入力信号の音声フォーマットやチャンネル数によっては、選択できるサウンドモードが異なります。

*10 メニューの“サラウンドパラメーター” - “IMAX”の設定が“オート”のときに選択できます。“IMAX”の設定が“オフ”の場合は通常の DTS または DTS:X 再生になります。(P.176 ページ)



入力信号	サウンドモード	MOVIEボタン	MUSICボタン	GAMEボタン
PCMマルチチャンネル	Multi Ch In	○	○	○
	Multi Ch In 7.1 *2	○	○	○
	Multi In + Dolby Surround *2	○	○	○
	Multi Ch In + Neural:X *2	○	○	○
	Multi In + Virtual:X *2 *4	○	○	○
MPEG-H	MPEG-H	○	○	○
AAC	MPEG-2 AAC *11	○	○	○
	MPEG-4 AAC *12	○	○	○
	AAC + Dolby Surround *2	○	○	○
	AAC + Neural:X *2	○	○	○
	AAC + Virtual:X *2 *4	○	○	○
マルチチャンネル *7	AURO-3D *2 *6 *13	○	○	○
	AURO Surround *2 *4 *13	○	○	○
	Multi Ch Stereo	○	○	
	Mono Movie *14	○		
	Rock Arena *14		○	
	Jazz Club *14		○	
	Matrix *14		○	
	Video Game *14			○

*2 ヘッドホンを使用しているときは選択できません。

*4 ハイト、天井およびスピーカーを使用しているスピーカー構成のときは選択できません。

*6 フロントハイトまたはフロント Dolby Atmos Enabled スピーカーを使用しないスピーカー構成のときは選択できません。

*7 入力信号の音声フォーマットやチャンネル数によっては、選択できるサウンドモードが異なります。

*11 MPEG-2 信号が入力されたときに選択できます。

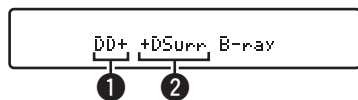
*12 MPEG-4 信号が入力されたときに選択できます。

*13 入力信号が Dolby Atmos、DTS:X、MPEG-H の場合は選択できません。

*14 入力信号が MPEG-H のときは選択できません。



■ ディスプレイの表示について



- ① 使用するデコーダーを表示します。
 - Dolby Digital Plus デコーダーの場合は、“DD+”と表示します。
- ② 音声を生成するデコーダーを表示します。
 - “DSurr”は、Dolby Surround デコーダーを使用していることをあらわします。

HDMI コントロール機能

本機と HDMI コントロール機能対応のテレビやプレーヤーを HDMI ケーブルで接続し、各機器の HDMI コントロール機能の設定を有効にすると、機器間で相互に制御できます。

設定のしかた

- 1 本機の HDMI コントロール機能を有効にする。
メニューの“HDMI コントロール”を“オン”に設定してください。(P.192 ページ)
- 2 HDMI ケーブルで接続しているすべての機器の電源を入れる。
- 3 HDMI ケーブルで接続しているすべての機器の HDMI コントロール機能を有効にする。
 - 接続している機器の設定については、各機器の取扱説明書をご覧ください。
 - いずれかの機器の電源プラグを抜いた場合は、手順 2、3 をおこなってください。
- 4 テレビの入力を、本機に接続した HDMI 入力に切り替える。
- 5 本機の入力ソースを切り替えて、HDMI 接続しているプレーヤーの映像が正しく映ることを確認する。
- 6 テレビの電源をスタンバイにすると、本機とプレーヤーの電源もスタンバイになることを確認する。

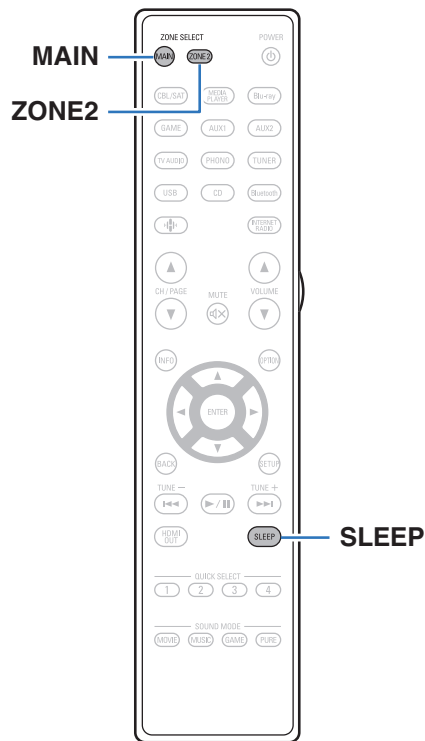
ご注意

- 接続しているテレビやプレーヤーによっては、動作しない機能があります。あらかじめ各機器の取扱説明書をご覧ください。
- HDMI ZONE2 機能は、HDMI コントロール機能に対応していません。
- メニューの“HDMI コントロール”設定が“オン”のときに、HDMI ZONE2 機能を使用すると、HDMI ZONE2 機能が十分に機能しない場合があります。



スリープタイマー機能

設定した時間が経過すると、自動的に電源をスタンバイにすることができます。視聴しながら、おやすみになるときに便利です。スリープタイマー機能は、ゾーンごとに設定できます。



スリープタイマーを設定する

1 MAIN または ZONE2 を押して、リモコンで操作するゾーンを選ぶ。

選択したゾーンのボタンが点灯します。

2 SLEEP を押して、スリープ時間を設定する。

- ディスプレイの SLEEP 表示が点灯して、スリープタイマーが動作します。
- スリープタイマーは、10～120 分の範囲で 10 分ごとに設定できます。

■ 残り時間を確認する

スリープタイマー中に SLEEP を押す。
ディスプレイに残り時間を表示します。

■ スリープタイマーを解除する

SLEEP を押して、“Off”を選ぶ。
ディスプレイの SLEEP 表示が消灯します。



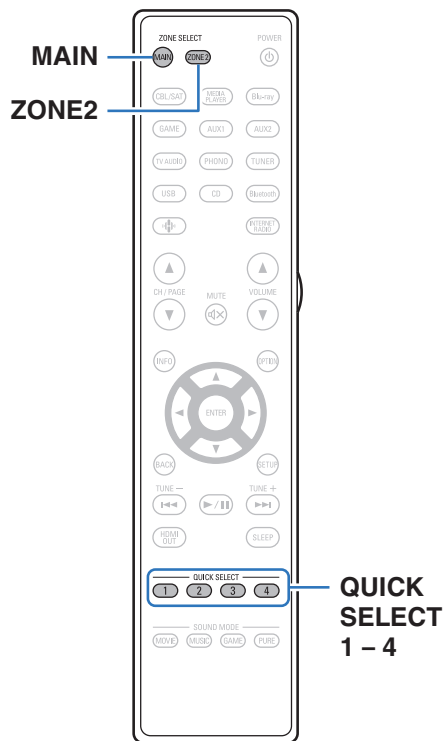
- 本機の電源がスタンバイになると、スリープタイマーの設定を解除します。

ご注意

- スリープタイマー機能では、本機に接続した機器の電源は切れません。接続した機器の電源を切る場合は、接続した機器側でスリープタイマーの設定をおこなってください。



クイックセレクトプラス機能



QUICK SELECT 1~4 ボタンに入カソース、音量レベル、サウンドモードの設定などを登録できます。

次に再生するときは、登録してある QUICK SELECT ボタンを押すだけで、記憶しているさまざまな設定を一度に切り替えることができます。

よく使う設定を QUICK SELECT 1~4 ボタンに記憶させておくと、常に同じ再生環境を簡単に呼び出してお楽しみいただくことができます。

クイックセレクトプラス機能は、ゾーンごとに記憶できます。



- 本体の QUICK SELECT ボタンでは、メインゾーンのみ操作できます。



設定を登録する

- 1** 本機を次の内容を記憶させたい状態にする。
Quick Select Plus 機能では、ゾーンごとに以下の項目を登録できます。

	登録項目	メインゾーン	ZONE2	ページ
1	入力ソース	✓	✓	78
2	音量	✓	✓	79
3	サウンドモード	✓		130
4	チャンネルレベル	✓		122
5	Audyssey (Audyssey MultEQ® XT32, Audyssey Dynamic EQ®, Audyssey Dynamic Volume®, Audyssey LFC™)	✓		184
6	リストアラー	✓		182
7	ダイアログエンハンサー	✓		121
8	チャンネルエキスパンダー	✓		175
9	HDMI ビデオ出力	✓		195
10	ラジオステーション	✓	✓	*
11	スピーカプリセット	✓		128
12	All Zone Stereo	✓		127
13	テレビ音声の共有設定	✓		150
14	Dirac Live	✓		188
15	ビデオセレクト	✓		126

- * 次の入力ソースで、ラジオの受信中に QUICK SELECT を長押しすると、受信中のラジオ局を記憶します。
- Tuner / インターネットラジオ局 / Spotify



2 MAIN または ZONE2 を押して、リモコンで操作するゾーンを選ぶ。

選択したゾーンのボタンが点灯します。

3 ディスプレイに“Quick X Memory”または“Z2 Quick X Memory”が表示されるまで、変更したい QUICK SELECT を長押しする。

現在の設定を記憶します。

X は押された QUICK SELECT の数字を表示します。

■ クイックセレクトの設定項目を変更する

本機では、テレビ画面や本体のディスプレイに表示する MAIN ZONE のクイックセレクト名や、記憶する設定項目を変更できます。

変更のしかたは、メニューの“クイックセレクト”をご覧ください。(P.255 ページ)

■ テレビ音声の共有設定

本機は TV から ARC や eARC 経由で入力された音声や、再生機器から入力された音声を、Dolby Atmos などの入力されたオーディオフォーマットのままメインゾーンでサラウンド再生を楽しみながら、ゾーン 2 で同じコンテンツを再生することができます。

以下の設定をあらかじめ Quick Select に記憶しておくことで、本機能によるメインゾーンとゾーン 2 の再生環境を簡単に呼び出すことができます。

- 1 メインゾーンで再生する入力ソースを選びます。
- 2 本機の ZONE2 ON/OFF を押して、ゾーン 2 の電源を入れる。
- 3 本機の ZONE2 SOURCE を押して、ゾーン 2 の入力ソースを“Source”に設定する。
ゾーン 2 の入力ソースを“Source”にすると、メインゾーンと同じ入力ソースが選択されます。
- 4 ディスプレイに“Quick Select* Memory”が表示されるまで、変更したい QUICK SELECT を長押しする。



設定を呼び出す

1 MAIN または ZONE2 を押して、リモコンで操作するゾーンを選ぶ。

選択したゾーンのボタンが点灯します。

2 QUICK SELECT を押す。

押したボタンに記憶している設定内容を読み出します。

- お買い上げ時の入力ソースの設定は、次のとおりです。

【メインゾーン】 / 【ゾーン 2】

ボタン	入力ソース
QUICK SELECT 1	CBL/SAT
QUICK SELECT 2	Blu-ray
QUICK SELECT 3	Media Player
QUICK SELECT 4	HEOS Music

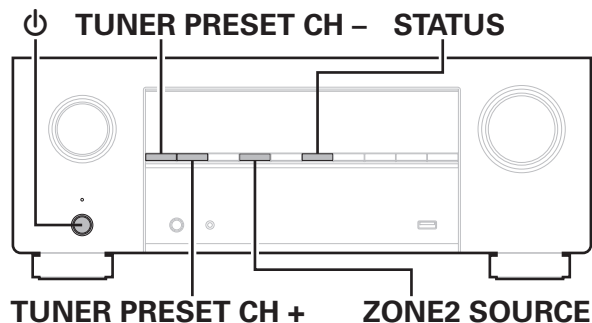


- お買い上げ時の音量は、クイックセレクトプラス機能に記憶されていません。クイックセレクトプラス機能に音量を記憶したい場合は、「設定を登録する」を参照しておこなってください。(P.149 ページ)



フロントキーロック機能


本機を誤って操作してしまうことを防ぐために、フロントパネルのボタン操作を無効にできます。




すべてのボタン操作を無効にする

- 1 本機の電源がスタンバイ状態のときに、TUNER PRESET CH +と ZONE2 SOURCE を押しながら **⏻** を押す。
- 2 TUNER PRESET CH +または TUNER PRESET CH -を押して、“FP/VOL LOCK On”を選ぶ。
- 3 STATUS を押して、設定を確定する。
⏻ 以外のボタン操作が無効になります。

VOLUME以外のすべてのボタン操作を無効にする

- 1 本機の電源がスタンバイ状態のときに、TUNER PRESET CH +と ZONE2 SOURCE を押しながら  を押す。
- 2 TUNER PRESET CH +または TUNER PRESET CH -を押して、“FP LOCK On”を選ぶ。
- 3 STATUS を押して、設定を確定する。
○ および VOLUME 以外のボタン操作が無効になります。

フロントキーロック機能を解除する

- 1 本機の電源がスタンバイ状態のときに、TUNER PRESET CH +と ZONE2 SOURCE を押しながら  を押す。
- 2 TUNER PRESET CH +または TUNER PRESET CH -を押して、“FP LOCK *Off”を選ぶ。
(* は現在の設定モードです。)
- 3 STATUS を押して、設定を確定する。
フロントキーロック機能を解除します。



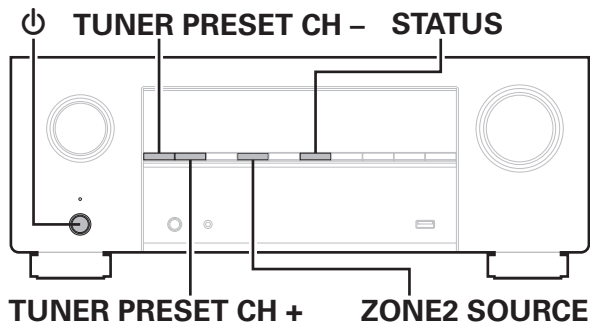
- フロントキーロック機能の設定が有効でも、リモコンによる操作は可能です。



リモートロック機能

本機に赤外線受信機を接続しない場合は、リモートロック機能を無効に設定してください。有効に設定すると、リモコンの操作ができなくなります。

お買い上げ時は無効に設定されています。



リモコンの受信機能を無効にする

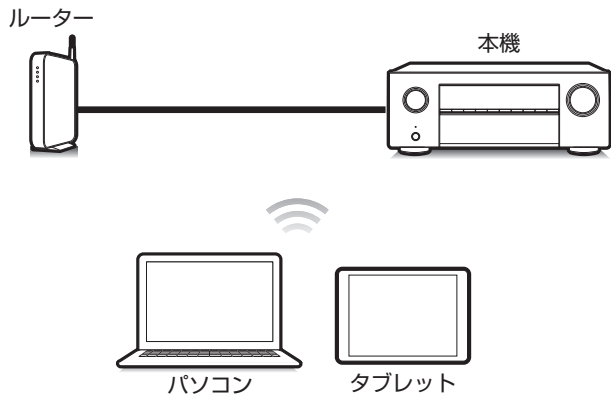
- 1 本機の電源がスタンバイ状態のときに、TUNER PRESET CH +と ZONE2 SOURCE を押しながら ⏻ を押す。
- 2 TUNER PRESET CH +または TUNER PRESET CH -を押して、“RC LOCK On”を選ぶ。
- 3 STATUS を押して、設定を確定する。
リモコン信号の受信機能が無効になります。

リモコンの受信機能を有効にする

- 1 本機の電源がスタンバイ状態のときに、TUNER PRESET CH +と ZONE2 SOURCE を押しながら ⏻ を押す。
- 2 TUNER PRESET CH +または TUNER PRESET CH -を押して、“RC LOCK *Off”を選ぶ。
(* は現在の設定モードです。)
- 3 STATUS を押して、設定を確定する。
リモコン信号の受信機能が有効になります。

ウェブコントロール機能

ブラウザに表示されるウェブコントロール画面を使用して、本機を操作できます。



- ウェブコントロール機能をご使用になるには、本機とパソコンまたはタブレットが同じネットワークに正しく接続されている必要があります。
([P.72](#) ページ)
- セキュリティソフトなどの設定により、パソコンから本機にアクセスできないことがあります。このような場合には、セキュリティソフトの設定を変更してください。

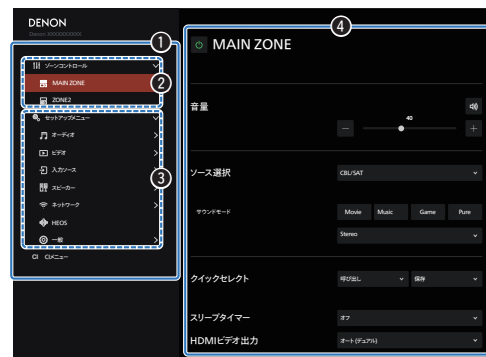


ウェブコントロール機能で本機をコントロールする

ウェブコントロール画面は以下の機能に対応しています。

- ① サイドバーメニュー
- ② コントロールするゾーンを選択
- ③ 設定メニュー
- ④ サイドバーメニューで選択したゾーンやメニューの設定内容

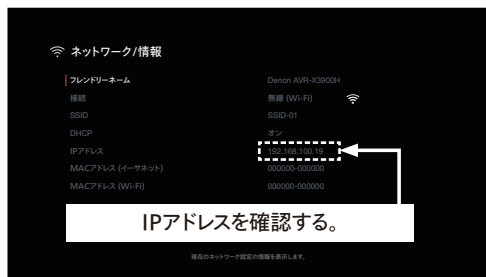
ウェブコントロール画面 トップメニュー



- Audyssey セットアップは、ウェブコントロール画面には対応していません。測定をおこないたい場合は、セットアップメニューからおこなってください。
- “CI メニュー”は、カスタムインストーラーが使用する設定が含まれているため使用しないでください。

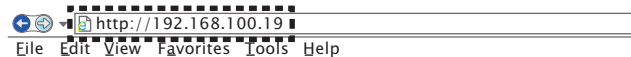


- 1 メニューの“ネットワークコントロール”設定を“常時オン”にする。(P.242 ページ)
- 2 メニューの“情報”で、本機の IP アドレスを確認する。(P.238 ページ)

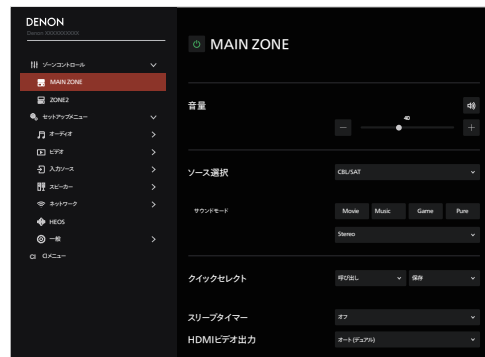


- 3 パソコンまたはタブレットでブラウザを開きます。

- 4 ブラウザのアドレスに、本機の IP アドレスを入力する。
例えば、本機の IP アドレスが“192.168.100.19”の場合は、“http://192.168.100.19”と入力してください。



- 5 ウェブブラウザにトップメニューが表示されたら、操作したいメニュー項目をクリックする。



ゾーン2(別の部屋)での再生

本機を操作して、メインゾーン(本機のある部屋)以外の部屋(ゾーン2)で音声を楽しむことができます。

- メインゾーンおよびゾーン2で同時に同じソースを再生することができます。
- また、メインゾーンおよびゾーン2で別々のソースを再生することもできます。

■ ゾーン2の接続(🔗159 ページ)

「接続1:HDMI ZONE2 端子を使用した接続」(🔗159 ページ)

「接続2:スピーカー出力端子を使用した接続」(🔗159 ページ)

「接続3:外部アンプを使用した接続(ゾーン2)」(🔗160 ページ)

■ ゾーン2で入力ソースを再生する(🔗161 ページ)

「メインゾーンとゾーン2で同じ入力ソースを再生する(テレビ音声共有設定)」(🔗161 ページ)

「メインゾーンとゾーン2で異なる入力ソースを再生する」(🔗163 ページ)

■ ゾーン2の音量を調節する(🔗165 ページ)

「音量を調節する」(🔗165 ページ)

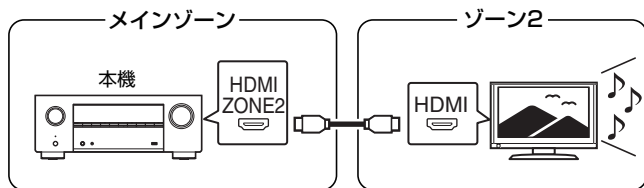
「一時的に音を消す(ミュートイング)」(🔗165 ページ)



ゾーン2の接続

■ 接続 1: HDMI ZONE2 端子を使用した接続

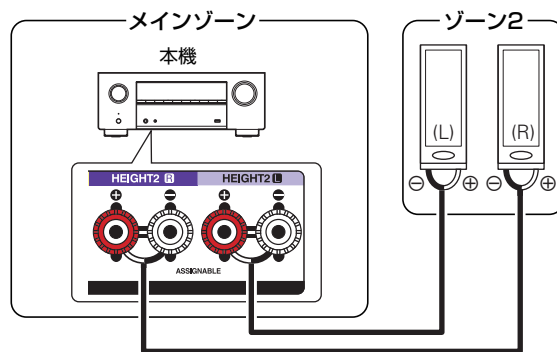
HDMI ZONE2 出力端子にテレビを接続すると、HDMI 1~4 入力端子に接続された機器の映像や音声をゾーン2で再生できます。(HDMI ZONE2 機能)



- HDMI ZONE2 OUT 端子にテレビを接続し、メインゾーンとゾーン2を同じ入力ソースにすると、メインゾーンの音声が2チャンネルになる場合があります。

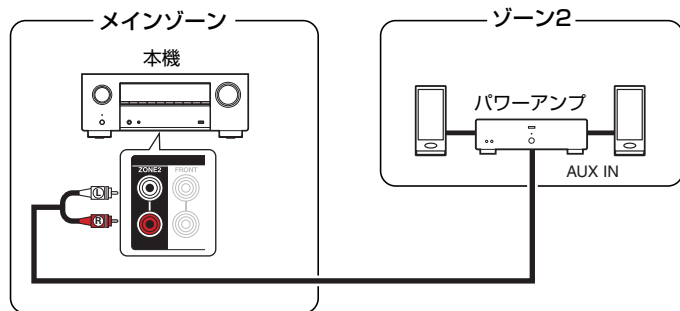
■ 接続 2: スピーカー出力端子を使用した接続

メニューの“アンプの割り当て”を“7.1ch + ZONE2”に設定すると、HEIGHT2 スピーカー端子からゾーン2の音声を出力します。(P.215 ページ)



■ 接続3:外部アンプを使用した接続(ゾーン2)

本機のゾーン2の音声を外部のアンプに出力して再生します。



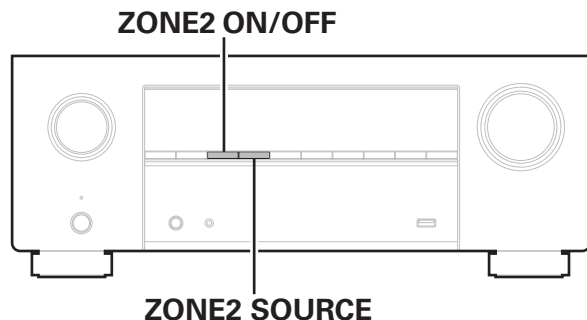
ゾーン2で入力ソースを再生する

■ メインゾーンとゾーン2で同じ入力ソースを再生する(テレビ音声共有設定)

本機のテレビ音声共有設定で、ゾーン2の入力ソースを“Source”に設定することで、ゾーン2の全信号を出力することができます。ARCやeARC経由でテレビから入力された音声や、再生機器から入力された音声を再生する場合、ゾーン2では同じコンテンツを再生しながら、メインゾーンではドルビーアトモスなどの独自の入力音声フォーマットをサラウンドで楽しむことができます。



- 本体の操作でのみ“Source”を入力ソースとして設定できます。



- 1 メインゾーンで再生する入力ソースを選びます。
- 2 本機の ZONE2 ON/OFF を押して、ゾーン2の電源を入れる。
ディスプレイの **Z2** 表示が点灯します。



3 本機の ZONE2 SOURCE を押して、ゾーン 2 の入力ソースを "Source" に設定する。

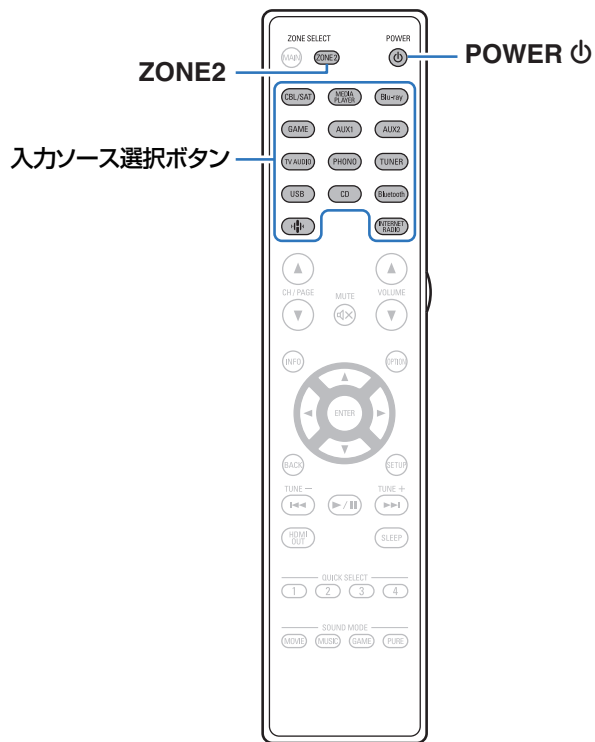
ゾーン 2 の入力ソースに "Source" を選択した場合、メインゾーンの入力ソースに変更されます。"Source" はお買い上げ時の設定です。

- ゾーン 2 で再生できる音声信号は次のとおりです。

入力	出力
	ゾーン 2
デジタル音声 (HDMI)	○
デジタル音声 (COAXIAL/ OPTICAL)	○
アナログ音声	○
USB	○
HEOS ミュージック	○
TUNER	○



■ メインゾーンとゾーン2で異なる入力ソースを再生する



- 1 ZONE2 を押して、リモコンで操作するゾーンをゾーン2 に設定する。**
ZONE2 ボタンが点灯します。
- 2 POWER ㊤ を押して、ゾーン2 の電源を入れる。**
ディスプレイの **Z2** 表示が点灯します。
 - 本体の ZONE2 ON/OFF を押しても、ゾーン2 の電源をオン/オフできます。



3 入力ソース選択ボタンを押して、再生する入力ソースを選ぶ。

選択した入力ソースの音声を、ゾーン2のスピーカーに出力します。

- 本体の ZONE2 SOURCE を押してもゾーン2の入力ソースを選択できます。ZONE2 SOURCE を押すたびに、入力ソースが切り替わります。
- ゾーン2で再生できる音声信号は次のとおりです。

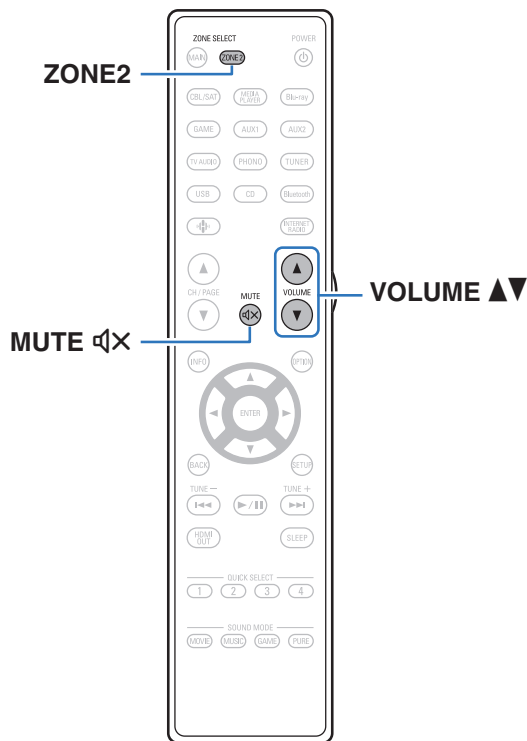
入力	出力
	ゾーン2
デジタル音声(HDMI)	○*1
デジタル音声(COAXIAL/ OPTICAL)	○*2
アナログ音声	○
USB	○
HEOS ミュージック	○
TUNER	○

*1 PCM2 チャンネル以外の HDMI 信号をゾーン2で再生したい場合は、“HDMI オーディオ”を“PCM”に設定してください。(P.253 ページ)

*2 PCM2 チャンネル信号にのみ対応しています。



ゾーン2の音量を調節する



■ 音量を調節する

- 1 ZONE2 を押して、リモコンで操作するゾーンをゾーン2 に設定する。
ZONE2 ボタンが点灯します。
- 2 VOLUME ▲▼ を押して、音量を調節する。
 - お買い上げ時は、“音量の上限”を“70 (-10 dB)”に設定しています。(P.253 ページ)



- 本体の ZONE2 SOURCE を押したあとに MASTER VOLUME を回しても、ゾーン2 の音量を調節できます。

■ 一時的に音を消す(ミュートイング)



- 1 ZONE2 を押して、リモコンで操作するゾーンをゾーン2 に設定する。
ZONE2 ボタンが点灯します。
- 2 MUTE ㊗️ を押す。
メニューの“ミュートインレベル”で設定したレベルまで音量が減衰します。(P.254 ページ)
 - ミュートイングを解除するときには、音量を調節するか、もう一度 MUTE ㊗️ を押してください。



メニュー 一覧

メニューの操作をおこなうときは、本機にテレビを接続し、テレビ画面を見ながら操作してください。


本機のお買い上げ時の設定は、おすすめの設定にしております。ご使用のシステムやお好みに合わせて本機をカスタマイズすることができます。

設定項目	詳細項目	内容	関連ページ
 オーディオ	サブウーハーレベルの調節	すべての入力ソースに対して、サブウーハーチャンネルの音量を調節します。	172
	低音の位相補正	低音の位相のずれを補正します。	172
	サラウンドパラメーター	音場効果を調節します。	173
	リストアラー	MP3 などの圧縮オーディオを再生するときに、低域や高域を拡張して、より豊かな再生をします。	182
	音量	メインゾーン(本機のある部屋)の音量に関する設定をします。	183
	バイリンガルモード	AAC ソースの二重音声の出力内容を設定します。	184
	Audyssey	Audyssey MultEQ® XT32、Audyssey Dynamic EQ®, Audyssey Dynamic Volume®および Audyssey LFC™ の設定をします。	184
	Dirac Live	Dirac Live フィルターを選択します。	188
	グラフィック EQ	グラフィックイコライザーを使用して、各スピーカーの音色を調節します。	188
 ビデオ	HDMI 設定	HDMI オーディオ出力、HDMI パススルーおよび HDMI コントロールの設定をします。	190
	ビデオ出力の設定	映像出力に関する設定をします。	195
	オンスクリーンディスプレイ	オンスクリーンディスプレイに関する設定をします。	196
	スクリーンセーバー	スクリーンセーバーを設定します。	197
	4K/8K 信号フォーマット	4K または 8K のテレビや再生機器に応じて、本機の HDMI 入出力の映像フォーマットを設定します。	198
	HDCP 設定	HDMI 入力端子が割り当てられている入力ソースごとに HDCP バージョンを設定します。	199




設定項目	詳細項目	内容	関連ページ
 入力ソース	入力端子の割り当て	入力端子の割り当てや音声入力モードを変更します。	200
	入力ソース名の変更	入力ソースの表示名を変更します。	203
	使用ソースの選択	使用しない入力ソースを表示しないように設定します。	203
	ソースレベル	選択した入力ソースの音声入力の再生レベルを補正します。	203
 スピーカー	Audyssey®セットアップ	接続されたスピーカーやリスニングルームの音響特性を測定し、最適な設定を自動的に おこないます。	204
	マニュアルセットアップ	スピーカーを手動で設定する場合や、Audyssey®セットアップおよび Dirac Live® Room Correction で測定した内容を変更するときにおこなってください。	215
	Dirac Live セットアップ	Dirac Live Room Calibration の使用に関する情報を表示します。	237
 ネットワーク	情報	ネットワークの情報を表示します。	238
	接続	ネットワーク接続方式を設定します。	238
	詳細な設定	DHCP や IP アドレスの設定をします。	241
	ネットワークコントロール	電源がスタンバイ状態でのネットワーク機能の設定をします。	242
	フレンドリーネーム	ネットワーク上に表示されている本機の名称を編集します。	243
	診断	ネットワークの接続を確認します。	243
	AirPlay	Apple AirPlay 機能を設定します。	244
	Spotify Connect	Spotify Connect へのアクセスをオン/オフします。	245
	Roon Ready	Roon Ready へのアクセスをオン/オフします。	245
	Qobuz Connect	Qobuz Connect へのアクセスをオン/オフします。	245
Wi-Fi と Bluetooth	Wi-Fi および Bluetooth 無線の電源を切り替えます。	245	




設定項目	詳細項目	内容	参照ページ
 HEOS	【HEOS アカウントでサインインしていない場合】		
	"_"	HEOS アプリのダウンロードを案内します。	246
	【HEOS アカウントでサインインしている場合】		
	サインイン中	サインインしているアカウントを表示します。	246

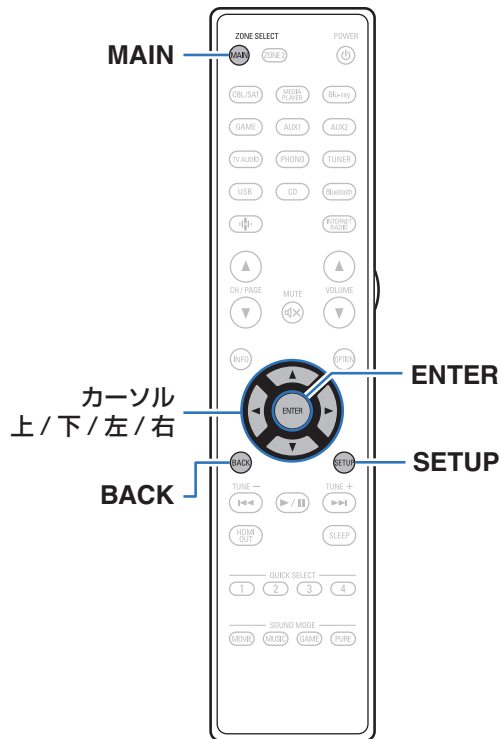


設定項目	詳細項目	内容	関連ページ
 一般	言語	テレビ画面に表示するメニューの言語を設定します	247
	オーナーズマニュアル	モバイル機器からオンラインの取扱説明書にアクセスします。	247
	エコ設定	エコモードとオートスタンバイの省電力機能の設定をします。	247
	Bluetooth 送信	Bluetooth 送信の設定をします。	251
	ゾーン 2 の設定	ゾーン 2 で再生する音声の設定をします。	252
	ゾーン名の変更	ゾーンの表示名をお好みの名前に変更します。	254
	クイックセレクト	“クイックセレクト”登録時に、設定を記憶する項目を設定します。	255
	トリガーアウト	トリガーアウト機能を動作させる条件を選択します。	256
	フロントディスプレイ	本機のディスプレイの明るさを調節します。	257
	ファームウェア	アップデートについて、ファームウェアの最新情報の確認や更新の実施、および通知メッセージの表示の設定をします。	258
	情報	本機の設定状態や入力信号などの情報を表示します。	260
	使用状況の送信設定	お客様の使用状況の情報を当社へ送信するかしないかの設定をします。	262
	セーブ&ロード	USB メモリーを使用して、本機の設定を保存または復元します。	262
	セットアップロック	設定した内容を変更できないようにロックします。	263
	初期化	各種設定がお買い上げ時の設定に戻ります。	263



設定項目	詳細項目	内容	関連ページ
 セットアップアシスタント	初めから設定を行う	テレビ画面に表示されるガイダンスに沿って、基本的な設置/接続/設定を最初からおこないます。	別冊の「かんたんスタートガイド」の9ページ
	言語の設定	テレビ画面に表示されるガイダンスに沿って、項目ごとに設定をおこないます。	
	ネットワークの設定		
	スピーカーの設定		
	スピーカーの測定		
	テレビ音声の設定		
	入力の設定		
	モバイルアプリ		





メニュー操作のしかた

- 1 MAIN を押して、リモコンで操作するゾーンをメインゾーンに設定する。
MAIN ボタンが点灯します。
- 2 SETUP を押す。
テレビ画面にメニューを表示します。
- 3 カーソル 上/下/右を押して設定または操作したい設定メニューを選び、ENTER を押す。
- 4 カーソル 左/右を押して、お好みの設定に変更する。
- 5 ENTER を押して、設定を確定する。
 - 前の項目に戻るときは、BACK を押してください。
 - メニューを終了するときには、メニュー表示中に SETUP を押してください。メニュー表示が消灯します。



オーディオ

音声に関する設定をします。

サブウーハーレベルの調節

すべての入力ソースに対して、サブウーハーチャンネルの音量を調節します。

■ サブウーハー 1 / サブウーハー 2 / サブウーハー 3 / サブウーハー 4

サブウーハー 1、サブウーハー 2、サブウーハー 3 およびサブウーハー 4 の音量レベルを調節します。

-12.0 dB~+12.0 dB(お買い上げ時の設定:0.0 dB)



- この設定は、メニューの“スピーカー” - “レベル”設定のサブウーハーチャンネルレベルにも反映します。(P.231 ページ)
- サブウーハーの名前は、“サブウーハーモード” (P.225 ページ) と“サブウーハーレイアウト” (P.225 ページ) の設定によって変わります。

低音の位相補正

ブルーレイディスクなどマルチチャンネルで収録されているコンテンツでは、低音(LFE)が遅れて収録されている場合があります。本機能を使用すると、この低音(LFE)の遅れを補正します。

0 ms~16 ms (お買い上げ時の設定:0 ms)



- ディスクによって低音(LFE)の遅れが異なります。お好みで設定してください。
- “低音の位相補正”の設定は、入力ソースごとに記憶します。
- 入力信号に LFE 信号が含まれる場合に設定できます。



サラウンドパラメーター

サラウンド音声の音場効果をお好みにあわせて調節できます。調節できる項目(パラメーター)は、再生している信号や選択しているサウンドモードによって異なります。



- 設定項目の中には再生停止中に設定できないものがあります。設定は再生中におこなってください。
- “サラウンドパラメーター”の設定は、サウンドモードごとに記憶します。

シネマ EQ

映画のせりふの高域成分をやわらげ、聞きやすくします。

オン: “シネマ EQ”を使用します。

オフ
(お買い上げ時の設定): “シネマ EQ”を使用しません。



- サウンドモードが“Direct”、“Pure Direct”、“Stereo”および“オリジナルサウンドモード”の場合は設定できません。

■ ラウドネスマネージメント

“ダイナミックレンジ圧縮”で設定した内容で出力するか、ディスクに記録されている音声のダイナミックレンジを圧縮せずにそのまま出力するかを設定します。

オン
(お買い上げ時の設定): “ダイナミックレンジ圧縮”の設定およびダイアログノーマライゼーションを有効にした内容で出力します。

オフ: “ダイナミックレンジ圧縮”の設定およびダイアログノーマライゼーションが無効になり、ディスクに記録されている信号をそのまま出力します。



- “LOUDNESS MANAGEMENT”は、Dolby Digital、Dolby Digital Plus、Dolby TrueHD または Dolby Atmos 信号を入力しているときに設定できます。



■ ダイナミックレンジ圧縮

ダイナミックレンジ(静かな音と大きな音のレベル差)を圧縮します。

オート:	再生するソースによってダイナミックレンジの圧縮を自動でオン/オフします。
弱 / 中 / 強:	ダイナミックレンジの圧縮量を設定します。
オフ (お買い上げ時の設定):	ダイナミックレンジを圧縮しません。



- “ダイナミックレンジ圧縮”は、Dolby Digital、または Dolby Digital Plus、Dolby TrueHD、Dolby Atmos、DTS 信号のいずれかが入力され、ダイナミックレンジ圧縮と互換性がある場合に設定できます。
- DTS 信号を入力しているときは、“オート”に設定できません。

■ ダイアログコントロール

映画のせりふや音楽のボーカルの音量を調節し、聴きやすくします。

0~6(お買い上げ時の設定:0)



- ダイアログコントロール機能に対応した DTS:X 信号を入力しているときに設定できます。

■ LFE

低域信号(LFE)レベルを調節します。

-10 dB~0 dB(お買い上げ時の設定:0 dB)



- 入力信号に LFE 信号が含まれている場合に設定できます。
- Dolby Digital、DTS または DVD オーディオ信号を再生しているときに設定できます。
- 各ソースを正しく再生するために、次の値に設定することをおすすめします。
 - Dolby Digital ソース:0 dB
 - DTS の映画ソース:0 dB
 - DTS の音楽ソース:-10 dB



■ スピーカーバーチャライザー

スピーカーバーチャライザー機能は、サラウンドスピーカーおよびハイトスピーカーを使用していない場合でも、仮想的に臨場感のあるサラウンド効果を実現します。

オン
(お買い上げ時の設定): “スピーカーバーチャライザー”機能を有効にします。

オフ: “スピーカーバーチャライザー”機能を無効にします。



- サウンドモードが“Dolby Atmos”、“Dolby Surround”またはサウンドモード名に“+Dolby Surround”が含まれているサウンドモードのときに設定できます。
- ハイトスピーカー、天井スピーカーおよび Dolby Atmos Enabled スピーカーを使用していないとき、またはサラウンドスピーカーを使用していないときに使用できます。
- メニューの“スピーカーレイアウト” - “サラウンドバック”を“1台”に設定しているときに、“スピーカーバーチャライザー”を“オン”に設定すると、サラウンドバックスピーカーから音声は出力されません。

■ チャンネルエキスパンダー

再生する音源に、ご使用のスピーカーレイアウトに対応する音声チャンネルがない場合でも、Denon の高度な音声処理技術により、隣接するチャンネルの音声を合成して再生します。これにより、利用可能なすべてのスピーカーから臨場感あふれるサウンドをお楽しみいただけます。

強: 入力信号に存在しないチャンネルを補完するために、最大限の拡張処理をおこないます。

弱: 入力信号に存在しないチャンネルを補完するために、若干の拡張処理をおこないます。

オフ
(お買い上げ時の設定): お買い上げ時の音声チャンネルでは、拡張することなく指定されたスピーカーを通して直接出力されます。



- サウンドモードが“Dolby Atmos”のときに設定できます。
- “チャンネルエキスパンダー”は、スピーカーレイアウト設定で9台以上のスピーカーを使用する場合に設定します。
- “スピーカーバーチャライザー”が“オン”のときは設定できません。



■ センターの広がり

センターチャンネルの音声をフロント左右に振り分け、前方の音場イメージを広げます。主にステレオ音楽コンテンツの再生に最適なサラウンド効果を与えます。

オン: “センターの広がり”を使用します。

オフ
(お買い上げ時の設定): “センターの広がり”を使用しません。



- サウンドモードが“Dolby Surround”のときに設定できます。

■ DTS Neural:X

DTS Neural:X は、DTS:X 信号に含まれるチャンネルベース信号を抽出し、ご使用のスピーカーの設置環境に合わせて最適なサラウンド効果を与えます。

オン
(お買い上げ時の設定): “DTS Neural:X”を使用します。

オフ: “DTS Neural:X”を使用しません。



- サウンドモードが“DTS:X”のときに設定できます。

■ IMAX

IMAX 再生用のオーディオモードを設定します。

オート IMAX コンテンツを検出したときに、
(お買い上げ時の設定): IMAX モードを自動的に適用します。

オフ: IMAX モードを適用しません。



- ヘッドホンを使用しているときは設定できません。



■ IMAX オーディオ設定

IMAX シアターの環境を再現するために、IMAX 専用のオーディオ設定をおこないます。

オート
(お買い上げ時の設定): IMAX シアター環境を再現するのに最適なスピーカー設定を適用します。

マニュアル: “ハイパスフィルター”、“ローパスフィルター”および“サブウーハー出力”を手動で設定します。



- サウンドモードが“IMAX DTS”または“IMAX DTS:X”のときに設定できます。
- IMAX 再生中はメニューの“スピーカー” - “クロスオーバー周波数”、“低音” - “サブウーハー出力”および“LFE 用ローパスフィルター”の設定は適用しません。

■ ハイパスフィルター

IMAX 再生中のすべてのスピーカーのハイパスフィルターのカットオフ周波数を設定します。

40 Hz / 60 Hz / 70 Hz / 80 Hz / 90 Hz / 100 Hz / 110 Hz / 120 Hz / 150 Hz / 180 Hz / 200 Hz / 250 Hz
(お買い上げ時の設定: 80 Hz)



- メニューの“IMAX オーディオ設定”の設定が“マニュアル”のときに設定できます。

■ ローパスフィルター

IMAX 再生中の LFE 信号のローパスフィルターのカットオフ周波数を設定します。

70 Hz / 80 Hz / 90 Hz / 100 Hz / 110 Hz / 120 Hz / 150 Hz / 180 Hz / 200 Hz / 250 Hz (お買い上げ時の設定: 120 Hz)



- メニューの“IMAX オーディオ設定”の設定が“マニュアル”のときに設定できません。

■ サブウーハー出力

IMAX 再生中にサブウーハーで再生する低音域信号を設定します。

LFE + メイン:

サブウーハー用の信号に、すべてのスピーカーの低音域信号を加えて出力します。LFE 信号および各スピーカーの低音成分を再生します。

LFE

(お買い上げ時の設定): LFE 信号のみ再生します。



- メニューの“IMAX オーディオ設定”の設定が“マニュアル”のときに設定できます。



■ Auro-Matic プリセット

Auro-Matic プリセットは特定の音声素材に合わせて AURO-3D を効果的に再生するために調整されたプリセットです。

小:	ポップミュージックや室内楽に最適なプリセットです。
標準 (お買い上げ時の設定):	“標準”は、ジャズ音楽や一般的な映画、テレビ番組に最適なプリセットです。
大:	オーケストラなど大きなスペースで収録されたコンテンツに最適なプリセットです。
ムービー:	大きな爆発音のシーンがあるアクション映画など、映画コンテンツに最適なプリセットです。
スピーチ:	ニュース放送などほとんどが対話で空間情報を持たないようなコンテンツに最適なプリセットです。



- サウンドモードが“AURO-3D”または“AURO Surround”のときに設定できます。
- 入力信号にハイトチャンネルを含む AURO-3D 信号が含まれている場合は設定できません。

■ Auro-Matic レベル

もとの入力信号に対してアップミックスチャンネルのレベルを変更します。
値は 0(アップミックスなし)から 15(最大効果)の範囲で設定できます。

0~15(お買い上げ時の設定: 12)



- サウンドモードが“AURO-3D”または“AURO Surround”のときに設定できます。
- 入力信号にハイトチャンネルを含む AURO-3D 信号が含まれている場合は設定できません。



■ AURO-3D モード

AURO-3D 信号が入力されているときの再生方法を選択します。

チャンネルの拡張

(お買い上げ時の設定):

入力された AURO-3D コンテンツを追加されたスピーカーに拡張します。AURO-3D 用に設定されたすべてのスピーカーから音声が出力されます。

ダイレクト:

入力された AURO-3D 信号を取録されたチャンネルのまま再生します。チャンネルの拡張は起こりません。



- サウンドモードが“AURO-3D”で入力信号に AURO-3D 信号が含まれているときに設定できます。

■ ディレイタイム

サラウンドチャンネルの遅延時間を調節します。

0 ms~300 ms(お買い上げ時の設定: 30 ms)



- サウンドモードが“Matrix”のときに設定できます。

■ エフェクトレベル

音響効果のレベルを調節します。

1~15(お買い上げ時の設定: 10)



- サウンドモードが“Rock Arena”、“Jazz Club”、“Mono Movie”および“Video Game”のときに設定できます。
- サラウンド信号の定位感や位相感が不自然に感じる場合は、低いレベルに設定してください。



■ ルームサイズ

音場空間の大きさのイメージを設定します。

小:	小さな音場空間のイメージ
やや小:	やや小さな音場空間のイメージ
標準 (お買い上げ時の設定):	標準的な音場空間のイメージ
やや大:	やや大きな音場空間のイメージ
大:	大きな音場空間のイメージ



- サウンドモードが“Rock Arena”、“Jazz Club”、“Mono Movie”および“Video Game”のときに設定できます。
- “ルームサイズ”は、再生する部屋の大きさをあらかずものではありません。

■ スピーカー選択

現在のサウンドモードに応じて、音声を出力するスピーカーを設定します。

フロア:	ハイトスピーカーを使用せずに再生します。
フロア&ハイト (お買い上げ時の設定):	ハイトスピーカーを使用して再生します。



- サウンドモードがオリジナルサウンドモードのときは設定できません。



■ サブウーハー

サブウーハー出力のオン/オフを設定します。

オン
(お買い上げ時の設定): サブウーハーを使用します。

オフ: サブウーハーを使用しません。



- サウンドモードが“Direct”または“Stereo”で、メニューの“サブウーハー出力”の設定が“LFE + メイン”のときに設定できます。(P.233 ページ)

■ 初期化

“サラウンドパラメーター”で設定した内容がお買い上げ時の設定に戻ります。



リストアラー

MP3 や WMA (Windows Media Audio)などの圧縮オーディオフォーマットは、人間の耳には聞こえにくい部分の信号を省いてデータ量を減らしています。“リストアラー”は、圧縮処理をするときに省かれた信号を生成し、圧縮する前の音に近い状態に復元する機能です。同時に低音域の量感の補正もおこないますので、圧縮オーディオ信号をより豊かに再生できます。

■ モード

強:	高域が極端に少ない圧縮音声ソースに対して、最適なモードです。(64kbps 以下)
中:	圧縮音声全般に対して、低域と高域を適切に補正します。(96kbps 以下)
弱:	高域が十分にある圧縮音声ソースに対して、最適なモードです。(96kbps 以上)
オフ (お買い上げ時の設定):	“リストアラー”を使用しません。



- アナログ入力や PCM 信号(サンプリング周波数=44.1/48kHz)が入力されたときに設定できます。
- サウンドモードが“Direct”または“Pure Direct”のときは設定できません。
- “リストアラー”の設定は、入力ソースごとに記憶します。



音量

メインゾーン(本機のある部屋)の音量に関する設定をします。

■ 表示方法

音量の表示方法を設定します。

0 - 98
(お買い上げ時の設定): 0(最小)~98の範囲で表示します。

-79.5 dB - 18.0 dB: ---dB(最小)、-79.5dB~18.0dBの範囲で表示します。



- “表示方法”の設定は、すべてのゾーンに反映します。

■ 音量の上限

音量の上限を設定します。

40~80(-40 dB~0 dB)

オフ (お買い上げ時の設定)



- “表示方法”の設定が“-79.5 dB - 18.0 dB”のときに dB 値を表示します。(☞183 ページ)

■ 電源オン時の音量

電源をオンにしたときの音量を設定します。

前回の音量
(お買い上げ時の設定): 最後に使用したときの音量に設定します。

消音: 消音状態に設定します。

1 - 98
(-79 dB - 18 dB): 特定の値に設定します。



- “表示方法”の設定が“-79.5 dB - 18.0 dB”のときに dB 値を表示します。(☞183 ページ)

■ ミューティングレベル

ミュート時の音量の減衰量を設定します。

消音
(お買い上げ時の設定): 消音状態に設定します。

-40 dB: 現在の音量から 40dB 低く設定します。

-20 dB: 現在の音量から 20dB 低く設定します。



バイリンガルモード

AAC ソースの二重音声を再生するときの出力内容を設定します。

■ モード

主音声 (お買い上げ時の設定):	主音声のみ出力します。
副音声:	副音声のみ出力します。
主/副:	主音声は左チャンネルから、副音声は右チャンネルから出力します。
主+副:	主音声と副音声をミックスして出力します。

Audyssey®

Audyssey MultEQ® XT32、Audyssey Dynamic EQ®、Audyssey Dynamic Volume®および Audyssey LFC™の設定をします。これらの設定は、Audyssey®セットアップをおこなったあとに設定できます。

Audyssey 技術に関する詳細な情報については、「用語の解説」(P.315 ページ)をご覧ください。



- “MultEQ® XT32”、“Dynamic EQ”、“リファレンスオフセット”、“サウンドレベル補正”、“Dynamic Volume”、“Audyssey LFC™”および“抑制量”の設定は、入力ソースごとに記憶します。
- サウンドモードが“Direct”または“Pure Direct”の場合、“MultEQ® XT32”、“Dynamic EQ”、“Dynamic Volume”および“Audyssey LFC™”の設定はできません。
- サウンドモードが“DTS Virtual:X”またはサウンドモード名に“+Virtual:X”を含む場合、“Dynamic EQ”、“Dynamic Volume”および“Audyssey LFC™”の設定はできません。
- 48kHz を超えるサンプリング周波数で DTS:X 信号が入力された場合は設定できません。



■ MultEQ® XT32

MultEQ® XT32 は、Audyssey®セットアップの測定結果に基づき、リスニング環境における時間特性と周波数特性の両方を補正します。3 種類の補正カーブから選択できます。

“Reference”に設定することをおすすめします。

Reference (お買い上げ時の設定):	映画コンテンツに最適になるように補正します。
L/R Bypass:	フロントスピーカー以外のスピーカーを最適に補正します。
Flat:	スピーカーとリスニングポイントとの距離が近い、小さめの部屋に最適となるように補正します。
オフ:	“MultEQ® XT32” を使用しません。



- ヘッドホン使用時、“MultEQ® XT32” の設定は自動的に“オフ”になります。

■ Dynamic EQ

人間の聴覚や部屋の音響特性を考慮し、音量レベルを下げた際に発生する音質の低下を防ぎます。

MultEQ® XT32 と連動して動作します。

オン
(お買い上げ時の設定): “Dynamic EQ” を使用します。

オフ: “Dynamic EQ” を使用しません。



- メニューの“Dynamic EQ”の設定が“オン”のときは、“トーンコントロール”の調節はできません。(P.123 ページ)
- “MultEQ® XT32”の設定が“オフ”のときは設定できません。



■ リファレンスオフセット

作成されたコンテンツに対して、オフセットレベルの設定が可能です。

Audyssey Dynamic EQ[®]は、一般的なフィルム（映画など）のミキシングレベルをリファレンスとしています。音量レベルが0dB から下げられた際にミキシング特性・サラウンド効果を常にコンテンツが作成された本来の特性に自動的に補正します。しかし、フィルムのリファレンスはミュージックやテレビ番組などフィルム以外のコンテンツの作成には使用されていない場合もあります。Dynamic EQ は、フィルム作成時に使用される標準のリファレンスレベルを使用せずに作成されたコンテンツに対してオフセットレベルの設定(5dB/10dB/15dB)が可能です。コンテンツに対する推奨の設定レベルは、次のようになります。

0 dB (フィルムリファレンス) (お買い上げ時の設定):	映画などのコンテンツに最適です。
5 dB:	クラシック音楽のような非常に広いダイナミックレンジを持ったコンテンツに適しています。
10 dB:	ジャズなどの広めのダイナミックレンジを持ったミュージックコンテンツやテレビ番組に適しています。
15 dB:	ポップやロックなどの非常に高い音量レベルのコンテンツや、圧縮されたダイナミックレンジを持つコンテンツに適しています。



- メニューの“Dynamic EQ”の設定が“オン”のときに設定できます。
(185 ページ)

■ サラウンドレベル補正

Audyssey Dynamic EQ 使用時、本機の音量設定がリファレンスレベルよりも下回っている場合、音量設定に合わせて視聴位置の後方に位置するチャンネルの音量を増幅することでサラウンド体験を維持します。

サラウンドレベル補正では、増幅量を調整することができません。

Heavy (お買い上げ時の設定):	Dynamic EQ がオンの場合、お使いの音量に合わせてサラウンドチャンネルとリアチャンネルのレベルが最大 8.5dB 増加します。
Medium:	Dynamic EQ がオンの場合、お使いの音量に合わせてサラウンドチャンネルとリアチャンネルのレベルが最大 5.6dB 増加します。
Light:	Dynamic EQ がオンの場合、お使いの音量に合わせてサラウンドチャンネルとリアチャンネルのレベルが最大 2.8dB 増加します。
オフ:	Dynamic EQ がオンの場合、サラウンドチャンネルとリアチャンネルのレベルは補正されません。



- メニューの“Dynamic EQ”の設定が“オン”のときに設定できます。
(185 ページ)



■ Dynamic Volume

テレビや映画などで再生するコンテンツ内における音量レベルの変化(静かな音のシーンと大きな音のシーンの差など)をお好みの音量設定値に自動的に調節します。

MultEQ® XT32 と連動して動作します。

Heavy: 音量レベルを最大に設定します。すべての音を一定の大きさにします。

Medium: 音量レベルを中間に設定します。平均的な音より大きな音と小さな音を調節します。

Light: 音量レベルを最小に設定します。非常に大きな音と非常に小さな音を調節します。

オフ
(お買い上げ時の設定): “Dynamic Volume” を使用しません。



- “Audyssey®セットアップ”で“Dynamic Volume”を“はい”に設定した場合は、自動的に“Medium”になります。(P.204 ページ)
- “MultEQ® XT32”の設定が“オフ”のときは設定できません。

■ Audyssey LFC™

低音周波数帯域を調節し、隣の部屋に低音や振動が漏れることを防ぎます。

MultEQ® XT32 と連動して動作します。

オン: “Audyssey LFC™”を使用します。

オフ
(お買い上げ時の設定): “Audyssey LFC™”を使用しません。



- “MultEQ® XT32”の設定が“オフ”のときは設定できません。

■ 抑制量

抑制する低域の量を調節します。隣の部屋に低音が漏れるのを防ぎたい場合は、より高い値を設定してください

1~7(お買い上げ時の設定:4)



- メニューの“Audyssey LFC™”の設定が“オン”のときに設定できません。



Dirac Live

■ フィルター

Dirac Live を設定します。Dirac Live Room Correction を実行した後に設定できるようになります。詳しくは、Dirac Live の取扱説明書をご覧ください。

<https://manuals.denon.com/DiracLive/ALL/JA>



- Dirac Live を使用するには、Dirac Live ライセンスを購入する必要があります。(P.237 ページ)

グラフィックEQ

グラフィックイコライザーを使用して、各スピーカーの音色を調節します。



- 設定可能なスピーカーは、サウンドモードによって異なります。
- “MultEQ® XT32” の設定が“オフ”のときに設定できます。(P.185 ページ)
- サウンドモードが“Direct”または“Pure Direct”のときは設定できません。
- ヘッドホンをご使用の場合は、ヘッドホン用のイコライザーを設定できます。(P.188 ページ)

■ グラフィックEQ / ヘッドホンEQ

グラフィックイコライザーを使用するかしないかを設定します。

オン:	グラフィックイコライザーを使用します。
オフ (お買い上げ時の設定):	グラフィックイコライザーを使用しません。



- ヘッドホンを使用しているとき、メニュー項目は“ヘッドホンEQ”になります。



■ スピーカーの選択方法

スピーカーの音色の調節を個々におこなうか、まとめておこなうかを選択します。

すべて:	すべてのスピーカーの音色をまとめて調節します。
左右 (お買い上げ時の設定):	左右のスピーカーの音色をまとめて調節します。
各スピーカー:	スピーカーごとに音色を調節します。

■ EQ 調節

周波数帯域ごとの音色を調節します。

1. スピーカーを選ぶ。
2. 調節する周波数帯を選ぶ。
63 Hz / 125 Hz / 250 Hz / 500 Hz / 1 kHz /
2 kHz / 4 kHz / 8 kHz / 16 kHz
3. レベルを調節する。
-20.0 dB ~ +6.0 dB (お買い上げ時の設定: 0.0 dB)



- フロント Dolby、サラウンド Dolby およびバック Dolby スピーカーは、63 Hz/125 Hz/250 Hz/500 Hz/1 kHz のみ設定できます。

■ カーブコピー

Audyssey®セットアップで作られた Flat の補正カーブをコピーします。



- “カーブコピー”は、Audyssey®セットアップをおこなったあとに表示します。
- ヘッドホンをご使用の場合は、“カーブコピー”はできません。

■ 初期化

“グラフィック EQ”で設定した内容がお買い上げ時の設定に戻ります。



ビデオ

映像に関する設定をします。

HDMI 設定

HDMI オーディオ出力、HDMI パススルーおよび HDMI コントロールの設定をします。

ご注意

- “HDMI パススルー”および“HDMI コントロール”を“オン”に設定している場合は、スタンバイ時の待機電力を多く消費します。(「HDMI パススルー」(P.190 ページ)、「HDMI コントロール」(P.192 ページ))
長期間本機を使用しない場合は、電源コードをコンセントから抜くことをおすすめします。

■ HDMI オーディオ出力

HDMI の音声の出力先を設定します。

AV アンプ
(お買い上げ時の設定): 本機に接続したスピーカーで再生します。

テレビ: 本機に接続したテレビで再生します。



- HDMI コントロール機能が動作しているときは、本機に接続したテレビの音声設定を優先します。(P.145 ページ)
- “HDMI オーディオ出力”の設定が“テレビ”で本機の電源が入っている場合、HDMI 出力端子から 2 チャンネルの音声を出力します。

■ HDMI パススルー

本機がスタンバイのときに、入力されている HDMI 信号を HDMI モニターへ出力する設定をします。

オン
(お買い上げ時の設定): 本機がスタンバイのときでも、入力されている HDMI 信号を HDMI モニターへ出力します。

オフ: 本機がスタンバイのときに、入力されている HDMI 信号を HDMI モニターへ出力しません。




■ パススルーソース



本機がスタンバイのときに、入力されている HDMI 信号を HDMI モニターへ出力する設定をします。

最後のソース
(お買い上げ時の設定): 最後に使用した HDMI 入力を選択します。

**CBL/SAT / Media
Player / Blu-ray /
GAME / AUX1 /
AUX2 / TV Audio /
CD*:** 選択した入力ソースの HDMI 信号をパススルーします。

* “入力端子の割り当て”の設定で、CD に HDMI 端子が割り当てられているときのみ、“パススルーソース”を“CD”に設定できます。
( 200 ページ)



- “パススルーソース”は、“HDMI コントロール”が“オン”のとき、または“HDMI パススルー”の設定が“オン”のときに設定できます。
(「HDMI パススルー」( 190 ページ)、 「HDMI コントロール」( 192 ページ))

■ スタンバイ時のソース選択



本機がスタンバイ状態のときに、リモコンの入力ソース選択ボタンで本機の電源をオンにするかどうかを設定します。

電源オン + 入力ソース選択 本機の電源をオンして、入力ソースを切り替えます。
(お買い上げ時の設定):

入力ソース選択のみ:

本機はスタンバイ状態のままで HDMI の入力ソースを切り替えます。リモコンの入力ソース選択ボタンを受け付けたときに、本機の電源表示が点滅します。



- “スタンバイ時のソース選択”は、“HDMI コントロール”が“オン”のとき、または“HDMI パススルー”の設定が“オン”のときに設定できます。
(「HDMI パススルー」( 190 ページ)、 「HDMI コントロール」( 192 ページ))



■ HDMI コントロール

HDMI 接続した HDMI コントロール対応機器と連動して操作できます。

オン: HDMI コントロール機能を使用します。

オフ
(お買い上げ時の設定): HDMI コントロール機能を使用しません。



- HDMI コントロール機能を使用する場合は、HDMI OUT TV 1 端子と HDMI コントロール対応のテレビを接続してください。
- 接続した機器の設定方法は、各機器の取扱説明書をご覧ください。
- “HDMI コントロール”を“オン”に設定すると、本機の電源をテレビの電源に連動させたり、テレビのリモコンで本機の音量を調節したりできます。
- HDMI コントロール機能については、「HDMI コントロール機能」をご覧ください。(P.145 ページ)

ご注意

- “HDMI コントロール”の設定を変更した場合は、変更後必ず接続機器の電源を切り、電源を入れ直してください。

■ ARC

ARC 機能を使用し、HDMI OUT TV 1 端子に接続されているテレビから、HDMI 経由でテレビの音声を受信するかどうかを設定します。

オン: ARC 機能を使用します。

オフ
(お買い上げ時の設定): ARC 機能を使用しません。



- この機能を使用する場合は、ARC (Audio Return Channel)に対応したテレビを使用し、テレビの HDMI コントロール機能を有効にしてください。
- “ARC”を“オン”に設定すると、本機で“HDMI コントロール”を“オフ”に設定している場合でも、テレビ用リモコンで音量を調節できます。

ご注意

- “ARC”の設定を変更した場合は、変更後必ず接続機器の電源を切り、電源を入れ直してください。
- eARC 機能対応のテレビをご使用になる場合は、メニューの“ARC”の設定に関わらず、テレビからの音声を本機に接続されたスピーカーで聞くことができます。



■ TV Audio 切り替え

HDMI ケーブルで接続したテレビから、CEC コマンドを受信したとき、自動的に入力ソースを“TV Audio”に切り替えるかどうかを設定します。

オン (お買い上げ時の設定): テレビからのコマンドを受信すると自動的に入力ソースを“TV Audio”にします。

オフ: テレビからのコマンドを受信すると自動的に入力ソースを“TV Audio”にしません。



- “TV Audio 切り替え”は“HDMI コントロール”の設定が“オン”のときに設定できます。(P.192 ページ)

■ パワーオフコントロール

テレビの電源オフに連動して、本機の電源をスタンバイにします。

すべて (お買い上げ時の設定): 本機の入力ソースに関わらず、テレビの電源をオフにすると、自動的に本機の電源がスタンバイになります。

ビデオ: “HDMI”が割り当てられている入力ソースのときに、テレビの電源をオフにすると、自動的に本機の電源がスタンバイになります。(P.201 ページ)

オフ: 本機はテレビの電源に連動しません。



- “パワーオフコントロール”は“HDMI コントロール”の設定が“オン”のときに設定できます。(P.192 ページ)



■ 省電力

本機の省電力機能をオンにすると、テレビのスピーカーを使用するときの消費電力を抑えます。

この機能は次のときに動作します。

- 本機の入力ソースが“TV Audio”のとき
- HDMI 接続されている機器のコンテンツを視聴しているとき

オン: 省電力機能を使用します。

オフ
(お買い上げ時の設定): 省電力機能を使用しません。



- “省電力”は“HDMI コントロール”の設定が“オン”のときに設定できます。(P.192 ページ)



ビデオ出力の設定

映像出力に関する設定をします。

■ HDMI ビデオ出力

使用する HDMI 出力端子を選択します。

オート(デュアル) (お買い上げ時の設定):	HDMI OUT TV 1 または HDMI OUT TV 2 端子に接続されたテレビを自動的に認識して使用します。
テレビ 1:	HDMI OUT TV 1 端子に接続されたテレビを常に使用します。
テレビ 2:	HDMI OUT TV 2 端子に接続されたテレビを常に使用します。



- HDMI OUT TV 1 および HDMI OUT TV 2 端子にテレビを接続した場合、“HDMI アップスケーラー”の設定が“オート”のときは、両方のテレビが対応している解像度で出力します。(☞ 196 ページ)
- テレビが対応している解像度は、“テレビ 1 情報”および“テレビ 2 情報”で確認できます。(☞ 260 ページ)
- 2 台の Dolby Vision 対応テレビを接続する場合、映像信号は片方のテレビにのみ最適化されます。HDMI OUT TV 1 端子に接続されたテレビを優先します。

■ ビデオモード

映像コンテンツの種類に合わせて映像処理のしかたを設定します。

オート (お買い上げ時の設定):	HDMI のコンテンツ情報に基づく映像処理を自動でおこないます。
ゲーム:	ゲームコンテンツに適した映像処理をおこないます。ゲーム機のコントローラーのボタン操作に対して映像が遅れている場合に、映像の遅れを最小にします。
ムービー:	ゲーム以外のコンテンツに適した映像処理をおこないます。
バイパス:	すべての映像処理回路をバイパスします。



- “ビデオモード”の設定が“オート”の場合は、入力されたコンテンツに応じてモードが切り替わります。
- “ビデオモード”を“バイパス”に設定すると、音量バーのような情報表示を映像信号にオーバーレイすることはできません。
- 各入力ソースに“HDMI”を割り当てているときに設定できます。
- サウンドモードが“IMAX DTS”または“IMAX DTS:X”のときは設定できません。



■ HDMI アップスケーラー

1080p および 4K HDMI コンテンツを 8K にアップスケーリングするためのモードを設定します。

オート: お使いのテレビに合わせて、1080p および 4K HDMI ビデオを 8K にアップスケーリングします。

オフ
(お買い上げ時の設定): 8K へのアップスケールは行いません。



- 各入力ソースにを“HDMI”割り当てているときに設定できます。
- この機能は、入力された信号が圧縮映像および HDR の場合は効果がありません。
- サウンドモードが“IMAX DTS”または“IMAX DTS:X”のときは設定できません。
- “ビデオモード”の設定が“バイパス”以外のときに設定できます。
(195 ページ)

オンスクリーンディスプレイ

オンスクリーンディスプレイに関する設定をします。

■ 音量

音量の表示に関する設定をします。

下
(お買い上げ時の設定): 画面の下部に表示します。

上: 画面の上部に表示します。

オフ: 表示しません。



- 音量表示が映画の字幕に重なって見づらい場合は、“上”に設定してください。

■ 情報

入力ソースの切り替えなど情報表示の設定をします。

オン
(お買い上げ時の設定): 情報を表示します。

オフ: 情報を表示しません。



■ 再生画面

入力ソースが“HEOS Music”または“Tuner”のときの再生画面の表示時間を設定します。

常時オン (お買い上げ時の設定):	常に表示します。
オートオフ:	操作したときに約 30 秒間表示します。

■ 21:9 モード

ディスプレイのアスペクト比が 21:9 のとき、音量、オプション、および情報の位置が表示領域内に移動します。

オン:	“21:9 モード”を使用します。
オフ (お買い上げ時の設定):	“21:9 モード”を使用しません。

スクリーンセーバー

スクリーンセーバーを設定します。

ビデオ信号が入力されていない場合や、セットアップメニュー画面のように同じ映像が続けて表示される場合に、5 分以上操作が無いときにスクリーンセーバーが作動して、テレビの焼き付けを防止します。

また、スクリーンセーバーを解除する場合は、カーソル 上/下/左/右を押してください。

オン:	スクリーンセーバーを使用します。
オフ (お買い上げ時の設定):	スクリーンセーバーを使用しません。



- 次のときにスクリーンセーバーが作動します。
 - セットアップメニュー画面が表示されているとき
 - ビデオ信号が入力されていないとき
 - HEOS Music や USB、Bluetooth、Tuner の再生画面が表示されているとき



4K/8K 信号フォーマット

本機に接続しているテレビや再生機器が HDMI 4K または 8K 信号に対応しているときに、本機で再生する 4K/8K 信号のフォーマットを設定します。

■ 4K/8K 信号フォーマット

本機で再生する 4K および 8K 信号のフォーマットを設定します。

スタンダード:

ご使用のテレビと再生機器が標準的な 4K フォーマット(4K 60Hz 4:2:0 8bit)の映像信号に対応しているときに選択します。

拡張

(お買い上げ時の設定):

ご使用のテレビと再生機器、HDMI ケーブルが高精細な 4K 60Hz 4:4:4 8bit、4:2:2 または 4:2:0 10bit の映像信号に対応しているときに選択します。

8K 拡張:

ご使用のテレビと再生機器、HDMI ケーブルが高精細な 8K 60Hz または 4K 120Hz の映像信号に対応しているときに選択します。

【“4K/8K 信号フォーマット”の設定と対応する解像度の関係】

対応解像度	カラースペース	ビット数	4K/8K 信号フォーマット		
			標準	拡張	8K 拡張
1440p 60Hz 1440p 50Hz	RGB / YCbCr 4:4:4	8bit	✓	✓	✓
		10, 12bit	-	✓	✓
	YCbYr 4:2:2	12bit	✓	✓	✓

対応解像度	カラースペース	ビット数	4K/8K 信号フォーマット			
			標準	拡張	8K 拡張	
1440p 120Hz 1440p 100Hz	RGB / YCbCr 4:4:4	8bit	-	✓	✓	
		10, 12bit	-	-	✓	
	YCbYr 4:2:2	12bit	-	✓	✓	
4K 24Hz, 4K 30Hz, 4K 25Hz	RGB / YCbCr 4:4:4	8bit	✓	✓	✓	
		10, 12bit	-	✓	✓	
	YCbCr 4:2:2	12bit	✓	✓	✓	
4K 60Hz, 4K 50Hz	YCbCr 4:2:0	8bit	✓	✓	✓	
		10, 12bit	-	✓	✓	
	RGB / YCbCr 4:4:4	8bit	-	✓	✓	
		10, 12bit	-	-	✓	
	YCbCr 4:2:2	12bit	-	✓	✓	
4K 120Hz, 4K 100Hz	YCbCr 4:2:0	8, 10, 12bit	-	-	✓	
		RGB / YCbCr 4:4:4	8, 10bit	-	-	✓
			12bit	-	-	✓
8K 24Hz, 8K 30Hz, 8K 25Hz	YCbCr 4:2:0	8, 10, 12bit	-	-	✓	
		RGB / YCbCr 4:4:4	8, 10bit	-	-	✓
			12bit	-	-	✓
8K 60Hz, 8K 50Hz	YCbCr 4:2:0	8, 10 bit	-	-	✓	





- この設定を“拡張”に設定したときは、“HDMI Premium Certified Cable”ラベルが製品のパッケージに貼られている“Premium High Speed HDMI Cable”または“Premium High Speed HDMI Cable with Ethernet”のご使用をおすすめします。
- この設定を“8K 拡張”に設定したときは、“Ultra High Speed HDMI cable”のご使用をおすすめします。
- この設定を“8K 拡張”に設定したときは、テレビや再生機器の設定も合わせて設定してください。
- この設定を“8K 拡張”に設定したとき、接続した再生機器や HDMI ケーブルによっては正しく映像が出力されない場合があります。このような場合は、“拡張”または“スタンダード”に設定してください。
- 当社のサービスエンジニアやカスタムインストーラーが本機の HDMI 信号フォーマットの設定をおこなっている場合は、設定項目に“カスタム”を表示します。
- “4K/8K 信号フォーマット”は、次の操作でも設定できます。この設定中は、メニュー画面を表示しません。ディスプレイの表示を見ながら設定してください。
 - 設定したい HDMI 入力ソースに切り替える。
 - 本機の電源が入っているときに、本体の ZONE2 SOURCE と STATUS を同時に 3 秒以上長押しする。
ディスプレイに“4K/8K:<Enhanced>”を表示します。
 - 本体の TUNER PRESET CH +または TUNER PRESET CH -を押して、4K/8K 信号フォーマットを選ぶ。
 - 本体の STATUS を押して、設定を終了する。

HDCP 設定

HDMI 入力端子が割り当てられている入力ソースごとに HDCP バージョンを設定します。

ご使用のプレーヤーやテレビの組み合わせによっては、HDCP のバージョンの違いにより映像が出力されない場合があります。

このような場合は、本設定で HDCP のバージョンを制限することにより映像を出力することができます。

オート (お買い上げ時の設定):	接続しているテレビの HDCP バージョンに合わせて本機の対応 HDCP バージョンを自動的に適用します。
1.4:	本機の HDCP バージョンを 1.4 に固定します。
2.3:	本機の HDCP バージョンを 2.3 に固定します。



- 当社のサービスエンジニアやカスタムインストーラーが本機の HDMI 信号フォーマットの設定をおこなっている場合は、設定項目に“カスタム”を表示します。



入カソース

現在選択している入カソースに関する設定をします。
設定を変更しなくてもご使用いただけます。必要に応じて設定してください。

入力端子の割り当て

本機の音声/映像入力端子に印字された入カソースのとおり接続をおこなうと、入カソース切り替えボタンを押すだけで、接続した機器の音声や映像を簡単に再生できます。

本機の音声/映像入力端子に印刷された入カソースと異なる接続をおこなう場合は、この項目で HDMI 入力端子、デジタルオーディオ入力端子、アナログオーディオ入力端子の割り当てを変更してください。

“INPUT MODE”で各入カソースの音声入力モードを設定します。通常は、“AUTO”に設定することをおすすめします。HDMI > DIGITAL > ANALOG の優先順位で本機に入力されている信号を自動的に検出して再生します。



- 各項目のお買い上げ時の設定は、次のとおりです。

入カソース	入力端子			INPUT MODE
	HDMI	DIGITAL	ANALOG	
CBL/SAT	1	COAX 1	1	AUTO
Media Player	2	COAX2	2	AUTO
Blu-ray	3	-	-	HDMI
Game	4	-	-	HDMI
AUX1	5	-	3	AUTO
AUX2	6	-	4	AUTO
TV Audio	-	OPT1	-	DIGITAL
CD	-	OPT2	5	AUTO



□ 衛星放送チューナーやケーブルテレビチューナーを設定する際のご注意

テレビや衛星放送チューナーをデジタルオーディオ出力端子に接続する場合:

“入力端子の割り当て” - “DIGITAL”で割り当てた音声信号と、“HDMI”で割り当てた映像信号を組み合わせる場合は、“INPUT MODE”を“DIGITAL”に設定してください。



- 同じ入力端子を複数の入力ソースに割り当てることができます。例えば、同じ HDMI 入力端子を複数の入力ソースに割り当てて、それぞれの入力ソースにお好みのアナログオーディオ端子やデジタルオーディオ端子を組み合わせることができます。この場合、あらかじめ再生したいオーディオ端子を“INPUT MODE”で設定してください。

■ HDMI

入力ソースに割り当てられている HDMI 入力端子を変更するときに設定します。

1 / 2 / 3 / 4 / 5 / 6:	選択した入力ソースに、いずれかの HDMI 入力端子を割り当てます。
-:	選択した入力ソースに HDMI 入力端子を割り当てません。



- メニューの“HDMI コントロール”または“ARC”を“オン”に設定している場合は、“TV Audio”に“HDMI”を割り当てることはできません。(「HDMI コントロール」(P.192 ページ)、「ARC」(P.192 ページ))
- 入力ソースの“TV Audio”に“HDMI”を割り当てた場合、eARC 機能は動作しません。

■ DIGITAL

入力ソースに割り当てられているデジタルオーディオ入力端子を変更するときに設定します。

COAX1 (Coaxial) /	
COAX2 /	選択した入力ソースにデジタルオーディオ入力端子を割り当てます。
OPT1 (Optical) /	
OPT2:	
-:	選択した入力ソースにデジタルオーディオ入力端子を割り当てません。

■ ANALOG

入力ソースに割り当てられているアナログオーディオ入力端子を変更するときに設定します。

1 / 2 / 3 / 4 / 5:	選択した入力ソースにアナログオーディオ入力端子を割り当てます。
-:	選択した入力ソースにアナログオーディオ入力端子を割り当てません。



■ INPUT MODE

各入力ソースの音声入力モードを設定します。
通常は、“AUTO”に設定することをおすすめします。

AUTO (お買い上げ時の設定):	本機に入力されている信号を自動的に検出して再生します。
HDMI:	HDMI 入力端子からの入力信号のみを再生します。
DIGITAL:	デジタルオーディオ入力端子からの入力信号のみを再生します。
ANALOG:	アナログオーディオ入力端子からの入力信号のみを再生します。



- デジタル信号を正しく入力すると、ディスプレイの **DIG** 表示が点灯します。**DIG** 表示が点灯しない場合は、“入力端子の割り当て”や接続を確認してください。(P.200 ページ)
- メニューの“ARC”の設定が“オン”で、HDMI OUT TV 1 端子に ARC 対応テレビを接続している場合、入力ソースが“TV Audio”のときの入力モードは ARC 固定になります。
- HDMI OUT TV 1 端子に eARC 機能対応のテレビを接続している場合、入力ソースが“TV Audio”のときの入力モードは eARC 固定になります。

■ 初期化

“入力端子の割り当て”で設定した内容がお買い上げ時の設定に戻ります。



入力ソース名の変更

- 入力ソースの表示名を変更します。
変更後は、本体のディスプレイとメニュー画面にその名前を表示します。
- 接続した HDMI 機器から機器名を取得できた場合は、自動的に表示名を変更します。
ご使用の機器名と本機の入力ソース名が異なっている場合には、お好みに合わせて変更してください。

CBL/SAT /
Media Player / Blu-ray /
Game / AUX1 / AUX2 / 選択した入力ソースの表示名を変更します。
TV Audio / CD / Phono:

初期化: “入力ソース名の変更”で設定した内容がお
買い上げ時の設定に戻ります。



- 16 文字まで入力できます。

使用ソースの選択

使用しない入力ソースを表示しないように設定します。

使用する
(お買い上げ時の設定): 選択した入力ソースを使用します。

使用しない: 選択した入力ソースを使用しません。

ソースレベル

選択した入力ソースの音声入力の再生レベルを補正します。
ソースによって再生レベルに差があるときなどに設定してください。

-12 dB~+12 dB(お買い上げ時の設定:0 dB)



- “ソースレベル”の設定は、入力ソースごとに記憶します。



スピーカー

接続されたスピーカーやリスニングルームの音響特性を測定し、最適な設定を自動的におこないます。この機能を“Audyssey®セットアップ”と呼びます。

すでに“セットアップアシスタント”で“スピーカーの測定”をおこなっている場合、Audyssey®セットアップをおこなう必要はありません。

手動でスピーカーの設定をしたい場合は、メニューの“マニュアルセットアップ”でおこなってください。(P.215 ページ)

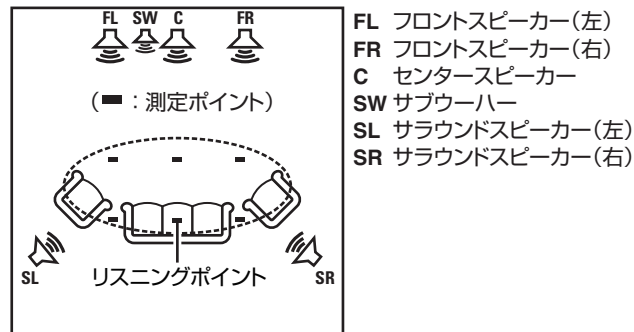
Audyssey®セットアップ

測定は、リスニングエリア全体の複数の位置にセットアップマイクを設置しておこないます。最善の結果を得るためには、図のように6箇所以上(最大で8箇所)の測定をおこなうことをおすすめします。

2箇所目以降の測定では、1箇所目の測定位置(メインリスニングポイント)から60cm以内にセットアップマイクを設置してください。



- Audyssey®セットアップをおこなうと、Audyssey MultEQ® XT32、Audyssey Dynamic EQ®, Audyssey Dynamic Volume®およびAudyssey LFC™の機能が有効になります。(P.184 ページ)



■ メインリスニングポイントについて

メインリスニングポイントとは、最もリスナーが座る位置または一人で視聴するときの座る位置です。Audyssey®セットアップをはじめる前に、セットアップマイクをメインリスニングポイントに設置してください。

Audyssey MultEQ® XT32 は、この位置から測定した値を用いて、スピーカーの距離、レベル、極性およびサブウーハーの最適なクロスオーバー周波数を計算します。

■ Audyssey Sub EQ HT™について

Audyssey Sub EQ HT™は、サブウーハーの音量レベルと距離を補正し、Audyssey MultEQ® XT32 の信号処理をおこなうことで、迫力のある低域サウンドを再現します。

Audyssey Sub EQ HT™をおこなうためには、“スピーカーレイアウト”の設定で“測定 (2 台)”、“測定 (3 台)”または“測定 (4 台)”を選択し、“サブウーハーモード”の設定で“スタンダード”を選択してください。(p.225 ページ)。



- “サブウーハーモード”を“指向性”に設定している場合は、Audyssey Sub EQ HT は機能しません。

ご注意

- できるだけ部屋を静かにしてください。騒音は測定の妨げとなります。窓を閉め、電化製品(ラジオ、エアコン、蛍光灯など)の電源を切ってください。測定の際、これらの製品による騒音の影響を受ける場合があります。
- 測定中、携帯電話はリスニングルーム以外の場所に置いてください。携帯電話の電波が測定を妨げる原因になることがあります。
- 測定中は、スピーカーとセットアップマイクの間にも立ったり、障害物を置いたりしないでください。また、セットアップマイクは壁から 50cm 以上離して設置してください。正しい測定ができません。
- 測定中にテストトーンを出力しますが、これは正常な動作です。リスニングルーム内の騒音が大きいほどテストトーンの音量が大きくなります。
- 測定中にリモコンの VOLUME ▲▼ または本体の MASTER VOLUME を操作すると、測定を中止します。
- ヘッドホンが接続している場合、測定はできません。Audyssey®セットアップをおこなう前に、ヘッドホンのプラグを抜いてください。



スピーカー設定の流れ(Audyssey® セットアップ)

準備



測定



解析&保存



解析結果の確認



終了

- 1 セットアップマイクを三脚、または付属のマイクスタンドに取り付けて、メインリスニングポイントに設置する。

セットアップマイクを設置する場合は、マイクの先端を天井に向け、マイクの高さをリスナーが座ったときの耳の高さに合うように調節してください。

- 2 次の設定ができるサブウーハーをご使用の場合のみ、この設定をおこなってください。

- ❑ **ダイレクトモード機能があるサブウーハーをご使用の場合**

ダイレクトモード機能を“オン”にして、音量とクロスオーバー周波数の設定を無効にしてください。

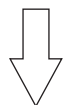
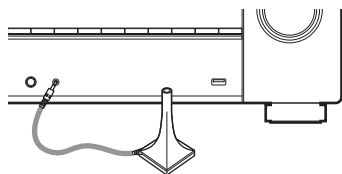
- ❑ **ダイレクトモード機能がないサブウーハーをご使用の場合**

次のように設定してください。

- 音量の設定: 10 時の位置
- クロスオーバー周波数の設定: 最大/最高周波数
- ローパスフィルターの設定: オフ
- スタンバイモードの設定: オフ



3 セットアップマイクを本体の SETUP MIC 端子に接続する。



セットアップマイクを接続すると、テレビに次のセットアップ画面を表示します。



4 “スタート”を選び、ENTER を押す。

Audyssey®セットアップでは、次の設定もできます。

- **スピーカーレイアウト**
お使いのスピーカー環境に合わせてスピーカーレイアウトを設定します。
- **チャンネルセレクト**
“アンプの割り当て”の設定が“7.1ch + Front B”の場合、測定するフロントスピーカーを選びます。
- **Dolby スピーカーの設定**
Dolby Atmos Enabled スピーカーから天井までの距離を設定します。
これはフロント Dolby Atmos Enabled、サラウンド Dolby Atmos Enabled またはバック Dolby Atmos Enabled スピーカーを使用しているときに設定できません。

5 画面の指示に従って、“次へ”を選んで進める。



6 次の画面が表示されたら、“テスト開始”を選び、ENTERを押す。

1 箇所目の測定をはじめます。



- 測定には数分間かかります。

ご注意

- テレビ画面に“エラー”または“注意！”が表示された場合:
 - 「エラーメッセージについて」(P.212 ページ)をご覧ください。関連する項目を確認し、必要な対処をおこなってください。
 - サブウーハーの音量が不適切な場合は、エラーメッセージが表示されます。「サブウーハーレベルのエラーメッセージと調節のしかた」(P.213 ページ)でサブウーハーの音量を調節してください。

7 検出されたスピーカーが表示されたら、“次へ”を選び、ENTERを押す。



8 2箇所目にセットアップマイクを移動させ、“次へ”を選び、ENTERを押す。

2箇所目の測定をはじめます。
最大8箇所まで測定できます。



□ Audyssey®セットアップを中止するとき

- ① BACK を押して、ポップアップ画面を表示させる。
- ② カーソル 左を押して“有り”を選び、ENTER を押す。

9 手順8をくり返して3～8箇所を測定する。



- 4箇所目以降のリスニングポイントの測定を省略する場合は、カーソル 左で“測定終了”を選択して ENTER を押し、手順 11 へ進んでください。

10 “次へ”を選び、ENTERを押す。



測定結果の解析および保存をはじめます。

- 解析には数分間かかります。
接続するスピーカーの数と測定箇所が多くなるほど、解析に要する時間は長くなります。

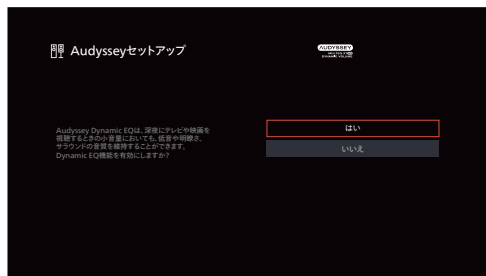
ご注意

- 測定結果の解析および保存中は、絶対に電源を切らないでください。



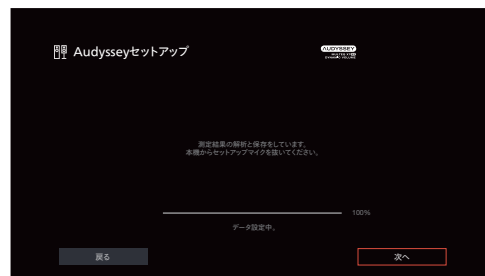
11 Audyssey Dynamic EQ®や Audyssey Dynamic Volume®の設定をする。

解析中に次の画面を表示します。お好みに合わせて設定してください。



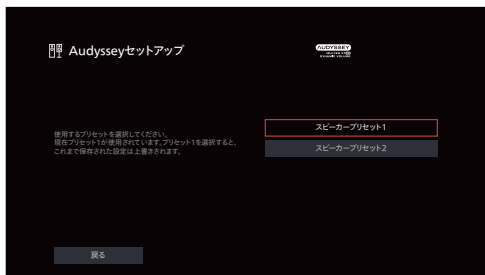
- Dynamic EQ は、人間の聴覚や部屋の音響特性を考慮し、音量が小さいときにも、明瞭に聴くことができるように周波数特性を補正します。
深夜にテレビや映画を楽しむ場合など、音量を下げてくださいになる場合におすすめします。
- Dynamic Volume は、本機に入力した音声レベルを常にモニタリングしながら最適な出力音量に調節する機能です。
テレビ番組の再生中にコマーシャルの音が急に大きく再生される場合などに、音のダイナミック感や明瞭感を損なうことなく適切な音量調節を自動的におこないます。

12 解析および保存が完了したら、本体の SETUP MIC 端子からセットアップマイクを抜き、「次へ」を選ぶ。





- 初めて Audyssey®セットアップをおこなった場合、測定データは自動的に“スピーカープリセット”の“スピーカープリセット 1”に保存します。
- すでに Audyssey®セットアップをおこなっている場合は、次の“スピーカープリセット”選択画面が表示されます。



- スピーカープリセット機能についての詳細は、“スピーカープリセット”をご覧ください。(P.232 ページ)

13 測定結果を確認する場合は、“詳細”を選び ENTER を押す。

- サブウーハーなどでは、実際の距離と異なる値に設定される場合があります。

ご注意

- Audyssey®セットアップをおこなったあとに、スピーカーレイアウトメニューで新しいスピーカーを有効にしないでください。変更した場合は、最適なイコライザーの補正効果を得るために、もう一度 Audyssey®セットアップをおこなってください。



エラーメッセージについて

スピーカーの配置や測定環境などにより Audyssey®セットアップを完了できなかった場合に、エラーメッセージを表示します。エラーメッセージが表示された場合は、関連する項目を確認し、必要な対処をおこなってください。スピーカーの接続を確認するときは、必ず電源を切ってください。

エラーメッセージ(例)	エラーの内容	エラーの処理方法
スピーカーが見つかりませんでした。	<ul style="list-style-type: none"> セットアップマイクが検出されない。 接続しているすべてのスピーカーが検出されない。 	<ul style="list-style-type: none"> 付属のセットアップマイクを、本体の SETUP MIC 端子に接続してください。 スピーカーの接続を確認してください。
雑音が大きすぎるため、測定ができません	<ul style="list-style-type: none"> 部屋の騒音が大きいです。 スピーカーやサブウーハーの音量が小さい。 	<ul style="list-style-type: none"> 騒音を発生する機器の電源を切るか、機器を遠ざけてください。 周囲がより静かなときに再度おこなってください。 スピーカーの配置や向きを確認してください。 サブウーハーの音量を調節してください。
フロント右:無し	<ul style="list-style-type: none"> 表示されたスピーカーが検出されない。 	<ul style="list-style-type: none"> 表示されたスピーカーの接続を確認してください。
フロント右:逆位相	<ul style="list-style-type: none"> 表示されたスピーカーの位相が逆です。 	<ul style="list-style-type: none"> 表示されたスピーカーの極性を確認してください。 スピーカーや部屋の環境によっては、正しく接続してもエラーメッセージが表示される場合があります。このような場合は、カーソル右押しで“続行”を選び、ENTER を押しってください。



■ サブウーハーレベルのエラーメッセージと調節のしかた

Audyssey®セットアップ測定での各サブウーハーチャンネルの最適なレベルは、75dB です。

サブウーハーレベルの測定で、サブウーハーレベルが 72~78dB 以外の場合にエラーメッセージを表示します。

アンプ(アクティブ型)を内蔵したサブウーハーを使用する場合は、サブウーハーレベルが 72~78dB の範囲内になるように、サブウーハーの音量を調整してください。

【エラーメッセージ】



- 1 “サブウーハーレベルの調節”を選び、ENTER を押す。
- 2 お手持ちのサブウーハーの音量を測定レベルが 72~78dB 以内になるように調節する。
- 3 測定レベルが 72~78dB 以内になったら、“次へ”を選び、ENTER を押す。
 - サブウーハーを 2 台で使用する場合は、2 台目のサブウーハーの調整をはじめます。手順 2、3 をくり返してください。

Audyssey®セットアップの設定値に戻すとき

“再設定”で“はい”を選択すると、各設定を手動で変更した場合でも Audyssey®セットアップの測定結果(MultEQ® XT32 が当初計算した値)に戻すことができます。



マニュアルセットアップ

スピーカーを手動で設定する場合や Audyssey®セットアップまたは Dirac Live Room Correction で測定した内容を変更するときにおこなってください。

- Audyssey®セットアップを実行した後にスピーカーレイアウトメニューで新しいスピーカーを有効にすると、Audyssey MultEQ® XT32、Audyssey Dynamic EQ®, または Audyssey Dynamic Volume®を選択できなくなります。(p.184 ページ)
- マニュアルセットアップでは、次の設定を変更できます。距離/レベル/クロスオーバー周波数の設定を変更した後、Audyssey®を無効にしたり、Audyssey®セットアップを再度おこなう必要はありません。
- Dirac Live Room Correction を行った後にスピーカーレイアウトメニューでスピーカー構成を変更すると、Dirac Live の選択はできません。
- “マニュアルセットアップ”の設定を変更しなくてもご使用いただけます。必要に応じて設定してください。

スピーカーレイアウト

ご使用のシステムに合わせて、スピーカーのレイアウトを選択します。

■ アンプの割り当て

ご使用のスピーカーシステムに合わせて、パワーアンプの割り当てを変更します。

設定したモードによっては、スピーカー構成の詳細設定が必要になります。アンプの割り当てを選んだあと、対応する詳細設定をおこなってください。

11.1ch:

- 本機内部の 9 チャンネルのパワーアンプとプリアウト端子に接続した外部のパワーアンプを使用し、最大 11.1 チャンネルで再生します。
- メインゾーン用に最大 11.1 チャンネルのスピーカーを接続することができます。



9.1ch

(お買い上げ時の設定):

- 本機内部のすべてのパワーアンプをメインゾーン用に割り当て、最大 9.1 チャンネルで再生します。
- メインゾーン用に最大 11.1 チャンネルのスピーカーを接続することができます。

入力信号やサウンドモードに応じて、音声を出力するスピーカーを自動的に切り替えて、最大 9.1 チャンネルで再生します。

7.1ch + ZONE2:

- ゾーン 2 用に本機内部のパワーアンプを 2 チャンネル割り当てます。
- メインゾーン用に最大 9.1 チャンネルのスピーカーを接続することができます。

入力信号やサウンドモードに応じて、音声を出力するスピーカーを自動的に切り替えて、最大 7.1 チャンネルで再生します。

7.1ch (Bi-Amp):

- フロントスピーカーのバイアンプ接続用に、本機内部のパワーアンプを 2 チャンネル割り当てます。
 - メインゾーン用に最大 9.1 チャンネルのスピーカーを接続することができます。
- 入力信号やサウンドモードに応じて、音声を出力するスピーカーを自動的に切り替えて、最大 7.1 チャンネルで再生します。

5.1ch (Front LCR Bi-Amp):

- フロントスピーカーおよびセンタースピーカーのバイアンプ接続用に、本機内部のパワーアンプを 3 チャンネル割り当てます。
- メインゾーン用に最大 5.1 チャンネルのスピーカーを接続することができます。

5.1ch (Bi-Amp) + ZONE2:

- フロントスピーカーのバイアンプ接続用に、本機内部のパワーアンプを 2 チャンネル割り当てます。
- ゾーン 2 用に本機内部のパワーアンプを 2 チャンネル割り当てます。



7.1ch + Front B:

- 2 台目のフロントスピーカーの接続用に、本機内部のパワーアンプを 2 チャンネル分割り当てます。
- フロントスピーカー A またはフロントスピーカー B を切り替えて再生します。フロントスピーカーの切り替えは、“フロントスピーカー”の設定でおこなってください。(P.235 ページ)
- メインゾーン用に最大 9.1 チャンネルのスピーカーを接続することができます。入力信号やサウンドモードに応じて、音声を出力するスピーカーを自動的に切り替えて、最大 7.1 チャンネルで再生します。

プリアンプ:

すべてのスピーカーに外部パワーアンプを接続し、本機をプリアンプとして使用します。内部パワーアンプへの信号経路をオフにすることで、プリアンプへの干渉を減らすことができます。

■ フロント/センター/サラウンド/サラウンドバック

ご使用のスピーカーシステムに合わせて、音声を出力する端子を設定します。

□ スピーカー構成

各スピーカーの有無を設定します。サラウンドバックスピーカーについては、ご使用になる台数を選択してください。

[フロント/センター/サラウンド]

有り
(お買い上げ時の設定): 対象のスピーカーを使用します。

無し: 対象のスピーカーを使用しません。

[サラウンドバック]

2 台
(お買い上げ時の設定): サラウンドバックスピーカーを 2 台使用します。

1 台: サラウンドバックスピーカーを 1 台のみ使用します。この設定を選択したときは、SURROUND BACK L 端子に接続してください。

無し: サラウンドバックスピーカーを使用しません。



- 再生に必要な“フロント”は“有り”に固定されています。
- “サラウンド”の設定が“無し”のとき、“サラウンドバック”の設定は自動的に“無し”になります。



□ 接続

音声を出力する端子を設定します。

スピーカー+プリ (お買い上げ時の設定):	スピーカー端子とリアアウト端子を使用します。
リアアウト:	リアアウト端子のみを使用します。内部パワーアンプへの信号経路をオフにすることで、リアアンプへの干渉を減らすことができます。



- “アンプの割り当て”の設定が“リアアンプ”の場合は、すべてのスピーカーの“接続”の設定が“リアアウト”に固定されます。
- “アンプの割り当て”が“11.1ch”の設定で11チャンネル分のスピーカーを使用する場合、フロントチャンネルまたはハイト2かサラウンドバックにアサインされるチャンネルのうち、少なくとも1チャンネルは“リアアウト”に設定する必要があります。

■ ハイトスピーカー

メインゾーンで使用するハイトスピーカー、シーリングスピーカー、Dolby Atmos Enabled スピーカーの数を設定します。

無し:	ハイトスピーカー、シーリングスピーカー、Dolby Atmos Enabled スピーカーは使用しません。
2台:	一組(2台)のハイトスピーカー、シーリングスピーカーまたは Dolby Atmos Enabled スピーカーを使用します。
4台:	二組(4台)のハイトスピーカー、シーリングスピーカーまたは Dolby Atmos Enabled スピーカーを使用します。
5台:	5台のハイトスピーカー、シーリングスピーカーまたは Dolby Atmos Enabled スピーカーを使用します。
6台:	6台のハイトスピーカー、シーリングスピーカーまたは Dolby Atmos Enabled スピーカーを使用します。



- トップサラウンドまたはセンターハイトスピーカーを使用する場合は、“5台”以上の設定を選択してください。
- “サラウンドバック”を使用しない場合は“5台”と“6台”を選択できます。



■ レイアウト

□ スピーカー構成

ハイト、天井または Dolby Atmos Enabled スピーカーを 1 組(2 チャンネル)設置するときのスピーカーレイアウトを設定します。

メニューの“アンプの割り当て”とフロアスピーカーの組み合わせによって、選択できるレイアウトが異なります。(「アンプの割り当て」(P.215 ページ)、「フロント/センター/サラウンド/サラウンドバック」(P.217 ページ))

[2 チャンネルハイトスピーカー]

設定		AUDIO OUT 端子	
ハイトスピーカー	レイアウト	HEIGHT 1	HEIGHT 2
無し	-	-	-
2 台	フロントハイト	フロントハイト	-
	トップフロント	トップフロント	-
	トップミドル	トップミドル	-
	トップリア	トップリア	-
	リアハイト	リアハイト	-
	フロント Dolby	フロント Dolby	-
	サラウンド Dolby*1	サラウンド Dolby	-
	バック Dolby*2	バック Dolby	-

*1 サラウンドスピーカーを使用しているときに選択できます。設定メニューの“サラウンド”を“有り”に設定してください。(P.217 ページ)

*2 メニューの“アンプの割り当て”の設定が“11.1ch”で、なおかつ“サラウンドバック”の設定がのときに設定できます。(P.217 ページ)



□ 接続

音声出力端子を選択します。

スピーカー+プリ スピーカー端子とプリアウト端子を使用
(お買い上げ時の設定): します。

プリアウト: プリアウト端子のみを使用します。内部パ
ワーアンプへの信号経路をオフにするこ
とで、プリアンプへの干渉を減らすことが
できます。



- “アンプの割り当て”の設定が“プリアンプ”の場合は、すべてのスピーカーの“接続”の設定が“プリアウト”に固定されます。



■ 前方レイアウト / 中央レイアウト / 後方レイアウト / TS/CH

使用するハイトスピーカーのレイアウトの設定や、音声を出力する端子を設定します。

□ スピーカー構成

ハイト、天井または Dolby Atmos Enabled スピーカーを 2 組(4 チャンネル)以上設置するときのスピーカーレイアウトを設定します。

メニューの“アンプの割り当て”とフロアスピーカーの組み合わせによって、選択できるレイアウトが異なります。(「アンプの割り当て」(P.215 ページ)、「フロント/センター/サラウンド/サラウンドバック」(P.217 ページ))

[4 チャンネルハイトスピーカー]

ハイトスピーカー	設定			AUDIO OUT 端子	
	ご注意	前方レイアウト	後方レイアウト	HEIGHT 1	HEIGHT 2
4 台		フロントハイト	トップミドル	フロントハイト	トップミドル
		フロントハイト	トップリア	フロントハイト	トップリア
		フロントハイト	サラウンドハイト	フロントハイト	サラウンドハイト
		フロントハイト	リアハイト	フロントハイト	リアハイト
		フロントハイト	サラウンド Dolby	フロントハイト	サラウンド Dolby
		フロントハイト	バック Dolby*1	フロントハイト	バック Dolby
		トップフロント	トップリア	トップフロント	トップリア
		トップフロント	リアハイト	トップフロント	リアハイト
		トップフロント	サラウンド Dolby	トップフロント	サラウンド Dolby
		トップフロント	バック Dolby*1	トップフロント	バック Dolby
		トップミドル	リアハイト	トップミドル	リアハイト
		フロント Dolby	トップリア	フロント Dolby	トップリア
		フロント Dolby	リアハイト	フロント Dolby	リアハイト
		フロント Dolby	サラウンド Dolby	フロント Dolby	サラウンド Dolby
	フロント Dolby	バック Dolby*1	フロント Dolby	バック Dolby	



[5 チャンネルハイトスピーカー]

ハイトスピーカー	設定				AUDIO OUT 端子		
	ご注意	前方レイアウト	後方レイアウト	TS/CH	HEIGHT 1	HEIGHT 2	SURROUND BACK
5 台		フロントハイト	サラウンドハイト	トップサラウンド	フロントハイト	サラウンドハイト	L: トップサラウンド
		フロントハイト	サラウンドハイト	センターハイト	フロントハイト	サラウンドハイト	R: センターハイト
		フロントハイト	リアハイト	トップサラウンド	フロントハイト	リアハイト	L: トップサラウンド
		フロントハイト	リアハイト	センターハイト	フロントハイト	リアハイト	R: センターハイト



[6 チャンネルハイトスピーカー]

ハイトスピー カー	設定					AUDIO OUT 端子		
	ご注意	前方レイアウト	中央レイアウト	後方レイアウト	TS/CH	HEIGHT 1	HEIGHT 2	SURROUND BACK
6 台		フロントハイト	トップミドル	リアハイト	無し	フロントハイト	リアハイト	トップミドル
	*2	フロントハイト	サラウンドハイト	リアハイト	無し	フロントハイト	リアハイト	サラウンドハイト
		フロントハイト	サラウンドハイト	無し	TS/CH	フロントハイト	サラウンドハイト	L: トップサラウンド R: センターハイト
		フロントハイト	サラウンド Dolby	リアハイト	無し	フロントハイト	リアハイト	サラウンド Dolby
		フロントハイト	無し	リアハイト	TS/CH	フロントハイト	リアハイト	L: トップサラウンド R: センターハイト
		トップフロント	トップミドル	トップリア	無し	トップフロント	トップリア	トップミドル
		トップフロント	サラウンド Dolby	トップリア	無し	トップフロント	トップリア	サラウンド Dolby
		フロント Dolby	サラウンド Dolby	リアハイト	無し	フロント Dolby	リアハイト	サラウンド Dolby

*1 メニューの“アンプの割り当て”の設定が“11.1ch”で、なおかつ“サラウンドバック”の設定がのときに設定できます。(P.217 ページ)

*2 Dolby Atmos、DTS:X または AURO-3D 信号を再生しているときは、それぞれのサウンドモードに適した 2 組のハイトスピーカーを使用して再生します。

Dolby Atmos 信号を再生しているときは、フロントハイトおよびリアハイトスピーカーを使用して再生します。

DTS:X 信号を再生しているときは、フロントハイト、サラウンドハイトおよびリアハイトスピーカーを使用して再生します。

AURO-3D 信号を再生しているときは、フロントハイトおよびサラウンドハイトスピーカーを使用して再生します。



□ 接続

音声出力端子を選択します。

スピーカー+プリ
(お買い上げ時の設定): スピーカー端子とプリアウト端子を使用します。

プリアウト: プリアウト端子のみを使用します。内部パワーアンプへの信号経路をオフにすることで、プリアンプへの干渉を減らすことができます。



- “アンプの割り当て”の設定が“プリアンプ”の場合は、すべてのスピーカーの“接続”の設定が“プリアウト”に固定されます。
- “アンプの割り当て”を“11.1ch”に設定し、11チャンネルのスピーカーを使用する場合、フロントチャンネル、ハイト 2、サラウンドバックに割り当てられたチャンネルのうち少なくとも1つを“プリアウト”に設定する必要があります。

■ サブウーハー

サブウーハーの有無を設定します。

4台: サブウーハーを4台使用します。

3台: サブウーハーを3台使用します。

2台: サブウーハーを2台使用します。

1台
(お買い上げ時の設定): サブウーハーを1台使用します。

無し: サブウーハーを使用しません。



■ サブウーハーモード

複数のサブウーハーを使用している場合は、サブウーハーから出力する音声を設定してください。

スタンダード

(お買い上げ時の設定):

すべてのサブウーハーからクロスオーバー周波数より低い LFE 信号および低音を出力します。

指向性:

すべてのサブウーハーから LFE 信号を出力します。さらに、近くに設置されたスピーカーのクロスオーバー周波数よりも低い低音を出力します。



- メニューの“サブウーハー”設定が“4 台”、“3 台”および“2 台”のときに設定できます。

■ サブウーハーレイアウト

複数のサブウーハーを使用している場合のレイアウトを設定します。メニューの“サブウーハーモード”の設定により、選択できるレイアウトが異なります。

["サブウーハー"が“2 台”のとき]

左右

(お買い上げ時の設定):

サブウーハーを前方に左右対称に設置します。

前後:

サブウーハーを前方の中央に設置し、別のサブウーハーを後方の中央に設置します。

["サブウーハー"が“3 台”のとき]

フロント左右/リア:

サブウーハーを前方の左右対称および後方の中央に設置します。

["サブウーハー"が“4 台”のとき]

フロント左右/リア左右: 部屋の四隅にサブウーハーを設置します。



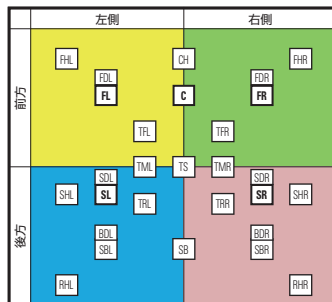


- “サブウーハー”の設定が“4 台”、“3 台”または“2 台”で、“サブウーハーモード”の設定が“指向性”のときに設定できます。
- メニューに表示されるサブウーハー名は、“サブウーハー”、“サブウーハーモード”、“サブウーハーレイアウト”の設定の組み合わせによって異なります。

サブウーハー	サブウーハーモード	サブウーハーレイアウト	サブウーハー名			
			サブウーハー 1	サブウーハー 2	サブウーハー 3	サブウーハー 4
1 台	-	-	サブウーハー 1	-	-	-
2 台	スタンダード	-	サブウーハー 1	サブウーハー 2	-	-
	指向性	左右	サブウーハー左	サブウーハー右	-	-
前後		サブウーハーフロント	サブウーハーリア	-	-	
3 台	スタンダード	-	サブウーハー 1	サブウーハー 2	サブウーハー 3	-
	指向性	フロント左右/リア	サブウーハーフロント左	サブウーハーフロント右	サブウーハーリア	-
4 台	スタンダード	-	サブウーハー 1	サブウーハー 2	サブウーハー 3	サブウーハー 4
	指向性	フロント左右/リア左右	サブウーハーフロント左	サブウーハーフロント右	サブウーハーリア左	サブウーハーリア右



- “指向性”設定では、下図のように部屋を4つのエリアとみなし、各サブウーハーがエリア内にある“フルレンジ”以外に設定されたスピーカーの低音を再生します。



例として、“サブウーハー”=2台、サブウーハーレイアウト=左右の場合、サブウーハー左(サブウーハー1)はFL/SLを含む左側のスピーカーの低音を再生し、サブウーハー右(サブウーハー2)はFR/SRを含む右側のスピーカーの低音を再生します。

■ Bi-Amp

“アンプの割り当て”が“7.1ch (Bi-Amp)”および“5.1ch (Bi-Amp) + ZONE2”の場合、フロントスピーカーのバイアンプ接続に使用するスピーカー端子が表示されます。スピーカー端子は、“アンプの割り当て”の設定に応じて自動的に決定されます。

HEIGHT 1: HEIGHT 1 スピーカー端子は、フロントスピーカーのバイアンプ接続に使用されます。

HEIGHT 2: HEIGHT 2 スピーカー端子は、フロントスピーカーのバイアンプ接続に使用されます。

■ Front Bi-Amp

“アンプの割り当て”が“5.1ch (Front LCR Bi-Amp)”の場合、フロントスピーカーのバイアンプ接続に使用するスピーカー端子が表示されます。

HEIGHT 1: HEIGHT 1 スピーカー端子は、フロントスピーカーのバイアンプ接続に使用されます。

■ Center Bi-Amp

“アンプの割り当て”が“5.1ch (Front LCR Bi-Amp)”の場合、センタースピーカーのバイアンプ接続に使用するスピーカー端子が表示されます。

HEIGHT 2: HEIGHT 2 スピーカーの L 端子は、センタースピーカーのバイアンプ接続に使用されます。

■ Front B

“アンプの割り当て”が“7.1ch + Front B”の場合、2 台目のフロントスピーカー用のスピーカー端子が表示されます。

HEIGHT 2: HEIGHT 2 スピーカー端子は、2 台目のフロントスピーカーに使用されます。



■ ゾーン2

“アンプの割り当て”が“7.1ch + ZONE2”および“5.1ch (Bi-Amp) + ZONE2”の場合、ゾーン2スピーカー用のスピーカー端子が表示されます。

HEIGHT 2: HEIGHT 2 スピーカー端子は、ゾーン2のスピーカーに使用されます。

■ 端子の接続確認

“スピーカーレイアウト”で設定した内容に対して、スピーカー端子やプリアウト端子の接続方法をメニュー画面に表示します。

距離

リスニングポイントからスピーカーまでの距離を設定します。あらかじめリスニングポイントから各スピーカーまでの距離を測定しておいてください。

Dirac Live を使用している場合は、ミリ秒に固定されます。また、Dirac Live Room Correction では、“距離”の値をフィルターごとに独立して記憶します。

■ 単位

距離の単位を設定します。

メートル (お買い上げ時の設定)

フィート

[Dirac Live を使用している場合]

ミリ秒

■ ステップ

距離の最小可変幅を設定します。

0.1 m / 0.01 m (お買い上げ時の設定: 0.1 m)

1 ft / 0.1 ft

[Dirac Live を使用している場合]

1 ms / 0.1 ms



■ 距離を設定します

0.00 m～18.00 m / 0.0 ft～59.1 ft

[Dirac Live を使用している場合]

0.0 ms - 50.0 ms



- メニューの“スピーカーレイアウト”の設定により、選択できるスピーカーが異なります。(🔍215 ページ)
- お買い上げ時の設定:
フロント左 / フロント右 / フロントハイト左 / フロントハイト右 / センター / フロント Dolby 左 / フロント Dolby 右 / サブウーハー 1 / サブウーハー 2 / サブウーハー 3 / サブウーハー 4:3.60 m(11.8 ft)
上記以外のスピーカー:3.00 m(9.8 ft)

■ Dolby スピーカーの設定

Dolby Atmos Enabled スピーカーから天井までの距離を設定します。

0.90 m～3.30 m / 3.0 ft～10.8 ft

(お買い上げ時の設定: 1.80 m / 5.9 ft)



- メニューの“スピーカーレイアウト”の設定が、“フロント Dolby”、“サ라운드 Dolby”または“バック Dolby”のときに設定できません。(🔍215 ページ)
- Dirac Live 使用時は設定できません。(🔍237 ページ)

■ 初期化

“距離”で設定した内容がお買い上げ時の設定に戻ります。



レベル

リスニングポイントに対して、各スピーカーから出力されるテストトーンの音量が同じになるように設定します。

Dirac Live Room Correction では、“レベル”の値をフィルターごとに独立して記憶します。

■ テストトーン開始

選択したスピーカーからテストトーンを出力します。
テストトーンを聞きながら、各スピーカーの音量を調節してください。

-12.0 dB~+12.0 dB(お買い上げ時の設定:0.0 dB)



- 設定した“レベル”は、すべてのサウンドモードに反映します。
- 入力ソースごとにチャンネルレベルを調節したい場合は、“チャンネルレベル調節”で設定してください。(P.122 ページ)
- 本体の PHONES 端子にヘッドホンを挿入している場合、“レベル”の設定はできません。

■ 初期化

“レベル”で設定した内容がお買い上げ時の設定に戻ります。

クロスオーバー周波数

各スピーカーで再生可能な低音域の下限周波数に合わせて設定します。スピーカーのクロスオーバー周波数については、スピーカーの取扱説明書をご覧ください。

■ クロスオーバー周波数を設定します

フルレンジ:

フルレンジのオーディオを再生するようにスピーカーを設定するには“フルレンジ”を選択します。

40 Hz / 60 Hz / 70 Hz /

80 Hz / 90 Hz / 100 Hz /

110 Hz / 120 Hz / 150 Hz / 180 Hz / 200 Hz / 250 Hz

(お買い上げ時の設定:フロント=フルレンジ、その他=80 Hz)

低音をサブウーハーに送る再生帯域を設定します。



- クロスオーバー周波数は、通常“80 Hz”に設定してください。小型スピーカーをご使用になる場合は、クロスオーバー周波数をより高い周波数に設定することをおすすめします。例えば、スピーカーの周波数帯域が250Hz~20kHz の場合は、“250 Hz”に設定してください。
- クロスオーバー周波数以下の音声はスピーカー出力からカットされます。カットした低音域は、サブウーハーまたはフロントスピーカーから出力します。
- “スピーカーレイアウト”にて“サブウーハー”を“無し”に設定している場合、“フロント”は自動的に“フルレンジ”に設定されます。
- フロントが“フルレンジ”に設定されている場合のみ、各スピーカーを“フルレンジ”に設定できます。
- IMAX 再生中は“IMAX オーディオ設定”のオーディオ設定が適用されます。(P.177 ページ)



スピーカープリセット

スピーカーを使用する環境に合わせて、2種類のスピーカー設定を保存することができます。

例えば、スクリーンの使用・未使用などにより部屋の特性が変わる場合に、2種類のプリセットを保存することで簡単に Audyssey® セットアップで測定したイコライザーやスピーカーの設定を切り替えることができます。

また、プリセットを使用すれば、Audyssey セットアップの音場効果と Dirac Live の音場効果を簡単に切り替えることが出来ます。

プリセットを使用する場合には、あらかじめ使用するプリセットを選択してから Audyssey® セットアップ、Dirac Live Room Correction* やスピーカーの設定をおこなうと、選択しているプリセットに設定が保存されます。

* Dirac Live ソフトウェアから初めて測定結果を本機に転送する場合は、自動的に“スピーカープリセット 2”に設定が保存されます。

スピーカープリセット 1 プリセット 1 に保存します。
(お買い上げ時の設定):

スピーカープリセット 2: プリセット 2 に保存します。






- プリセットには次の設定が記憶されます。
 - “スピーカーレイアウト”の設定
 - “距離”の設定
 - “レベル”の設定
 - “クロスオーバー周波数”の設定
 - “サブウーハー出力”の設定
 - “ローパスフィルター”の設定
 - “ディストリビューション”の設定
 - “フロントスピーカー”の設定
 - “MultEQ® XT32”データ
 - “Dirac Live”データ
 - “グラフィック EQ”データ
- オプションメニューの“スピーカープリセット”でも設定できます。
(128 ページ)



アドバンス設定

以下のアドバンススピーカー設定が利用できます。

■ LFE

- 「サブウーハー出力」( 233 ページ)
- 「ローパスフィルター」( 234 ページ)
- 「ディストリビューション」( 235 ページ)

■ フロントスピーカー (235 ページ)

■ トランスデューサー (236 ページ)

サブウーハー出力

サブウーハーで再生する低音域信号を設定します。

■ サブウーハー出力

LFE
(お買い上げ時の設定):

サブウーハー用の信号に、クロスオーバーで設定されたスピーカーの低音域信号を加えて出力します。この設定は一般的な部屋のホームシアター低域管理の初期値として使用します。

LFE + メイン:

サブウーハー用の信号に、すべてのフルレンジスピーカーの低音域信号を加えて出力します。

■ 低音再生用 LPF

フルレンジスピーカーのローパスフィルターポイントを設定して、低周波信号をサブウーハーにコピーします。

40 Hz / 60 Hz / 70 Hz / 80 Hz / 90 Hz / 100 Hz / 110 Hz / 120 Hz / 150 Hz / 180 Hz / 200 Hz / 250 Hz (お買い上げ時の設定: 80 Hz)





- “サブウーハー出力”は、メニューの“スピーカーレイアウト” - “サブウーハー”の設定が“無し”以外のときに設定できます。(☞224 ページ)
- 音楽ソースや映画ソースを再生して、量感のある低音域が得られるモードを選択してください。
- メニューの“クロスオーバー周波数” - “フロント”と“センター”の設定が“フルレンジ”で、なおかつ“サブウーハー出力”の設定が“LFE”の場合は、入力信号やサウンドモードによってサブウーハーから音声が出力されない場合があります。(☞231 ページ)
常にサブウーハーから低音域を出力したい場合は、“LFE + メイン”に設定してください。
- “クロスオーバー周波数”の設定が“フルレンジ”のチャンネルのみ、“低音再生用 LPF”の設定ができます。
- IMAX 再生中は“IMAX オーディオ設定”のオーディオ設定が適用されます。(☞177 ページ)

ローパスフィルター

LFE 信号の再生帯域を設定します。サブウーハーでの再生周波数を変更する場合に設定します。

■ ローパスフィルター

70 Hz / 80 Hz / 90 Hz / 100 Hz / 110 Hz / 120 Hz / 150 Hz /
180 Hz / 200 Hz / 250 Hz (お買い上げ時の設定: 120 Hz)



- IMAX 再生中は“IMAX オーディオ設定”のオーディオ設定が適用されます。(☞177 ページ)



ディストリビューション

フルレンジフロアスピーカーに送信される LFE 信号の量を調節します。

■ フロント/センター/サラウンド/サラウンドバック

オフ (お買い上げ時の設定):	フロアスピーカーは LFE 信号を再生しません。
-20 dB - 0 dB	フルレンジスピーカーに送信される LFE 信号の量を調節します。



- “クロスオーバー周波数”で“フロント”、“センター”、“サラウンド”および“サラウンドバック”スピーカーが“フルレンジ”に設定されている場合にのみ設定できます。

フロントスピーカー

ご使用になるフロントスピーカー A または B を設定します。

A (お買い上げ時の設定):	フロントスピーカー A を使用します。
B:	フロントスピーカー B を使用します。
A+B:	フロントスピーカー A と B の両方を使用します。



- メニューの“アンプの割り当て”設定が“7.1ch + Front B”のときに設定できます。(P.217 ページ)



トランスデューサー

トランスデューサー機能を使用する場合は、レベルとローパスフィルターのカットオフ周波数を設定します。

■ トランスデューサー

トランスデューサー機能を有効にするか無効にするかを設定します。

有効: トランスデューサー機能を有効にします。

無効
(お買い上げ時の設定): トランスデューサー機能を無効にします。



- トランスデューサー接続には、Subwoofer 4 PREOUT 端子を使用します。
- “スピーカーレイアウト” - “サブウーハー”の設定が“4 台”のときは設定できません。

■ レベル

トランスデューサー出力のレベルを調整します。

-12.0 dB~+12.0 dB(お買い上げ時の設定:0.0 dB)



- “レベル”は、すべての入力ソースに反映します。
- 入力ソースごとにトランスデューサー出力レベルを調節したい場合は、“トランスデューサー”で設定してください。(P.125 ページ)

■ ローパスフィルター

トランスデューサー出力のローパスフィルターカットオフ周波数を選択します。

40 Hz / 60 Hz / 70 Hz / 80 Hz / 90 Hz / 100 Hz / 110 Hz /
120 Hz / 150 Hz / 180 Hz / 200 Hz / 250 Hz
(お買い上げ時の設定:80 Hz)

- “ローパスフィルター”は、すべての入力ソースに反映しません。



Dirac Live セットアップ

Dirac Live は、スピーカーの能力を最大限に引き出す機能です。

Dirac Live では研究に基づいた音響処理アルゴリズムを使用して部屋を分析して音質への影響を軽減し、他の方法では難しいスピーカーのパフォーマンスを実現します。

Dirac Live を実行する前に Dirac Live アカウントを作成し、ライセンスを購入する必要があります。

以下の Web サイトでアカウントを作成し、ライセンスを購入してください。

www.dirac.com/denon/



Dirac Live の詳細については、Dirac Live のマニュアルをご覧ください。

<https://manuals.denon.com/DiracLive/ALL/JA/>



ネットワーク

本機をホームネットワーク(LAN)に接続して使用できるようにするためには、ネットワークの設定をおこなう必要があります。DHCPでホームネットワーク(LAN)を構築している場合は、“DHCP”を“オン”に設定します。(お買い上げ時の設定のまま使用してください。)これにより、ホームネットワーク(LAN)を使用できるようになります。各機器にIPアドレスを手動で割り当てている場合は、“IPアドレス”の設定で本機にIPアドレスを割り当て、ゲートウェイアドレスやサブネットマスクなど、ご使用のホームネットワーク(LAN)に関する情報を入力する必要があります。

情報

ネットワークの情報を表示します。

フレンドリーネーム / 接続 / SSID / DHCP / IP アドレス /
MAC アドレス (イーサネット) / MAC アドレス (Wi-Fi) /
Wi-Fi 電波強度

接続

ホームネットワーク(LAN)に有線 LAN で接続するか、無線 LAN で接続するかを設定します。有線 LAN でネットワークに接続する場合、LAN ケーブルを接続してから“有線 (イーサネット)”を選択してください。無線 LAN でネットワークに接続する場合、“無線 (Wi-Fi)”を選択し、“Wi-Fi 設定”を設定してください。(P.239 ページ)

■ 接続方法

ホームネットワーク(LAN)に接続する方法を設定します。

有線 (イーサネット):	LAN ケーブルを使用して、ネットワークに接続します。
無線 (Wi-Fi) (お買い上げ時の設定):	無線 LAN (Wi-Fi) 機能を使用して、ネットワークに接続します。



- “有線 (イーサネット)”は“Wi-Fi”の設定が“無効”のときに設定できません。(P.245 ページ)



Wi-Fi 設定

無線 LAN(Wi-Fi)ルーターとの接続をおこないます。ルーターとの接続には次の方法があります。ご家庭の環境に合わせて接続方法を選択してください。

ご注意

- ネットワーク機能を使用するには、HEOS アカウントにサインインする必要があります。
Wi-Fi の設定後、テレビ画面の指示にしたがって HEOS アカウントを作成するか、お持ちのアカウントにサインインしてください。
HEOS アカウントにサインインしない場合、Wi-Fi 接続機能は使用できません。

■ ネットワーク検索

テレビ画面に表示された接続可能な無線ネットワークの一覧から、接続したいネットワークを選択します。

- 無線ネットワークの一覧から、接続したいネットワークを選ぶ。
見つからない場合は、“再スキャン”を選択してください。
- パスワードを入力し、“OK”を選ぶ。

■ iOS を使用

お手持ちの iOS デバイス(iPhone/iPod/iPad)を使用してネットワークに接続します。iOS デバイスと本機を接続することで、自動的に本機を同じネットワークに接続することができます。

- テレビ画面で“iOS を使用”を選ぶ。
- iOS デバイスが無線 LAN(Wi-Fi)ルーターに接続していることを確認し、iOS デバイスの Wi-Fi 設定画面の下部にある“Denon AVR-X3900H”から“新しい AIRPLAY スピーカーを設定...”を選ぶ。
- iOS デバイスの画面で“次へ”をタップする。



- iOS 機器のファームウェアのバージョンが iOS 10.0.2 以降に対応している必要があります。



■ WPS ルーター

プッシュボタン方式の WPS に対応したルーターを使用してください。

1. テレビ画面で“プッシュボタン”を選ぶ。
2. 接続したいルーターの WPS ボタンを押して、WPS モードにする。
 - ボタンを押す時間はルーターによって異なります。
3. 2 分以内に、テレビ画面で“接続”を選ぶ。

■ マニュアル

接続したいネットワーク名 (SSID) やパスワードを入力して接続します。

1. 次の項目を設定する。

SSID:	無線ネットワーク名 (SSID) を入力します。
セキュリティ:	ご使用のアクセスポイントの暗号化設定に合わせて、暗号化方式を選択します。
パスワード:	パスワードを入力します。

2. 設定が終わったら“接続”を選ぶ。



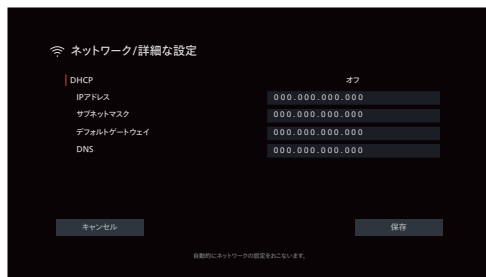
- 本機の“デフォルトキー”は“1”に固定されています。ルーターの“デフォルトキー”の設定を“1”にしてご使用ください。



詳細な設定

IP アドレスを設定します。

- ブロードバンドルーター (DHCP 機能) をご使用の場合は、本機のお買い上げ時の設定で DHCP 機能が“オン”になっていますので、IP アドレスなどネットワーク接続に必要な情報を自動で設定します。
- DHCP 機能のないネットワークに接続する場合や固定 IP アドレスを割り当てる場合のみ、IP アドレス、サブネットマスク、デフォルトゲートウェイおよび DNS サーバーの情報を設定してください。



■ DHCP

ネットワークへの接続方法を設定します。

オン (お買い上げ時の設定): ご使用のルーターから自動的にネットワークの設定をします。

オフ: 手動でネットワークの設定をします。

■ IP アドレス

入力する IP アドレスは下記の範囲で設定してください。

- 下記以外の IP アドレスではネットワークオーディオ機能を使用することはできません。

CLASS A: 10.0.0.1 ~ 10.255.255.254

CLASS B: 172.16.0.1 ~ 172.31.255.254

CLASS C: 192.168.0.1 ~ 192.168.255.254

■ サブネットマスク

xDSL モデムやターミナルアダプターを直接本機に接続している場合は、プロバイダから書面などで通知されたサブネットマスクを入力します。通常は“255.255.255.0”を入力します。



■ デフォルトゲートウェイ

ゲートウェイ(ルーター)に接続している場合は、その IP アドレスを入力します。

■ DNS

プロバイダから書面などで通知された DNS アドレスを入力してください。



- インターネットに接続できない場合は、再度接続や設定を確認してください。(P.72 ページ)
- インターネットの接続についてお分かりにならない場合は、ISP (Internet Service Provider) またはパソコン関連販売店にお問い合わせください。

ネットワークコントロール

電源がスタンバイ状態でのネットワーク機能の設定をします。

スタンバイ時オフ:	スタンバイ時に、ネットワーク機能を停止します。
常時オン (お買い上げ時の設定):	スタンバイ時でも、ネットワーク機能を停止しません。ネットワーク対応のコントローラーを使用して本機を操作できます。



- ウェブコントロール機能や Denon AVR Remote App アプリ、HEOS App アプリをご使用になる場合は、“ネットワークコントロール”の設定を“常時オン”にしてご使用ください。

ご注意

- “ネットワークコントロール”を“常時オン”に設定している場合は、スタンバイ時の待機電力を多く消費します。



フレンドリーネーム

フレンドリーネームとは、ネットワーク上に表示される本機の名前です。お好みの名前に変更できます。

■ フレンドリーネーム

リストからフレンドリーネームを選択します。

“その他”を選択すると、お好みのフレンドリーネームに変更できます。

Home Theater / Living Room / Family Room / Guest Room / Kitchen / Dining Room / Master Bedroom / Bedroom / Den / Office / その他



- 30 文字まで入力できます。
- お買い上げ時のフレンドリーネームは、“Denon AVR-X3900H”です。

■ 初期化

編集したフレンドリーネームがお買い上げ時の設定に戻ります。

診断

ネットワークの接続を確認します。

■ ケーブル接続

LAN ポートの接続の確認をします。

OK

エラー:

LAN ケーブルが接続されていません。接続を確認してください。



- 無線 LAN で接続している場合は、“接続 無線 (Wi-Fi)” を表示します。

■ ルーターアクセス

本機からルーターまでの通信の確認をします。

OK

エラー:

ルーターとの通信に失敗しました。ルーターの設定を確認してください。



■ インターネットアクセス

本機からインターネット(WAN)のアクセス可否の確認をします。

OK

エラー:

インターネットへの接続に失敗しました。
インターネットの接続環境またはルーター
の設定を確認してください。

AirPlay

Apple AirPlay 機能を設定します。

■ AirPlay ネーム

Apple デバイスでの本機の識別名を表示します。



- 本機を Apple ホーム アプリに登録した場合は、Apple ホームアプリを使用して名前を変更してください。

■ AirPlay

Apple AirPlay 機能をオン/オフします。

オン
(お買い上げ時の設定): Apple AirPlay 機能を有効にします。

オフ: Apple AirPlay 機能を無効にします。



Spotify Connect

Spotify Connect へのアクセスをオン/オフします。

オン (お買い上げ時の設定):	Spotify Connect へのアクセスを有効にします。
オフ:	Spotify Connect へのアクセスを無効にします。

Roon Ready

Roon Ready へのアクセスをオン/オフします。

オン (お買い上げ時の設定):	Roon Ready へのアクセスを有効にします。
オフ:	Roon Ready へのアクセスを無効にします。

Qobuz Connect

Qobuz Connect へのアクセスをオン/オフします。

オン (お買い上げ時の設定):	Qobuz Connect へのアクセスを有効にします。
オフ:	Qobuz Connect へのアクセスを無効にします。

Wi-Fi と Bluetooth

Wi-Fi と Bluetooth の無線機能をオン/オフします。

■ Wi-Fi

Wi-Fi 機能を停止することにより、音質に影響を与えるノイズ源を抑えます。有線 LAN を使用して本機をネットワークに接続する場合に、高音質な再生ができます。

有効 (お買い上げ時の設定):	Wi-Fi 機能をオンにします。
無効:	Wi-Fi 機能をオフにします。

■ Bluetooth

Bluetooth 機能を停止することにより、音質に影響を与えるノイズ源を抑え、高音質な再生ができます。

有効 (お買い上げ時の設定):	Bluetooth 機能をオンにします。
無効:	Bluetooth 機能をオフにします。



HEOS

HEOS アカウントは、HEOS お気に入りを使用するために必要です。

表示されるメニューは、HEOS アカウントでサインインしているかどうかによって異なります。

サインインしていない場合

テレビ画面に QR コード表示します。

お持ちのモバイル機器で読み込んで、HEOS App をダウンロードしてください。

HEOS App で HEOS アカウントを作成またはサインインすると、本機の画面からあなたのお気に入りのストリーミングラジオ局を保存したり、呼び出すことができます。(🔗 120 ページ)

HEOS App については、「HEOS アプリをダウンロードする」(🔗 106 ページ)をご覧ください。



- 本機の HEOS アカウントの設定情報は HEOS App と同期します。アカウントの設定変更やサインアウトは、HEOS App でおこなってください。

サインインしている場合

■ サインイン中

現在サインインしている HEOS アカウントを表示します。



- HEOS App でアカウントの設定変更やサインアウトをおこなうと、本機の状態も自動的に同期します。HEOS アカウントを切り替えたい場合は、本機に同期させたいアカウントでサインインしている HEOS App から音楽を再生してください。“HEOS アカウント”を自動的に切り替えます。



一般

その他の設定をします。

言語

テレビ画面に表示するメニューの言語を設定します。

日本語 / English (お買い上げ時の設定: 日本語)



- “言語”は、次の操作でも設定できます。この設定中は、メニュー画面を表示しません。ディスプレイの表示を見ながら設定してください。
 1. 本機の電源が入っているときに本体の ZONE2 SOURCE と STATUS を同時に 3 秒以上長押しする。
ディスプレイに“4K/8K:<Enhanced>”を表示します。
 2. 本体の DIMMER を 1 回押す。
ディスプレイに“Lang.:<JAPANESE>”を表示します。
 3. 本体の TUNER PRESET CH + または TUNER PRESET CH - を押して、言語を設定する。
 4. 本体の STATUS を押して、設定を終了する。

オーナーズマニュアル

モバイル機器から、オンラインの取扱説明書にアクセスするための URL と QR コードを表示します。

エコ設定

エコモードとオートスタンバイモードの設定をします。

■ エコモード

本機の電源がオンのときの消費電力や発熱を低減することができます。

これは、パワーアンプへ供給される電力を減少させることによって消費電力の低減をおこないます。



オン:

音量や入力信号に関わらず、常に消費電力を低減します。

音量の設定や入力信号の有無に合わせて、消費電力を自動的に最適化します。

音量を低く設定している場合は、パワーアンプへ供給している電力を下げ、消費電力を低減します。音量を上げると通常の供給電力に戻り、パワフルな再生をお楽しみいただけます。

オート

(お買い上げ時の設定):

また、音量を高く設定していても無信号の状態が2分以上続いた場合は、自動的に消費電力を低減します。このような場合は、再度再生を開始したり、入力ソースを切り替えたりすると、自動的にパワーアンプへの供給電力が通常の状態に戻ります。

オフ:

消費電力を低減しません。



- “エコモード”の設定が“オート”のときに、パワーアンプへの供給電力が切り替わると、本機内部からクリック音が聞こえることがありますが、これは正常な動作です。
- “エコモード”の設定が“オート”のとき、無信号の状態が2分以上続いたあとに再生が開始されると、音の始めがクリップすることがあります。
- “エコモード”はメニューの“アンプの割り当て”の設定が“プリアンプ” (☞217 ページ)、またはスピーカーインピーダンスの設定が4Ω のときは設定できません(☞39 ページ)。



■ 電源オン時の設定

電源をオンにしたときのエコモードを設定します。

最後の設定 (お買い上げ時の設定):	前回電源をオフにする前の設定になります。
------------------------------	----------------------

オン:	電源をオンにしたとき、常にエコモードが“オン”になります。
------------	-------------------------------

オート:	電源をオンにしたとき、常にエコモードが“オート”になります。
-------------	--------------------------------

オフ:	電源をオンにしたとき、常にエコモードが“オフ”になります。
------------	-------------------------------

■ オンスクリーン表示

本機の消費電力を、テレビ画面にメーターで表示します。

常時オン:	テレビ画面に常にメーターを表示します。
--------------	---------------------

オート (お買い上げ時の設定):	モードや音量の変更時、テレビ画面にメーターを表示します。
----------------------------	------------------------------

オフ:	テレビ画面にメーターを表示しません。
------------	--------------------



■ オートスタンバイ

自動的に本機をスタンバイ状態にする設定をします。

□ メインゾーン

音声や映像の入力がない状態で本機を操作しないときに、自動的にスタンバイ状態にする時間を設定します。スタンバイ状態になる前に、本体のディスプレイとメニュー画面に“オートスタンバイ”を表示します。

60分:	約 60 分後に本機をスタンバイ状態にしません。
30分:	約 30 分後に本機をスタンバイ状態にしません。
15分:	約 15 分後に本機をスタンバイ状態にしません。
オフ (お買い上げ時の設定):	自動的に本機をスタンバイ状態にしません。

□ ZONE2

音声や映像の入力があっても、何も操作がない状態が続いた場合、ここで設定した時間が経過すると自動で電源が切れます。

8時間:	約 8 時間後にゾーン 2 をスタンバイ状態にします。
4時間:	約 4 時間後にゾーン 2 をスタンバイ状態にします。
2時間:	約 2 時間後にゾーン 2 をスタンバイ状態にします。
オフ (お買い上げ時の設定):	自動的にゾーン 2 をスタンバイ状態にしません。



Bluetooth 送信

本機の Bluetooth 送信の設定をします。
メインゾーンで再生している音声を Bluetooth ヘッドホンで聴く場合に設定してください。

■ 送信

Bluetooth 送信機能を設定します。

オン:	Bluetooth 送信機能を使用します。
オフ (お買い上げ時の設定):	Bluetooth 送信機能を使用しません。

■ 出力モード

音声の出力方法を選択します。

Bluetooth + スピーカー (お買い上げ時の設定):	音声は Bluetooth ヘッドホンとメインゾーンのスピーカーに出力されます。
Bluetooth のみ:	音声は Bluetooth ヘッドホンのみ出力されます。

■ 接続中のデバイス

本機に接続されている Bluetooth 機器を表示します。

■ デバイスリスト

- 本機に接続したい Bluetooth ヘッドホンがペアリングモードに入ると、使用可能な機器がデバイスリストに表示されます。リストから機器名を選択して本機とペアリングしてください。
- 本機に接続できる機器は 1 台です。最大 8 台まで Bluetooth 機器を登録することができます。メニューの“Bluetooth 送信” - デバイスリストから登録済みの機器を切り替えることができます。
- 登録済みの機器をリストから削除したい場合は、カーソル上/下ボタンを押して機器名を選択後、OPTION ボタンを押して“このデバイスの登録を解除”を選択してください。



- “出力モード”はオプションメニューの“Bluetooth 送信”からでも設定できます。
- Bluetooth ヘッドホンの接続と同じ操作で A2DP プロファイル対応の Bluetooth スピーカーも接続できます。

ご注意

- Bluetooth 送信機能と Bluetooth 受信機能を同時に使用することはできません。いずれかのゾーンで Bluetooth 機器の音楽を聴いている場合、このメニューは使用できません。
- “送信”を“オン”に設定していても、リモコンの Bluetooth ボタンを押して Bluetooth 入力ソースを選択すると、Bluetooth 受信機能が有効になります。スマートフォンなどの Bluetooth 機器に保存されている音楽を本機で再生したい場合は、リモコンの Bluetooth ボタンを押して入力ソースを“Bluetooth”に切り替えてから Bluetooth 機器と再接続してください。
- 本機が HEOS アプリでグループ化されている場合、このメニューは使用できません。



ゾーン2の設定

ゾーン2で再生する音声の設定をします。



- “音量の上限”および“電源オン時の音量”の設定値は、音量の“表示方法”の設定に合わせて表示します。(P.183 ページ)

■ 低音

低音を調節します。

-10 dB~+10 dB(お買い上げ時の設定:0 dB)

■ 高音

高音を調節します。

-10 dB~+10 dB(お買い上げ時の設定:0 dB)

■ ハイパスフィルター

低音が歪んで聞こえるときに、低域成分をカットして出力します。

オン: 低域成分をカットして出力します。

オフ
(お買い上げ時の設定): 低域成分をカットしません。

■ 左レベル

左チャンネルの出力レベルを調節します。

-12 dB~+12 dB(お買い上げ時の設定:0 dB)

■ 右レベル

右チャンネルの出力レベルを調節します。

-12 dB~+12 dB(お買い上げ時の設定:0 dB)

■ チャンネル

ステレオで再生するかモノラルで再生するかを設定します。

ステレオ
(お買い上げ時の設定): ステレオで再生します。

モノラル: モノラルで再生します。



■ HDMI オーディオ

ゾーン 2 で HDMI ソースを再生するための音声信号形式を設定します。

無変換 本機に入力した HDMI 音声信号のまま、ゾーン 2 の機器に出力します。
(お買い上げ時の設定)

PCM: 本機に入力した HDMI 音声信号を、ZONE2 PRE OUT 端子やスピーカー端子から出力できるように PCM 信号に変換して再生します。*

* この場合、メインゾーンとゾーン 2 を同じ入力ソースにすると、メインゾーンの音声も PCM 2 チャンネル信号になります。ただし、再生機器によっては、この設定をおこなっても PCM 信号に変換されない場合があります。

■ 音量レベル

音量出力レベルを設定します。

可変
(お買い上げ時の設定): 音量の調節ができます。

1 - 98
(-79 dB - 18 dB): 音量をお好みのレベルに固定します。リモコンで音量の調節はできません。



• “表示方法”の設定が“-79.5dB - 18.0 dB”のときに dB 値を表示します。(P183 ページ)

■ 音量の上限

音量の上限を設定します。

60~80(-20 dB~0 dB)
(お買い上げ時の設定: 70(-10 dB))

オフ: 音量の上限を設定しません。



- メニューの“音量レベル”の設定が“可変”のときに設定できます。(P253 ページ)
- “表示方法”の設定が“-79.5 dB - 18.0 dB”のときに dB 値を表示します。(P183 ページ)

■ 電源オン時の音量

電源をオンにしたときの音量を設定します。

前回の音量
(お買い上げ時の設定): 前回使用したときの音量になります。

消音: 消音状態になります。

1 - 98
(-79 dB - 18 dB): 設定した音量になります。



- メニューの“音量レベル”の設定が“可変”のときに設定できます。(P253 ページ)
- “表示方法”の設定が“-79.5 dB - 18.0 dB”のときに dB 値を表示します。(P183 ページ)



■ ミューティングレベル

ミュート時の音量の減衰量を設定します。

消音

(お買い上げ時の設定): 消音状態になります。

-40 dB: 現在の音量から 40dB 低く設定します。

-20 dB: 現在の音量から 20dB 低く設定します。

ゾーン名の変更

ゾーンの表示名を、お好みの名前に変更します。

メインゾーン / ゾーン 2

初期化:

編集したゾーン名がお買い上げ時の設定に戻ります。



- 10 文字まで入力できます。



クイックセレクト

“クイックセレクト”登録時に、設定を記憶する項目を設定します。
“クイックセレクト”への登録や呼び出しについては「クイックセレクトプラス機能」(P.148 ページ)をご覧ください。

■ ネーム

テレビ画面に表示するネームをお好みの名前に変更します。



- 16文字まで入力できます。

■ クイックセレクトの設定項目

クイックセレクトに登録するパラメーターを設定します。
以下のパラメーターを設定することができます。

- 入力ソース
- 音量
- サウンドモード
- チャンネルレベル
- Audyssey
- リストアラー
- ダイアログエンハンサー
- チャンネルエキスパンダー
- HDMI ビデオ出力
- ラジオステーション
- スピーカープリセット
- All Zone Stereo
- テレビ音声の共有設定
- Dirac Live



有効 (お買い上げ時の設定):	クイックセレクト登録時に、現在の設定を記憶します。クイックセレクトを呼び出した際、登録時の設定内容で呼び出されま す。
無効:	クイックセレクト登録時に、現在の設定が記憶されません。クイックセレクトを呼び出した際、登録時の設定内容で呼び出され ません。



- クイックセレクトは、“クイックセレクト”ごとに設定できます。
- “入力ソース”を“無効”に設定してした場合、ビデオセレクトの情報も登録および呼び出しできません。

トリガーアウト

トリガーアウトを動作させる条件を選択します。
トリガー出力端子の接続方法については、「トリガー出力端子」
([P.75](#) ページ)をご覧ください。

- **ゾーン(メインゾーン/ZONE2)に対して設定するとき**
“オン”に設定されたゾーンの電源に連動して、トリガーアウトが動作します。
- **入力ソースに対して設定するとき**
“オン”に設定された入力ソースを選択したときにトリガーアウトが動作します。
- **HDMI 出力に対して設定するとき**
“オン”に設定された HDMI 出力を選択したときに、トリガーアウトが動作します。

オン: 出力の条件にします。

オフ: 出力の条件にしません。



フロントディスプレイ

本機のディスプレイに関する設定をします。

■ 明るさ

本機のディスプレイの明るさを調節します。

通常
(お買い上げ時の設定): 通常の明るさです。

薄暗い: 薄暗くします。

暗い: 暗くします。

消灯: ディスプレイを消灯します。



- 本体の DIMMER を押しても、ディスプレイの明るさを調節できません。



ファームウェア

アップデートに関する最新のファームウェア情報を確認し、ファームウェアをアップデートします。

■ アップデートの確認

ファームウェアのアップデートがあるか確認します。
アップデート可能なファームウェアがリリースされている場合は、アップデートを実行できます。

今すぐアップデートする: アップデートを実行します。アップデートを開始すると、メニュー画面はシャットダウンします。アップデート中は、ディスプレイに進行状況を表示します。

後でアップデートする: 後でアップデートを実行します。



- アップデートに失敗しても、本機は自動的にアップデートを再試行します。アップデートできない場合には、ディスプレイに“Update Error”を表示します。アップデートエラーメッセージについては、「故障かな?と思ったら」-「アップデートエラーメッセージについて」をご覧ください。(P.290 ページ)
メッセージに従い環境の確認をおこなったうえで、再度アップデートしてください。
- このメニューは、“アップデートの許可”の設定が“オフ”のときは選択できません。

■ 自動アップデート

本機がスタンバイモードのときに、最新のファームウェアへ自動的に更新します。

□ 自動アップデート

本機がスタンバイモードのときに、最新のファームウェアへ自動的に更新します。

オン: 自動でアップデートします。

オフ
(お買い上げ時の設定): 自動でアップデートしません。

□ タイムゾーン

タイムゾーンを変更します。
お住まいの地域にあったタイムゾーンを設定してください。



- このメニューは、“アップデートの許可”の設定が“オフ”のときは選択できません。



■ アップデートの許可

本機のアップデートを有効または無効に設定します。

オン
(お買い上げ時の設定): アップデートを有効にします。

オフ: アップデートを無効にします。



- この設定をおこなうと、他の HEOS 機器や HEOS アプリとの互換性に問題が生じる場合があります。

“アップデート”をおこなうときのご注意

- これらの機能を使用するためには、インターネットに接続できる環境と設定が必要です。(P.72 ページ)
- アップデートが終わるまで、絶対に電源を切らないでください。
- アップデートが完了するまで、1 時間程度かかります。
- 一旦アップデートを開始すると、完了するまで通常の操作ができなくなります。また、本機に設定したパラメーターなどのバックアップデータがリセットされる場合があります。
- アップデート中に更新が失敗した場合は、本体の **⏻** を 5 秒以上長押しするか、電源コードを挿入し直してください。約 1 分後、ディスプレイに“Please wait”を表示し、更新を再開します。それでも失敗が続く場合は、ネットワークの環境を確認してください。



情報

本機の設定状態や入力信号などの情報を表示します。

■ オーディオ

メインゾーンのオーディオの情報を表示します。

サウンドモード:	設定しているサウンドモード
入力信号:	入力信号の種類
フォーマット:	入力信号のチャンネル数(フロント/サラウンド/LFEの有無)
サンプリング周波数:	入力信号のサンプリング周波数
オフセット:	ダイアログノーマライゼーションの補正值
フラグ:	サラウンドバックチャンネルを含む信号を入力しているときに表示します。入力信号が DTS-ES Matrix のときは“MATRIX”、DTS-ES Discrete 信号などのときは“DISCRETE”を表示します。

■ ビデオ

メインゾーンの HDMI 入出力信号や HDMI モニターの情報を表示します。

HDMI 信号情報

解像度 / HDR / カラースペース / ビット数 / ALLM / QFT / FRL レート

テレビ 1 情報 / テレビ 2 情報

インターフェース / HDR / 対応解像度 / 拡張機能 / 最大 FRL レート



- 解像度の末尾に A または B が表示される場合があります。A は非圧縮映像を表し、B は圧縮映像を表します。
- ALLM、QFT および FRL について詳しくは“HDMI について”を参照してください。(P.297 ページ)

■ ゾーン

各ゾーンの現在の設定状態を表示します。

メインゾーン:	メインゾーンの設定状態を表示します。表示する内容は、入力ソースによって異なります。
ゾーン 2:	ゾーン 2 の設定状態を表示します。



■ ファームウェア

バージョン: 現在のファームウェアのバージョン情報を表示します。

DTS バージョン: 現在の DTS バージョンを表示します。

■ お知らせ

お知らせを表示します。

また、電源をオンにしたときにお知らせを表示するかしないかを設定します。

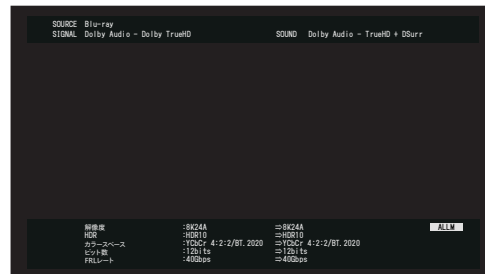
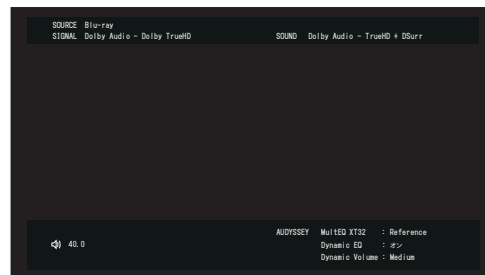
お知らせの表示

オン
(お買い上げ時の設定): 通知メッセージを表示します。

オフ: 通知メッセージを表示しません。



- リモコンの INFO を押すと、表示が切り替わり、入力ソース名、音量、サウンドモード名およびビデオ出力信号などの情報が表示されます。FRL Rate は本機の“4K/8K 信号フォーマット”設定が“8K 拡張”で、接続している TV が FRL 伝送モードに対応しているとき FRL に表示されます。



使用状況の送信設定

当社は今後の製品改善のために、本機の設定状況や機能の使用状況に関する情報の送信をお願いしております。お客様から送信される情報は今後の製品開発の参考にさせていただきます。

送信される情報は個人を特定する情報は含まれません。この情報は、当社の製品改善目的のためにのみ利用させていただき、第三者へ提供することは決して致しません。

はい:	本機の使用状況を情報提供します。
いいえ:	本機の使用状況を情報提供しません。

セーブ&ロード

USB メモリーを使用して、本機の設定を保存または復元します。



- 空き容量が 128MB 以上で、FAT32 の形式でフォーマットされた USB メモリーが使用できます。また、USB メモリーによっては正しく保存または復元ができない場合があります。
- 保存または復元が完了するまで、10 分程度かかることがあります。完了するまで電源を切らないでください。

■ 設定を保存

USB メモリーに本機の現在の設定を保存します。

設定が正しく保存されると、ディスプレイに“Saved”を表示し、USB メモリーに“config.avr”というファイルを作成します。



- 作成されたファイルの名前を変更しないでください。変更すると、復元時に設定の保存ファイルとして認識されません。

■ 設定を復元

USB メモリーに保存した設定を本機に復元します。

保存された設定が本機に正しく復元されると、ディスプレイに“Loaded”を表示して自動的に再起動します。



セットアップロック

設定した内容を変更できないようにロックします。

■ セットアップロック

オン:	設定した内容をロックします。
オフ (お買い上げ時の設定):	設定した内容をロックしません。



- 設定を解除するときは、“セットアップロック”を“オフ”に設定してください。

ご注意

- “セットアップロック”を“オン”に設定すると、“セットアップロック”以外の設定項目は表示しません。

初期化

本機の各種設定がお買い上げ時の設定に戻ります。
すべての設定の初期化、またはネットワーク設定のみの初期化ができます。

■ すべての設定

すべての設定がお買い上げ時の設定に戻ります。

■ ネットワーク設定

ネットワーク設定のみお買い上げ時の設定に戻ります。



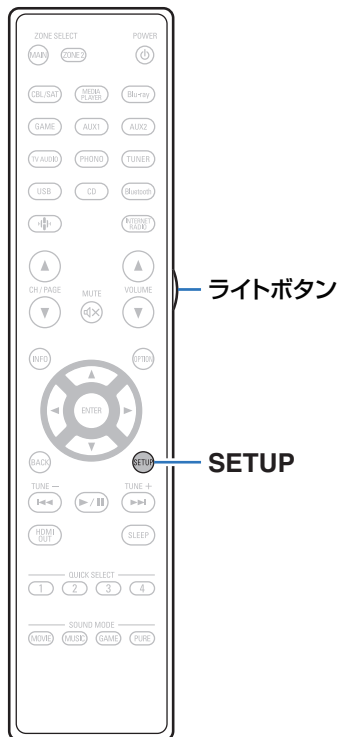
- お買い上げ時の設定に戻す前にメニューの“セーブ&ロード”機能を使用すると、本機の各種設定を記憶させ、保存および復元することができます。(参照 262 ページ)
- “初期化”の操作は、本体のボタンを使用しておこなうこともできます。
すべての設定をお買い上げ時の設定に戻す方法については「お買い上げ時の設定に戻す」(参照 291 ページ)、ネットワーク設定のみお買い上げ時の設定に戻す方法については「ネットワークの設定をお買い上げ時の設定に戻す」(参照 292 ページ)をご覧ください。

ご注意

- ネットワーク設定の初期化中は、電源コードを抜いたり、電源をオフにしたりしないでください。



リモコンのバックライトを設定する



リモコンのバックライトを消灯させることができます。

- お買い上げ時は、バックライトを点灯させる設定になっています。

バックライトを消灯させる

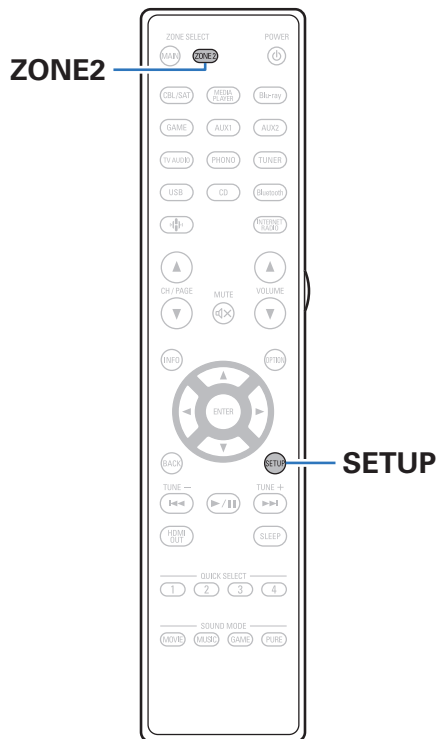
- 1 SETUP とライトボタンの両方を、リモコンの MAIN と ZONE2 表示が緑色に点滅するまで同時に長押しする。



- バックライト機能がオフの状態ですら再度手順 1 をおこなうと、バックライト機能をオンにできます。



リモコンで操作するゾーンを限定する



リモコンでゾーン 2 を操作できないように設定することができます。

- 1 ZONE2 と SETUP を長押しする。
MAIN および ZONE2 ボタンが点滅します。

■ 設定を解除する

- 1 設定中に ZONE2 と SETUP を長押しする。
MAIN および ZONE2 ボタンが点滅し、設定を解除します。



■ 目次

こんなときの解決方法

誤って音量が大きくならないようにしたい	267
電源を入れたときの音量を常に同じにしたい	267
常にサブウーハーから音を出したい	267
映画のせりふを聴きやすくしたい	267
小音量再生においても、低音や明瞭さを保ちたい	267
テレビや映画などのコンテンツによる音量差を自動的に調節したい	267
スピーカーの構成や設定を変えたり、スピーカーを買い替えたりした場合に、最適なリスニング環境に設定したい	268
今聴いている音楽に好きな映像を組み合わせたい	268
使っていない入力ソースを消したい	268
ホームパーティーなどのときにすべてのゾーンで同じ音楽を楽しみたい	268
ゲーム機などを本機に接続している場合にビデオ信号の遅延を最小にしたい	268
11.1 チャンネルスピーカーシステムのフロントチャンネルに外部パワーアンプを使用したい	268

故障かな？と思ったら

電源が入らない / 電源が切れる	270
リモコンで操作ができない	271
本機のディスプレイが表示されない	271
音がまったく出ない	272
希望する音が出ない	273
音が途切れたり、ノイズが入ったりする	277
テレビに映像が映らない	278
テレビにメニュー画面が表示されない	280
テレビに表示されるメニュー画面や操作内容の色が通常と異なる	280
AirPlay 再生ができない	281
USB メモリーが再生できない	282
Bluetooth が再生できない	283
インターネットラジオが再生できない	285
パソコン内や NAS 内の音楽ファイルが再生できない	286
各種オンラインサービスが再生できない	287
HDMI コントロール機能が動作しない	287
無線 LAN ネットワークに接続できない	288
HDMI ZONE2 機能を使用中に機器が正しく動作しない	289
アップデートエラーメッセージ	290



こんなときの解決方法

誤って音量が大きくならないようにしたい

- メニューの“音量の上限”で音量の上限値をあらかじめ設定してください。小さな子供が誤って音量を上げすぎることを防ぎます。ゾーンごとに設定できます。(「音量」(P.183 ページ)、「音量の上限」(P.253 ページ))

電源を入れたときの音量を常に同じにしたい

- お買い上げ時の設定では、本機をスタンバイにしたときの音量設定が、次回電源を入れたときに、前回スタンバイしたときの音量がそのまま適用されます。音量を一定にしたい場合は、メニューの“電源オン時の音量”で、電源を入れたときの音量を設定してください。ゾーンごとに設定できます。(「音量」(P.183 ページ)、「電源オン時の音量」(P.253 ページ))

常にサブウーハーから音を出したい

- 入力信号やサウンドモードによってサブウーハーから音が出ない場合があります。メニューの“サブウーハー出力”を“LFE + メイン”に設定すると、常にサブウーハーから音声を出力することができます。(P.233 ページ)

映画のせりふを聴きやすくしたい

- オプションメニューの“ダイアログエンハンサー”で、せりふが聴こえやすい設定を選択してください。(P.121 ページ)

小音量再生においても、低音や明瞭さを保ちたい

- メニューの“Dynamic EQ”を“オン”に設定してください。周波数特性を補正することによって、小音量再生のときでも低音を失うことなく、音をはっきり聴くことができます。(P.185 ページ)

テレビや映画などのコンテンツによる音量差を自動的に調節したい

- メニューの“Dynamic Volume”を設定してください。テレビや映画などで再生するコンテンツ内における音量レベルの変化(静かな音のシーンと大きな音のシーンの間など)をお好みの音量に自動的に調節します。(P.187 ページ)



スピーカーの構成や設置を変えたり、スピーカーを買い替えたりした場合に、最適なリスニング環境に設定したい

- Audyssey®セットアップをおこなってください。新しいリスニング環境に最適なスピーカーの設定を自動でおこないます。(P.204 ページ)

今聴いている音楽に好きな映像を組み合わせたい

- オプションメニューの“ビデオセレクト”を“オン”に設定してください。チューナーや CD、Phono、HEOS ミュージック、USB ミュージック、Bluetooth の音楽を聴きながら、Blu-ray やセットトップボックスなどお好みの映像ソースを組み合わせることができます。(P.126 ページ)

使っていない入力ソースを消したい

- メニューの“使用ソースの選択”で使用していない入力ソースを設定してください。本体の SOURCE SELECT つまみを回したときに使用していない入力ソースをスキップできます。(P.203 ページ)

ホームパーティーなどのときにすべてのゾーンで同じ音楽を楽しみたい

- オプションメニューの“All Zone Stereo”で“スタート”を選択してください。メインゾーンで再生している音楽をゾーン 2 でも同時に再生できます。(P.127 ページ)

ゲーム機などを本機に接続している場合にビデオ信号の遅延を最小にしたい

- ゲーム機側のコントローラーのボタン操作に対し映像が遅れている場合は、メニューの“ビデオモード”を“ゲーム”に設定してください。(P.195 ページ)

11.1 チャンネルスピーカーシステムのフロントチャンネルに外部パワーアンプを使用したい

- フロントチャンネル用の外部パワーアンプを接続するには、フロントスピーカーの“接続”を“プリアウト”に設定してください。(P.218 ページ)




故障かな？と思ったら

最初に次のことを確認してください。

1. 各接続は正しいですか
2. 取扱説明書に従って正しく操作していますか
3. スピーカーやプレーヤーは正しく動作していますか



- 上記の手順 1～3 をおこなっても動作が改善しない場合、本機を再起動すると改善することがあります。
ディスプレイに“Restart”が表示されるまで、本体の  ボタンを押し続けるか、本機の電源コードを抜き差ししてください。

本機が正しく動作しないときは、該当する症状に従ってチェックしてみてください。

なお、どの症状にも該当しない場合は本機の故障とも考えられますので、お買い上げの販売店にご相談ください。もし、お買い上げの販売店でもお分かりにならない場合は、当社のお客様相談センターまたはお近くの修理相談窓口にご連絡ください。



電源が入らない / 電源が切れる

電源が入らない。

- コンセントへの電源プラグの差し込みを点検してください。(P.76 ページ)

電源が自動的に切れる。

- スリープタイマーが設定されています。再度電源を入れてください。(P.146 ページ)
- “オートスタンバイ”が設定されています。操作がない状態で一定時間が経過すると、“オートスタンバイ”が動作します。“オートスタンバイ”を無効にするには、メニューの“オートスタンバイ”を“オフ”に設定してください。(P.250 ページ)


電源が切れ、電源表示が約 2 秒間隔で、赤色に点滅している。

- 機器内部の温度上昇により、保護回路がはたらいています。電源が切れている状態で、1 時間程度待ち、本機の温度が十分下がってから、電源を入れ直してください。(P.325 ページ)
- 本機を風通しの良い場所に設置し直してください。

電源が切れ、電源表示が約 0.5 秒間隔で、赤色に点滅している。

- スピーカーの接続を確認してください。スピーカーケーブルの芯線どうしが接触したり、芯線が端子から外れたりして、芯線が本機のリアパネルに接触したため、保護回路がはたらいている可能性があります。電源コードを抜き、芯線をしっかりとよじり直すか、端末処理をするなどしたあとで、接続し直してください。(P.39 ページ)
- 音量を下げて、電源を入れ直してください。(P.78 ページ)
- 本機のアンプ回路が故障しています。電源コードを抜き、当社の修理相談窓口までご連絡ください。

電源ボタンを押しても本機の電源がオフにならず、ディスプレイに“ZONE2 On”と表示される。

- ゾーン 2 の電源がオンになっています。本機の電源をオフ(スタンバイ)にする場合は、本体の ZONE2 ON/OFF ボタンを押すか、リモコンの ZONE2 ボタンを押したあとに、POWER  ボタンを押して、ゾーン 2 の電源をオフにしてください。



リモコンで操作ができない

リモコンで操作ができない。

- 乾電池が消耗しています。新しい乾電池と交換してください。(P.10 ページ)
- リモコンは、本機から約 7m および 30° 以内の範囲で操作してください。(P.10 ページ)
- 本機とリモコンの間の障害物を取り除いてください。
- 乾電池の ⊕ と ⊖ を正しくセットしてください。(P.10 ページ)
- 本機のリモコン受光部に強い光(直射日光、インバーター式蛍光灯の光など)があたっています。受光部に強い光があたらない場所に設置してください。
- 操作したいゾーンとリモコンのゾーンの設定が合っていません。MAIN または ZONE2 ボタンを押して、リモコンを操作するゾーンを選択してください。(P.171 ページ)
- 3D 映像機器をご使用の場合、各ユニット間(テレビや 3D 視聴用メガネなど)の赤外線通信の影響によって本機のリモコンが効かなくなることがあります。その場合は、3D 通信の各ユニットの向きと距離を調節して、本機のリモコンの動作に影響がないことを確認してください。

本機のディスプレイが表示されない

ディスプレイの表示が消える。

- メニューの“明るさ”を“消灯”以外の設定にしてください。(P.257 ページ)
- サウンドモードが“Pure Direct”になっていると、ディスプレイは消灯します。(P.133 ページ)



音がまったく出ない

スピーカーから音が出ない。

- すべての機器の接続を確認してください。(☞39 ページ)
- 接続ケーブルを奥まで挿してください。
- 入力端子と出力端子を間違えて接続していないか確認してください。
- ケーブルが破損していないか確認してください。
- スピーカーケーブルが正しく接続されていることを確認してください。ケーブルの芯線がスピーカー端子の金属部に接触していることを確認してください。(☞39 ページ)
- スピーカー端子をしっかり締めてください。また、スピーカー端子の締めつけがゆるんでいないか確認してください。(☞39 ページ)
- 適切な入力ソースが選択されていることを確認してください。(☞78 ページ)
- 音量を適切な大きさに調節してください。(☞79 ページ)
- ミューティング(消音)モードを解除してください。(☞79 ページ)
- デジタルオーディオ入力端子の設定の確認をおこなってください。(☞200 ページ)
- 接続した機器のデジタル音声出力の設定を確認してください。機器によってはお買い上げ時の設定がオフになっていることがあります。
- 本体の PHONES 端子にヘッドホンのプラグを挿入していると、スピーカー端子およびプリアウト端子から音が出なくなります。
- Bluetooth ヘッドホンを使用して“出力モード”を“Bluetooth のみ”に設定している場合、スピーカー端子やプリアウト端子から音声は出力されません。Bluetooth ヘッドホンを使用しているときにスピーカー端子やプリアウト端子から同時に音声を出力したい場合は、“出力モード”の設定を“Bluetooth + スピーカー”に変更してください。(☞251 ページ)

DVI-D 接続時に、音声がでない。

- 本機を DVI-D 端子付きの機器に接続した場合、音声は出力しません。別途、音声の接続をおこなってください。



希望する音が出ない

音量が上がらない。

- 音量の上限値が低く設定されています。メニューの“音量の上限”で上限値を設定してください。(P.183 ページ)
- 入力された音声フォーマットや設定に合わせて適切な音量補正処理をしているため、上限値まで上がらない場合があります。

Bluetooth ヘッドホンに音量調節機能が無く、音量が小さすぎる、または大きすぎる。

- オプションメニューから“Bluetooth 送信”の“レベル”で音量を調節してください。(P.90 ページ)

Bluetooth ヘッドホンに音量調節機能はあるが、音量が小さすぎる、または大きすぎる。

- オプションメニューから“Bluetooth 送信”の“レベル”で音量を調節してください。(P.90 ページ)

HDMI で接続したときに、音が出ない。

- HDMI 端子の接続を確認してください。(P.61 ページ)
- HDMI の音声信号をスピーカーから出力するときは、メニューの“HDMI オーディオ出力”の設定を“AV アンプ”に設定してください。テレビから出力するときは“テレビ”に設定してください。(P.190 ページ)
- HDMI コントロール機能を使用している場合は、テレビ側のオーディオ出力の設定が AV アンプになっているか確認してください。(P.145 ページ)

eARC 機能対応のテレビと接続しているときに、テレビの音声为本機に接続されたスピーカーから出力されない。

- ご使用の eARC 機能対応のテレビによっては、eARC 機能の設定が必要な場合があります。この場合は設定をオンにしてください。詳しくは、テレビの取扱説明書をご覧ください。
- 本機の入力ソースが“TV Audio”になっているか確認してください。
- 入力ソースの“TV Audio”に HDMI 入力端子を割り当てた場合、eARC 機能が動作しません。eARC 機能を動作させるためには、HDMI 入力端子の割り当てを解除し、テレビと本機の電源を入れ直してください。(P.201 ページ)



特定のスピーカーから音が出ない。

- スピーカーケーブルが正しく接続されていることを確認してください。
- メニューの“スピーカーレイアウト”の設定が“無し”以外になっているかを確認してください。(☞215 ページ)
- メニューの“アンプの割り当て”の設定を確認してください。(☞215 ページ)
- サウンドモードが“Stereo”のときは、フロントスピーカーとサブウーハーからのみ音声を出力します。
- メニューの“スピーカーレイアウト” - “サラウンドバック”を“1 台”に設定しているときに、“スピーカーバーチャライザー”を“オン”に設定すると、サラウンドバックスピーカーから音声は出力されません。(☞175 ページ)
- メニューの“スピーカーレイアウト” - “サラウンドバック”の設定が“2 台”、なおかつ“スピーカーレイアウト” - “センター”の設定が“有り”のときにサウンドモードを“IMAX DTS”に設定すると、サラウンドの音声をサラウンドバックスピーカーから出力します。サラウンドスピーカーからは音声を出力しません。(☞217 ページ)

サブウーハーから音が出ない。

- サブウーハーの接続を確認してください。
- サブウーハーの電源を入れてください。
- メニューの“スピーカーレイアウト” - “サブウーハー”を“1 台”、“2 台”、“3 台”または“4 台”に設定してください。(☞224 ページ)
- メニューの“クロスオーバー周波数” - “フロント”の設定が“フルレンジ”の場合は、入力信号やサウンドモードによってサブウーハーから音声は出力されない場合があります。(☞231 ページ)
- 入力信号にサブウーハー音声信号(LFE)が含まれていない場合、サブウーハーから音声は出力されない場合があります。(☞233 ページ)
- メニューの“サブウーハー出力”を“LFE + メイン”に設定すると、常にサブウーハーから音声を出力することができます。(☞233 ページ)

DTS 音声は出力されない。

- 接続した機器のデジタル音声出力の設定が“DTS”になっているか確認してください。

Dolby Atmos, Dolby TrueHD, DTS-HD, Dolby Digital Plus の音声は出力されない。

- HDMI で接続してください。(☞64 ページ)
- 接続した機器のデジタル音声出力の設定を確認してください。機器によってはお買い上げ時の設定が“PCM”になっている場合があります。



DTS Neural:X モードが選択できない。

- DTS Neural:X は、ヘッドホン使用時は選択できません。

Dolby Surround モードが選択できない。

- ヘッドホン使用時は、Dolby Surround を選択できません。

IMAX DTS:X が選択できない。

- ヘッドホン使用時は IMAX DTS:X および IMAX DTS を選択できません。ヘッドホン使用時には DTS:X および DTS を選択できません。

AAC 放送の音が途切れる。

- AAC 放送再生中に再生チャンネル数などの放送内容が切り替わった場合、音声が途中で途切れる場合があります。

AAC として再生しない。

- テレビやデジタルチューナーなどによっては、AAC 出力が“オフ”になっていたり、AAC 信号を PCM 信号に変換する設定になっている場合があります。テレビやデジタルチューナーなどの設定画面で、デジタル音声や AAC 出力の設定をご確認ください。詳しくは、各機器の取扱説明書をご覧ください。

“Stereo”と“Direct”モード以外のサウンドモードが選択できない。

- Headphone:X 信号が入力されている場合、サウンドモードは“Stereo”と“Direct”のみ選択できます。(☞260 ページ)

Audyssey MultEQ® XT32、Audyssey Dynamic EQ®、Audyssey Dynamic Volume®および Audyssey LFC™が選択できない。

- Audyssey®セットアップを実施していない場合は、選択できません。(☞204 ページ)
- サウンドモードを“Direct”、“Pure Direct”以外に切り替えてください。(☞132 ページ)
- サウンドモードが“DTS Virtual:X”またはサウンドモードで“+ Virtual:X”の場合、Audyssey Dynamic EQ®、Audyssey Dynamic Volume®、Audyssey LFC™は選択できません。
- ヘッドホン使用時は選択できません。



Dirac Live が選択できない。

- Dirac Live Room Correction をおこなっていない場合は選択できません。「Dirac Live セットアップ」(P.237 ページ)
- ヘッドホン使用時は選択できません。
- “スピーカーレイアウト”の設定を Dirac Live Room Correction をおこなったときから変更した場合、Dirac Live は使用できません。

“リストアラー”が選択できない。

- アナログ信号または PCM 信号(サンプリング周波数=44.1/48kHz)が入力されているか確認してください。Dolby Digital や DTS サラウンドなどのマルチチャンネル信号の再生には“リストアラー”を使用することができません。(P.182 ページ)
- サウンドモードを“Direct”、“Pure Direct”以外に切り替えてください。(P.132 ページ)

ゾーン 2 用プリアウト端子やスピーカーから音が出ない。

- ゾーン 2 では、デジタル端子(OPTICAL/COAXIAL)から入力された信号が 2 チャンネル PCM のときに、音声の再生ができます。
- ゾーン 2 では、HDMI 端子から入力された信号が 2 チャンネル PCM のときに音声の再生ができます。入力信号によらずゾーン 2 で音声を再生するには、メニューの“HDMI オーディオ”の設定を“PCM”にしてください。再生機器によっては、この設定をおこなっても再生できない場合があります。この場合は、再生機器側の音声フォーマットを“PCM(2ch)”に設定してください。(P.253 ページ)
- ゾーン 2 で Bluetooth の音声を聴く場合、本機と Bluetooth 機器の間に障害物がなく、なおかつ約 30m の範囲内で使用してください。

Bluetooth ヘッドホンを使用中にサウンドモードやオーディオメニューの設定を変更できない。

- 本機は Bluetooth ヘッドホンの音声出力に対して、サウンドモードやオーディオメニューの設定を変更することはできません。



音が途切れたり、ノイズが入ったりする

インターネットラジオや USB メモリーを再生中に、音が途切れることがある。

- USB メモリーの転送速度が遅いと音が途切れることがあります。
- ネットワークの通信速度が遅いか、ラジオ局が混雑しています。

iPhone で通話すると、本機の音声出力にノイズが入る。

- iPhone を本機から 20cm 以上離して通話してください。

FM 放送または AM 放送の雑音が多い。

- アンテナの向きや位置を変えてください。(P.70 ページ)
- 本機から AM ループアンテナを外してください。
- 屋外アンテナを使用してください。(P.70 ページ)
- アンテナと他の接続ケーブルを離してください。(P.70 ページ)

音が歪んで聴こえる。

- 音量を下げてください。(P.79 ページ)
- メニューの“エコモード”を“オフ”に設定してください。“エコモード”が“オン”または“オート”のときは、大きな音量を再生すると音声が歪むことがあります。(P.247 ページ)

Wi-Fi 接続時に音切れがする。

- 無線 LAN で使用する周波数帯域は、電子レンジ・コードレスフォン・ゲーム機のワイヤレスコントローラー・その他の無線 LAN 機器で使います。そのため、これらの機器と本機を同時に使用すると、電波干渉により音途切れが発生する場合があります。次の方法をおこなうと、音途切れが改善される場合があります。(P.72 ページ)
 - 干渉している機器を本機から離して設置する。
 - 干渉している機器の電源を切る。
 - 本機に接続しているルーターのチャンネル設定を変更する。(チャンネルの変更のしかたは、無線ルーターの取扱説明書をご覧ください。)
 - 有線 LAN 接続に切り替える。
- 特にデータ容量の大きい音楽ファイルを再生するときなどに、ご使用の無線 LAN の環境によっては、再生音が途切れることがあります。その場合は有線 LAN 接続をおこなってください。(P.239 ページ)



テレビに映像が映らない

映像が映らない。

- すべての機器の接続を確認してください。(🔍 61 ページ)
- 接続ケーブルを奥まで挿してください。
- 入力端子と出力端子を間違えて接続していないか確認してください。
- ケーブルが破損していないか確認してください。
- 本機に接続されたテレビの入力端子に入力の設定を合わせてください。(🔍 200 ページ)
- 適切な入力ソースが選択されていることを確認してください。(🔍 78 ページ)
- ビデオ入力端子の設定の確認をおこなってください。(🔍 200 ページ)
- プレーヤーとテレビの解像度が合っていることを確認してください。(🔍 260 ページ)
- テレビが著作権保護 (HDCP) に対応しているか確認してください。HDCP に対応していない機器を接続した場合、映像が正しく出力されません。(🔍 299 ページ)
- HDCP 2.2 または HDCP 2.3 で著作権保護されているコンテンツを楽しむ場合は、HDCP 2.2 または HDCP 2.3 に対応した再生機器とテレビをご使用ください。
- 4K の映像を再生したい場合は、“High Speed HDMI Cable”または“High Speed HDMI Cable with Ethernet”をご使用ください。より高品位に 4K の映像を楽しむために、HDMI Premium Certified Cable のラベルが製品のパッケージに貼られている“Premium High Speed HDMI Cables”または“Premium High Speed HDMI Cables with Ethernet”のご使用をおすすめします。
- 認証された“Ultra High Speed HDMI cable”を使用して、8K または 4K 120Hz の映像をお楽しみください。他の HDMI ケーブルを使用すると、映像が映らないなどの問題が発生する場合があります。

DVI-D 接続時に、テレビに映像が映らない。

- DVI-D 接続の場合、機器間によってはコピーガード著作権保護 (HDCP) によって正しく動作しない場合があります。(🔍 299 ページ)



メニューを表示中に、テレビに映像が映らない。

- メニューを操作すると、メニューの背景に再生映像は表示されません。

メインゾーンを使用中に、HDMI ZONE2 の映像出力が途切れる。

- メインゾーンとゾーン 2 を同じ入力ソースにしている場合、メインゾーンを操作すると HDMI ZONE2 の映像が途切れる場合があります。



テレビにメニュー画面が表示されない

テレビにメニュー画面や操作内容が表示されない。

- 次の映像信号の再生中は、テレビに操作内容は表示されません。
 - ・一部の 3D ビデオコンテンツの映像
 - ・コンピューター解像度(例:VGA)の映像
 - ・16:9、4:3 以外のアスペクト比の映像
 - ・HDR 信号の種類による
 - ・ゲームコンテンツの種類による
 - ・圧縮映像
- テレビ側で 2D 映像を 3D 映像に変換している場合は、メニュー画面や操作内容を正しく表示しません。(P.261 ページ)
- ピュアダイレクト再生モード中は、メニュー画面や操作内容を表示しません。ピュアダイレクト以外のサウンドモードに切り替えてください。(P.131 ページ)

テレビに表示されるメニュー画面や操作内容の色が通常と異なる

テレビに表示されるメニュー画面や操作内容の色が違う。

- Dolby Vision 信号を再生中に本機を操作すると、表示されるメニュー画面や操作内容の色が通常と異なる場合があります。これは Dolby Vision 信号の特性により起こるもので、故障ではありません。



AirPlay 再生ができない

iTunes/iPhone/iPod touch/iPad 上に AirPlay のアイコンが表示されない。

- 本機とパソコン/iPhone/iPod touch/iPad が同一のネットワーク (LAN) に接続されていません。本機と同一の LAN に接続してください。(P.72 ページ)
- iTunes/iPhone/iPod touch/iPad が AirPlay 対応のファームウェアではありません。最新のファームウェアにアップデートしてください。

音が出ない。

- iTunes/iPhone/iPod touch/iPad の音量が最小になっています。iTunes/iPhone/iPod touch/iPad の音量と本機の音量は連動しています。適切な値に設定してください。
- AirPlay の再生をしていないか、本機が選択されていません。iTunes/iPhone/iPod touch/iPad の画面で AirPlay アイコンをクリックして、本機を選択してください。(P.116 ページ)

iPhone/iPod touch/iPad で AirPlay 再生時に音が途切れる。

- iPhone/iPod touch/iPad のバックグラウンドで起動しているアプリケーションを終了してから AirPlay 再生をしてください。
- 無線接続で外部の影響を受けている可能性があります。無線 LAN のアクセスポイントからの距離を短くするなどネットワーク環境を変更してください。

リモコンで iTunes の再生操作ができない。

- iTunes の“リモートスピーカーから iTunes のコントロールを許可する”の設定を有効にしてください。リモコンで再生/一時停止/スキップ操作ができます。



USB メモリーが再生できない

USB メモリーが認識できない。

- USB メモリーを接続し直すなど、接続を確認してください。(P.69 ページ)
- マスストレージクラス対応の USB メモリーに対応しています。
- 本機は、USB ハブを経由した接続はできません。USB メモリーは USB 端子に直接接続してください。
- USB メモリーのフォーマットを“FAT32”または“NTFS”に設定してください。
- すべての USB メモリーの動作は保証できません。一部の USB メモリーは、認識できない場合があります。また、AC アダプターから電源供給できるタイプの USB 接続対応ポータブルハードディスクを使用する場合は、ハードディスクに AC アダプターを接続して使用してください。

USB メモリー内のファイルを表示しない。

- 本機が対応していない形式のファイルは表示しません。(P.80 ページ)
- 本機が表示できるファイルのフォルダ階層は最大 8 階層です。また、1 階層あたり最大 5000 ファイル(フォルダ)です。USB メモリーのフォルダ構成を変更してください。
- USB メモリーに複数のパーティションがある場合、先頭のパーティションのファイルのみを表示します。

iOS および Android 機器が認識できない。

- 本機の USB 端子は、iOS および Android 機器の再生には対応していません。

USB メモリーのファイルを再生できない。

- 本機が対応していないフォーマットで作成されています。本機が対応しているフォーマットを確認してください。(P.302 ページ)
- 著作権保護のかかったファイルを再生しようとしています。本機では、著作権保護のかかったファイルを再生することはできません。
- ファイルサイズが 2MB を超えるアルバムアートを使用している場合、再生できない場合があります。



Bluetoothが再生できない

本機に Bluetooth 機器が接続できない。

- Bluetooth 機器の Bluetooth 機能が有効になっていません。Bluetooth 機器の取扱説明書をご覧ください、Bluetooth 機能を有効にしてください。
- 本機と Bluetooth 機器を近づけてください。
- Bluetooth 機器が A2DP プロファイルに対応していない場合、本機と接続できません。
- ご使用の Bluetooth 機器の電源を入れ直してから、お試しください。

スマートフォンなどの Bluetooth 機器と接続できない。

- “送信”を“オン”に設定している場合は、スマートフォンなどの Bluetooth 機器を接続できません。リモコンの Bluetooth ボタンを押して入力ソースを“Bluetooth”に切り替えてから Bluetooth 機器を接続してください。(P.251 ページ)

Bluetooth ヘッドホンを接続できない。

- Bluetooth ヘッドホンを本機に近づけてください。
- Bluetooth ヘッドホンの電源を入れ直してからお試しください。
- メニューの“一般” - “Bluetooth 送信”の設定で、“送信”を“オン”に設定してください。(P.251 ページ)
- 本機が別の Bluetooth ヘッドホンに接続されていないことを確認してください。リモコンの INFO ボタンまたは本体の STATUS ボタンを押すと、Bluetooth ヘッドホンの接続状態を確認することができます。
本機が別の Bluetooth ヘッドホンに接続されている場合は、現在接続されている Bluetooth ヘッドホンを切断してから、使用したい Bluetooth ヘッドホンを接続してください。
- いずれかのゾーンで Bluetooth 入力ソースを選択している場合は、Bluetooth ヘッドホンを接続できません。
- 本機が HEOS アプリでグループ化されている場合、Bluetooth ヘッドホンは接続できません。Bluetooth ヘッドホンを使用する場合は、本機をグループから外してください。
- Bluetooth ヘッドホンが A2DP プロファイルに対応していない場合は、本機に接続することはできません。



- 著作権保護技術(SCMS-T)に対応した Bluetooth ヘッドホンのご使用をおすすめします。すべての Bluetooth 機器に対して接続や動作を保証するものではありません。
- 本機に接続できる機器は 1 台です。最大 8 台まで Bluetooth 機器を登録することができます。メニューの“Bluetooth 送信” - “デバイスリスト”から登録済みの機器を切り替えることができます。(P.251 ページ)

音が途切れる。

- 本機と Bluetooth 機器を近づけてください。
- 本機と Bluetooth 機器の間にある障害物を取り除いてください。
- 電波干渉がおきないように、電子レンジや無線 LAN 機器および他の Bluetooth 機器から本機を離してください。
- Bluetooth の再接続操作をおこなってください。

Bluetooth ヘッドホンを使用すると音が途切れる、またはノイズが発生する。

- Bluetooth ヘッドホンの本機に近づけてください。
- 本機と Bluetooth ヘッドホンの間にある障害物を取り除いてください。
- Bluetooth ヘッドホンを再接続してください。
- 電波干渉がおきないように、本機を電子レンジや無線 LAN 機器および他の Bluetooth 機器から離してください。
- 本機および他の機器のルーターへの接続は、有線 LAN 接続をおすすめします。
- Bluetooth は 2.4GHz 帯域を使用しており、Wi-Fi の 2.4GHz 帯域の電波と干渉する可能性があります。使用しているルーターの Wi-Fi が 5GHz 周波数帯域に対応している場合、本機および他の機器の Wi-Fi 接続を 5GHz 周波数帯域に変更してください。

Bluetooth ヘッドホンの音声が遅延する。

- 本機は Bluetooth ヘッドホンの音声遅延を調節することはできません。



インターネットラジオが再生できない

ラジオ局のリストが表示されない。

- LAN ケーブルが正しく接続されていないか、ネットワークが切断されています。接続状態を確認してください。(☞ 72 ページ)
- ネットワークの診断モードをおこなってください。

インターネットラジオが再生できない。

- 選択したラジオ局が、本機に対応していないフォーマットで放送されています。本機で再生できるフォーマットは、MP3、WMA と AAC です。(☞ 305 ページ)
- ルーターのファイアウォールがはたらいています。ファイアウォールの設定を確認してください。
- IP アドレスが正しく設定されていません。(☞ 241 ページ)
- ルーターの電源が入っているか確認してください。
- IP アドレスを自動で取得する場合は、ルーターの DHCP サーバー機能を有効にしてください。また、本機の DHCP 設定を“オン”にしてください。(☞ 241 ページ)
- IP アドレスを手動で取得する場合は、本機の IP アドレスを設定してください。(☞ 241 ページ)
- 時間帯により無音放送になっているラジオ局があります。この場合、音声は出力しません。しばらく経ってから選択するか、別のラジオ局を選択してください。(☞ 101 ページ)
- ラジオ局が放送を停止しています。放送中のラジオ局を選択してください。

お気に入りに登録したラジオ局に接続できない。

- ラジオ局がサービスを停止しています。放送中のラジオ局を登録してください。



パソコン内やNAS内の音楽ファイルが再生できない

パソコンに保存してある音楽ファイルが再生できない。

- ファイルが対応しているフォーマット以外で記録されています。対応しているフォーマットで記録してください。(P.304 ページ)
- 本機では、著作権保護のかかったファイルを再生することはできません。
- 本機の USB 端子は、パソコンと接続することはできません。
- メディアの共有設定が正しくありません。本機がアクセスできるように設定を変更してください。詳しくはメディアの取扱説明書をご覧ください。

サーバーが見つからないか、サーバーに接続できない。

- パソコンまたはルーターのファイアウォールがはたらいています。接続しているパソコンまたはルーターのファイアウォールの設定を確認してください。
- パソコンの電源が入っていません。電源を入れてください。
- サーバーが起動していません。サーバーを起動してください。
- 本機の IP アドレスが正しくありません。本機の IP アドレスを確認してください。(P.238 ページ)

パソコン内の音楽ファイルが再生できない。

- 本機の USB 端子にパソコンを接続しても、パソコン内の音楽ファイルは再生できません。パソコンはネットワーク経由で本機に接続してください。(P.72 ページ)

パソコン内やNAS内のファイルが表示されない。

- 本機が対応していない形式のファイルは表示しません。(P.304 ページ)

NAS に保存した曲が再生できない。

- DLNA 準拠の NAS をご使用の場合は、NAS の設定で DLNA サーバー機能を有効にしてください。
- DLNA に準拠していない NAS をご使用の場合は、パソコンを経由して再生してください。また、Windows Media Player のメディア共有機能設定をおこなない、再生対象フォルダに NAS を追加してください。
- 接続を制限している場合は、オーディオ機器を接続対象にしてください。



各種オンラインサービスが再生できない

各種オンラインサービスが再生できない。

- サービスが終了している可能性があります。

HDMI コントロール機能が動作しない

HDMI コントロール機能が動作しない。

- メニューの“HDMI コントロール”の設定が“オン”になっているか確認してください。(P.192 ページ)
- HDMI コントロール機能に対応していない機器は操作できません。また、接続する機器や設定によっては、HDMI コントロール機能が動作しない場合があります。その場合は、外部機器を直接操作してください。(P.145 ページ)
- 本機に接続しているすべての機器の HDMI コントロール機能の設定が有効になっているか確認してください。(P.145 ページ)
- HDMI 機器を追加して接続するなど、接続に関する変更をおこなうと、連動操作が初期化されることがあります。HDMI で接続した機器と本機の電源を入れ直してください。(P.145 ページ)
- HDMI OUT TV 2 端子は、HDMI コントロール機能に対応していません。HDMI OUT TV 1 端子を使用してテレビと接続してください。(P.61 ページ)



無線 LAN ネットワークに接続できない

ネットワークに接続できない。

- Wi-Fi 機能を使用するには、HEOS アカウントにサインインする必要があります。Wi-Fi の設定後、テレビ画面の指示にしたがって HEOS アカウントを作成するか、お持ちのアカウントにサインインしてください。
- ネットワーク名 (SSID)、パスワードおよび暗号化設定が正しく設定できていません。ネットワークの設定と、本機の設定内容を合わせてください。(P.240 ページ)
- 無線 LAN のアクセスポイントからの距離を短くしたり、障害物をなくしたりして、見通しをよくしてから接続し直してください。また、電子レンジや他のネットワークのアクセスポイントから離して設置してください。
- アクセスポイントのチャンネル設定を、他のネットワークで使用しているチャンネルから離して設定してください。
- 本機は WEP (TSN) との互換性はありません。

WPS ルーターに接続ができない。

- ルーターの WPS モードが動作しているか確認してください。
- ルーターの WPS ボタンを押してから、2 分以内にテレビに表示されている「接続」ボタンを押してください。
- WPS2.0 規格に対応したルーター/設定が必要です。暗号化タイプを“無し”、“WPA-PSK (AES)”または WPA2-PSK (AES) に設定してください。(P.240 ページ)
- ルーターの暗号化方式が WEP/WPA-TKIP/WPA2-TKIP/WPA3-SAE (AES) のいずれかの場合は、WPS ボタンを使用して接続することはできません。この場合は“ネットワーク検索”または“手動”の方法で接続してください。

iPhone/iPod touch/iPad を使用したネットワーク接続ができない。

- iPhone/iPod touch/iPad を最新のファームウェアにアップデートしてください。
- また、無線接続で設定する場合は、iOS 10.0.2 以降に対応している必要があります。



HDMI ZONE2 機能を使用中に機器が正しく動作しない

メインゾーンを使用中に、HDMI ZONE2 の映像出力が途切れる。

- メインゾーンとゾーン 2 を同じ入力ソースにしている場合、メインゾーンを操作すると HDMI ZONE2 の映像が途切れる場合があります。

HDMI ZONE2 機能を使用中、映像や音声がゾーン 2 のテレビから出力されない。

- ゾーン 2 の電源がオンになっているか確認してください。「ゾーン 2 で入力ソースを再生する」(P.161 ページ)
- ゾーン 2 の入力ソースを確認してください。「ゾーン 2 で入力ソースを再生する」(P.161 ページ)
- HDMI 5 端子および HDMI 6 端子は、HDMI ZONE2 機能に対応していません。
- ゾーン 2 では入力信号が HDMI 信号のときのみ再生できます。
- テレビが HDMI ZONE2 から出力した音声フォーマットに対応していない場合は、テレビから音声を出力しません。再生機器の音声フォーマットを“PCM”に設定してください。または、メニューの“ゾーン 2 の設定” - “HDMI オーディオ”を“PCM”に設定してください。(P.253 ページ)
- テレビが入力された映像の解像度に対応していない場合は映像を出力しません。再生機器の出力解像度をテレビが対応している解像度に合わせて設定してください。


HDMI ZONE2 機能を使用中に、メインゾーンの音声が PCM で再生される。

- メインゾーンとゾーン 2 を同じ入力ソースにしている場合、ゾーン 2 のテレビの仕様に合わせて入力ソースの音声フォーマットを制限することがあります。



アップデートエラーメッセージについて

アップデートが中断または失敗した場合は、エラーメッセージが表示されます。

ディスプレイ表示	説明
Connection failed. Please check your network, then try again.	ネットワークの回線が不安定です。 サーバーとの接続に失敗しました。 ご使用のネットワーク環境をご確認のうえ、アップデートを再試行してください。
Update failed. Please check your network, then try again.	ファームウェアのダウンロードに失敗しました。 ご使用のネットワーク環境をご確認のうえ、アップデートを再試行してください。
Please check your network, unplug and reconnect the power cord, and try again.	アップデートに失敗しました。 本体の  ボタンを 5 秒以上長押しするか、電源コードを挿入し直してください。 アップデート後は自動的に再起動します。
Please contact customer service in your area.	機器が故障している可能性があります。 お客様相談センターにお問い合わせください。

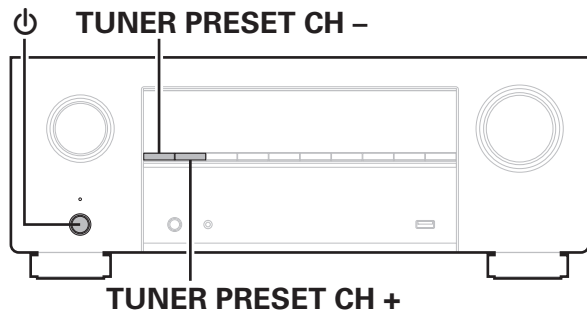


お買い上げ時の設定に戻す

表示が正しくない場合や操作ができない場合などに本機を再起動すると、改善することがあります。お買い上げ時の設定に戻す前に、再起動することをおすすめします。(☞269 ページ)

再起動しても動作が改善しない場合に、この操作をおこなってください。

各種設定内容がお買い上げ時の設定になります。再度設定をおこなってください。



- 1 電源ボタンを押して、電源を切る。
- 2 TUNER PRESET CH + と TUNER PRESET CH - を同時に押しながら、電源ボタンを押す。
- 3 ディスプレイに“Initialized”が表示されたら、2つのボタンから指を離す。



- お買い上げ時の設定に戻す前に、メニューの“セーブ&ロード”機能を使用すると、本機の各種設定内容を記憶させ、復元することができます。(☞262 ページ)
- メニューの“初期化” - “すべての設定”ですべての設定をお買い上げ時の設定に戻すこともできます。(☞263 ページ)



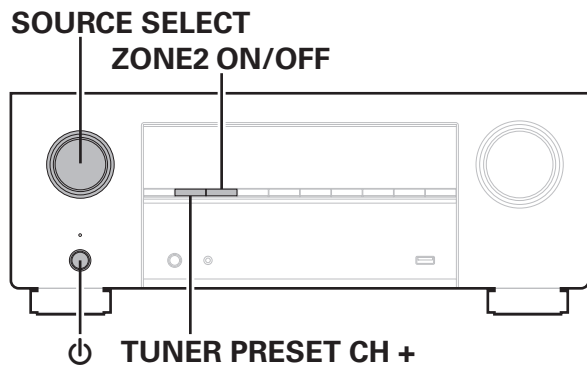
ネットワークの設定をお買い上げ時の設定に戻す

ネットワークコンテンツの再生やネットワーク接続ができない場合に、本機を再起動すると、改善することがあります。お買い上げ時の設定に戻す前に、再起動することをおすすめします。(☞269 ページ)

再起動しても動作が改善しない場合に、この操作をおこなってください。

ネットワーク設定内容がお買い上げ時の設定になります。再度設定をおこなってください。

ただし、メニューの“スピーカーレイアウト”および“ビデオ”の設定などは、リセットされません。



- 1 電源ボタンを押して、本機の電源を入れる。
- 2 SOURCE SELECT を回して、“HEOS Music”を選ぶ。
- 3 本機の電源が入っているときに、本体の TUNER PRESET CH + と ZONE2 ON/OFF を同時に 3 秒以上長押しする。
- 4 ディスプレイに“Network Reset...”が表示されたら、2つのボタンから指を離す。
- 5 リセットが完了すると、ディスプレイに“Completed”を表示する。



- お買い上げ時の設定に戻す前に、メニューの“セーブ&ロード”機能を使用すると、本機の各種設定内容を記憶させ、復元することができます。(☞262 ページ)
- メニューの“初期化” - “ネットワーク設定”でネットワーク設定をお買い上げ時の設定に戻すこともできます。(☞263 ページ)

ご注意

- リセットが完了するまで、電源を切らないでください。

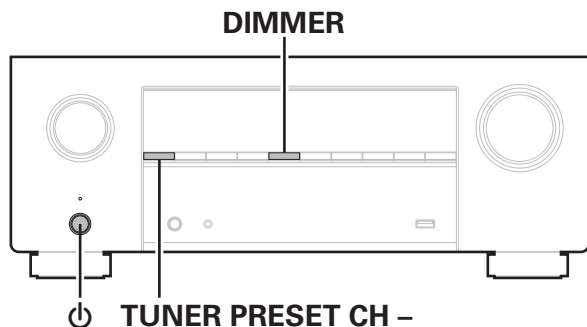


工場出荷時の設定に復元する

本機やネットワーク機能が正しく動作しない場合に、お買い上げ時の設定に戻すことで動作が改善される場合があります。

「お買い上げ時の設定に戻す」や「ネットワークの設定をお買い上げ時の設定に戻す」を試しても動作しない場合にこの操作をおこなってください。(P.291、292 ページ)

ファクトリーリストアをおこなうと各種設定内容がお買い上げ時の設定に戻ります。再度ネットワーク設定およびファームウェアのアップデートをおこなってください。



1 DIMMER と TUNER PRESET CH- を同時に押しながら、**⏻** を押す。

2 ディスプレイに“Restoring”が表示されたら、ボタンから指を離す。

ファクトリーリストアが完了するとディスプレイに“Completed”が約 5 秒間表示され、本機を自動的に再起動します。



- この操作はネットワークへの再接続、ファームウェアの復元およびアップデートを伴うため時間がかかります。
- この操作をおこなっても改善できない場合は、お客様相談センターにお問い合わせください。

ご注意

- ファクトリーリストアが完了するまで、電源を切らないでください。

警告

ファクトリーリストアを開始すると、本機に制限付きリカバリーファームウェアがインストールされます。インターネット経由でファームウェアのアップデートがおこなわれるまで、機能は制限されたままです。本機をネットワークに接続していない場合は、ファクトリーリストアをおこなわないでください。



保証と修理について

■ 保証書について

- この製品には保証書が添付されております。保証書は、必ず「販売店名・購入日」などの記入を確かめて販売店から受け取っていただき、内容をよくお読みの上、大切に保管してください。

■ 保証期間中の修理

保証書の記載内容に基づいて修理させていただきます。詳しくは保証書をご覧ください。

ご注意

保証書が添付されない場合は有料修理になりますので、ご注意ください。

■ 保証期間経過後の修理

修理によって機能が維持できる場合は、お客様のご要望により、有料修理致します。

■ 修理料金のしくみ

- 技術料・・・故障した製品を正常に修復するための料金です。技術者の人件費・技術教育費・測定機器などの設備費・一般管理費などが含まれます。
- 部品代・・・修理に使用した部品代金です。その他修理に付帯する部材などを含む場合もあります。
- 出張料・・・製品のある場所へ技術者を派遣する場合の費用です。別途駐車料金をいただく場合があります。

■ 補修部品の保有期間

本機の補修用性能部品の保有期間は、製造打ち切り後 8 年です。



■ 修理を依頼されるとき

修理を依頼される前に

- 取扱説明書の「故障かな?と思ったら」の項目をご確認ください。
- 正しい操作をしていただけずに修理を依頼される場合がありますので、この取扱説明書をお読みいただき、お調べください。

修理を依頼されるとき

- 修理お問い合わせ窓口へご相談ください。
- 出張修理をご希望される場合は、別途出張料をご請求させていただきますこととなりますので、あらかじめご了承ください。
- 修理を依頼されるためのために、梱包材は保存しておくことをおすすめします。

■ 依頼の際に連絡していただきたい内容

- お名前、ご住所、お電話番号
- 製品名……取扱説明書の表紙に表示しています。
- 製造番号……保証書と製品背面に表示しています。
- できるだけ詳しい故障または異常の内容

■ お客様の個人情報の保護について

- お客様にご記入いただいた保証書の控えは、保証期間内のサービス活動およびその後の安全点検活動のために記載内容を利用させていただく場合がございますので、あらかじめご了承ください。
- この商品に添付されている保証書によって、保証書を発行している者(保証責任者)およびそれ以外の事業者に対するお客様の法律上の権利を制限するものではありません。



HDMIについて

High-Definition Multimedia Interface の略で、テレビやアンプなどと接続できる AV 用のデジタルインターフェースです。

HDMI 接続ではアナログの映像伝送で実現できなかったハイビジョン映像の伝送や、ブルーレイディスクプレーヤーで採用された高音質音声フォーマット(Dolby Digital Plus、Dolby TrueHD、DTS-HD)の伝送ができます。

また、従来の接続では、接続する機器間を音声ケーブルと映像ケーブルを使用して接続する必要がありましたが、HDMI 接続では、HDMI ケーブル 1 本で音声信号と映像信号を伝送できます。これにより、ホームシアターシステムで煩雑になりやすい配線をすっきりさせることができます。

本機は次の HDMI 機能に対応しています。

- **4K / 8K**

本機は、HDMI 規格の 4K(3840×2160 ピクセル)および 8K(7680 x4320 ピクセル)映像信号の入出力に対応しています。

- **HDR**

本機は、映像のダイナミックレンジを拡張する「HDR(ハイダイナミックレンジ)」ビデオ信号のパススルーに対応しています。HDR10 および HLG(ハイブリッドログガンマ)に加えて HDR10+およびダイナミック HDR にも対応しているため、パッケージメディア、ストリーミング、放送などのソースに関係なく、豊かな表現力で HDR を楽しむことができます。

- **Dolby Vision**

Dolby Vision は、テレビ体験を劇的に変える映像技術です。その驚異的な明るさ、コントラスト、そして色彩によって、鮮やかなエンターテイメントを楽しむことができます。

- **Deep Color**

HDMI がサポートしている映像技術です。通常、RGB または YCbCr の各色を 8bit(256 階調)ずつで表現するところを、10bit(1024 階調)、12bit(4096 階調)、16bit(65536 階調)で表現することができるため、より高精細な色の表現を可能にします。

HDMI 接続する機器の双方が Deep Color に対応している必要があります。

- **VRR(Variable Refresh Rate):**

VRR は、映像の遅れや乱れ、チラツキを減らしたり取り除くことでよりなめらかなゲームプレイを実現します。

- **QFT(Quick Frame Transport):**

QFT は、遅延時間を軽減することでよりスムーズなゲームやリアルタイムの仮想現実などを実現します。

- **FRL(Fixed Rate Link):**

FRL(Fixed Rate Link)は、超高速帯域幅となる 4K 60Hz 以上などのより高い解像度を実現するために必要な伝送技術です。



- **ARC (Audio Return Channel)**

HDMI コントロール制御のもと、テレビの音声信号を HDMI ケーブルを経由して本機に伝送し、本機でテレビの音声を再生する機能です。

ARC 機能のないテレビとの HDMI 接続では、本機に接続した再生機器の映像信号をテレビに伝送することはできても、テレビの音声を本機で再生することはできません。テレビ番組をサラウンド音声で視聴したい場合などには、別途音声ケーブルの接続が必要になります。

これに対し、ARC 機能のあるテレビとの HDMI 接続では、音声ケーブルの接続は不要です。本機とテレビを接続する HDMI ケーブルを通して、テレビの音声信号を本機に入力することができます。この機能により、テレビの音声を本機のサラウンド再生で楽しみいただけます。

- **eARC (Enhanced Audio Return Channel)**

eARC 機能は、従来の ARC 機能から拡張された機能であり、HDMI コントロール制御を介さず eARC 機能専用制御のもと、本機でテレビの音声を再生する機能です。さらに、eARC 機能は、従来の ARC 機能で対応されていなかったマルチチャンネルリニア PCM や Dolby TrueHD、Dolby Atmos、DTS-HD、DTS:X の音声フォーマットも伝送できます。また、eARC 機能に対応しているテレビを接続することにより、テレビで再生するコンテンツの音声をより高品位なサラウンド再生でお楽しみいただけます。

- **オートリップシンク**

映像と音声のずれを自動的に補正します。
オートリップシンク機能対応のテレビを使用してください。

- **ALLM (Auto Low Latency Mode)**

本機は ALLM 機能に対応したテレビとゲーム機を組み合わせで使用する場合、再生するコンテンツによって自動的に低遅延モードに切り替わります。

- **HDMI パススルー**

本機の電源がスタンバイ状態のときでも HDMI 入力端子から入力された信号を、HDMI 出力端子に接続されたテレビや他の機器に出力します。



• HDMI コントロール

本機と HDMI コントロール機能対応のテレビやプレーヤーを HDMI ケーブルで接続し、それぞれの機器の HDMI コントロール機能の設定を有効にすると、機器間で相互に制御することができます。

• 電源オフ連動

テレビの電源オフ操作に連動して、本機の電源をオフにできます。

• 音声出力先の切り替え

テレビの操作で音声をテレビから出力するか、AV アンプから出力するか切り替えることができます。

• 音量調節

テレビの音量調節操作で、本機の音量の調節ができます。

• 入力ソースの切り替え

テレビの入力の切り替え操作に連動して、本機の入力ソースが切り替わります。

プレーヤーを再生すると、本機の入力ソースがそのプレーヤーの入力ソースに切り替わります。

• Content Type

この機能は、出力映像の種類(コンテンツ情報)に適した設定を自動でおこないます。

• 3D

本機は、HDMI 規格の 3D(3 次元)映像信号の入出力に対応しています。3D 映像の再生には本機のほかに、HDMI 規格の 3D 機能に対応しているプレーヤーとテレビが必要です。また、3D 映像をご覧いただくには、別売りの 3D メガネが必要です。

ご注意

- 接続しているテレビやプレーヤーによっては、動作しない機能があります。あらかじめ各機器の取扱説明書をご覧ください。



■ 対応する音声フォーマット

2チャンネルリニア PCM	2チャンネル、32kHz～192kHz、16/20/24bit
マルチチャンネルリニア PCM	7.1チャンネル、32kHz～192kHz、16/20/24bit
ビットストリーム	Dolby Digital / DTS / Dolby Atmos / Dolby TrueHD / Dolby Digital Plus / DTS:X / DTS-HD / MPEG-H / MPEG-2 AAC / MPEG-4 AAC
DSD	2チャンネル～5.1チャンネル、2.8MHz

■ 対応する映像信号

- 480i
- 576i
- 720p 60/50Hz
- 1080p 120/100/60/50/24Hz
- 4K 120/100/60/50/30/25/24Hz
- 480p
- 576p
- 1080i 60/50Hz
- 1440p 120/100/60/50Hz
- 8K 60/50/30/25/24Hz

ご注意

- 上記の解像度以外では正しく表示されない場合があります。
- 可変リフレッシュレート(VRR)は、24Hzから120Hzのフレームレート範囲のプログレッシブ信号のパススルーに対応しています。8K解像度に対応しているフレームレートの範囲は、24Hzから60Hzまでです。

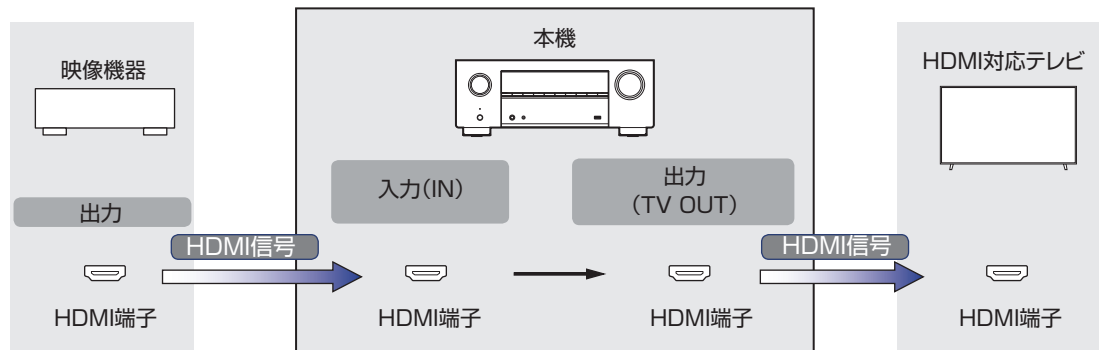
著作権保護システムについて

HDMI 接続を通して BD ビデオや DVD ビデオなどのデジタル映像と音声再生するためには、本機とテレビとプレーヤーのすべてが HDCP (High-bandwidth Digital Content Protection System) と呼ばれる著作権保護システムに対応している必要があります。HDCP はデータの暗号化と相手機器の認証からなるコピープロテクション技術です。本機は、HDCP に対応しています。

- HDCP に対応していない機器を接続した場合は、映像と音声を正しく出力できません。お手持ちのテレビやプレーヤーなどについては、それぞれの取扱説明書をご覧ください。



映像信号とテレビ出力の関係



ご注意

- 本機のビデオ入出力は、HDMI 接続のみ可能です。

メニューの“HDMI アップスケーラー”が“オート”に設定されている場合、本機は入力した HDMI ビデオ信号をアップスケールしてテレビに出力します。(P.196 ページ)

出力信号		HDMI														
		480i/ 576i	480p/ 576p	720p	1080i	1080p 30/25/24Hz	1080p 60/50Hz	1080p 120/100Hz	1440p 60/50Hz	1440p 120/100Hz	4K 30/25/24Hz	4K 60/50Hz	4K 120/100Hz	8K 30/25/24Hz	8K 60/50Hz	
HDMI	480i/576i	✓														
	480p/576p		✓													
	720p			✓												
	1080i				✓											
	1080p 30/25/24Hz					✓					✓			✓		
	1080p 60/50Hz						✓					✓			✓	
	1080p 120/100Hz							✓								
	1440p 60/50Hz								✓							
	1440p 120/100Hz									✓						
	4K 30/25/24Hz										✓				✓	
	4K 60/50Hz											✓				✓
	4K 120/100Hz												✓			
	8K 30/25/24Hz													✓		
	8K 60/50Hz														✓	



USB メモリーの再生について

- MP3 ID3 タグ(バージョン 2.0)に対応しています。
- 本機では、MP3 ID3 タグのバージョン 2.3 または 2.4 を使用して、アートワークを表示できます。
- WMA META タグに対応しています。
- アルバムアートの画素サイズ(ピクセル)が 500×500(WMA/MP3/Apple Lossless/DSD)または 349×349(MPEG-4 AAC)を超えている場合は、正しく再生できないことがあります。

■ 再生できるファイルの仕様

	サンプリング周波数	チャンネル	ビットレート	拡張子
WMA*1	32/44.1/48kHz	2 チャンネル	48~192 kbps	.wma
MP3	32/44.1/48kHz	2 チャンネル	32~320kbps	.mp3
WAV	32/44.1/48/88.2/ 96/176.4/192kHz	2 チャンネル	—	.wav
MPEG-4 AAC*1	32/44.1/48kHz	2 チャンネル	48~320kbps	.aac/.m4a
FLAC	44.1/48/88.2/ 96/176.4/192kHz	2 チャンネル	—	.flac
Apple Lossless*2	44.1/48/88.2/ 96/176.4/192kHz	2 チャンネル	—	.m4a
DSD	2.8/5.6MHz	2 チャンネル	—	.dsf/.dff

*1 著作権保護のないファイルのみ再生できます。

インターネット上の有料音楽サイトからダウンロードしたコンテンツには著作権保護がかかっています。また、パソコンで CD などからリッピングする際に WMA でエンコードすると、パソコンの設定により著作権保護がかかる場合があります。

*2 Apple Lossless Audio Codec (ALAC)デコーダは Apache License Version 2.0(<https://www.apache.org/licenses/LICENSE-2.0>)に基づいて配布されています。



■ 再生可能な最大ファイル数とフォルダ数

本機で表示できるフォルダやファイルの制限数は次のとおりです。

項目	メディア	USB メモリー
フォルダの階層数 *1		8 階層
フォルダ数		500
ファイル数 *2		5000

*1 制限数にはルートフォルダを含みます。

*2 USB メモリーの容量やファイルサイズにより、許容ファイル数が変わる場合があります。

Bluetooth 機器の再生について

本機は、次の Bluetooth プロファイルに対応しています。

- A2DP (Advanced Audio Distribution Profile) :
この規格に対応している Bluetooth 機器を接続すると、モノラルやステレオの音声データを高品質にストリーミング配信することができます。
- AVRCP (Audio/Video Remote Control Profile) :
この規格に対応している Bluetooth 機器を接続すると、本機から Bluetooth 機器を操作することができます。

■ Bluetooth 通信について

本機からの電波放送は、医療機器の操作を妨げることがあります。電波干渉は故障の原因となるため、次の場所では本機と Bluetooth 機器の電源を必ず切ってください。

- 病院、電車、航空機、ガソリンスタンドや可燃性ガスを発生する場所
- 自動ドアや火災報知機の近く



パソコンやNASに保存されているファイルの再生について

- MP3 ID3 タグ(バージョン 2.0)に対応しています。
- 本機では、MP3 ID3 タグのバージョン 2.3 または 2.4 を使用して、アートワークを表示させることができます。
- WMA META タグに対応しています。
- アルバムアートの画素サイズ(ピクセル)が 500×500(WMA/MP3/WAV/FLAC/Apple Lossless/DSD)または 349×349 (MPEG-4 AAC)を超えている場合は、正しく再生できないことがあります。
- ネットワーク経由での音楽ファイルの再生には、そのフォーマットの配信に対応したサーバーまたはサーバーソフトウェアが必要です。Twonky Media Server や JRiver Media Server などのサーバーソフトウェアをネットワーク経由で再生するには、このオーディオフォーマットをパソコンやNASにインストールする必要があります。利用可能な他のサーバーソフトウェアもあります。サポートされている形式を確認してください。

■ 再生できるファイルの仕様

	サンプリング周波数	チャンネル	ビットレート	拡張子
WMA*1	32/44.1/48kHz	2 チャンネル	48~192 kbps	.wma
MP3	32/44.1/48kHz	2 チャンネル	32~320kbps	.mp3
WAV	32/44.1/48/88.2/ 96/176.4/192kHz	2 チャンネル	—	.wav
MPEG-4 AAC*1	32/44.1/48kHz	2 チャンネル	48~320kbps	.aac/.m4a
FLAC	44.1/48/88.2/ 96/176.4/192kHz	2 チャンネル	—	.flac
Apple Lossless*2	44.1/48/88.2/ 96/176.4/192kHz	2 チャンネル	—	.m4a
DSD	2.8/5.6MHz	2 チャンネル	—	.dsf/.dff

*1 著作権保護のないファイルのみ再生できます。

インターネット上の有料音楽サイトからダウンロードしたコンテンツには著作権保護がかかっています。また、パソコンでCDなどからリッピングする際にWMAでエンコードすると、パソコンの設定により著作権保護がかかる場合があります。

*2 Apple Lossless Audio Codec (ALAC)デコーダはApache License Version 2.0(<https://www.apache.org/licenses/LICENSE-2.0>)に基づいて配布されています。



インターネットラジオの再生について

■ 再生できる放送局の仕様

	サンプリング周波数	ビットレート	拡張子
WMA	32/44.1/48kHz	48~192 kbps	.wma
MP3	32/44.1/48kHz	32~320kbps	.mp3
MPEG-4 AAC	32/44.1/48kHz	48~320kbps	.aac/ .m4a

パーソナルメモリープラス機能

前回使用していたときの設定内容(入力モード、HDMI 出力モード、サウンドモード、トーンコントロール、チャンネルレベル、MultEQ® XT32、Dynamic EQ、Dynamic Volume、Dirac Live、リストアラーやオーディオディレイなど)を入力ソースごとに記憶します。



- “サラウンドパラメーター”の設定は、サウンドモードごとに記憶します。

ラストファンクションメモリー

スタンバイにする直前の各種設定を記憶します。



サウンドモードとチャンネル出力の関係

- 音声を出力するチャンネル、または設定できるサラウンドパラメーターを示します。
 ◎ 音声を出力するチャンネルを示します。ただし、メニューの“スピーカーレイアウト”の設定により出力するチャンネルが異なります。(P.215 ページ)

サウンドモード	チャンネル出力															サブウーハー	
	フロント 左/右	センター	サラウンド 左/右	サラウンド バック 左/右	フロント ハイト 左/右	トップ フロント 左/右	トップ ミドル 左/右	トップリア 左右	リアハイト 左右	サラウンド ハイト 左右	センター ハイト	トップ サラウンド	フロント Dolby Atmos Enabled 左/右	サラウンド Dolby Atmos Enabled 左/右	バック Dolby Atmos Enabled 左右		
Direct/Pure Direct (2チャンネル)	○																◎*4
Direct/Pure Direct (マルチチャンネル)	○	◎	◎	◎*5	◎*5	◎*5	◎*5	◎*5	◎*5	◎*5	◎*5	◎*5	◎*5	◎*5	◎*5	◎*5	◎
DSD Direct (2チャンネル)	○																◎*4
DSD Direct (マルチチャンネル)	○	◎	◎														◎
Stereo	○																◎
Dolby Atmos	○	◎	◎		◎	◎	◎	◎	◎	◎			◎	◎	◎		◎
Dolby TrueHD	○	◎	◎	◎*5													◎
Dolby Digital Plus	○	◎	◎	◎*5													◎
Dolby Digital	○	◎	◎														◎
Dolby Surround *1	○	◎	◎	◎*6	◎	◎	◎	◎	◎	◎			◎	◎	◎		◎
IMAX DTS:X	○	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎		◎
IMAX DTS	○	◎	◎*7	◎*7													◎
DTS:X	○	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎		◎
DTS-HD	○	◎	◎	◎*5													◎
DTS Surround	○	◎	◎	◎													◎
DTS Neural:X *2	○	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎		◎
DTS Virtual:X *3	○	◎	◎	◎													◎
AURO-3D	○	◎	◎	◎	◎	◎*8	◎*8	◎*8	◎*8	◎	◎	◎	◎*8	◎*8	◎*8		◎
AURO Surround	○	◎	◎	◎													◎
Multi Ch In	○	◎	◎	◎*5													◎
MPEG-2 AAC	○	◎	◎														◎
MPEG-4 AAC	○	◎	◎														◎
MPEG-H	○	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎		◎

*1～*8:「サウンドモードとチャンネル出力の関係」(P.307 ページ)



サウンドモード	チャンネル出力															
	フロント 左/右	センター	サラウンド 左/右	サラウンド バック 左/右	フロント ハイト 左/右	トップ フロント 左/右	トップ ミドル 左/右	トップリア 左右	リアハイト 左右	サラウンド ハイト 左右	センター ハイト	トップ サラウンド	フロント Dolby Atmos Enabled 左/右	サラウンド Dolby Atmos Enabled 左/右	バック Dolby Atmos Enabled 左右	サブウーハー
Multi Ch Stereo	○	◎	◎	◎	◎*9	◎*9	◎*9	◎*9	◎*9	◎*9	◎*9	◎*9	◎*9	◎*9	◎*9	◎
Rock Arena	○	◎	◎	◎	◎*9	◎*9	◎*9	◎*9	◎*9	◎*9	◎*9	◎*9	◎*9	◎*9	◎*9	◎
Jazz Club	○	◎	◎	◎	◎*9	◎*9	◎*9	◎*9	◎*9	◎*9	◎*9	◎*9	◎*9	◎*9	◎*9	◎
Mono Movie	○	◎	◎	◎	◎*9	◎*9	◎*9	◎*9	◎*9	◎*9	◎*9	◎*9	◎*9	◎*9	◎*9	◎
Video Game	○	◎	◎	◎	◎*9	◎*9	◎*9	◎*9	◎*9	◎*9	◎*9	◎*9	◎*9	◎*9	◎*9	◎
Matrix	○	◎	◎	◎	◎*9	◎*9	◎*9	◎*9	◎*9	◎*9	◎*9	◎*9	◎*9	◎*9	◎*9	◎

- *1 該当するサウンドモードは、“Dolby Surround”およびサウンドモード名に“+Dolby Surround”を含むサウンドモードです。
- *2 該当するサウンドモードは、“DTS Neural:X”およびサウンドモード名に“+Neural:X”を含むサウンドモードです。
- *3 該当するサウンドモードは、“DTS Virtual:X”およびサウンドモード名に“+Virtual:X”を含むサウンドモードです。
- *4 メニューの“LFE” - “サブウーハー出力”が“LFE + メイン”に設定されている場合に音声を出力します。(☞233 ページ)
- *5 入力信号に含まれるチャンネルを出力します。
- *6 メニューの“サラウンドパラメーター” - “スピーカーバーチャライザー”が“オン”に設定され、“スピーカーレイアウト” - “サラウンドバック”が“1 台”に設定されている場合、音声は出力されません。(☞175、217 ページ)
- *7 メニューの“スピーカーレイアウト” - “サラウンドバック”の設定が“2 台”、なおかつ“スピーカーレイアウト” - “センター”の設定が“有り”のときにサウンドモードを“IMAX DTS”に設定すると、サラウンドの音声をサラウンドバックスピーカーから出力します。サラウンドスピーカーからは音声を出力しません。(☞217 ページ)
- *8 最適な AURO-3D 再生をおこなうには、フロントハイトスピーカーおよびサラウンドハイトスピーカーのご使用をおすすめしますが、リアハイトスピーカー、天井スピーカーおよび Dolby Atmos Enabled スピーカーを使用して再生をおこなうこともできます。
- *9 “サラウンドパラメーター” - “スピーカー選択”の設定で指定されているスピーカーから音声を出力します。(☞180 ページ)



サウンドモードとパラメーター一覧表

サウンドモード	サウンドパラメーター															
	シネマEQ	ラウドネス マネージメント *2	ダイナミック レンジ圧縮 *3	ダイアログ コントロール *4	LFE *5	ディレイ タイム	エフェクト レベル	ルーム サイズ	スピーカー 選択 *6	センターの 広がり	スピーカ ーパーチャ ライザー *7	チャンネル エキスパンダー *8	DTS Neural:X	IMAX	IMAX オーディオ 設定	ハイパス フィルター *9
Direct/Pure Direct (2チャンネル) *1		○	○													
Direct/Pure Direct (マルチチャンネル) *1		○	○	○	○											
DSD Direct (2チャンネル)																
DSD Direct (マルチチャンネル)																
Stereo		○	○	○	○											
Dolby Atmos	○	○	○	○	○						○	○				
Dolby TrueHD	○	○	○	○	○											
Dolby Digital Plus	○	○	○	○	○											
Dolby Digital	○	○	○	○	○											
Dolby Surround	○	○	○	○	○					○	○					
IMAX DTS:X	○		○	○	○								○	○	○	○
IMAX DTS	○		○	○	○									○	○	○
DTS:X	○		○	○	○								○			
DTS-HD	○		○	○	○									○		
DTS Surround	○		○	○	○									○		
DTS Neural:X	○	○	○	○	○											
DTS Virtual:X	○		○	○	○											
AURO-3D	○				○											
AURO Surround	○				○											
Multi Ch In	○				○											
MPEG-4 AAC	○				○											
MPEG-2 AAC	○				○											
MPEG-H	○				○											
Multi Ch Stereo	○	○	○	○	○						○					
Rock Arena		○	○	○	○						○					
Jazz Club		○	○	○	○			○	○	○	○					
Mono Movie		○	○	○	○			○	○	○	○					
Video Game		○	○	○	○			○	○	○	○					
Matrix		○	○	○	○	○			○	○	○					

*1 - *9:「サウンドモードとパラメーター一覧表」(P.310 ページ)



サウンドモード	サラウンドパラメーター						ダイアログ エンハンサー	トーン コントロール *10	サブウーハー レベルの調節 *11	Audyssey				Dirac Live	リストアラー *16
	ローパス フィルター *9	サブウーハー 出力 *9	Auro-Matic プリセット	Auro-Matic レベル	AURO-3D モード	サブウーハー				MultiEQ ⁺ XT32 *12*13	Dynamic EQ *14*15	Dynamic Volume *14*15	Audyssey LFC™ *14*15		
Direct/Pure Direct (2チャンネル) *1						○*17			○*17						
Direct/Pure Direct (マルチチャンネル) *1									○						
DSD Direct (2チャンネル)						○*17			○*17						
DSD Direct (マルチチャンネル)								○	○						
Stereo						○*18	○	○	○*18	○	○	○	○	○	○
Dolby Atmos							○	○	○	○	○	○	○	○	○
Dolby TrueHD							○	○	○	○	○	○	○	○	○
Dolby Digital Plus							○	○	○	○	○	○	○	○	○
Dolby Digital							○	○	○	○	○	○	○	○	○
Dolby Surround							○	○	○	○	○	○	○	○	○
IMAX DTS:X	○	○					○	○	○	○	○	○	○	○	○
IMAX DTS	○	○					○	○	○	○	○	○	○	○	○
DTS:X							○	○	○	○	○	○	○	○	○
DTS-HD							○	○	○	○	○	○	○	○	○
DTS Surround							○	○	○	○	○	○	○	○	○
DTS Neural:X							○	○	○	○	○	○	○	○	○
DTS Virtual:X							○	○	○	○	○	○	○	○	○
AURO-3D			○*19	○*19	○*20		○	○	○	○	○	○	○	○	○
AURO Surround							○	○	○	○	○	○	○	○	○
Multi Ch In							○	○	○	○	○	○	○	○	○
MPEG-4 AAC							○	○	○	○	○	○	○	○	○
MPEG-2 AAC							○	○	○	○	○	○	○	○	○
MPEG-H							○	○	○	○	○	○	○	○	○
Multi Ch Stereo							○	○	○	○	○	○	○	○	○
Rock Arena							○	○	○	○	○	○	○	○	○
Jazz Club							○	○	○	○	○	○	○	○	○
Mono Movie							○	○	○	○	○	○	○	○	○
Video Game							○	○	○	○	○	○	○	○	○
Matrix							○	○	○	○	○	○	○	○	○

*1, *9 - *20:「サウンドモードとパラメーター一覧表」(P.310 ページ)



- *1 Pure Direct モードで再生中、サラウンドパラメーターは Direct モードと同様になります。
- *2 Dolby Digital, Dolby Digital Plus, Dolby TrueHD または Dolby Atmos 信号を再生しているときに選択できます。
- *3 “ダイナミックレンジ圧縮”は、Dolby Digital, または Dolby Digital Plus, Dolby TrueHD, Dolby Atmos, DTS 信号のいずれかが入力され、ダイナミックレンジ圧縮と互換性がある場合に設定できます。
- *4 ダイアログコントロール機能に対応した DTS:X 信号を入力しているときに選択できます。
- *5 入力信号に LFE 信号が含まれる場合に設定できます。
- *6 ハイト、天井または Dolby Atmos Enabled スピーカーを使用しているときに選択できます。
- *7 この項目は、ハイト、天井または Dolby Atmos Enabled スピーカーを使用しない場合、またはサラウンドスピーカーを使用しない場合に設定できます。
- *8 9 チャンネル以上で再生されている場合のみ設定できます。
- *9 メニューの“サラウンドパラメーター” - “IMAX オーディオ設定”設定が“マニュアル”のときに設定できます。(☞177 ページ)
- *10 メニューの“Dynamic EQ”の設定が“オン”のときは設定できません。(☞185 ページ)
- *11 メニューの“スピーカーレイアウト” - “サブウーハー”の設定が“無し”のときは設定できません。(☞224 ページ)
- *12 Audyssey®セットアップ(スピーカーの測定)を実施していない場合は設定できません。
- *13 48kHz を超えるサンプリング周波数の DTS:X 信号が入力された場合は選択できません。
- *14 サウンドモードが“DTS Virtual:X”およびサウンドモード名に“+Virtual:X”を含む場合は選択できません。
- *15 メニューの“MultEQ® XT32”の設定が“オフ”のときは設定できません。(☞185 ページ)
- *16 入力信号がアナログ、PCM 48kHz または 44.1kHz のときに設定できます。
- *17 メニューの“LFE” - “サブウーハー出力”が“LFE + メイン”に設定されているときに設定できます。(☞233 ページ)
- *18 メニューの“クロスオーバー周波数” - “フロント”の設定が“フルレンジ”、または“LFE” - “サブウーハー出力”の設定が“LFE + メイン”以外のときに設定できます。(☞231、233 ページ)
- *19 入力信号にハイトチャンネルを含む AURO-3D 信号が含まれている場合は設定できません。
- *20 入力信号に AURO-3D 信号が含まれているときに設定できます。



入力信号の種類と対応するサウンドモード

- お買い上げ時に設定されているサウンドモードを示します。
- 選択できるサウンドモードを示します。

サウンドモード	ご注意	2チャンネル信号								マルチチャンネル信号														
		Dolby TrueHD	Dolby Digital Plus	Dolby Digital	DTS-HD	DTS	アナログ/PCM	MPEG-2 AAC/MPEG-4 AAC	DSD (Super Audio CD)	Dolby Atmos	Dolby TrueHD	Dolby Digital Plus	Dolby Digital (EX)	IMAX DTS:X	IMAX DTS	DTS:X	DTS-HD	DTS	AURO-3D	PCM マルチチャンネル	MPEG-2 AAC/MPEG-4 AAC	MPEG-H	DSD (Super Audio CD)	
Direct																								
Direct		○	○	○	○	○	○	○		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
DSD Direct									○														○	
Pure Direct																								
Pure Direct		○	○	○	○	○	○	○		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
DSD Pure Direct									○														○	
Stereo																								
Stereo		○	○	○	○	○	●	○	●	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
Dolby Surround																								
Dolby Atmos	*1								●															
Dolby TrueHD		○								○*2	○								○*3					
Dolby Digital Plus			○							○*4														
Dolby Digital				○								○												
Dolby (D+) (HD) + Dolby Surround											●	●	●						○*3					
Dolby (D+) (HD) + Neural:X											○	○	○						○*3					
Dolby Surround		●	●	●	○	○	○	●	○															

*1～*4:「入力信号の種類と対応するサウンドモード」(P.314 ページ)



サウンドモード	ご注意	2チャンネル信号							マルチチャンネル信号															
		Dolby TrueHD	Dolby Digital Plus	Dolby Digital	DTS-HD	DTS	アナログ/PCM	MPEG-2 AAC/ MPEG-4 AAC	DSD (Super Audio CD)	Dolby Atmos	Dolby TrueHD	Dolby Digital Plus	Dolby Digital (EX)	IMAX DTS:X	IMAX DTS	DTS:X	DTS-HD	DTS	AURO-3D	PCM マルチチャンネル	MPEG-2 AAC/ MPEG-4 AAC	MPEG-H	DSD (Super Audio CD)	
DTS Surround																								
IMAX DTS:X													●*5											
IMAX DTS														○*5										
DTS:X													○*6		●									
DTS-HD					○											○			○*7					
DTS Surround						○																		
IMAX DTS + Neural:X														●*5										
IMAX DTS / IMAX DTS:X + Virtual:X													○*5	○*5										
DTS (+HD) + Dolby Surround														○						○	○	○*7		
DTS (+HD) + Neural:X														○*6		●*8	●*8			○	○	○*7		
DTS (+HD) / DTS:X + Virtual:X													○*6	○*6	○*9							○*7		
DTS Neural:X		○	○	○	●*9	●*9	○	○	○															
DTS Virtual:X					○	○	○	○	○															
AURO-3D																								
AURO-3D	*10	○	○	○	○	○	○	○	○		○	○	○		○		○	○	○	○	○	○	○	○
AURO Surround	*10	○	○	○	○	○	○	○	○		○	○	○		○		○	○	○	○	○	○	○	○
Multi Ch In																								
Multi Ch In / Multi Ch In 6.1																				○*11	●*12			●
Multi In + Dolby Surround																					○			○
Multi In + Neural:X																					○			○
Multi In + Virtual:X																					○			○

*5～*12:「入力信号の種類と対応するサウンドモード」(P.314 ページ)



- *1 サラウンドバック、フロントハイト、トップフロント、トップミドル、トッリア、リアハイト、フロント Dolby、サラウンド Dolby またはバック Dolby スピーカーを使用しているときに選択できます。“サラウンドパラメーター” - “スピーカーバーチャライザー”の設定が“オン”の場合にも選択できます。
- *2 Dolby Atmos 信号に Dolby TrueHD 信号が含まれている場合に選択できます。
- *3 AURO-3D 信号に Dolby TrueHD 信号が含まれている場合に選択できます。
- *4 Dolby Atmos 信号に Dolby Digital Plus 信号が含まれている場合に選択できます。
- *5 メニューの“サラウンドパラメーター” - “IMAX”の設定が“オート”のときに選択できます。(P.176 ページ)
- *6 メニューの“サラウンドパラメーター” - “IMAX”の設定が“オフ”のときに選択できます。(選択できるサウンドモードは入力信号の種類によって異なります。)(P.176 ページ)
- *7 AURO-3D 信号に DTS-HD 信号が含まれている場合に選択できます。
- *8 48kHz を超えるサンプリング周波数の DTS(-HD)信号が入力された場合は選択できません。
- *9 48kHz を超えるサンプリング周波数の DTS:X 信号が入力された場合は選択できません。
- *10 入力信号のサンプリング周波数が 32kHz の場合は選択できません。
- *11 AURO-3D 信号にマルチチャンネル PCM 信号が含まれている場合に選択できます。
- *12 Multi ch In 7.1 は、入力信号にサラウンドバック信号が含まれ、サラウンドバックスピーカーが使用されている場合にのみ選択できます。
- *13 入力信号が MPEG-2 AAC 場合に選択できます。
- *14 入力信号が MPEG-4 AAC 場合に選択できます。
- *15 Dolby Atmos 信号に Dolby TrueHD または Dolby Digital Plus 信号が含まれている場合に選択できます。



用語の解説

■ Audyssey

Audyssey Dynamic EQ®

Audyssey Dynamic EQ®は、人間の聴覚や部屋の音響特性を考慮し、音量レベルを下げた際に発生する音質の低下を防ぐ技術です。

Audyssey Dynamic EQ®は、Audyssey MultEQ® XT32 技術と連動することによりすべての音量レベルに対して最適なバランスの音質をすべてのリスナーに提供します。

Audyssey Dynamic Volume®

Dynamic Volume は、テレビや映画など再生されるコンテンツ内における音量レベルの変化(静かな音のシーンと大きな音のシーンの間など)をユーザーの好みの音量設定値に自動的に調節する技術です。また、Audyssey Dynamic Volume®の技術をアルゴリズムの中に取り込むことにより音量レベルの調節時やテレビチャンネルの切り替え時、ステレオコンテンツからサラウンドコンテンツなどの切り替え時でも低域特性や音質バランス、サラウンド効果、ダイアログの明瞭さを保っています。

Audyssey LFC™(Low Frequency Containment)

Audyssey LFC™は、隣や下の部屋に低音や振動が漏れることを抑制します。リアルタイムに入力信号を解析して、壁や床、天井を通り抜けるような低音を抑えると同時に、音響心理的アプローチを用いた低域補正処理をおこなうことで、隣や下の部屋に低音が響き渡ることなく、コンテンツ本来の低域を楽しめます。

Audyssey MultEQ® XT32

Audyssey MultEQ® XT32 は、広いリスニングエリア内のどのリスナーにも最適なリスニング環境を提供する補正技術です。

Audyssey MultEQ® XT32 は、複数位置での測定に基づいて、時間特性と周波数特性の双方を補正すると共に、全自動でサラウンドシステムセットアップを実行します。



■ Dirac Live

Dirac Live® Room Correction

Dirac Live®は、Dirac Research によって開発された高度な部屋補正テクノロジーです。周波数応答および室内スピーカーのインパルス応答を補正し、イメージングと音色の改善、明瞭さの向上、低音の引き締まり、初期反射の低減、共鳴などを低減します。ハイエンド AVR、ロールスロイス、BMW、ベントレーなどの高級車のサウンドシステムや、世界中の何千ものハイエンドデジタルシネマシアターで使用されています。

■ AURO-3D

Auro-3D®

Auro-3D®は従来の音声に高さ方向の音声を組み合わせた、立体感のあるサウンド体験を提供する画期的な技術です。Auro-3D®は3D サウンドの音声フォーマットおよび再生環境の総称です。

Auro-Matic®

Auro-Matic®は、従来のモノラル、ステレオまたはサラウンドコンテンツを自然な三次元音場にアップミックスする独自の技術です。



■ Dolby

Dolby Atmos

映画館で最初に導入された Dolby Atmos は、ホームシアターに新しい革命的なサウンド体験をもたらします。Dolby Atmos は既存のサラウンドとは異なり、三次元空間を独立した動きのあるサウンド(またはオブジェクト)を、よりクリアで、より正確に配置することが可能です。Dolby Atmos は、リスナーの上方に音場を導入したことで、自然でリアルなサウンド体験を実現し、リスナーをストーリーに引き込みます。

Dolby Atmos Stream

Dolby Atmos のコンテンツは、ブルーレイディスクやストリーミングメディアから、Dolby Digital Plus または Dolby TrueHD 方式で提供されます。Dolby Atmos 信号には、音の位置が記録されているメタデータが含まれています。これにより、あらゆるスピーカー構成のホームシアター環境でも最適な音像再生のように調節されます。

Dolby Audio

Dolby Audio は、Dolby Digital および Dolby Digital Plus、Dolby TrueHD を含むチャンネルベースのオーディオコーデックです。Dolby Audio では、モバイル機器やゲーム機、ノートパソコン、ホームシアターで最大 7.1 チャンネルのサラウンドサウンドを再生できます。

Dolby Digital

Dolby Digital は、ドルビーラボラトリーズにより開発されたマルチチャンネルデジタル信号フォーマットです。

再生チャンネルは、フロント 3 チャンネル (FL、FR、C) とサラウンド 2 チャンネル (SL、SR)、低音域専用の LFE チャンネルの合計 5.1 チャンネルで構成されています。

このため、チャンネル間のクロストークもなく、音の遠近感、移動感、定位感など立体感のある音場をリアルに再現することができます。AV ルームでの映画ソフト再生においても、リアルで圧倒的な臨場感を生み出します。

Dolby Digital Plus

Dolby Digital Plus は、Dolby Digital を改良した信号フォーマットで、最大 7.1 チャンネルのデジタルディスク対応音声とともに、データビットレートに余裕を持たせることにより音質の向上が図られています。従来の Dolby Digital に対して上位互換であるため、ソース信号や再生機器の状況に応じて、より柔軟性の高い運用が可能となっています。

Dolby Surround

Dolby サラウンドは 2 チャンネルや 5.1 チャンネル、7.1 チャンネルのコンテンツをあなたのサラウンド環境に合わせてアップミックスし再生する次世代のサラウンドテクノロジーです。Dolby サラウンドは Dolby Atmos を再生できるシステムだけではなく、従来のスピーカーレイアウトにも互換性があります。



Dolby Speaker Technology(Dolby Atmos Enabled スピーカー)

Dolby Atmos Enabled スピーカーは、天井にスピーカーを設置する代わりに、天井に向け音を出し再生音を反射させ、頭上からの音を実現させることができる技術を搭載したスピーカーです。このスピーカーはスピーカードライバーが上向きに取り付けられている独特な構造と特別な信号処理機能を持っています。従来のスピーカーと一体になっているものや従来のスピーカーの上に乗せて使用するものがあります。従来のスピーカーシステムと同様のスピーカー設置環境のまま Dolby Atmos と Dolby サラウンドの再生環境を提供します。

Dolby TrueHD

Dolby TrueHD は、ドルビーラボラトリーズの高精細音声技術で、ロスレス符号化技術を用いることによりマスター音声の忠実な再現を可能としています。

このフォーマットはサンプリング周波数 96kHz/24bit では最大 8 チャンネル、サンプリング周波数 192kHz/24bit では最大 6 チャンネルの音声に対応しており、特に音質を重視したアプリケーションに採用されています。

スピーカーバーチャライザー

Dolby Atmos のハイトバーチャライザーは人間の音声認識メカニズムを利用してオーバーヘッドスピーカーを設置しないスピーカー配置でも立体的な音声を作り出すドルビーのデジタル信号処理ソリューションです。

この信号処理はオーディオ信号に含まれるオーバーヘッド成分が一般的なスピーカーにミックスされる前にハイトキューフィルタを適用します。

これらのフィルターは、オーバーヘッドの音声に対して私たちの耳によって与えられる自然なスペクトルをシミュレートしていません。

ステレオや 3.1 チャンネルのスピーカー構成においては、Dolby Atmos のハイトバーチャライザーとサラウンドバーチャライザーを組み合わせ、360 度の音声を包み込む空間を作り出します。

■ DTS

ダイアログコントロール

ダイアログコントロールは、映画のせりふや音楽のボーカルの音声を収録しているオブジェクトの音量のみを好きな音量に調節する技術です。ダイアログコントロール対応の DTS:X 信号が入力されたときに設定できます。

DTS

Digital Theater System の略で、DTS 社が開発したデジタル音声システムです。DTS 対応アンプなどと接続して再生すると、映画館のような正確な音場定位と臨場感のある音響効果が得られます。

DTS 96/24

DTS 96/24 は、DVD-Video 上でサンプリング周波数 96kHz/量子化ビット数 24bit の高音質再生を可能としたデジタル音声フォーマットです。チャンネル数は 5.1 チャンネルとなります。

DTS Digital Surround

DTS™ Digital Surround は、DTS 社の標準デジタルサラウンドフォーマットで、サンプリング周波数が 44.1kHz または 48kHz、再生チャンネル数が最大 5.1 チャンネルのデジタルディスクリットサラウンド音声フォーマットです。

DTS-ES™ Discrete 6.1

DTS-ES™ Discrete 6.1 は、DTS デジタルサラウンド音声に加えてサラウンドバックチャンネルを追加した 6.1 チャンネルのデジタルディスクリット音声フォーマットです。デコーダーに応じて従来の 5.1 チャンネル音声としてデコードすることも可能です。

DTS-ES™ Matrix 6.1

DTS-ES™ Matrix 6.1 は、DTS デジタルサラウンド音声にサラウンドバックチャンネルをマトリクスエンコードにて挿入した 6.1 チャンネル音声フォーマットです。デコーダーに応じて従来の 5.1 チャンネル音声としてデコードすることも可能です。

DTS Express

DTS Express は、最大 5.1 チャンネルの 24kbps～256kbps までのロービットレートをサポートする音声フォーマットです。

DTS-HD

ブルーレイディスクのオプション音声として採用された、従来の DTS をさらに高音質・高機能化したデジタル音声技術です。多チャンネル、高データ転送速度、高サンプリング周波数やロスレス・オーディオ再生をサポートしています。ブルーレイディスクでは、最大 7.1 チャンネルまで対応しています。



DTS-HD High Resolution Audio

DTS-HD High Resolution Audio は、従来の DTS、DTS-ES、DTS 96/24 フォーマットを改良した信号フォーマットで、サンプリング周波数の 96kHz/48kHz 対応に加えて最大 7.1 チャンネルのデジタルディスクリット音声に対応しています。余裕のあるデータビットレートによって高音質化を図っています。また、この信号フォーマットには従来の 5.1 チャンネル DTS デジタルサラウンドのデータも含んでいるため、従来製品とも互換性があります。

DTS-HD Master Audio

DTS-HD Master Audio は、DTS 社のロスレス音声フォーマットです。サンプリング周波数 96kHz/24bit では最大 8 チャンネル、サンプリング周波数 192kHz/24bit では最大 6 チャンネルに対応しています。また、従来の DTS デジタルサラウンド 5.1 チャンネルのデータも含むため従来製品との互換性を有しています。

DTS:X

DTS:X はリスニングポイントを包み込むようにスピーカーを設置することで、立体的な音場空間を再現します。また、オブジェクトとして記録された音像がスピーカー間をスムーズに移動することで、自然でリアルなサウンド体験を実現します。

DTS Neural:X

DTS Neural:X は 2 チャンネルや 5.1 チャンネル、7.1 チャンネルのコンテンツを、お使いのサラウンド環境に合わせてアップミックスし再生します。DTS:X のコンテンツだけではなく、従来のコンテンツでも、立体感あふれるサラウンドをお楽しみいただけます。

DTS Virtual:X

DTS Virtual:X は、部屋のサイズ、レイアウトまたはスピーカー構成に関係なく、多次元サウンドをお楽しみいただけます。

IMAX[®]

IMAX[®] はプレミアムな大型スクリーンでの映像体験と、豊かで深みのある音響体験が組み合わされた先進的な映像プロジェクション技術であり、世界中で称賛されています。



■ 音声

Apple Lossless Audio Codec

アップル社が開発した音声データ可逆圧縮方式のコーデックです。iTunes や iPhone、iPod で再生できます。約 60～70%に圧縮されたデータを完全に元どおりのデータに再現します。

FLAC(Free Lossless Audio Codec)

可逆圧縮方式のフリーの音声ファイルフォーマットです。可逆圧縮のため、原音からの音質の劣化がありません。

FLAC のライセンスについては、次のとおりです。

Copyright (C) 2000, 2001, 2002, 2003, 2004, 2005, 2006, 2007, 2008, 2009 Josh Coalson

Redistribution and use in source and binary forms, with or without modification, are permitted provided that the following conditions are met:

- Redistributions of source code must retain the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer.
- Redistributions in binary form must reproduce the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer in the documentation and/or other materials provided with the distribution.
- Neither the name of the Xiph.org Foundation nor the names of its contributors may be used to endorse or promote products derived from this software without specific prior written permission.

THIS SOFTWARE IS PROVIDED BY THE COPYRIGHT HOLDERS AND CONTRIBUTORS "AS IS" AND ANY EXPRESS OR IMPLIED WARRANTIES, INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, THE IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE ARE DISCLAIMED. IN NO EVENT SHALL THE FOUNDATION OR CONTRIBUTORS BE LIABLE FOR ANY DIRECT, INDIRECT, INCIDENTAL, SPECIAL, EXEMPLARY, OR CONSEQUENTIAL DAMAGES (INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, PROCUREMENT OF SUBSTITUTE GOODS OR SERVICES; LOSS OF USE, DATA, OR PROFITS; OR BUSINESS INTERRUPTION) HOWEVER CAUSED AND ON ANY THEORY OF LIABILITY, WHETHER IN CONTRACT, STRICT LIABILITY, OR TORT (INCLUDING NEGLIGENCE OR OTHERWISE) ARISING IN ANY WAY OUT OF THE USE OF THIS SOFTWARE, EVEN IF ADVISED OF THE POSSIBILITY OF SUCH DAMAGE.

LFE

Low Frequency Effect の略で、低音部の効果音を強調するための出力チャンネルです。20Hz～120Hz の重低音を出力することで、サラウンド音声に迫力を加えることができます。

MP3 (MPEG Audio Layer-3)

音声データ圧縮方式の 1 つで、国際的な標準規格です。映像圧縮方式の「MPEG-1」に採用されています。音楽 CD 並の音質を保ったままデータ量を約 1/11 に圧縮できます。



AAC

MPEG-2/MPEG-4 AAC(Advanced Audio Coding)は、MPEG (Moving Picture Experts Group)により開発されたマルチチャンネル音声フォーマットです。

高音質・高圧縮率を確保できることが特長です。

地上デジタル放送や BS デジタル放送などで配信される高音質音楽番組やマルチチャンネル音声の映画など、臨場感あふれるサウンド再生が楽しめます。

MPEG(Moving Picture Experts Group)、MPEG-2、MPEG-4

デジタル圧縮形式として映像や音声を符号化するために使用される規格群の名前です。ビデオの規格には、“MPEG-1 Video”、“MPEG-2 Video”、“MPEG-4 Visual”、“MPEG-4 AVC”などがあります。音声の規格には、“MPEG-1 Audio”、“MPEG-2 Audio”、“MPEG-4 AAC”などがあります。

MPEG-H

MPEG-H 3D Audio は、リスナーをあらゆる方向からのサウンドに真に没頭させ、包み込む新しいオーディオテクノロジーであり、ステレオやサラウンドを超えた次世代のサウンドです。上からの音で、オーディオ体験に3次元が追加され、よりリアルで自然なサウンドになります。

また、独自のパーソナライズ機能で、コンテンツを積極的に利用し、自分の好みに合わせて調節するための優れた柔軟性も提供します。

真のオブジェクトベースのサウンドを可能にし、没入型音楽ストリーミングサービスのためのソニーの 360 Reality Audio の基盤でもあります。360 Reality Audio を使用すると、アーティストやクリエイターは、ボーカル、コーラス、楽器などの音源を位置情報とマッピングし、それらを球形の空間に配置することで音楽を制作できます。



WMA(Windows Media Audio)

米国 Microsoft Corporation によって開発された音声圧縮技術です。

WMA データは、Windows Media® Player を使用してエンコード(符号化)することができます。

WMA ファイルは、米国 Microsoft Corporation より認証を受けたアプリケーションを使用してエンコードしてください。もし、認証されていないアプリケーションを使用すると、正しく動作しないことがあります。

サンプリング周波数

サンプリングとは、音の波(アナログ信号)を一定時間の間隔で刻み、刻まれた波の高さを数値化(デジタル信号化)することです。

1 秒間に刻む回数をサンプリング周波数といい、この数値が大きいほど原音に近い音を再現できます。

スピーカーインピーダンス

交流抵抗値のことで Ω (オーム)という単位であらわします。この値が小さいほど大きな電力が得られます。

ダイアログノーマライゼーション機能

Dolby Digital、Dolby Digital Plus、Dolby TrueHD、Dolby Atmos、DTS または DTS-HD ソースの再生中、自動的に動作します。

この機能は、プログラムソースごとに異なる標準信号レベルを自動的に補正します。

ダイナミックレンジ

機器が出すノイズに埋もれてしまわない最小音と、音割れしない最大音との音量差のことです。

ダウンミックス

サラウンド音声のチャンネル数を、より少ないチャンネル数に変換して再生する機能です。



■ 映像

プログレッシブ(順次走査)

映像の1フレームを1つの画像として表示する映像信号の走査方式です。インターレース方式に比べ画像のちらつきやにじみが少ない映像を再生できます。

■ ネットワーク

AirPlay

iTunes または iPhone、iPod touch、iPad に収録されているコンテンツをネットワーク経由で対応する機器に転送(再生)する機能です。

WEP Key(ネットワークキー)

データ通信をおこなう際にデータを暗号化するために使用する鍵情報です。本機はデータの暗号化/復号化ともに同一のWEPキー(ネットワークキー)を用いるため、通信する相手と同一のWEPキーを設定する必要があります。

Wi-Fi®

無線LANの互換性接続を保証する団体「Wi-Fi Alliance」の相互接続性テストを合格していることを示します。

WPA(Wi-Fi Protected Access)

Wi-Fi アライアンスが策定したセキュリティ規格です。従来のSSID(ネットワーク名)やWEPキー(ネットワークキー)に加えて、ユーザー認証機能や暗号化プロトコルを採用して、セキュリティを強化しています。



WPA2(Wi-Fi Protected Access 2)

Wi-Fi アライアンスが策定した WPA の新バージョンです。WPA と比べ、より強力な AES 暗号に対応しています。

WPA/WPA2 パーソナル

あらかじめ設定した文字列が無線 LAN アクセスポイントとクライアントで一致した場合、相互認証をおこなう簡易認証の方式です。

WPA2/WPA3 パーソナル

WPA2/WPA3 パーソナルモードは Wi-Fi Alliance®によって定義されています。ユーザーの混乱を最小限に抑え、WPA2 パーソナルのみのデバイスとの相互運用性を維持しながら WPA3 パーソナルへの段階的な移行パスを提供します。

WPA3 パーソナル

WPA2-Personal Pre-Shared Key (PSK) 認証を Equals の同時認証 (SAE) に置き換えます。PSK とは異なり、SAE はオフライン辞書攻撃に耐性があります。

ネットワーク名 (SSID: Service Set Identifier)

無線 LAN のネットワークを構成するとき、混信やデータの盗難などを防ぐために、グループ分けをします。このグループ分けを「SSID (ネットワーク名)」でおこないます。さらにセキュリティ強化のために、WEP キーを設定し、「SSID」と WEP キーが一致しないと通信できないようになっていきます。簡易ネットワークを構成する場合に適しています。

■ その他

HDCP

機器間でデジタル信号を送受信する際に信号を暗号化し、コンテンツが不正にコピーされるのを防止する著作権保護技術の 1 つです。

メインゾーン

本機が設置されている部屋をメインゾーンと呼びます。

ペアリング

ペアリング (登録) とは、Bluetooth 機器と本機を接続するために必要な操作です。ペアリングすると互いの機器が認証し合うので、混線することなく接続できます。

はじめて Bluetooth 機器を接続する場合は、最初に本機と本機に接続する Bluetooth 機器をペアリングする必要があります。

保護回路

何らかの原因で過負荷や過電圧、高温状態などの異常が起きたときに、電源内部の部品が破損するのを防止する機能です。



登録商標について



Apple, AirPlay, iPad, iPad Air, iPad Pro and iPhone are trademarks of Apple Inc., registered in the U.S. and other countries.

iOS is a trademark or registered trademark of Cisco in the U.S. and other countries and is used under license.

The trademark "iPhone" is used in Japan with a license from Aiphone K.K.

Use of the Works with Apple AirPlay badge means that an accessory has been designed to work specifically with the technology identified in the badge and has been certified by the developer to meet Apple performance standards.



本機は、GOER DYNAMICS, BV 社からのライセンス契約に基づき製造されています。

AURO-3D®および関連するシンボルは、GOER DYNAMICS, BV 社の登録商標です。この著作物に含まれるすべての要素は著作権法によって保護されており、GOER DYNAMICS, BV 社の書面による事前の許可なしに、または第三者の要素の場合はその要素の所有者の書面による事前の許可なしに、複製、配布、送信、表示、公開または放送することはできません。またコンテンツのコピーから、商標、著作権、その他の通知を変更または削除することはできません。

GOER DYNAMICS, BV: メールアドレス info@auro-3d.com、www.auro-3d.com



Bluetooth®のワードマークおよびロゴは、Bluetooth SIG, Inc.が所有する登録商標であり、DEI Sales, Inc.はこれらのマークをライセンスに基づいて使用しています。その他の商標および商標名は、それぞれの所有者に帰属します。





Dolby, Dolby Vision, Dolby Atmos およびダブル D 記号は、ドルビーラボラトリーズの登録商標です。
ドルビーラボラトリーズからの実施権に基づき製造されています。
非公開機密著作物。著作権 © 2012-2024 ドルビーラボラトリーズ。不許複製。



DTS の特許については、<http://patents.dts.com> をご覧ください。本機は DTS 社からのライセンス契約に基づき製造されています。DTS、DTS:X および DTS:X ロゴは、米国およびその他の国における商標または DTS, Inc の登録商標です。© 2021 DTS, Inc. 著作権所有。



HDMI, HDMI High-Definition Multimedia Interface という語、HDMI のトレードドレスおよび HDMI のロゴは、HDMI Licensing Administrator, Inc.の商標または登録商標です。

HDR10+™ logo は、HDR10+ Technologies, LLC.の商標です。





本機は IMAX Corporation 社からのライセンス契約に基づき製造されています。IMAX®は、米国およびその他の国における IMAX Corporation の登録商標です。著作権所有。DTS の特許については、<http://patents.dts.com> をご覧ください。DTS、シンボル、DTS およびシンボルとの組み合わせは、米国および/またはその他の国における商標または DTS, Inc. の登録商標です。著作権所有。



Wi-Fi CERTIFIED ロゴは、Wi-Fi Alliance の登録商標です。無線 LAN の互換性接続を保証する団体「Wi-Fi Alliance」の相互接続性テストを合格していることを示します。



MPEG-H AUDIO

MPEG-H TV Audio システムのロゴは、Fraunhofer IIS の商標であり、ドイツおよびその他の国で登録されています。





App Store®は、米国およびその他の国で登録された Apple Inc.の商標です。



Google Play および Google Play ロゴは、Google LLC の商標です。



© 2018 Dirac Research AB. 著作権所有。Dirac, Dirac Live および Dirac ロゴは、Dirac Research AB の商標です。

ROON READY

Being Roon Ready means that Denon uses Roon streaming technology, for an incredible user interface, simple setup, rock-solid daily reliability, and the highest levels of audio performance, without compromise.



主な仕様

オーディオ部

・パワーアンプ部

定格出力:

フロント:

105W + 105W(負荷 8Ω、20Hz~20kHz T.H.D. 0.08 %)

135W + 135W(負荷 6Ω、1kHz T.H.D. 0.7%)

センター:

105W(負荷 8Ω、20Hz~20kHz T.H.D. 0.08 %)

135W(負荷 6Ω、1kHz T.H.D. 0.7%)

サラウンド:

105W + 105W(負荷 8Ω、20Hz~20kHz T.H.D. 0.08 %)

135W + 135W(負荷 6Ω、1kHz T.H.D. 0.7%)

サラウンドバック/ハイト 1/ハイト 2:

105W + 105W(負荷 8Ω、20Hz~20kHz T.H.D. 0.08 %)

135W + 135W(負荷 6Ω、1kHz T.H.D. 0.7%)

実用最大出力:

170W + 170W(負荷 6Ω、1kHz T.H.D. 10% 2チャンネル駆動 JEITA)

215W(負荷 6Ω、1kHz T.H.D. 10% 1チャンネル駆動 JEITA)

出力端子:

4~16Ω

• アナログ部

入力感度:	200mV
周波数特性:	10Hz~100kHz:+1,-3dB(Direct モード時)
S/N 比:	100dB(IHF-A, Direct モード時)
ひずみ率:	0.008 %(20Hz~20kHz)(Direct モード時)
定格出力:	1.2V

• デジタル部

D/A 出力:	定格出力 — 2V(0dB 再生時) 全高調波歪率:0.008 %(1kHz, 0dB) S/N 比: 104dB ダイナミックレンジ: 104dB
デジタル入力:	フォーマット — デジタルオーディオインターフェース

• フォノ・イコライザー部

入力感度:	2.5mV
RIAA 偏差:	±1dB(20Hz~20kHz)
S/N 比:	74dB(IHF-A)
ひずみ率:	0.03%(1kHz, 3V)



チューナー部

	[FM]	[AM]
受信周波数範囲:	76.0MHz~95.0MHz	522kHz~1629kHz
実用感度:	1.2 μ V(12.8dBf)	18 μ V
50dB 感度:	モノー 2.8 μ V(20.2dBf)	
S/N 比:	モノー 70dB(IHF-A, Direct モード時) ステレオー 67dB(IHF-A, Direct モード時)	
ひずみ率:	モノー 0.7%(1kHz) ステレオー 1.0%(1kHz)	

無線 LAN 部

ネットワーク種類(無線 LAN 規格):	IEEE 802.11a/b/g/n/ac に対応 (Wi-Fi [®] 準拠)*1
セキュリティ:	WEP 64bit, WEP 128bit WPA/WPA2-PSK(AES) WPA/WPA2-PSK(TKIP) WPA3-SAE(AES)
使用周波数帯域:	2.4GHz, 5GHz

*1 Wi-Fi[®]準拠とは、無線 LAN の相互接続性を保証する団体「WiFi Alliance」の相互接続性テストに合格していることを示します。



Bluetooth部

音声フォーマット:	SBC
オーディオ・アプリケーション:	Classic オーディオ(AVRCP)- 受信 Classic オーディオ- 送信
送信出力:	Power Class 1
一般通信範囲:	見通し距離 30m*2

*2 実際の通信範囲は機器間の障害物、電子レンジの電磁波、静電気、コードレスフォン、受信感度、アンテナの性能、操作システム、アプリケーションソフトウェアなどの影響により異なります。

総合

動作温度:	5° C~35° C
電源:	AC100V、50/60Hz
消費電力:	660W
スタンバイ時の消費電力:	0.1W*
CEC スタンバイ時の消費電力:	0.5W
電池の種類:	マンガン乾電池(リモコン用)

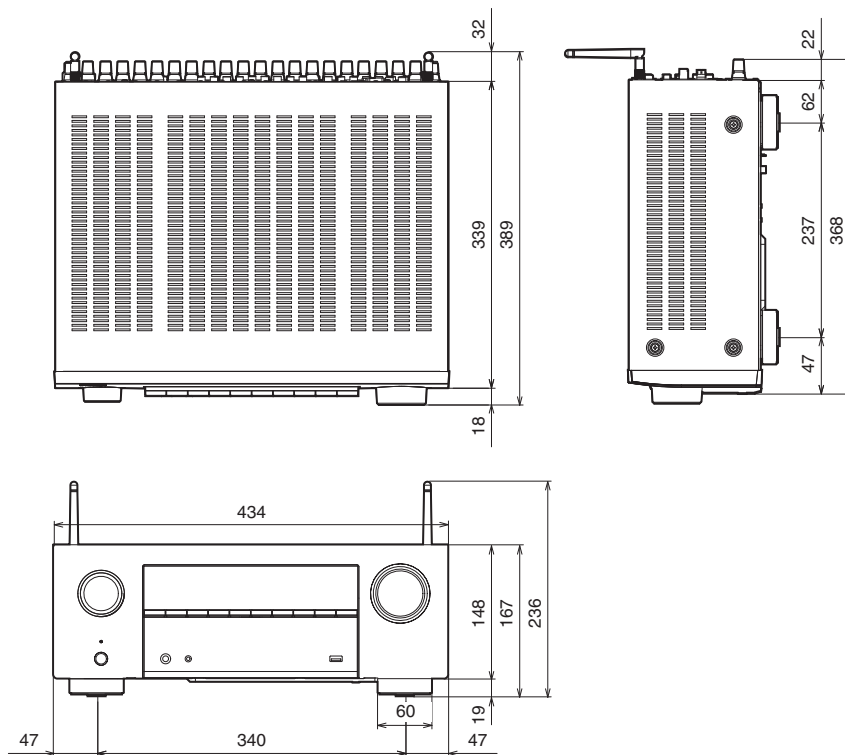
* メニューの“ネットワークコントロール”設定が“スタンバイ時オフ”で、なおかつ“HDMI パススルー”設定が“オフ”のとき

JEITA:(社)電子情報技術産業協会(略称:JEITA)が制定した規格です。

仕様および外観は改良のため、予告なく変更することがあります。



■ 寸法(単位:mm)



■ 質量: 12.5kg

使用上のご注意

■ 携帯電話使用時のご注意

本機の近くで携帯電話をご使用になると、雑音が入る場合があります。携帯電話は本機から離れた位置で使用してください。

■ お手入れについて

- キャビネットや操作パネル部分の汚れは、やわらかい布で軽く拭き取ってください。化学ぞうきんをご使用の際は、その注意書きに従ってください。
- ベンジンやシンナーなどの有機溶剤および殺虫剤などが本機に付着すると、変質や変色の原因になりますので使用しないでください。

■ 結露(つゆつき)について

本機を寒いところから急に暖かいところに移動させたり、本機を設置した部屋の温度を暖房などで急に上げたりすると、内部(動作部)に水滴が付くことがあります(結露)。結露したまま本機を使用すると、正常に動作せず、故障の原因となることがあります。結露した場合は、本機の電源を切ったまま 1 ～ 2 時間放置してから使用してください。



索引

英数字

11.1 チャンネル	53
3D	298
4K/8K	296
5.1 チャンネル	48
7.1 チャンネル	50
9.1 チャンネル	51

A

AirPlay	115
All Zone Stereo	127
Audyssey Dynamic EQ®	315
Audyssey Dynamic Volume®	315
Audyssey LFC™	315
Audyssey MultEQ® XT32	315
Audyssey Sub EQ HT™	205
Audyssey®セットアップ	204
Audyssey の設定	184, 206

B

Bluetooth 機器	85
--------------------	----

D

Dirac Live	237
Dolby Atmos	317
DTS サウンドモード	135, 319
DVD プレーヤー	66, 79

F

FM/AM アンテナ	70, 93
------------------	--------

H

HDCP	299
HDMI コントロール	145, 192
HEOS アカウント	107, 246
HEOS お気に入り	121

N

NAS	102
-----------	-----

P

PCM マルチチャンネルサウンドモード ...	137
-------------------------	-----

Q

Qobuz Connect	245
---------------------	-----

R

Roon Ready	245
------------------	-----

S

Spotify	118
---------------	-----

U

USB メモリー	69, 80
----------------	--------

W

Wi-Fi の設定	239
-----------------	-----

い

一般の設定	169, 247
インターネットラジオ	100

う

ウェブコントロール	155
-----------------	-----

え

衛星放送チューナー	64
映像の設定	166, 190
エコモード	247

お

オーディオの設定	166, 172
オートサウンドモード	133
オートスタンバイ	250
お買い上げ時の設定に戻す	291



オリジナルサウンドモード 138
 音声フォーマット 299, 302, 304, 305
 音量 79, 122

か

外部コントロール機器 74

く

クイックセレクトプラス機能 148

け

ケーブルテレビ 64
 ゲーム機 67

こ

工場出荷時の設定に復元する 293
 故障かな?と思ったら 269
 こんなときの解決方法 267

さ

サウンドモード 131

す

ステレオサウンドモード 139
 スピーカーを接続する 39
 スピーカーの設定 167, 204

スリープタイマー 146

せ

セットアップアシスタント 170
 セットトップボックス 64

そ

ゾーン2 58, 159

た

ダイレクトサウンドモード 139

て

ディスプレイ 23
 テレビ 61, 62

と

トーンコントロール 123
 ドルビーサウンドモード 134, 317

に

入力ソース 78
 入力端子の割り当て 200
 入力の設定 167, 200

ね

ネットワークの設定 238

は

バイアンプ 56
 パソコン 102

ひ

ビデオセレクト 126
 ピュアダイレクト 133

ふ

ファームウェアのアップデート 258
 ブルーレイディスクプレーヤー .. 66, 79
 フロントパネル 20

へ

ペアリング 85, 86

ほ

保護回路について 325

み

ミュートイング 79

む

無線 LAN の接続 73, 239



目

メニュー一覧 166

ゆ

有線 LAN 72, 238

り

リアパネル 25

リストアラーム 182

リスニングポイント 204

リモコン 29



DENON®

www.denon.com

3520 11046 00AS